磐城山遺跡（第４・５次）発掘調査報告書

―農地改良工事に伴う緊急発掘調査―

２０１４年３月

鈴鹿市考古博物館

序

三重県鈴鹿市の北部を流れる鈴鹿川の流域には，縄文時代から中世に至るまで，多くの遺跡が存在しています。三重県は，地理的な要因から，東西の文物が交錯し，時代ごとに様々な様相を呈しています。

ここに報告する鈴鹿市河曲（かわの）地区は，古代の河曲（かわわ）郡に相当します。壬申の乱の際に，大海人皇子（天武天皇）が通過した，「川曲の坂下」の有力な候補地でもあります。また，天皇家に采女を献上している，古代豪族大鹿（おおか）氏の本拠地ともされています。後に，伊勢国国分寺が建立され，河曲駅が整備されるなど，交通の要衝として栄えた地域です。

磐城山遺跡の発掘調査では，古代を遡る弥生時代や古墳時代の文物が多く確認されました。これらの貴重な資料をもとに，鈴鹿市の歴史とその意義を発信し，豊かな地域社会の形成に少しでも貢献できれば幸いです。

発掘調査にあたっては，地元木田町自治会，河曲地区をはじめとし，市民の皆さま，三重県教育委員会等から多大なご協力とともに，暖かいご支援をいただきました。文末となりましたが，皆さまのご誠意ある対応に，心から御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

例　　言

1．本書は，三重県鈴鹿市木田町字上條所在の磐城山遺跡第 4 次･第 5 次の発掘調査に係る報告書である。

2．調査は，平成 23 年度及び平成 24 年度に行った農地改良工事に伴う記録保存の緊急発掘調査である。

3．発掘調査は以下の体制で実施した。
（平成 23・24 年度）

調査担当	鈴鹿市　文化振興部　考古博物館　埋蔵文化財Ｇ		
組織及び構成	鈴鹿市考古博物	館長	東口　元
		埋蔵文化財ＧＬ	新田　剛
		埋蔵文化財Ｇ	服部真佳
			田部剛士（※現地調査担当）
			吉田隆史
			米川梨香
			吉田真由美
			小川陽子（平成 24 年度から）

4．現地調査に係る発掘費用は各年度の国庫補助金で負担し，報告書の印刷製本費は鈴鹿市が負担した。

5．本書の作成及び編集は，考古博物館埋蔵文化財グループの田部が行った。

6．Fig.3 では国土地理院発行 1:50,000 地形図四日市・亀山の一部を使用した。

7．航空写真撮影については，田部の計画･監修のもと，株式会社イビソクが実施した。

8．本調査に係る遺物・図面・写真は全て鈴鹿市考古博物館が保管している。

9．発掘調査及び報告書作成にあたっては，以下の各氏から有益なご教示等をいただいている。記して感謝いたしたい。
伊藤久嗣・伊藤　洋・田村陽一・伊藤裕偉・石井智大・川部浩司・勝山孝文・森　泰道・早野浩二
（敬称略・順不同）

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに
　1　調査の契機・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第Ⅱ章　位置と環境
　1　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　2　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第Ⅲ章　調査の方法
　1　調査区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　2　地区割り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　3　遺構番号・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　4　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第Ⅳ章　検出遺構
　1　竪穴住居・土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　2　掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　3　溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第Ⅴ章　出土遺物
　1　竪穴住居・土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
　2　溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
　3　単独ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
　4　包含層ほか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
　5　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第Ⅵ章　調査の成果
　1　環濠について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
　2　集落の継続時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
　3　古代について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
　4　中世城館にかかわる遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

表　目　次

Tab.1　磐城山遺跡の発掘調査履歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
Tab.2　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61-73
報告書抄録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109

図　版　目　次

Fig.1　鈴鹿市の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Fig.2　鈴鹿市の地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Fig.3　遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
Fig.4　調査区の地区割り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
Fig.5　第3-5次調査区遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・ 11-12
Fig.6　第4次調査区遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
Fig.7　第5次調査区遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
Fig.8　SK0474・SH0471/75/88・SH0484・SH0428/29・SH0454平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
Fig.9　SH03134・SH0421/22/23・SH0404平面図・・ 16
Fig.10　SH0455平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
Fig.11　P04242遺物出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
Fig.12　SH0462-65平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
Fig.13　SH03111・SH03142平面図・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
Fig.14　SH0406・SH0408・SH03136・SH03138/139・SH0560平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
Fig.15　SH0561・SH0569・SH0559平面・断面図・・ 20
Fig.16　SH0559遺物出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Fig.17　SH0551/53・SH0554平面図・・・・・・・・・・・・・・ 22
Fig.18　SH0547/57・SH0549・SK0550平面図・・・・ 22
Fig.19　SH0545・SH0535/36・SH0575平面・断面図・・23
Fig.20　SH0533/34・SH0441・SH0538平面・断面図・・24
Fig.21　SH0517/27・SH0516/30平面図・・・・・・・・・・・ 25
Fig.22　SH0508-14・SH0537/40平面図・・・・・・・・・・・ 26
Fig.23　SH0507/15平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
Fig.24　SH0504/05平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
Fig.25　SH0502平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
Fig.26　SD0453平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
Fig.27　SD0425/27・SD0442/32平面図・・・・・・・・・・・・29
Fig.28　SD0405/61/68平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
Fig.29　SD0501平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
Fig.30　SD0568平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
Fig.31　SK0474・SH0471/75/88・SH0484出土遺物・・34
Fig.32　SH0428/29出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

Fig.33　SH0428/29・SH0454 出土遺物・・・・・・・・・・・ 36
Fig.34　SH03134 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
Fig.35　SH0421/22/23・SH0404 出土遺物・・・・・・・・ 38
Fig.36　SH0455/51/56 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
Fig.37　SH0455 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
Fig.38　SH0462-65 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
Fig.39　SH0406・SH0408 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・ 41
Fig.40　SH03136=SH0566・SH03138/139=SH0565
出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
Fig.41　SH0560 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
Fig.42　SH0401・SH0402・SH0403・SH03111 出土
遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
Fig.43　SH0559 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
Fig.44　SH0551/53・SH0554 出土遺物・・・・・・・・・・・ 45
Fig.45　SH0547/57・SH0549・SK0550 出土遺物・・ 45
Fig.46　SH0545 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
Fig.47　SH0535/36・SH0575 出土遺物・・・・・・・・・・・ 47
Fig.48　SH0533/34・SH0538 出土遺物・・・・・・・・・・・ 48
Fig.49　SH0517/27・SH0516/30 出土遺物・・・・・・・・ 49
Fig.50　SH0510-14 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
Fig.51　SH0507/15 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
Fig.52　SH0504/05 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
Fig.53　SH0502 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
Fig.54　SH0542・SH0548・SH0562・SH0537/40 出
土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
Fig.55　SD0453 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
Fig.56　SD0425/27 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
Fig.57　SD0442/32 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
Fig.58　SD0430/49/82/77・SD0446/38・SD0441/44・
SD0447・SD0440/86・SD0424/31 出土遺物
・・ 55
Fig.59　SD0405/11/61/68 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 56
Fig.60　SD0409 ほか出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
Fig.61　SD0501・SD0568 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・ 58
Fig.62　単独ピット出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
Fig.63　包含層・表面採取出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Fig.64　サブトレンチ・現代地割溝・表土出土遺物・・・・ 61
Fig.65　山中式から廻間式期の集落の変遷・・・・・・・・・・ 75

写　真　図　版　目　次

PL.1　第 5 次調査区航空写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
PL.2　第 4 次調査区全景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
PL.3　第 5 次調査北区全景・中区全景・・・・・・・・・・・・・・ 80
PL.4　第 5 次調査区全景・南区全景・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
PL.5　第 5 次調査西区全景・SK0474・SH0484 完掘・・ 82
PL.6　SH0404 完掘・SH0455 完掘・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
PL.7　SH0428/29 完掘・SH0462-65 完掘・・・・・・・・・・ 84
PL.8　SH03138/139 完掘・SH0561 完掘・・・・・・・・・・ 85
PL.9　SH0560/66 完掘・SH0565 完掘・・・・・・・・・・・・・ 86
PL.10　SH0559 完掘・SH0551/53 完掘・・・・・・・・・・・・ 87
PL.11　SH0547/57 完掘・SH0545 完掘・・・・・・・・・・・・ 88
PL.12　SH0535/36 完掘・SH0542/44 完掘・・・・・・・・ 89
PL.13　SH0533/34 完掘・SH0517/27・SH0516/30 完掘
・・ 90
PL.14　SH0508-14 完掘・SH0507/15 完掘・・・・・・・・ 91
PL.15　SH0504/05 完掘・SD0425/27 ほか完掘・・・・ 92
PL.16　SD0453 完掘・SD0442/32 ほか完掘・SD0405
掘削状況・SD0441/44 暗渠完掘・・・・・・・・・・・・・ 93
PL.17　SD0409 礫出土状況・SH0428 南辺周壁溝完掘・
SH0560/66/65 完掘・SH0559 遺物出土状況・・・
・・ 94
PL.18　SH0428/29・SH0404・SH03138/139・SH03
136 遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
PL.19　SH0421/22/23・SH0559・SH0560・SH0566・
SH0547/57・SH0507/15・SD0405 遺物出土状況
・・ 96
PL.20　SD0405/11・SD0442・SH0535/36 排水溝・SD
0501 遺物出土状況・第 5 次南西区遺構検出状況・
SH0547/57 検出状況・SH0404 遺物取上風景・
SD0441/44 暗渠掘削風景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
PL.21　出土遺物（報告番号 1-52）・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
PL.22　出土遺物（報告番号 46-96）・・・・・・・・・・・・・・・ 99
PL.23　出土遺物（報告番号 91-156）・・・・・・・・・・・・ 100
PL.24　出土遺物（報告番号 146-206）・・・・・・・・・・・ 101
PL.25　出土遺物（報告番号 213-364）・・・・・・・・・・・ 102
PL.26　出土遺物（報告番号 369-441）・・・・・・・・・・・ 103
PL.27　出土遺物（報告番号 442-469）・・・・・・・・・・・ 104
PL.28　出土遺物（報告番号 472-518）・・・・・・・・・・・ 105
PL.29　出土遺物（報告番号 514-552）・・・・・・・・・・・ 106
PL.30　出土遺物（報告番号 553-634）・・・・・・・・・・・ 107
PL.31　出土遺物（報告番号 635-644）・・・・・・・・・・・ 108

第Ⅰ章　はじめに

1　調査の契機

平成21年度に，木田町地内で山上の畑を道路面まで床下げしたいとの協議があった。その範囲は磐城山（ばんじょうざん）遺跡に該当し，過去に発掘調査された隣接地でもあった。そのため，文化財保護法第93条による届出を求め，遺跡保護の協議を行った。その結果，農地改良の工事の事前に発掘調査を行って記録を残すこととなった。ただし，届出された面積はのべ5,000㎡以上にわたり，単年度の対応が不可能であった。そこで，発掘調査は毎年数百㎡ずつ行うこととし，調査の完了した範囲から工事に着手する工程で進めることになった。なお，現在も発掘調査等は継続中である。

発掘調査は過去に南面する道路部分で2回（三重県埋蔵文化財センターの調査を併せると3回）にわたって行われていたので，今回の農地改良に伴う平成22年度の調査を第3次調査とした（Tab.1）。なお，第1次及び第2次調査については概要が報告されており（杉立1998，岡田2000），第3次調査の調査結果は本報告した（田部2011）。本書は，その後の平成23・24年度の第4次と第5次調査の成果について報告するものである。

第4次調査は平成23年4月4日から10月2日までの約6ヶ月間行った。第5次調査は，平成24年6月25日から翌年1月11日までの約6ヶ月間である。なお，調査面積は第4次が約315㎡，第5次が約620㎡の，合計935㎡である。作業は重機にて表土を除去した後，発掘作業員6名/日によって遺構の検出と掘削を繰り返して行った。

遺構の遺存状況は第4次調査区で良好で，深い所で検出面からの深さ（以下，GL-○㎝と表記する）が50～60㎝程度もあった。そのため，第4次調査区では面積の割りに調査に手間がかかった。反対に，5次調査区の北側では検出面から数㎝程度と浅くなり，調査面積を稼ぐことができた。以下，調査日誌を抄録することで，調査の経過とする。

2　調査の経過

調査の経緯や概要については既刊の概要報告があるが（田部2013・2014），以下調査日誌を抄録することで調査の経過に替える。

【調査日誌抄】

第4次調査（315㎡；平成23年4月4日～10月2日）

4月4日　木の根の周りの表土除去，給水タンク設置等の準備作業を行う。4次調査区の中央に南北方向のサブトレンチを掘削する。

4月5日　サブトレンチ完掘。南側はGL-30～40㎝，北側ではGL-10～20㎝となる。北東区から上層包含層の掘削を開始する。

4月6日　SD0396，SD03121の交点を掘削。中世以降と認識する。

4月7日　SD0396，SD03121完掘後，下面にてSH03142/143/144等の周壁溝を検出する。北東区で下層包含層の掘削に着手する。一部，地山面まで到達し，その面で焼土2ヶ所等を検出する。SH03138及びSH0139の炉跡に該当すると想定する。SH03134埋土完掘後，周壁溝を検出する。

4月8日　降雨のため，終日作業中止。

4月11日　北東区の下層包含層の掘削を完了する。下面で溝や柱穴を多数検出し，その掘削に着手する。SH0403周壁溝がSH03134に先行することを確認する。SH0401埋土掘削開始。

4月12日　SH0403掘削開始。GL-30㎝と深い割りに，遺物はほとんど出土しない。床面到着後，北辺の周壁溝を検出する。SH03134貼床層撤去。SH0401埋土完掘後，床面にて柱穴，溝を検出するが比較的単純である。SD0404，SD03110の延長，SH03138/139西辺周壁溝等を掘削する。

4月13日　SD0405掘削。周辺に礫を含むピットが数か所あり，中世の柱穴かと考える。SH03134下面からSH0403の主柱穴や周壁溝を確認する。SH03136の貼床層撤去後，下面検出の溝，ピット等を掘削。ミニチュア土器出土。

4月14日　西側へ包含層の掘削範囲を広げていく。平面図作成開始。

4月15日　SH0402埋土掘削。BF10の西側やBG10・11等で地山が高い位置（GL-5㎝程度）で確認される。その他の地区も包含層掘削を継続。

4月18日　SH0402掘削継続。黒色土の範囲が東へ移動してきて，竪穴住居でない可能性が出てくる。各包含層掘削継続。地山へ到着した地区から，その面で確認した溝等の掘削を開始する。

4月19日　前夜の降雨による水抜き作業実施。降雨が断続的に続くため，午前中のみで掘削作業を中止し，午後から図面作成作業。

4月20日　SH0402と認識していた黒色土の撤去を完了する。その他，上下包含層掘削，下面検出遺構の掘削継続。

4月21日　SH0406，SH0408を認定し，掘削に着手する。その他，各地区の地山上面遺構の掘削を継続。BEライン土層断面図作成。

4月22日　SH0406，SH0408掘削継続。SH0404埋土掘削後，ピット等を掘削。午後から降雨のため作業中止。

4月25日　先日の降雨のため，遺構掘削を一時中断し，南東区の検出作業を行う。一部，東西方向の現代地割溝の掘削に着手する。

4月26日　南東区検出作業継続。SD03121延長掘削。北東区の溝やピット等の掘削を再開し，大部分を終了する。SD0405は良好な出土状況をもつことを確認し，遺物出土状況図を作成する。

4月27日　本日から5月8日まで連休にかかるため，作業員を休業とし，図面作成作業のみ行う。

5月9日　北東区の遺構掘削を継続する。南東区SD03121及び東西現代溝を掘削。

5月10日～5月12日　降雨のため，終日作業中止。

5月13日　水抜き実施。

5月16日　北東区の遺構掘削を概ね完了する。以後，南東区に集中する。SD0405とSD0411の交点以西を反対として誤認していた可能性が高くなる。東西現代溝とSD03121の掘削を完了し，南東区の包含層の掘削に着手する。本日から衣笠土木によって，西側の竹林等の伐採が開始される。

5月17日　包含層掘削継続。午後から降雨のため作業中止。

5月18日　包含層を完掘した箇所から，下面検出の遺構（SD0419～SD0426等）の掘削を開始する。SH0428の掘削に着手する。

5月19日　南東区の各溝が掘削完了した範囲から，ピットの掘削を開始する。SD0405，SD0430，SH0428/29等の掘削を継続する。SD0427の掘削に着手する。

5月20日　北東区のレベリング実施。SD0430，SD0405等の掘削が完了する。

5月23日～5月27日　降雨のため，終日作業中止。

5月30日　水抜き実施。

5月31日　南東区の西側の包含層掘削を開始する。特にBF09区では複数の遺構が著しく重複することを確認する。中でも，SH0404は一番下位にあることを確認する。SH0428/29掘削継続。

6月1日～6月2日　降雨のため，終日作業中止。

6月3日　都合により，終日作業行中止。

6月6日　水抜き実施後，掘削を再開する。BE09区にて土坑となると考えていたものが，大型の柱穴になることが判明する。遺物はほとんど出土しないものの，埋土はSH0404に似て黄褐色で古そうだと判断する。SH0428/29の内，SH0428完掘。下部にあるSH0429が残る。衣笠土木により，西側の表土除去が開始される。北東の一部を除き，届出範囲の大部分の表土除去が行われる。

6月7日　BE09区大型ピット完掘。深さが0.9 mと極めて深くなることが確認される。その他，各種遺構掘削を継続する。

6月8日　SH0404周壁溝の掘削を開始する。SD0442，SD0431，SD0427，SD0421，SD0420等掘削。

6月9日　都合により，終日作業行中止。

6月10日　SD0424，SD0432，SD0443等掘削。SH0433は床面まで掘削を完了する。衣笠土木による表土除去が完了する。

6月13日　SH0433周壁溝及び，貼床層掘削。SD0424，SD0421，SD0442やその周辺のピットを掘削する。

6月14日　SH0428/29埋土，周壁溝等を掘削する。ピットの掘削が概ね完了し，北西区の包含層掘削に着手する。

6月15日　南東区の残りの遺構掘削を継続する。北西区の包含層掘削を継続する。

6月16日～6月22日　降雨のため，終日作業中止。

6月23日　水抜き実施。

6月24日　平面図作成作業のみ実施。

6月27日　SH0404埋土及び周辺の溝，ピット等を掘削する。SH0404の南西主柱穴に相当する大型ピットの掘削を開始する。完形の甕等，遺物が豊富に出土する。埋土の色調は黒色が基調で南東の主柱穴とは様相が異なる。北西区の包含層掘削を再開する。

6月28日　北西区の包含層掘削がほぼ完了する。SH0428の貼床層撤去後，SH0429の周壁溝，南東主柱穴等を掘削する。レベル移動実施。

6月29日　都合により，終日作業中止。

6月30日　SD0409，SH0451，SD0452，SD0453等を掘削する。BF10区及びSD0440，SD0427/42等の出土遺物のレベリング作業を実施する。

7月1日　平面図作成及びレベリング作業実施。

7月4日　SD0409の西半を完掘し，東側に着手するも礫が多く出土することが判明する。SD0453，SD0456，SH0454，SK0457等の掘削を完了する。SD0456の下部にはSH0455が存在し，一部，先行して掘削を開始する。

7月5日　SD0453の掘削を継続する。下部にてSH0455の周壁溝を検出する。併せて，SH0455の床面はSD0453の基底面とほぼ同程度と深いことを確認する。SD0460掘削着手。BI13区ではSH0455として掘削した範囲が，他の遺構が重複していた可能性がある。

7月6日　都合により，終日作業行中止。

7月7日　降雨のため，終日作業中止。

7月8日　SD0409，SD0453，SD0460等の掘削が完了する。SD0460はSH0454の下部にあることを確認する。SH0454は貼床してあり，SD0460の上位に形成されている。

7月11日　SH0455の埋土及び周壁溝等の掘削を本格的に開始する。床面直上でSD0467を検出し，筒状の高杯等が出土することを確認する。BG12・13の竪穴住居各種を一括して床面まで掘削する。周壁溝が4条あり，東からSH0462～SH0465とする。併せて，周辺のピットやSD0461等の掘削を開始する。先日のSH0455SWとして掘削した分は，埋土が黒色土を呈し，他の遺構が重複していると判断する。

7月12日　SH0455北東部を床面まで掘削し，周壁溝やピット，SD0467等を検出する。SD0467はSH0455に同時期ないし，先行することを確認する。SH0455南東部の埋土掘削を継続する。SH0462～SH0465床面検出のピット等掘削継続。SD0454掘削。SD0454は黒色土の埋土の上部に地山と同色，同質の埋土で覆われており，暗渠状になっている可能性が高い。検出も困難である。SD0466掘削開始。

7月13日　都合により，終日作業行中止。

7月14日　SH0455南東の埋土掘削が完了後，東辺の周壁溝を掘削する。SH0454埋土掘削後，下部のSH0428/29と考える埋土の掘削を開始する。SD0462，SD0465，SD0468，SD0469等の掘削に着手。

7 月 15 日　SH0455 南東ピット，SH0428/29 埋土，SD0467，0470 等の掘削を継続する。SD0409 以北の遺構掘削は SH0462 ～ SH0465 周壁溝を除き完了する。一部，南西区の包含層の掘削に着手。北東区，南東区のレベリング作業終了。

7 月 19 日～ 7 月 20 日　台風接近のため，終日作業中止。

7 月 21 日　午前中に水抜きを実施する。午後から南西区の上層包含層の掘削を再開する。BH12 は GL-0 ～ 10 ㎝程度で床面に到達。SH0454 の埋土は浅い。

7 月 22 日　BH10 及び同 11 区の GL-0 ～ 10 ㎝まで完了する。ともに SH0428/29 の埋土である。その他も，包含層の掘削を継続する。

7 月 25 日　南西区各グリッドの包含層掘削を継続する。SD0470 掘削完了。南西区の SD0453 掘削に着手。

7 月 26 日～ 7 月 27 日　降雨のため，終日作業中止。7/26 に三重県埋蔵文化財センター石井智大氏来訪。

7 月 28 日　包含層掘削継続。SH0471 を認定し，SH0310 の延長と判断する。一部，SH0454 と SD0453 を混在して取り上げていたが，確実に分層できることが判明する。

7 月 29 日　SD0409 礫出土状況の図化及び写真撮影後，礫の撤去を開始する。礫撤去後，下部の SH0462 ～ SH0465 の周壁溝の掘削に着手する。SD0453 掘削継続。SH0428/29 は床面まで到達する。SD0470 完掘。

8 月 1 日　SH0471 下部の SH0475 として掘削を開始する。埋土は 10 ㎝程度である。SH0428/29 の内，SD0453 以東の掘削がほぼ完了する。SH0462 ～ SH0465 周壁溝の掘削を継続する。SD0466 からは盤状高杯が出土するが，他の溝からは目立った出土遺物なし。

8 月 2 日～ 8 月 3 日　降雨のため，終日作業中止。

8 月 4 日　北西区 SD0409 の礫の下面検出遺構の全てを掘削完了する。一番西側の溝の埋土は黄色で SD0460 となると判断する。SK0474 認定し，飛鳥時代前後の大型土坑と判断する。SH0455 埋土，SH0428/29 北辺周壁溝等の掘削を開始する。

8 月 8 日　水抜き作業実施。SH0428/29 の SD0453 以西，SH0455，SK0474 等の掘削を継続する。SD0476 認定後，掘削に着手する。SD0476 は SH0310 の北辺周壁溝に該当すると考える。

8 月 9 日　現地説明会実施のために，全体清掃を実施する。

8 月 10 日　SH0455 の北東主柱穴の掘削を開始する。SH0455，SH0428/29，SK0474 等の掘削を継続する。

8 月 11 日日　午前中に説明会を実施する。21 名の参加者がある。午後から，通常作業とする。SH0455 北西主柱穴及び東辺周壁溝，SD0477，SK0474 等の掘削を継続する。SK0474 の最下層で須恵器のハソウ等が出土する。

8 月 12 日　これまでに掘削の完了した範囲から，レベリング作業を実施する。

8 月 14 日～ 8 月 19 日　盆休みとして，休業。

8 月 22 日　降雨のため，終日作業中止。

8 月 23 日　水抜き作業のみ実施する。

8 月 24 日　午前中，レベリング及び水抜き作業等を実施する。午後から，博物館実習生 5 名及び CNS 取材を受け入れる。SH0455，SD0453，SK0474 等の掘削を再開する。サポート会林紘会長見学。

8 月 25 日～ 8 月 26 日　降雨のため，終日作業中止。

8 月 29 日　北西区の出土遺物取り上げ。SH0455 南東主柱穴の掘削を開始する。出土遺物が多く，掘削に時間がかかる。SH0471/75，SD0453，SD0477，SD0479 等を掘削する。

8 月 30 日　SH0455 の埋土を完掘する。後は柱穴，溝等の掘削を残すのみとなる。SD0453，SH0428/29 貼床層，SH0471 貼床層等を掘削する。SH0479 認定。

8 月 31 日　各種竪穴住居内のピット，SH0455 南辺周壁溝，SH0471 等を掘削する。

9 月 1 日～ 9 月 5 日　台風の影響のため，終日作業中止。

9 月 6 日　終日，水抜き作業を実施する。

9 月 7 日　都合により，終日作業中止。

9 月 8 日　南西区 SH0471/75 及びピット，溝等の掘削を継続する。

9 月 9 日　ピット掘削継続。最南端の SD0453 部分の掘削に着手する。SH0484，SD0488 を掘削する。土層観察用の畦の撤去を開始する。

9 月 12 日　畦の撤去継続。SH0455 の南東主柱穴から盤状高杯等が出土し，黄色の埋土のものは他よりも古い遺構だと判断していたことが査証される。SH0484 南辺周壁溝，SD0453 等を掘削する。

9 月 13 日　畦の撤去継続。南西区の畦の撤去は完了するが，下部から多数の溝，ピット等が検出される。

9 月 14 日　都合により，終日作業中止。

9 月 15 日　畦の撤去継続。北西区が完了した後，中央の南北畦の掘削に着手する。

9 月 16 日　南西区，北西区の畦の下面で検出した遺構の掘削を完了する。中央南北畦の撤去を継続する。一部，その下部の遺構の掘削にも着手する。

9 月 20 日～ 9 月 21 日　台風の影響のため，終日作業中止。

9 月 22 日　終日，水抜き作業を実施する。

9 月 23 日～ 9 月 25 日　南西区の平面図作成。

9 月 26 日　降雨のため，終日作業中止。

9 月 27 日　畦の撤去，下面検出の遺構掘削を継続する。SK0474，SH0455 南東主柱穴，SH0428 等の出土遺物の取り上げ作業を行う。全体清掃を開始する。

9 月 28 日　畦の撤去，畦下面検出の遺構掘削を継続する。全体清掃を完了する。

9 月 29 日　畦の撤去，畦下面検出の遺構掘削を完了する。清掃後，各種遺構完掘状況の写真撮影を実施する。発掘用具等を搬出する。本日にて，掘削作業が完了し，作業員を終了とする。

9 月 30 日　畦の下面検出遺構の平面図を加筆する。併せて，レベリング作業を実施する。

10 月 2 日　レベリング作業完了。本日にて，現地作業の全てを終了する。

第５次調査（620㎡；平成24年６月25日～平成25年１月11日）

６月25日　重機搬入。表土除去開始。

６月26日　駐車場等の草刈，整地作業。

６月27日　重機手配できず，終日休業。

６月28日　表土除去再開。北東では表土直下にて地山面を確認する。いくつかの現代地割溝を確認。

６月29日　表土除去継続。東側から座標設置。

７月２日　作業員導入。北区から検出作業開始。いくつかの竪穴住居を検出。略測図作成開始。

７月３日　降雨のため，終日休業。

７月４日　北区検出継続。北区より現代地割溝掘削開始。

７月５日　降雨のため，終日休業。

７月６日　現代地割溝掘削継続。午後より降雨のため休業。

７月９日　水抜き。東西方向の現在地割溝完掘。南北地割溝掘削継続。

７月10日　SD0501からSH0506まで認定。SD0501掘削開始。SH0504埋土は２～3cmと浅い。北区は土砂の流出が激しく遺構の依存状態が不良であることを再確認する。

７月11日　SH0502掘削するも，明確な周壁溝を確認できず。SD0501，SH0503，SH0506掘削継続。午後より降雨のため休業。

７月12日　降雨のため，終日休業。

７月13日　都合により，終日休業。

７月17日　SH0502をほぼ完掘する。北区の中央に広がる黒色土（後のSH0507～SH0514）に十字ベルトを残し，掘削に着手する。

７月18日　SH0502カマド？を掘削。カマドでないことを確認する。SH0504内ピット掘削完了。中央部の黒色土辺りに少なくとも６棟以上の竪穴住居が重複していることを確認する。

７月19日　SH0501カマド？を掘削。中央部の黒色土全体の撤去を完了し，概ね床面まで到達する。

７月20日　降雨のため，終日休業。

７月24日　SH0511～00514南側半分の周壁溝，ピット等を掘削開始。北西区西側にてSH0516～0518を認定，掘削。

７月25日　遺物出土状況図等作成。レベリング。

７月26日　SH0511～14内ピット掘削。SH0519，SH0520認定。SD0521掘削完了。SH0507周壁溝完掘後，ピット掘削に着手。

７月27日　SD0522～0526完掘。SH0516の下部にSH0527を認定。各種竪穴住居のピット掘削継続。

７月30日　SH0508周壁溝完掘。SH0507/15，SH0511～0514内ピット掘削継続。SH0527埋土掘削完了。SD0528掘削開始。

７月31日　SD0528完掘。SH0507/15，SH0511～0514内ピット掘削完了。

８月１日　都合により，終日休業。

８月２日　SH0517及びSH0527，SH0509の周壁溝，ピット掘削継続。

８月３日　SH0527，SH0508～0510内ピット掘削継続。平面図作成開始。

８月６日　平面図作成継続。

８月７日　本日にてベルトを残し，北区の掘削が終了する。平面図作成継続。

８月８日　中区の東西現代地割溝の掘削に着手。上部は明らかに現代，下部は黄灰色のしまりのある埋土で中世までさかのぼる可能性がある。

８月９日　北区の全体清掃後，完掘の写真撮影。現代地割溝掘削継続。

８月10日　現代地割溝完掘後，中区全体の表土残土の撤去。全体に黒褐色の土で覆われ，地山面は少ないことが判明する。

８月13～18日　盆休みとして，終日休業。

８月19日　午前中，現地説明会開催。午後から，学芸員実習受け入れ。検出，レベル設置，写真撮影等を行う。

８月20日　柿の木を伐採し，その周辺の表土を撤去する。SH埋土一括として，一段下げを実施。

８月21日　都合により，終日休業。

８月22日　SD0501の延長を確認し，掘削に着手する。中央南北ベルト以東を一段下げ。

８月23日　SD0501完掘。羽釜が出土し，中世の溝であることが明確となる。SD0501以東の１段下げ完了。ピットの掘削に着手。

８月24日　都合により，終日休業。

８月27日　SD0532認定し，掘削する。SD0501以西のSH埋土の掘削に着手する。

８月28日　降雨のため，中区の掘削を中断し，南区の除草，検出作業を行う。

８月29～30日　都合により，終日休業。

８月31日　午前中，白子遊楽倶楽部発掘体験受け入れ。中区南北ベルト西側の包含層掘削を行う。午後から，中央ベルト東側/SD0501以西のSH埋土掘削。

９月３日　降雨のため，終日休業。

９月４～７日　平面図作成実施。作業員休業。

９月10日　中央南北ベルト以西のSH埋土の掘削に着手。

９月11日　中区北西隅のSH埋土掘削と中央ベルト東側の掘削を再開。午後より，雷雨のため，休業とする。

９月12日　SH0533～SH0540を認定。SH0533/34，SH0537，SH0535/36埋土掘削。SH0540周壁溝掘削。各竪穴住居内のピット掘削。

９月13日　SH0533/34，SH0535/36貼床撤去後，下面検出のピット掘削。SH0537内ピット掘削完了。SD0543認定，掘削。SH0542埋土撤去後，ピット掘削開始。

９月14日　SH0542，SH0533/34，SH0535/36の周壁溝，ピット掘削継続。SH0535/36排水溝で廻間式の高杯出土。

９月18日　降雨のため，終日休業。

９月19日　水抜き。SH0542ピット，溝等を掘削。SH0537埋土の残土を掘削。

９月20日　都合により，終日休業。

９月21日　SH0542東西ベルト南の掘削に着手。SH0536貼床層撤

Tab.1　磐城山遺跡の発掘調査履歴

調査次数	調査要因	調査面積（㎡）	調査期間	調査担当	概要報告書 / 報告書	調査概要	遺構番号
プレ1次	道路建設（県道）	1,100	1993/5/11 ～ 1993/8/6	森川常厚	1994 『磐城山遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター	中世城館（西側に隣接する木田城跡）に係る堀状遺構を確認する。一部，竪穴住居や中世の土坑を検出する。	01 ～
第1次	道路建設	3,000	1997/9/12 ～ 1998/2/23	杉立正徳	杉立正徳　1998 「Ⅱ.6. 磐城山遺跡」『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報』Ⅴ　鈴鹿市教育委員会	丘陵端部を寸断する環濠状の溝（山中式）を検出し，その西側で竪穴住居等を多数確認する。	01 ～
第2次	道路建設	2,000	1998/8/20 ～ 1999/1/22	岡田雅幸	岡田雅幸　2000 「Ⅴ.7. 磐城山遺跡（2次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第1号	弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居を多数確認。古代の溝や掘立柱建物も確認される。柱穴から水晶出土。	01 ～
第3次	農地改良	740	2010/6/21 ～ 2011/3/31	田部剛士	田部剛士　2011 「Ⅳ.6. 磐城山遺跡（第3次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第13号	弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居を多数確認。古代の溝が南北にのびることを確認。	0301 ～
第4次	農地改良	315	2011/4/4 ～ 2011/10/2	田部剛士	田部剛士　2013 「Ⅲ.1. 磐城山遺跡（第4次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第14号	竪穴住居が弥生時代後期初頭（八王子古宮式）まで遡ることが確認される。	0401 ～
第5次	農地改良	620	2012/6/25 ～ 2013/1/11	田部剛士	田部剛士　2014 「Ⅲ.2. 磐城山遺跡（第5次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第15号	丘陵北東端では遺構の残りが悪いものの，古墳時代後期の竪穴住居が多くなる。また，1次調査の環濠は丘陵北端では確認されない。	0501 ～
第6次	農地改良		2013/8/5 ～ 12月末予定	田部剛士	田部剛士　2014予定 「磐城山遺跡（第6次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第16号	弥生時代を中心とした竪穴住居に加え，中世の土壙墓2基が確認された。	0601 ～
	合計	7,775					

去後，下部のピットの掘削着手。SH0540 周壁溝掘削。SH0544 認定。

9月24日　SH0542 掘削継続。SH0535/36 埋土，貼床掘削。各竪穴住居内のピット掘削。

9月25日　SH0535/36 写真撮影。SH0545 埋土掘削。SH0537 内ピット掘削継続。

9月26日　都合により，終日休業。

9月27日　SH0535/36 の周壁溝，ピット掘削。SH0545 と SH0546 は同一の竪穴住居であることを確認する。ピット掘削継続。

9月28日　SH0545 周壁溝，ピット掘削。SH0535/36 の周壁溝，ピット完掘。

10月1日　水抜き。SH0545 埋土掘削後，ピット掘削開始。南区の調査に着手。SH0547，SH0548 を認定し，掘削を開始する。

10月2日　SH0545 掘削継続。SH0547 埋土掘削完了後，貼床層の撤去開始。SH0548 埋土掘削拡張。

10月3日　SH0545 完掘。SH0547 貼床撤去完了。SH0548 埋土掘削完了。SH0549 周壁溝掘削完了。SK0550 掘削に着手。

10月4日　SH0547，SD0551，SH0552 周壁溝掘削。SK0550 完掘。

10月5日　都合により，終日休業。

10月9日　SH0551 埋土掘削完了後，貼床層，周壁溝掘削開始。下部に SH0557 が重複していることを確認する。SD0556，SD0558 掘

削開始。SD0551 完掘。

10 月 10 日　SH0553 周壁溝，周辺ピット掘削完了後，SH0555 周壁溝掘削。SH0547/57 内の周壁溝，ピット，溝等の掘削に着手。

10 月 11 日　SH0547/57，SH0551/53 内ピット掘削継続。南西区除草開始。

10 月 12 日　都合により，終日休業。

10 月 15 日　中区全体清掃後，南区のピット掘削継続。

10 月 16 日　中区完掘の写真撮影。終了後，ベルト撤去開始。南区のピット掘削が完了。

10 月 17 ～ 18 日　降雨のため，終日休業。

10 月 19 日　西区現代地割溝掘削及び全体の遺構検出作業開始。

10 月 22 日　西区検出完了。SH0559 ～ SH0561 を認定。SH05559 は黄灰色の埋土で八王子古宮式併行かと考える。他の遺構より切り合い上は先行する。現代地割溝掘削完了。西区の単独ピットの掘削に着手。南区ピットの残り，中区ベルト撤去継続。

10 月 23 ～ 29 日　都合により，終日休業。

10 月 30 日　水抜き。SH0559，SH0560，SH0562/63 等の埋土の掘削を開始する。

10 月 31 日　SH0559 床面まで掘削完了。やはり八王子古宮式に併行する時期と確認する。SH0563 掘削完了。SD0568 認定。中世の土坑と判断する。SH0560/66 掘削継続。2 棟の竪穴住居が東西に重複しているようだが，判然としない。さらに，下部にはもう 1 棟別の竪穴住居があり，これを SH0566 とする。

11 月 1 日　SH0559 ピット内掘削開始。SH0560/66 掘削。SK0568 完掘。SH0572 埋土掘削開始。

11 月 2 日　SH0561 貼床撤去，SH0572 埋土掘削完了後，周壁溝，ピットの掘削に着手。SH0560/66 周壁溝やピットの掘削継続。SH0559，SH0565，SH0569 完掘。

11 月 5 日　SH0561 貼床撤去。SH0565 掘削完了。SH0566 貼床撤去完了後，ピット掘削。

11 月 6 日　降雨のため，終日休業。

11 月 7 日　水抜き。SH0566 貼床撤去完了後，ピット掘削。SH0561 貼床撤去継続。その他のピットの掘削着手。

11 月 8 日　SH0561 ベルト撤去。SH0566 貼床撤去，ピット掘削継続。SH0560/66 掘削継続。

11 月 9 日　都合により，終日休業。

11 月 12 日　水抜き。西区残りのピット掘削。及び各種ベルト撤去開始。

11 月 13 日　ベルト撤去，ピット掘削完了後，全体清掃。各種，完掘状況の写真撮影実施。

11 月 14 日　都合により，終日休業。

11 月 15 日　水抜き。中区土層断面清掃。北区ベルト撤去開始。

11 月 16 日　土層断面図作成。

11 月 19 日　水抜き。南区ピット遺物取り上げ。北区ベルト撤去継続。

11 月 20 日　西区水抜き。シート，土嚢袋等撤去。北区ベルト下部の溝やピットを掘削。

11 月 21 日　都合により，終日休業。

11 月 22 日　全体清掃。

11 月 23 日　現地説明会実施。

11 月 26 日　降雨のため，終日休業。

11 月 27 日　中区，土層断面用のベルト撤去開始。

11 月 28 日　中区ベルト撤去完了。本日にて遺構掘削を終了する。

11 月 29 日　平面図加筆。SH0559，SH0560/66 出土状況図作成。

11 月 30 日　南区，西区の水抜き。発掘用具搬出。一時，作業中断。

1 月 8 日　航空写真撮影のため，水抜き及び全体清掃開始。残していたシートや土嚢袋を撤去する。

1 月 9 日　全体清掃継続。

1 月 10 日　南区，西区の各種完掘状況の写真撮影。

1 月 11 日　航空写真撮影実施。本日にて，現地作業を終了する。

第Ⅱ章　位置と環境

1　地理的環境

磐城山遺跡は鈴鹿市木田町に所在する（Fig.1・2）。木田町は，現在の行政地区では「河曲（かわの）」地区と呼ばれている。その名が示すとおり，鈴鹿川が蛇行しながら東流して伊勢湾に注いでおり，過去，鈴鹿川が幾度も氾濫を繰り返していたことが想像される。この鈴鹿川の南部には神戸（かんべ）丘陵と呼ばれる低位段丘が東へ張り出しており，北部には高岡丘陵とよばれる中位段丘が派生している。

磐城山遺跡は，鈴鹿川の左岸の高岡丘陵上に位置する（Fig.2・3）。標高は海抜 35 m前後で，緩やかに傾斜しながら南東方向に張り出している。周囲には同じような舌状の丘陵地形が点在し，その上は概ね全てが遺跡として利用されている。

2　歴史的環境

この河曲地区では，旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡は少ない。旧石器時代では，高岡丘陵上の西ノ岡Ａ遺跡等で，ナイフ形石器や縦長のチャート製剥片が出土している程度である。なお，磐城山遺跡の第 3 次調査では，三重県で初めての黒曜石製のナイフ形石器が出土している。縄文時代では，木田坂上遺跡において縄文時代晩期後半の土器棺が 2 基見つかっている。

弥生時代になると河曲低地部の八重垣神社遺跡等において前期の流路跡が多数確認されている。中期後半以降では高岡丘陵上で扇広遺跡，中尾山遺跡，境谷遺跡，寺山遺跡等の集落遺跡が多く分布するようになる（Fig.3）。磐城山遺跡のように弥生時代後期を主体とする遺跡は南山遺跡や一反通遺跡程度であるが，やや後出して成立する青谷遺跡といった遺跡も確認される。

古墳時代初頭になると丘陵上の集落は衰退し，低地部の八重垣神社遺跡等で集落や墓域が認められるようになる。古墳としては，前方後円墳である寺田山１号墳や富士山１号墳，円墳と推定される大鹿山１号墳等を中心に，小規模な古墳が点在している。集落跡としては境谷遺跡や磐城山遺跡で多く確認される。

また，古代には伊勢国に河曲郡が存在しており，現在の河曲地区がその地と推定されている。『和名類聚抄』による河曲郡には神戸郷をはじめ，駅家郷，川部郷等の八郷があったとされている。この内，木田町は駅家郷に該当すると考えられている。なお，この河曲郡は古代豪族の大鹿氏の本貫地とされている。『日本書紀』敏達天皇四年（575）の条によると，「采女伊勢大鹿の首小熊の娘の菟名子夫人といい，太姫皇女と糠手姫皇女とを生む」とある。さらに，『古事記』と『日本書紀』の雄略天皇の条には，「伊勢国三重の采女」や「伊勢の采女」とも出てきており，これが大鹿一族だと考えられ，古代においてかなり有力な豪族であったことが窺える。

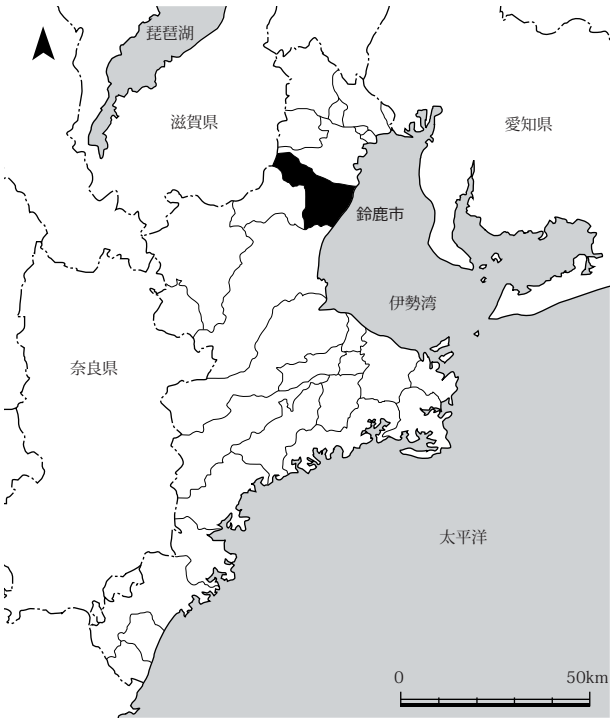


Fig.1　鈴鹿市の位置（S=1/2,000,000）

それを査証するように，木田町の北に隣接する国分町には，白鳳寺院と考えられている南浦遺跡を含め，古代河曲郡衙と推定される狐塚遺跡や，伊勢国の国分二寺のような重要な施設が置かれ，その一部が発掘されている。おそらく，周辺には『延喜式』で十疋の駅馬や五疋の伝馬が配置されていたという河曲駅や，壬申の乱の際に大海人皇子が立ち寄った「川曲の坂下」があったものと推

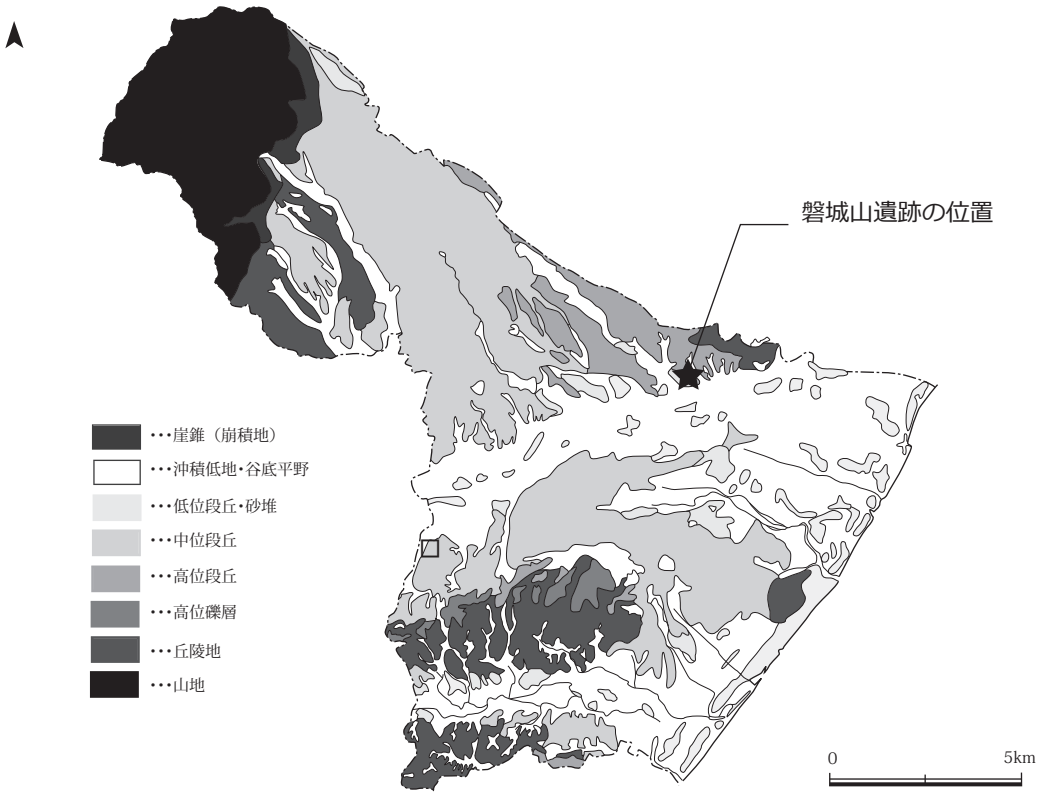


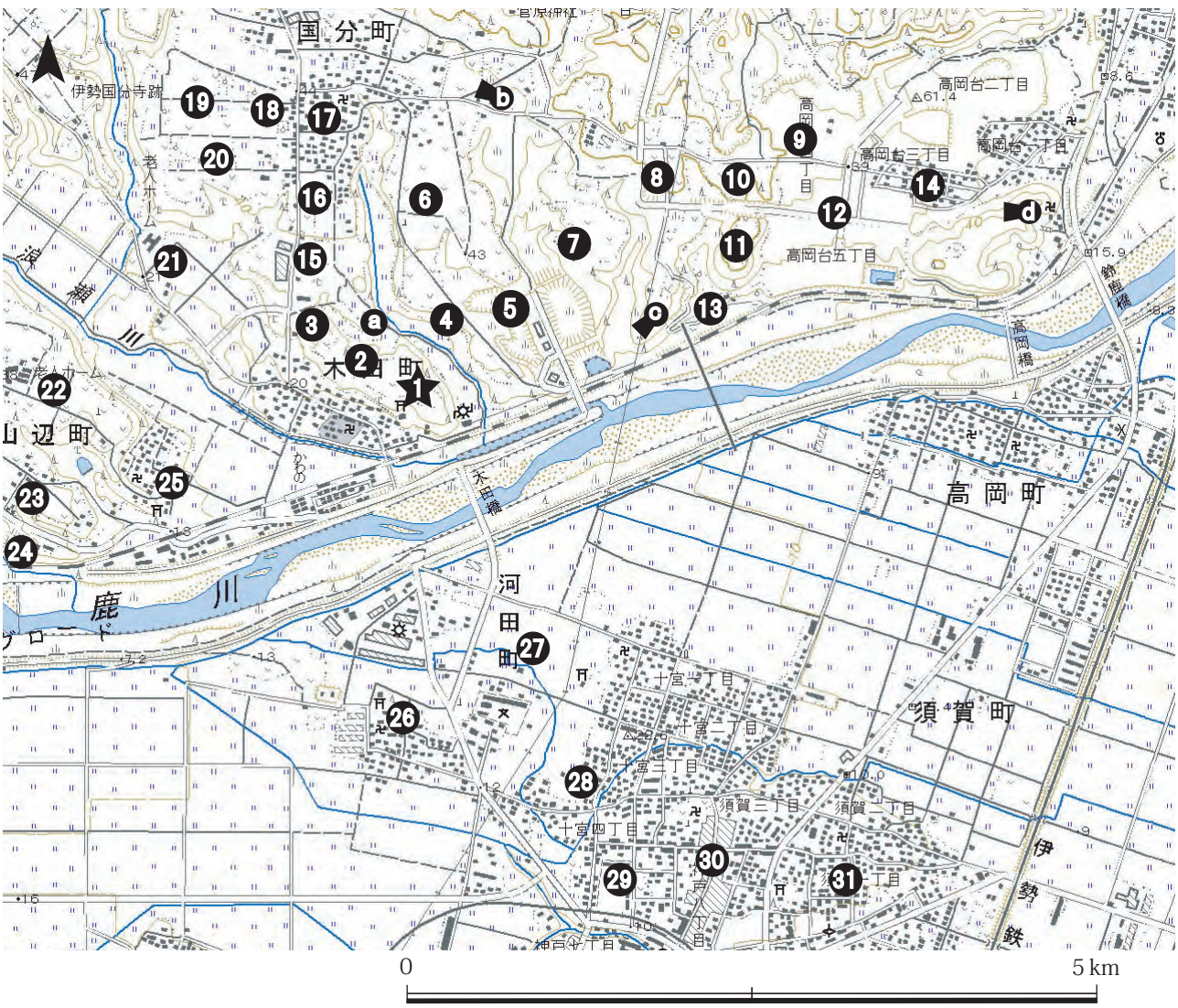
Fig.2　鈴鹿市の地質（S=1/200,000）

定される。

さらに，このような重要な施設は古代官道とも無関係であったとは考えにくく，近くに東海道が縦貫していたものと考えられる。近年，平田本町所在の平田遺跡において，幅９ｍの直線道路が検出されており，年代観が定まらないものの，国府町所在の推定伊勢国府跡と国分二寺をあたかも直線的に結ぶかのような位置関係にあって，注目されている。

また，木田町周辺では，平安時代以降の遺跡も確認されている。特に国分北遺跡は，道路状遺構に特有とされる波板状凸凹痕や道路側溝と思われる溝が 110 ｍ以上確認される等，平安時代頃まで道路が走っており，交通の要衝であったようである。

また，鎌倉時代の記録によると，源頼朝の命によって地頭御家人で駅家雑事の課役を負担していない者の目録を提出させているが，これを担当したのが「大鹿俊光」や「大鹿兼重」，「大鹿国忠」なる人物達であった。このことから，大鹿氏が中世においても在地官人として活躍していたことが分かるが，丘陵上には鎌倉時代の大規模な遺跡は不明瞭であり，どちらかというと中世後半以降のものが多い。室町時代以降は，高岡丘陵上にも多くの山城が築城されるが，丘陵東端には織田信長進行時の最前線となった高岡城が存在している。調査地の西側に隣接して登録されている木田城跡も無関係ではなかったものと考えられる。



1 磐城山遺跡　2 木田城跡　3 木田坂上遺跡　4 沖ノ坂遺跡　5 中尾山遺跡　6 国分東遺跡　7 境谷遺跡　8 寺山遺跡　9 扇広遺跡　10 西ノ岡Ａ遺跡　11 西ノ岡Ｂ遺跡　12 東ノ岡遺跡　13 寺田山遺跡　14 青谷遺跡　15 南浦遺跡　16 国分南遺跡 17 国分遺跡（推定伊勢国分尼寺跡）　18 国分西遺跡　19 伊勢国分寺跡　20 狐塚遺跡（推定河曲郡衙跡）21 間瀬口遺跡　22 添遺跡　23 口山遺跡　24 南山遺跡　25 山辺東遺跡　26 河田宮ノ北遺跡　27 八重垣神社遺跡　28 宮ノ前遺跡　29 十宮古里遺跡　30 萱町遺跡　31 須賀遺跡

ａ 大鹿山１号墳　ｂ 富士山１号墳　ｃ 寺田山１号墳　ｄ　高岡山９号墳

Fig.3　遺跡の位置（S=1/50,000）

第Ⅲ章　調査の方法

1　調査区

発掘調査は平成 22 年度の第 3 次調査から継続して行っている。そこで，第 3 次調査区の北西側に隣接して第 4 次調査区を設け，第 3 次調査区の北東側に第 5 次調査区を用意した。第 4 次調査区の対象地は，鈴鹿市木田町字上條 2272，2266-1 の一部，2265 の一部で，第 5 次調査区は，同上條 2261，2262-1，2263 の一部となる。調査区は概ね 100 ㎡前後を 1 区画となる程度に分割し，終了後に次を拡張するようにして進めた結果，第 4 次調査区は約 315 ㎡，第 5 次調査区は 620 ㎡を調査した。

2　地区割り

調査地内においては，国土座標第Ⅵ系に基づいて，3 m四方の升目（以下，グリッドとする）を設定したはずであったが，数値に齟齬があることが判明し，以後，任意座標とした。なお，平成 25 年度の調査からは，国土座標に基づいてグリッドを設定している。

任意座標は，磐城山遺跡の存在する丘陵を被覆するように配慮し，調査を南東から進める都合上，南東隅を基点として記号・番号を割り振った。南北方向は 2 桁の算用数字を与え，東西方にはアルファベットの 2 文字組み合わせて，各グリッドの呼称とした（Fig.4）。調査はこの任意座標を基として行い，最終的に国土座標と合成して Fig.4 に示した。

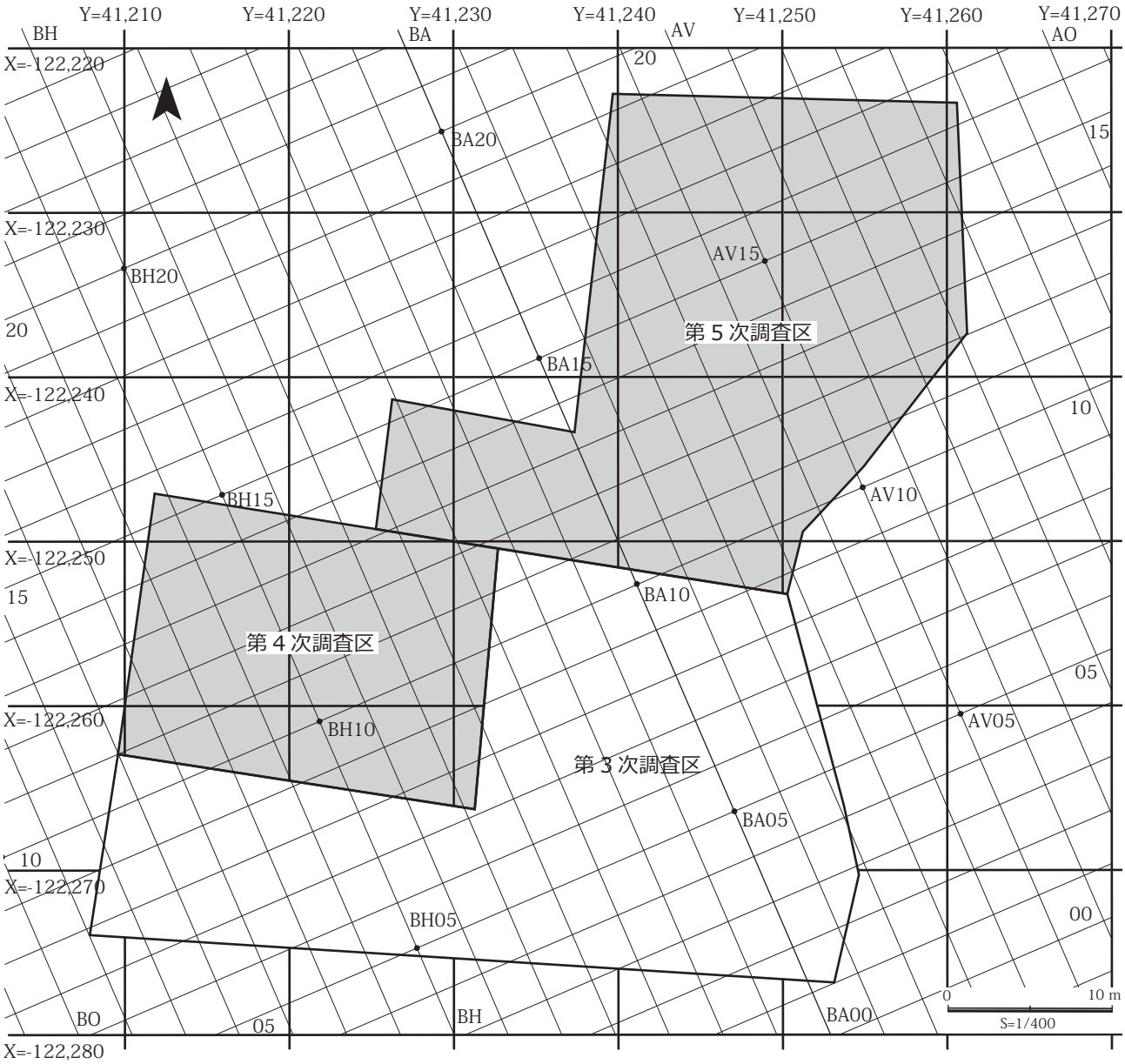


Fig.4　調査区の地区割り（S=1/400）

3　遺構番号

調査範囲が広大なため，原則として遺構番号は通し番号とし，調査の進行順に番号を付すことにした。本書では，調査時の番号をそのまま利用することとする。

なお，遺構の表記としてはSH0401のように表す。これは，下記の性格を示す記号と調査次数を表す「04」，調査段階で付与した個別識別番号「01」からの連番の組み合わせ，という意味である。数字の前に表記したアルファベットの内容は下記の通りである。

また，一部にSD03136のように「03」と表記しているものについては，第3次調査から続く一連の遺構という意味であるが，本書に掲載しているものは第4次調査区で確認したものである。

SH・・・竪穴住居　　SD・・・溝　　SK・・・土坑

SX・・・性格不明のもの　　pit・P・・・柱穴・ピット

※ 図中は調査次数を省略した

4　基本層序

調査区内において10～20cmの表土の直下で，黒褐色系の遺構埋土か黄褐色砂礫層の地山が存在する。4次調査区は表土直下に黒褐色の遺構埋土で覆われており，遺構密度が濃いことがわかった。かつ，その深さも深い所で50cm以上に及び，良好な遺存状態であった。

一方，第5次調査区の北に進むにつれて，表土の直下に地山が確認されることが多くなり，遺構の密度が希薄となる。ちょうど，第5次調査区の北側で丘陵が急激に落ち込んでいることから，地形的に土砂の流出が激しいことが推測されるが，これを査証するように検出面からの遺構の深さも5～10cm程度と浅くなっている。

なお，地山とした黄褐色砂礫層は，第4次調査区の辺りで0.7 m程度あり，その下部には人頭大の礫を多量に含むにぶい黄灰色の層序が，約2 m堆積している。この礫層は，水沢古期扇状地に該当しよう。

第Ⅳ章　検出遺構

今回の調査では，多数の遺構が確認された。多くは竪穴住居で，それに付随する溝やピット等がある。これらの遺構が極めて煩雑に重複しており，県内でも有数の遺構密度となっている（Fig.5）。

第4次調査区では，竪穴住居22棟以上（第3次調査区にまたがるものも1棟として数えている），掘立柱建物1棟，土坑3基の他，多数の溝，柱穴を検出している（Fig.6）。遺構の重複が著しく煩雑であるが，内容としては，中世後半から近代の区画溝，古代の直線的な溝と土坑，5～6世紀と八王子古宮式併行～廻間式の集落址ということになる。

第5次調査では，竪穴住居43棟以上，土坑1基の他，溝，ピットを検出した（Fig.7）。第4次調査区とほぼ同様の内容であるが，弥生時代の竪穴住居が少なく，古墳時代が多いという差異が認められる。

以下，比較的まとまった内容の遺物を出土した遺構を中心に解説するが，ある程度の遺構の単位をまとめて記述する。これは，重複している遺構を同時に掘削しているものも多く，出土遺物が混在している可能性があるためである。

1　竪穴住居･土坑

SK0474・SH0471/75/88・SH0484（Fig.8）

SK0474は調査区の南西端のBJ・BK11付近で検出した。直径4 m前後の円形で，0.4 m程度の深さに2～3段程度緩やかに落ち込む。埋土は単層であったが，基底面には7世紀頃の須恵器のハソウ等が比較的良好な状態で出土した。

SH0471/75/88は，主にBK10で検出した。第3次調査で確認していたSH0319とSH0310/93の延長に該当する。第3次調査区ではSH0319→SH0393→SH0310の順で新しくなることを確認しており，SH0488＝SH0319，SH0393＝SH0375，SH0310＝SH0471となる。

SH0471/75の規模は判然としないが，上下2面あることは確実で，上部のSH0471と下部のSH0475の間には黄橙色砂礫混シルト層の貼床層が存在している。SH0488については南北が5.4 mあることが確認され，東西も概ね5.5 m程度であることが推測できる。火処はそれぞれ床面の中央付近で，地床炉が確認された。

SH0471/75/88の出土遺物には，弥生土器や土師器，須恵器等があり，少なくとも上部のSH0571が5～6世紀の遺構であった可能性が高い。なお，SH0488は弥生土器の小片のみである。これらのことから，SH0571は古墳時代，SH0488は弥生時代後期頃の建物と考えられる。SH0475については詳細な時期比定が困難であるが，位置関係からSH0471に建て替えられた可能性が高く，古墳時代の建物であった蓋然性が高い。

SH0484はSK0474の下部で検出した。東西4.9 m，南北4.5 mを測り，やや小規模である。著しく重複するが，

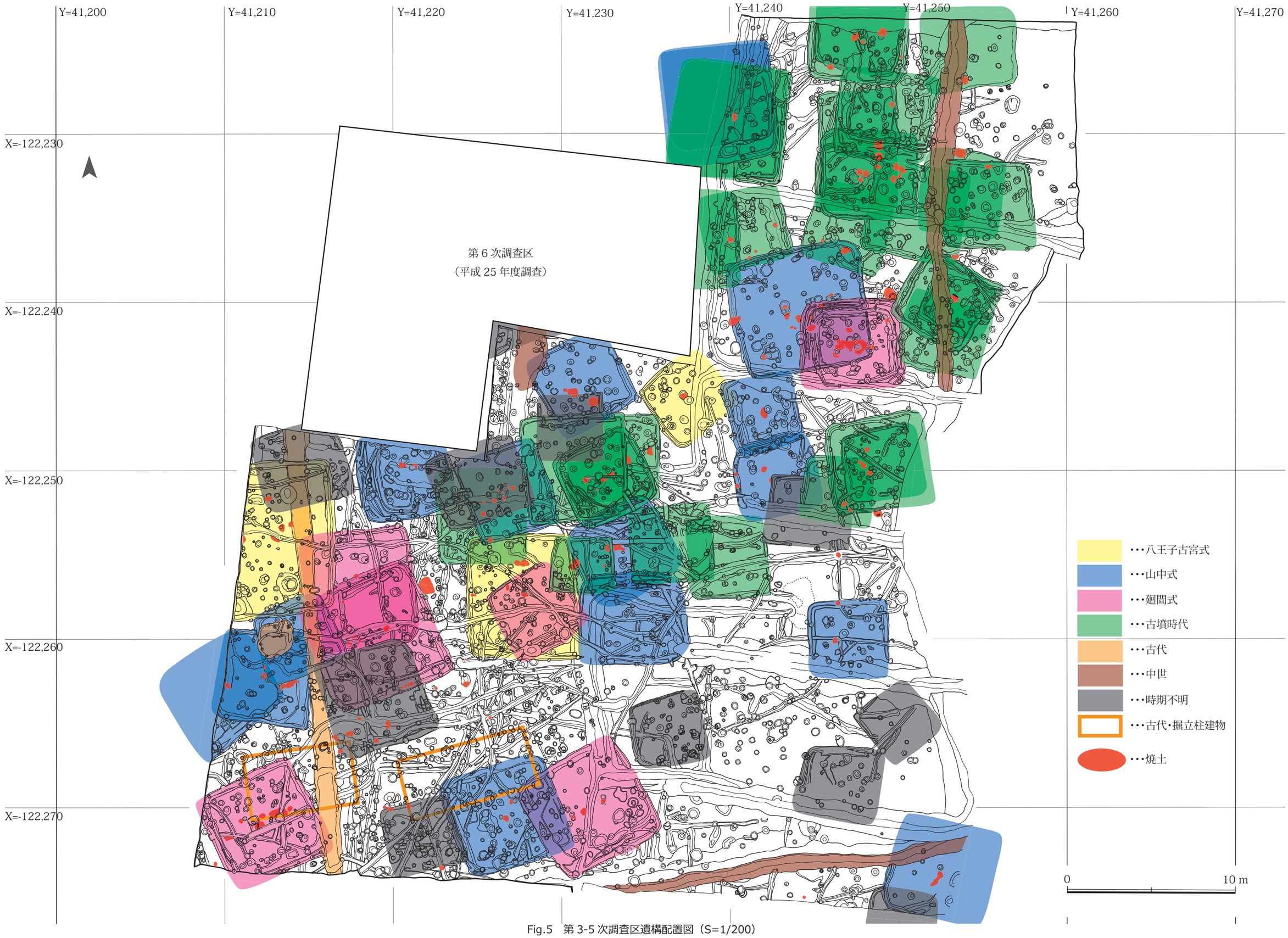
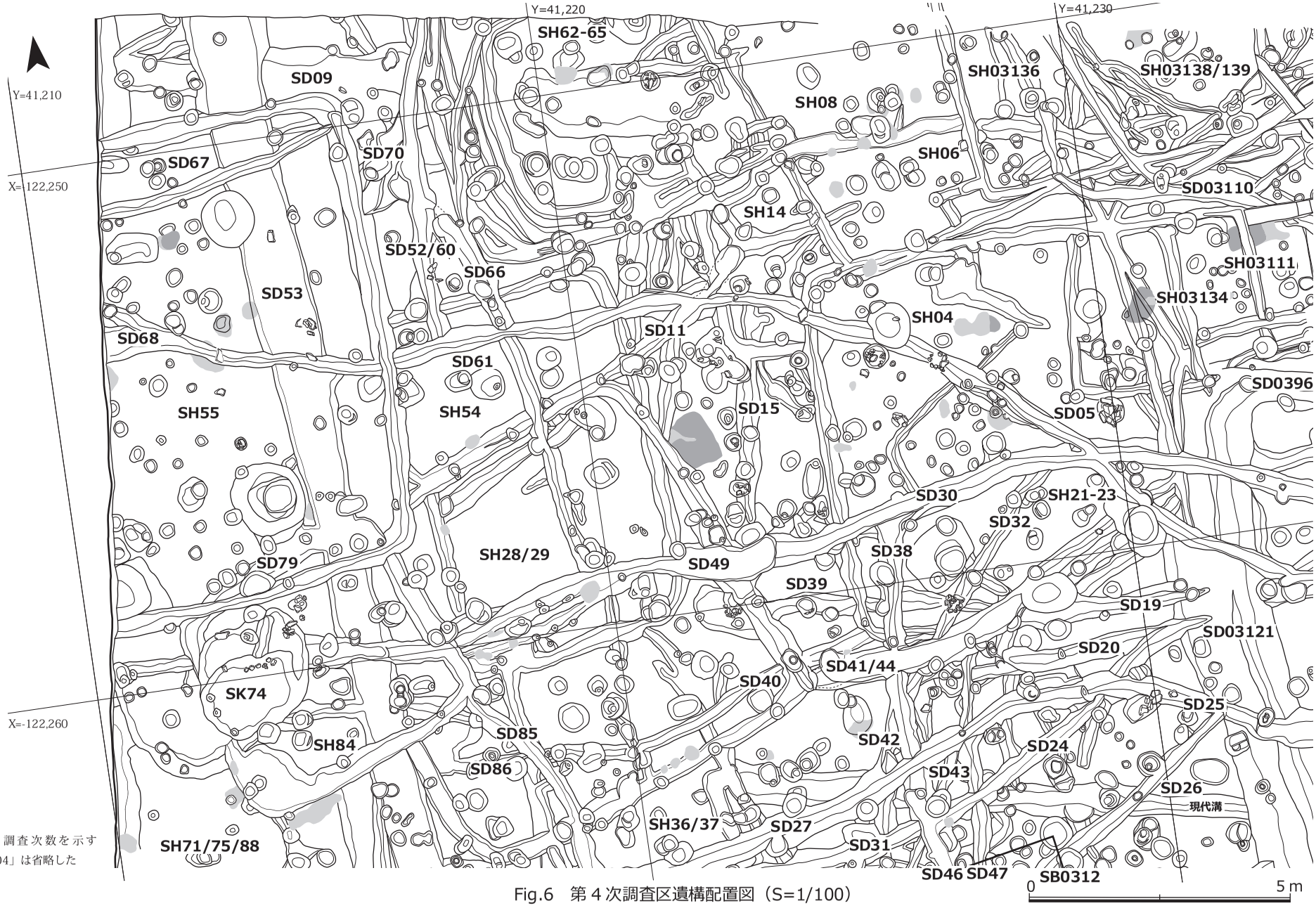


Fig.5　第 3-5 次調査区遺構配置図（S=1/200）



※調査次数を示す「04」は省略した

Fig.6　第４次調査区遺構配置図（S=1/100）

7 世紀代の SD0453 や SK0474，古墳時代の SH0471/75 よりも古く，廻間式期の SH0454，SH0428/29 より新しい。なお，北辺の周壁溝は SD0479 と認識して調査したが，本来は 1 棟の竪穴住居である。火処は確認できなかった。

出土遺物には弥生土器や須恵器等があるが，須恵器はおそらく SK0474，SD0453，SH0471/75，SH0488 等からの混在であり，廻間式頃の竪穴住居であろう。

SH0428/29・SH0454（Fig.8）

第 4 次調査区のほぼ中央，BH・BI10・11 辺りで検出した。北側に SH0454 があり，南側に SH0428/29 がある。新旧関係は SH0454 が古く，SH0428 が新しい。

なお，SH0428 は同一箇所で 2 棟の建て直しがあり，このうちの古い方を SH0429 とした。そのため，SH0454 → SH0429 → SH0428 と新しくなる。

SH0454 の西辺周壁溝は SD0453 の直ぐ西側にあったが，SH0455 掘削時に消滅してしまっている。その周壁溝からは内湾する土師器の高杯脚部が出土していることを確認しており，廻間式期の竪穴住居だと理解できる。

また，SH0428/29 は床面直上においても，廻間式の土師器の壷や高杯が出土しており，SH0454 の直後の竪穴住居だと考えられる。なお，SH0428 の周壁溝と竪穴住居の掘り方の間には，直径 15cm 程度の小ピットが 1.3 ～ 1.5 m間隔で並んでおり，第 3 次調査で確認した SH0307/12 と同じ構造を呈していたようである。

Fig.7　第 5 次調査区遺構配置図（S=1/200）

SH03134・SH0421/22/23・SH0404（Fig.9）

SH03134 は第 4 次調査区東端の BD10 付近で検出した。第 3 次調査区からの延長であり，東西 3.8 m，南北 3.4 m と小規模である。東西の柱間の距離も 1.2 m と狭い。西側柱間の中央に地床炉を検出した。焼土は小規模な建物面積の割に大きく，よく焼きしまっていた。出土遺物は少ないものの土師器や須恵器があり，概ね 6 世紀頃の竪穴住居だと考えられる。

SH0421/22/23 は第 4 次調査区の南東端の BE09 付近で確認した。当初，溝が 3 条重なっているものと考えていたが，整理段階で南辺周壁溝となることが判明した。時期不明の竪穴住居として調査した SH0445 が同一の遺構となる。廻間式の高杯が出土していることから，その頃の建物と考えられる。

SH0404 は第 4 次調査区の東側，BD・BE・BF の 09 ～ 11 で検出した。東西，南北とも 7.5 m あり，56 ㎡以上の床面積をもつ。他の竪穴住居や溝等との重複が著しいが，SD0405 等多くの遺構に先行する。埋土はにぶい黄灰色シルト層であり，山中式以降の遺構埋土が黒色を基調とするのに対照的であった。床面にて焼土をいくつか検出しているが，中央のものやその北側にあるものが該当しよう。主柱穴は 4 ヶ所で確認している。いずれも直径 0.6 ～ 0.8 m，床面からの深さ 0.8 m と，深く大きい。特に，南西の主柱穴 P04171 からは甕や高杯等が比較的まとまって出土した。また，南辺周壁溝の中央付近で土坑を 1 基確認している。床面直上で盤状高杯の杯部が出土していること等から，八王子古宮式併行まで遡る可能性が高い。

SK0474・SH0471/75/88・SH0484・SH0428/29・SH0454

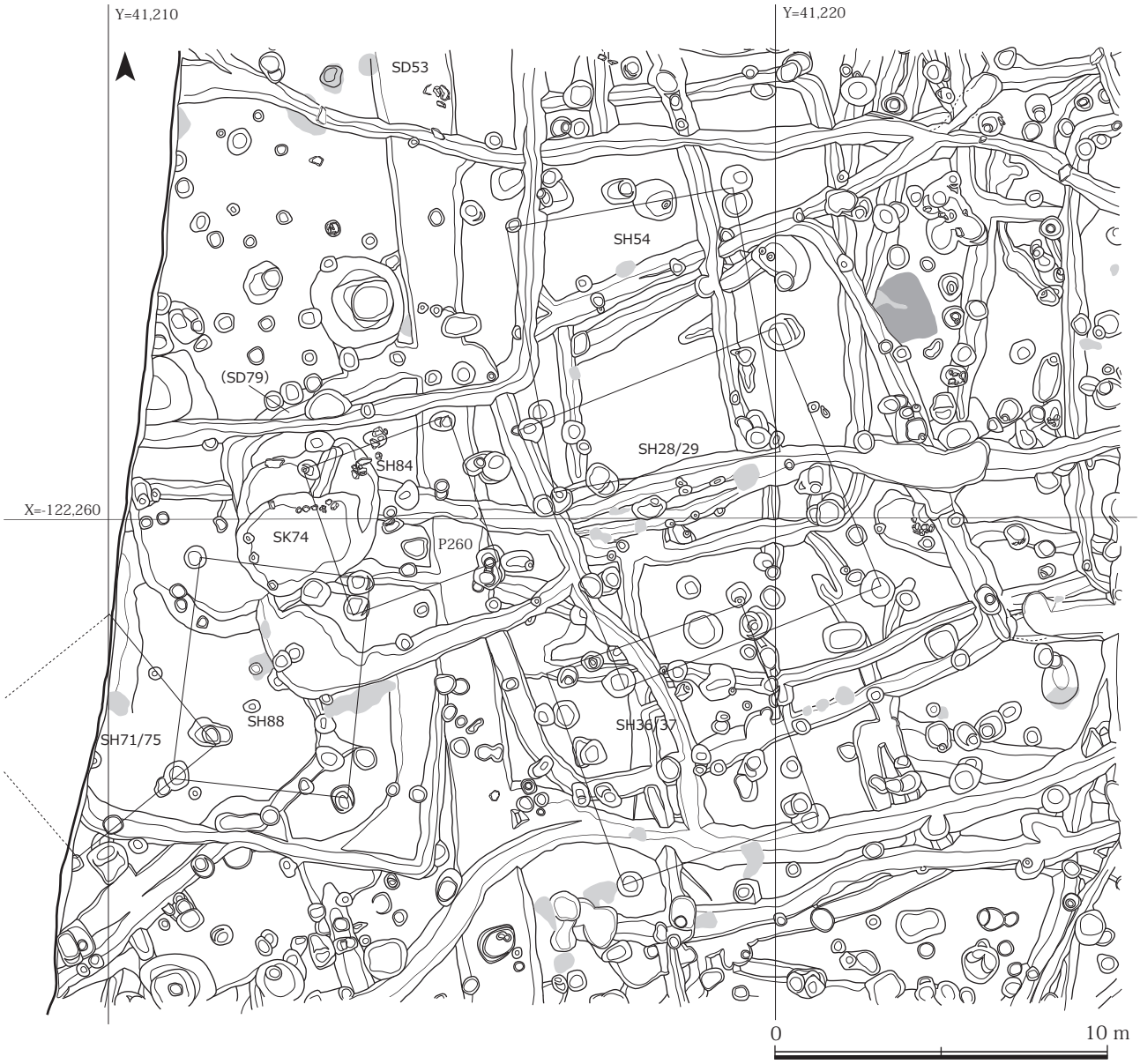


Fig.8　SK0474・SH0471/75/88・SH0484・SH0428/29・SH0454 平面図（S=1/100）

SH03134・SH0421/22/23・SH0404

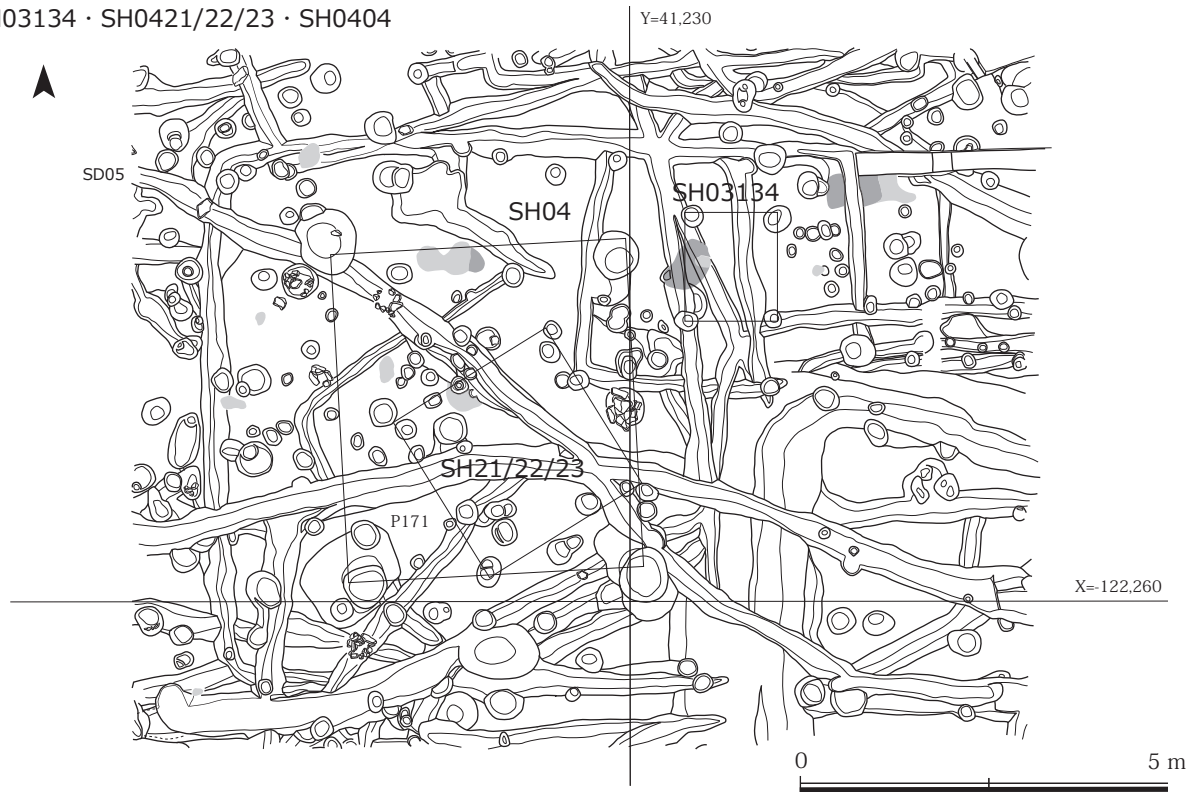


Fig.9　SH03134・SH0421/22/23・SH0404 平面図（S=1/100）

SH0455

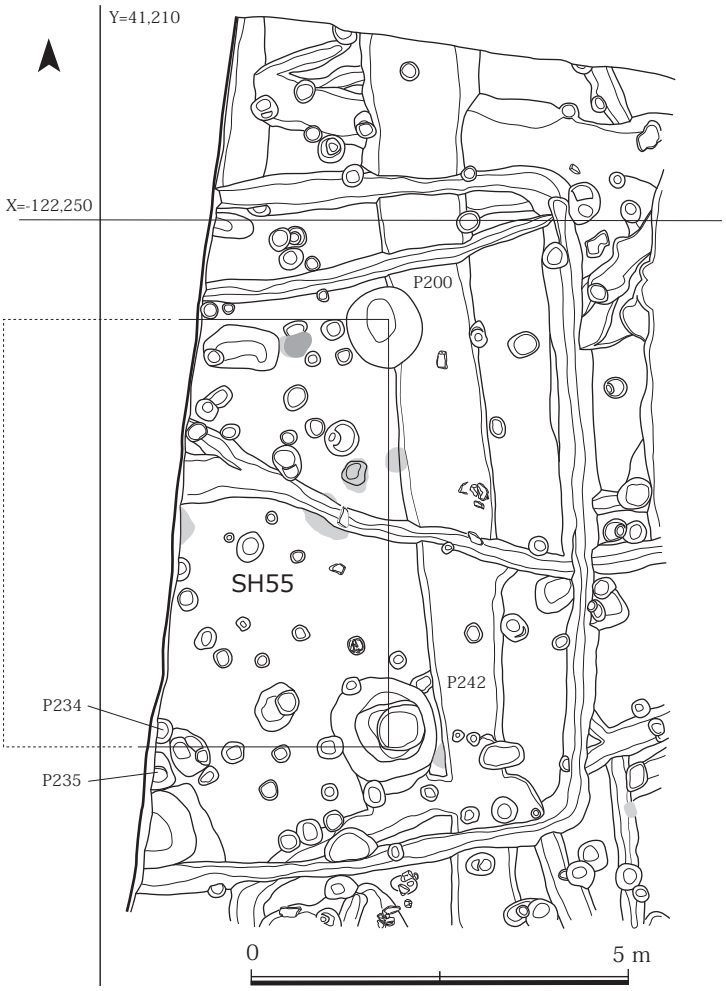


Fig.10　SH0455 平面図（S=1/100）

SH0455/51/56（Fig.10・11）

SH0455 は第 4 次調査区の北西側，BH ～ BK の 12 ～ 14 区で検出した。東西は調査区外へと続くが 6 m以上は存在し，南北も 9.2 mある。ちょうど，南辺周壁溝沿いに土坑が設けられており，ここを建物の中心軸と考えた場合，東西規模は 12 m近い規模を誇ることとなる。それを査証するかのように，主柱穴は直径 1.0 ～ 1.3 m，床面からの深さ 0.8 ～ 0.9 mと，極めて深く大きい。特に，南東の主柱穴 P04242 からは土器が一括出土しており，建物の廃絶時期を知る絶好の手掛かりとなる。

SH0455 の床面はかなり深く掘り込まれており，重複する上部の遺構 SH0451,SH0456 等の基底面が及んでいない。そのため，SH0455 の床面で検出した焼土については概ね SH0455 に付随するものと判断される。埋土もにぶい黄色を呈し，山中式期以降の埋土とは一見して異なっていた。

出土遺物には弥生土器の壷，甕，高杯等がある。特に，南東主柱穴 P04242 から出土した高杯の形状等から，八王子古宮式併行～山中Ⅰ式頃まで遡ることは間違いない。

SH0462-65（Fig.12）

SH0462-65 は第 4 次調査区の北端中央，BF・BG12 ～ 14 で検出した。北側が調査区外であるが，東側が古墳時代の SH0408，中世後半の SD0409 等によって破壊されているため，詳細な規模等は不明である。およそ東西，南北とも 6 m 程度であったと推定される。

なお，SH0462 から SH0465 は一つの遺構として掘削してしまったために，埋土の遺物を混在して取り上げてしまった。ただし，床面で検出した周壁溝から，少なくとも 4 回の建て替えが想定されたので，東から順に SH0462 から SH0465 とした。また，竪穴住居とは別の溝である SD0466 や SD0452/60 等とも重複しており，その関係は古い方から SH0463 → SH0464 → SH0465 → SD0466，SD0452/60 → SH0462 となる。

建物内部では，床面の中央付近で地床炉が 2 ヶ所認められる。柱穴は 4 本構造であり，ほぼ同じ場所で 4 回以上の建てて替えが繰り返されている。

出土遺物はそれほど目立ったものはなかったが，弥生時代後期の土器に加え，軽石や砥石等が出土している。一部，柱穴等からは須恵器の出土も認められるが，弥生時代後期頃の竪穴住居だと考えられる。

SH03111・SH03142（Fig.13）

SH03111 は第 4 次調査区の東端の BC・BD の 10・11 区で検出した。第 3 次調査区からの延長であり，主に西側の周壁溝と北西の主柱穴を確認したにとどまる。この結果から，東西に 5.8 mの規模をもつことが確認された。

周辺部において，最も下部にある遺構であり，弥生土器が出土することから，弥生時代後期の建物と判断できる。

SH03142 は SH03111 の 南，BC9 ～ 10 等で検出した。大部分は第 3 次調査区に該当するため，西側の周壁溝のみを検出し，東西規模が 6.2 m程度となることが判明した。

SH0455 南東主柱穴 P04242

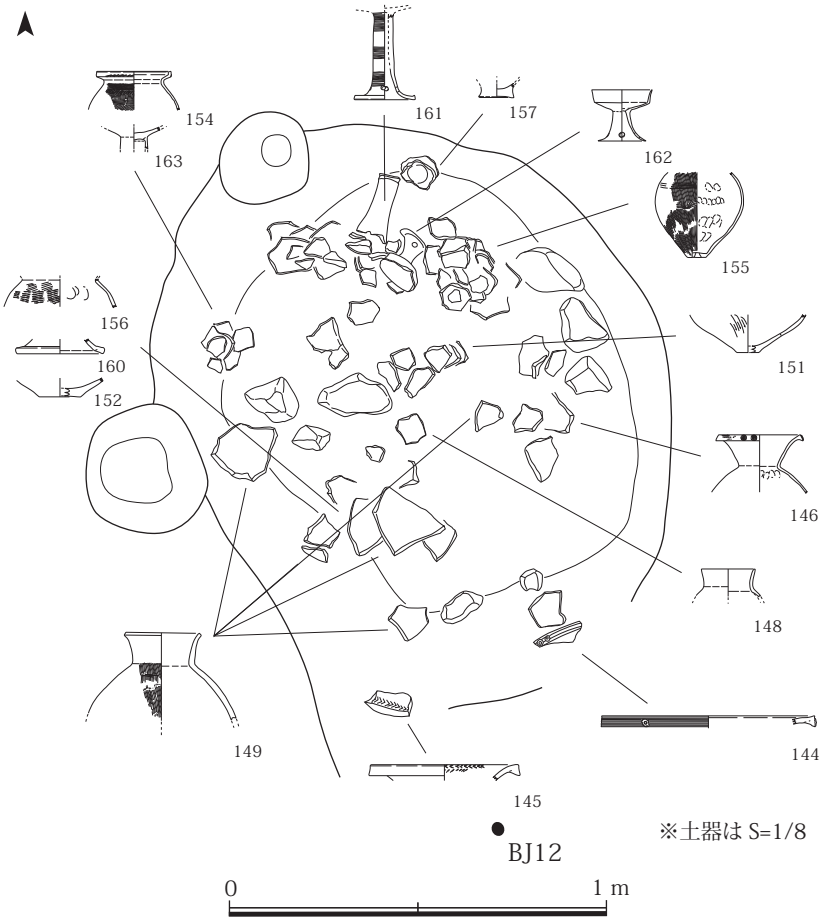


Fig.11　P04242 遺物出土状況図（S=1/20・1/8）

SH0462-65

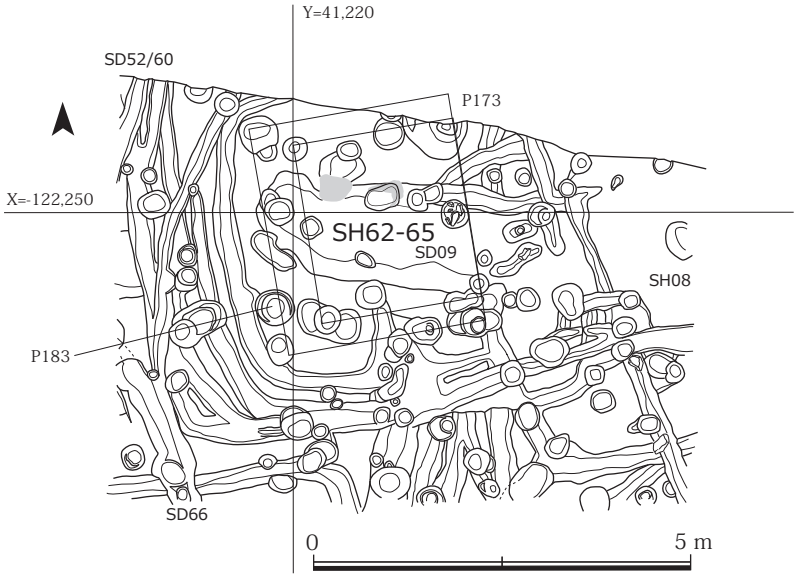


Fig.12　SH0462-65 平面図（S=1/100）

SH03111・SH03142

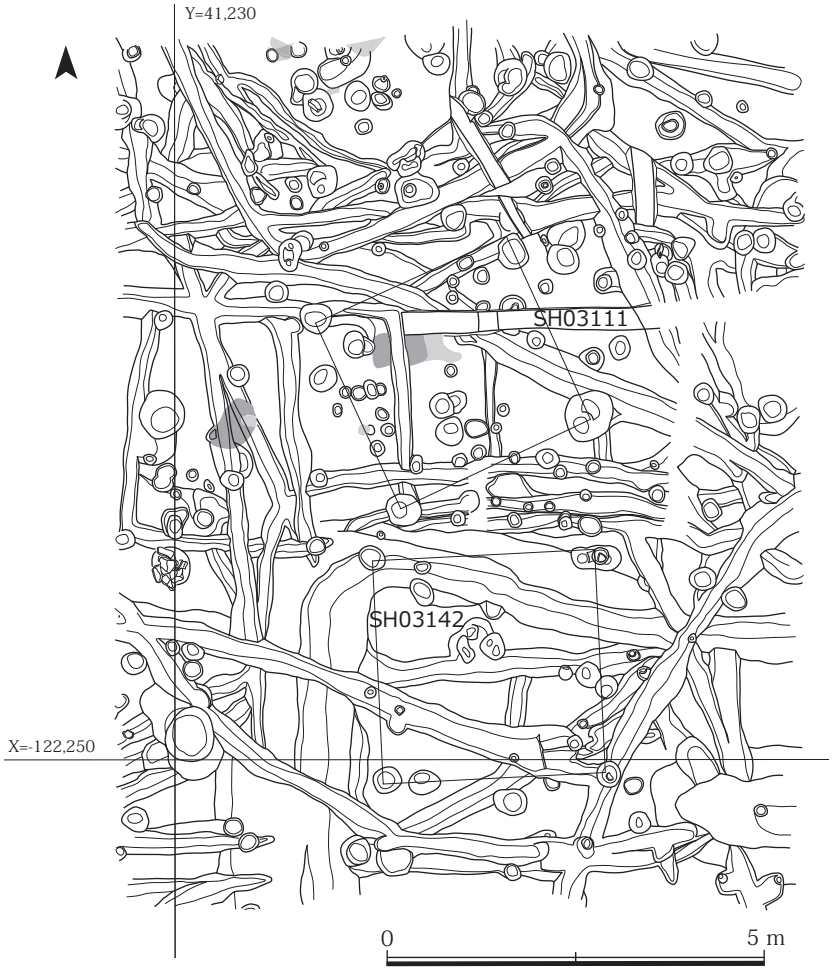


Fig.13　SH03111・SH03142 平面図（S=1/100）

住居だと考えられる。

SH0410/14（Fig.14）

SH0410/14 は調査区の中央北側，BE・BF12 ～ 13 区で検出した。上部に SH0406，SH0408 等が重複していたため，認識し得たのが床面まで掘削した段階であり，東から北側へ折れる溝を SD0410，南辺を SD0414 として調査してしまっている。東西規模は不確定であるが 5 m前後で，南北は 4.7 mある。北西隅が調査区外に当たると考えられ，北西以外の 3 ヶ所で主柱穴を確認している。

ちょうど，周壁溝の南西隅から南西方向へと溝 SD0411 が続いており，SH0428/29 の北東隅と重複している。SD0411 は比較的深く，SH0410 との接合部分の上部には黄橙色砂礫混じりシルト層で覆われており，一時期に暗渠状に利用されていたことが確認できている。

出土遺物には弥生土器があり，その特徴から山中式頃の竪穴住居だと考えられる。

SH0406=SH0572/74・SH0408（Fig.14）

SH0406 は第 4 次調査区中央の北寄り，BE11 ～ 13 等で検出した。大部分が古墳時代の SH0408 や SH03136 と重複しており，遺存状態はよくなかった。規模は，東西 6.3 m，南北 5.0 m程度だと確認できた。主柱穴は 4 ヶ所で確認しており，その中央に地床炉をもつ。おそらく，SH0408 北東主柱穴によって破壊されている焼土等が該当しよう。

なお，第 5 次調査でも，その延長を SH0572/74 として確認している。第 5 次調査では 2 棟の重複と認識できたが，第 4 次調査時には見落としている。

SH0408 は，同じく調査区中央北寄り，BE・BF の 11 ～ 13 区等で検出した。東側を明確に確認することができなかったが，5 ～ 6 m程度，南北 5.8 mを測る。床面中央には，地床炉と考えられる焼土を検出している。

SH0406 からは弥生土器を中心とした遺物が出土している。このため，SH0406=SH0572/74 は弥生時代後期後半の竪穴住居だと考えられる。一方，SH0408 は土師器，須恵器等が出土することから，5 ～ 6 世紀頃の竪穴

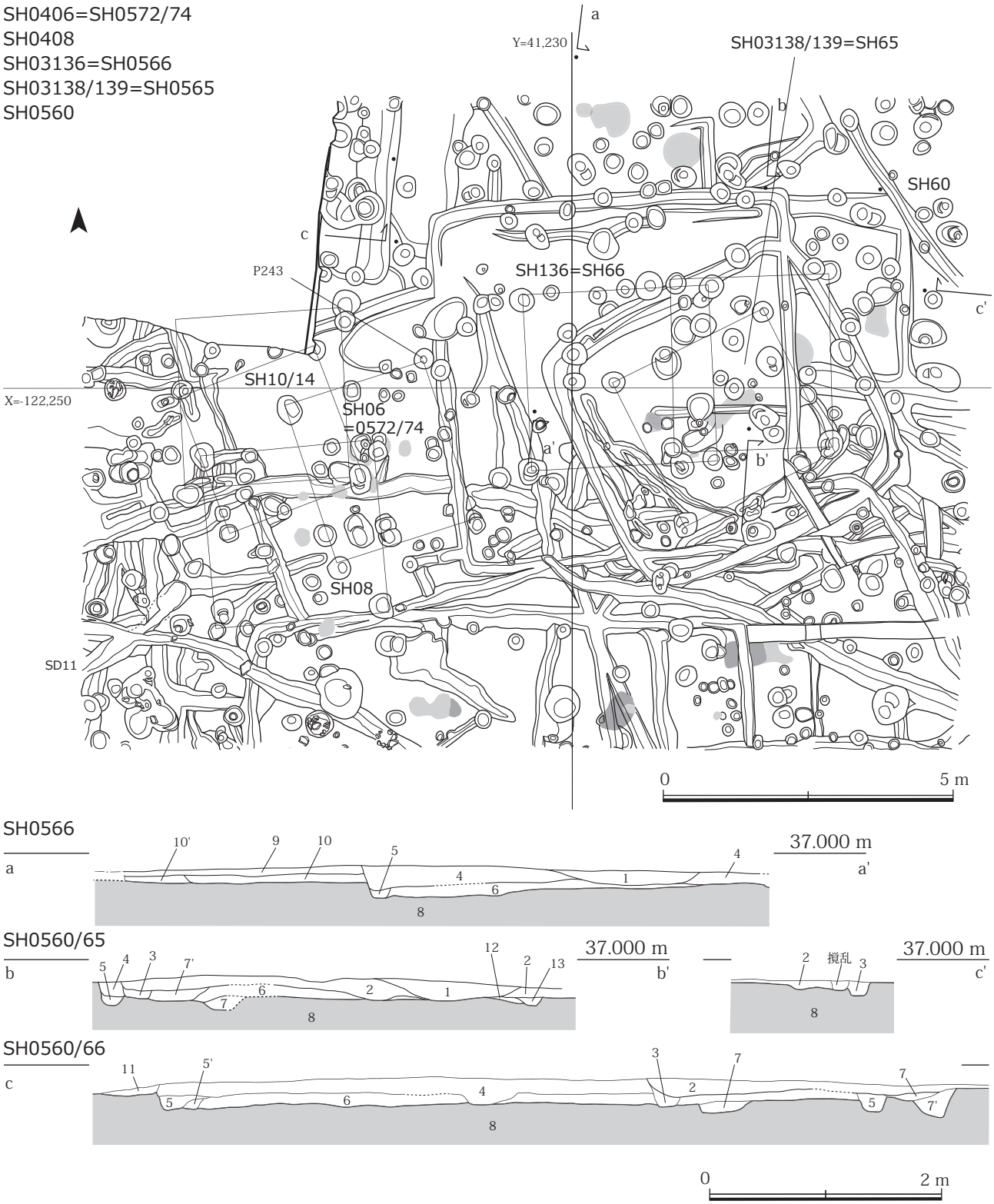
SH03136=SH0566・SH0560・SH03138/139=SH0565（Fig.14）

SH03136=SH0566 は第 4 次調査区の北東隅，BC・BD の 11・12 区等で検出した。第 3 次調査区（SH03136）や第 5 次調査区（SH0566）にまたがり，南北 5.5 m，東西 5.1 mの規模となる。SH03138/139=SH0565 と重複するが，SH03136 の方が古い。中央付近で地床炉を検出した。

SH0560 も同様に，調査区の北東隅の BB・BC の 11・12 区付近で検出した。第 3 次調査区（SH03138/139）や第 5 次調査区（SH0565）にまたがり，一辺が 5 m前後ある。SH03136=SH0566 に後出する。床面中央付近には地床炉を確認している。

これら建物の中央に SH03138/139=SH0565 がある。東西 5.2 m，南北 4.9 m程度となり，中央に地床炉をもつ。SH03136=SH0566，SH0560 と重複するが，先後関係は十分に把握できなかった。

いずれの竪穴住居からも土師器や須恵器が出土しており，5 ～ 6 世紀頃の竪穴住居だと考えられる。



1　現代溝⑦埋土　　にぶい黄褐色砂礫混砂層　10YR4/3　しまりあまりなし，粘性なし
2　SH0560 埋土　　黒褐色砂礫混シルト層　7.5YR3/2　しまり，粘性あり，炭化物，土器片，焼土塊を含む
3　SH0560 周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　7.5YR3/1　しまりあり，粘性あり，土器片あり
4　SH0566 埋土　　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/1　しまり，粘性あり，炭化物，土器片を含む
5　SH0566 周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/1　しまり，粘性あり，土器を含む
5'　5 層と同じ
6　SH0566 貼床層　4 層に黄褐色ブロックを含む不均質な層序　しまりあり，粘性ややあり，僅かに土器片を含む
6'　6 層に黄褐色ブロックがほとんど入らない層
7　SH0565 周壁溝　暗褐色砂礫混シルト層　7.5YR3/3　しまり，粘性あり，土器片を含む
7'　7 層と同じ
8　地山　　明褐色砂礫混シルト層　7.5YR4/6　しまりあり，粘性ややあり
9　SH0562 埋土　　黒褐色砂礫混シルト層　しまり，粘性あり，炭化物を含む
10　SH0561 貼床　　黒褐色と黄褐色の混在層　しまりあり，粘性ややあり
10'　10 層に黒褐色の混じりが少ない層
11　SD0575 埋土
12　焼土　　赤褐色砂礫混シルト層　5YR4/6　しまりあり，よく焼けしまる，地山（8 層）が変色
13　黒褐色砂礫混シルト層　10YR2/3　しまりあり，粘性ややあり

Fig.14　SH0406・SH0408・SH03136・SH03138/139・SH0560 平面･断面図（S=1/100・1/50）

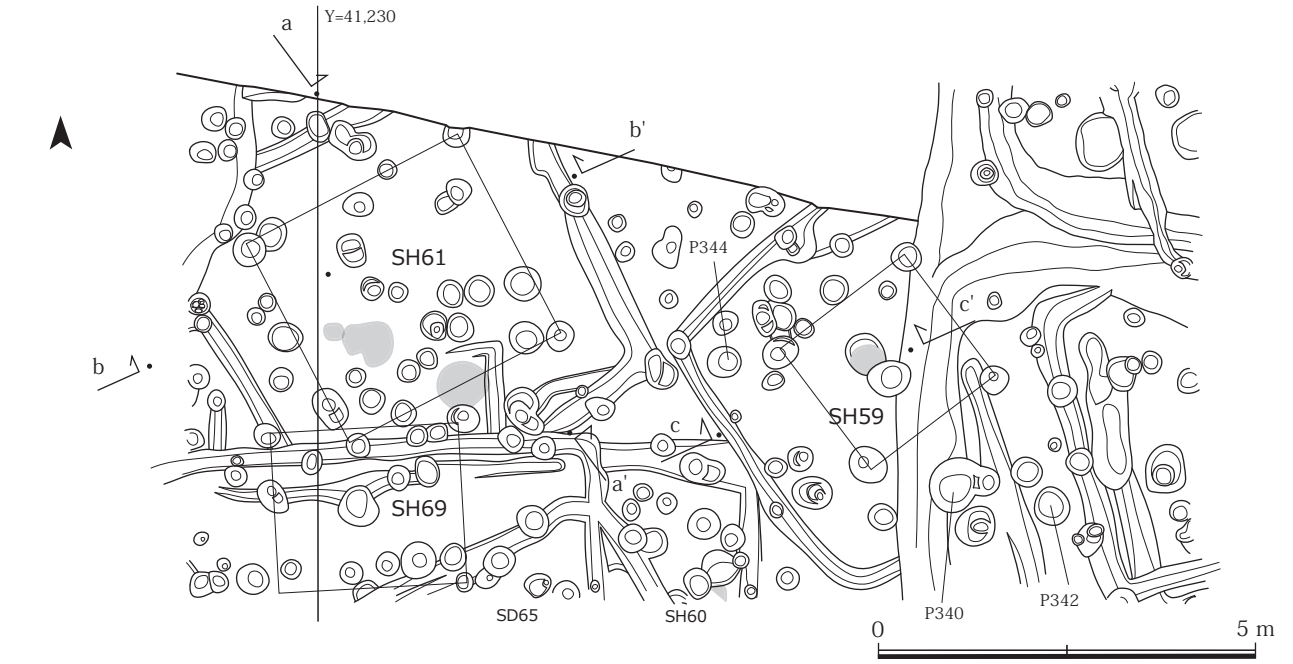
SH0561・SH0569（Fig.15）

SH0561 は第 5 次調査区の西側，BB・BC の 13 ～ 15 区で検出した。南側で SH0569 と重複するが SH0561 の方が古い。北東隅は調査区外であるが，東西，南北とも 5.3 m程度の規模となる。ほぼ床面まで削平されており，埋土はほとんどなく，表土直下の床面中央で焼土を検出した。

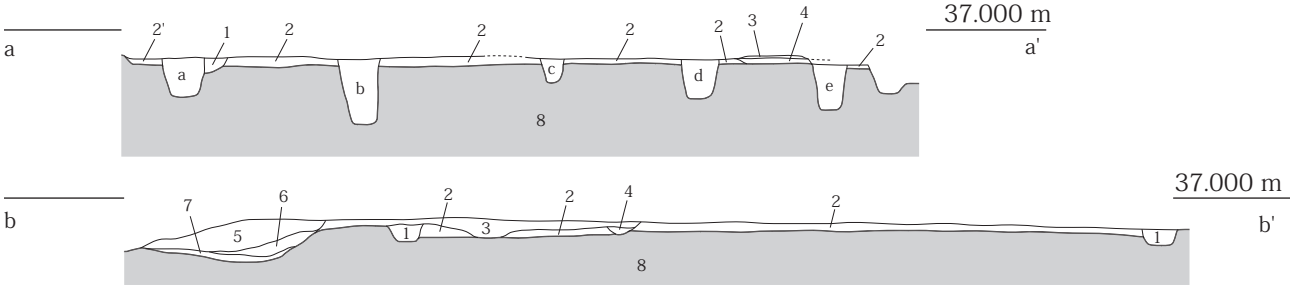
SH0569 は BC13 区付近で検出した。SH0561 よりも新しい。東西は 4.0 mあるが，南北規模は SH0566 と重複しているため不明である。SH0566 との新旧関係は明らかにすることはできなかった。

いずれも遺物の出土量が少なく時期比定は困難であるが，SH0561 は弥生土器のみが出土していることから，弥生時代の建物だと考えられる。また，SH0569 は埋土の様子から古墳時代の可能性が高い。

SH0561・SH0569・SH0559

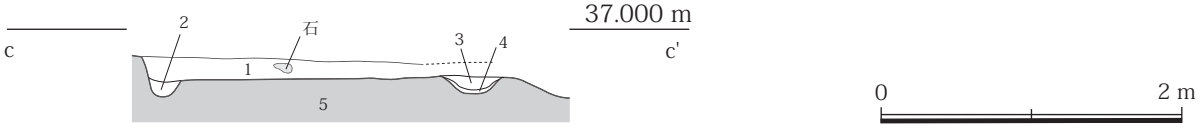


SH0561



1　SH0561 周壁溝　褐灰色砂礫混シルト層　10YR4/1　しまりあり , 粘性ややあり
2　SH0561 貼床層　赤褐色の地山に所々黒色ブロックを含む層序　しまりあり , 粘性あり
3　SH0562 埋土　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/1 に黄褐色ブロックを含むやや不均質な層序　しまりあり , 粘性あり
4　SH0562 周壁溝　黒色砂礫混シルト層　10YR2/1　しまり , 粘性強い　炭化物を少量含む
5　SD575 埋土　暗褐色砂礫混シルト層　10YR3/3　しまりややあり , 粘性やや強い
6　〃　褐灰色砂礫混シルト層　10YR4/1　しまりあり , 粘性あり , 均質
7　〃　黒褐色砂礫混シルト層　10YR2/3　しまり , 粘性ともあり
8　地山　赤褐色砂礫混シルト層　5YR4/8　しまり , 粘性ともあり

SH0559



1　SH0559 埋土　暗オリーブ褐色砂礫混シルト層　2.5Y3/3　しまりあり , 粘性あり , 土器片を含む
2　SH0559 周壁溝　褐色砂礫混シルト層　7.5YR4/3　しまり , 粘性あり , 均質
3　SH0559 地床炉　暗褐色砂礫混シルト層　7.5YR3/3　しまり , 粘性ともあり , それほど炭化物を含まない
4　SH0559 焼土　暗赤褐色砂礫混シルト層　5YR3/6　硬くしまる , 粘性あまりなし , 5 層の地山が変色したもの
5　地山　明褐色砂礫混シルト層　7.5YR4/6　しまりあり , 粘性ややあり

Fig.15　SH0561・SH0569・SH0559 平面･断面図（S=1/100・1/50）

SH0559（Fig.15・16）

SH0559 は第 5 次調査区の南側中央，BA12・13 区で検出した。埋土はにぶい黄褐色で，他の古墳時代や山中式から廻間式の遺構の埋土とは一見して異なっていた。

東側半分は現代の地区割りによって 1 段低くなっていたために失われてしまっているが，南北は 4.8 m前後ある。4 本箇所の主柱穴が確認され，中央に焼土，南辺中央に貯蔵穴と想定される土坑が確認された。

西側で遺物が比較的多く出土しており，盤状高杯や長頸壷，砥石など多様な遺物が出土した。これらの特徴から八王子古宮式併行の建物だと考えられる。

SH0551/53・SH0554（Fig.17）

SH0551/53 は第 5 次調査区の南側中央付近，AY・AZ の 10・11 区で検出した。2 棟が重複するが，西側を SH0551，東側を SH0553 とした。SH0553 が古く，SH0551 が新しい。東西，南北とも 4.2 m前後で，やや小型の建物である。火処として床面の中央で地床炉を検出した。

SH0554 は SH0551/53 の南側, AZ10 周辺で検出した。南側は現代の地割溝によって削平される。東辺は明確でなかった。床面中央にて 2 箇所の地床炉を検出した。

出土遺物が少ないため時期比定が困難であるが，弥生土器のみで占められていることから，概ね弥生時代の竪穴住居だと考えられる。

SH0547/57・SH0549・SK0550（Fig.18）

SH0547/57 は第 5 次調査区の南東端，AW ～ AY の 9・10 区で検出した。2 棟以上が重複するが，外側を SH0547，内側を SH0557 とした。SH0557 が古く，

SH0559

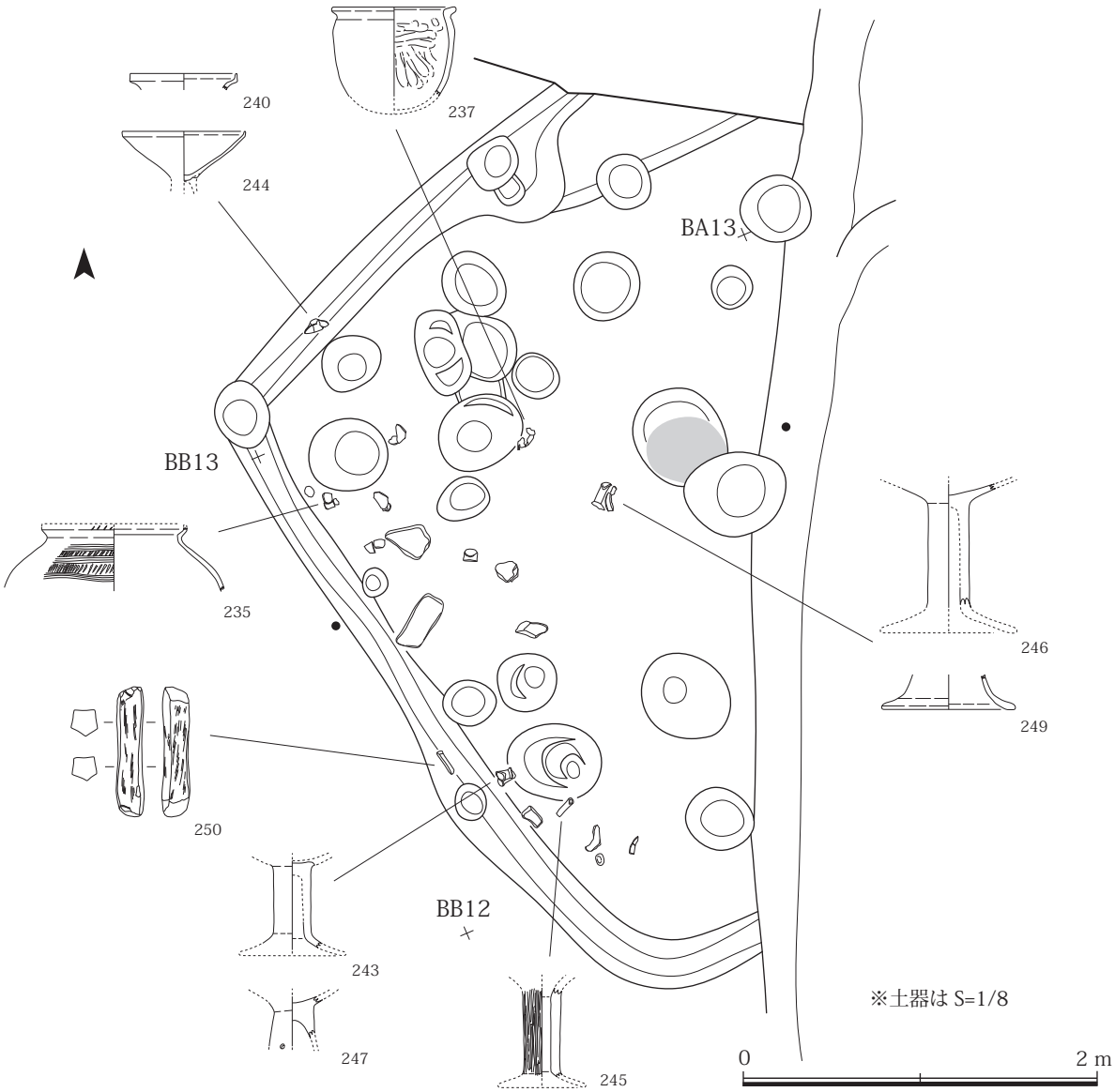


Fig.16　SH0559 遺物出土状況図（S=1/40・1/8）

SH0551/53・SH0554

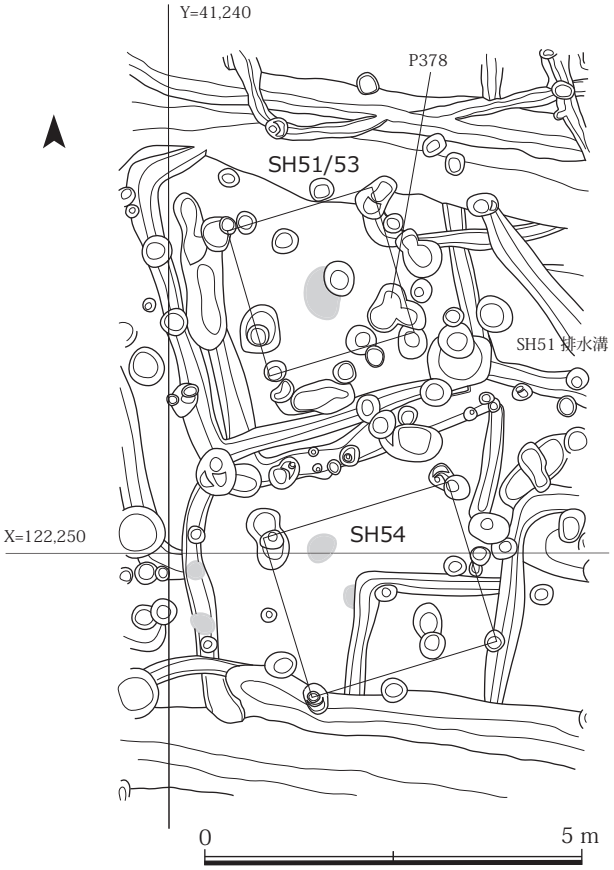


Fig.17　SH0551/53・SH0554 平面図（S=1/100）

SH0547/57・SH0549・SK0550

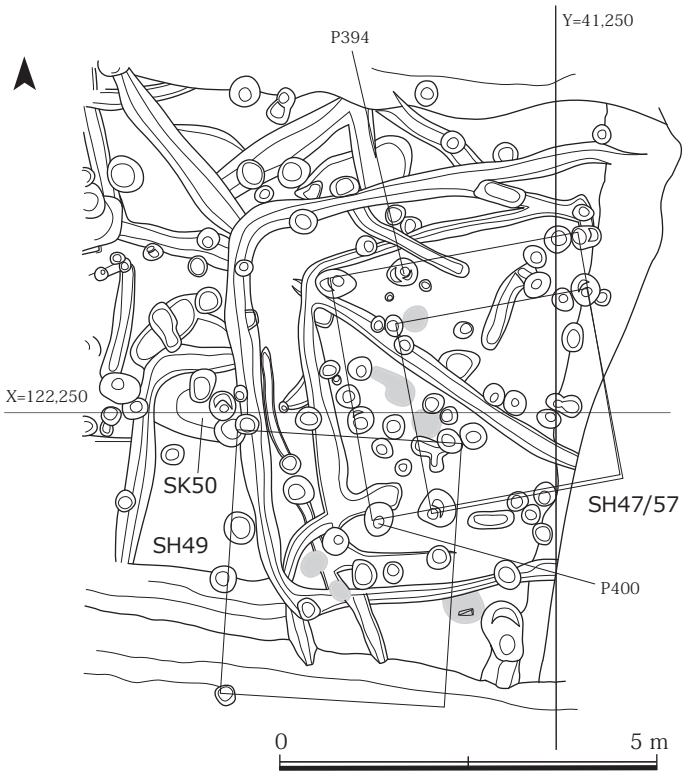


Fig.18　SH0547/57・SH0549・SK0550 平面図（S=1/100）

SH0547 が新しい。

SH0547 は東西規模が判然としないが 6 m弱で，南北が 5.6 mある。SH0557 は東西 5 m前後，南北 4.2 mの規模となる。いずれも須恵器や土師器を含み，5 ～ 6 世紀頃の建物と考えられる。なお，滑石製の石製模造品が出土している点は注目される。

SH0449 は SH0547/57 の南西，AY9・10 区で検出した。表土直下で北西隅を確認したのみであるため，規模等の詳細は不明である。出土遺物も乏しく，帰属時期ははっきりとしない。

SK0550 は SH0449 の北辺周壁溝と重なる。AY10 区で検出した単独の土坑だと理解した。1.8 m程度の不整形を呈す。土師器の高杯などが出土しており，5 世紀頃の遺構だと判断できる。

SH0545（Fig.19）

SH0545 は第 5 次調査区の中央，AW ～ AY の 12 ～ 14 区で検出した。東西 8.1 m，南北 7.5 mもの規模を誇り , 床面積は 60 ㎡もある。磐城山遺跡の中でも有数の規模である。

北西部で SH0542 や SH0544 と, 北東部で SH0537 と，南東部にて SH0535/36 等と重複するが，いずれの建物よりも古い。床面中央にて複数の焼土を検出している。

検出面からの深さが 0.3 m程度あったものの，土器の出土量は少ない。須恵器や土師器の混在もあるが，おそらく他の遺構からの混在で，弥生時代後期の建物であったと考えられる。

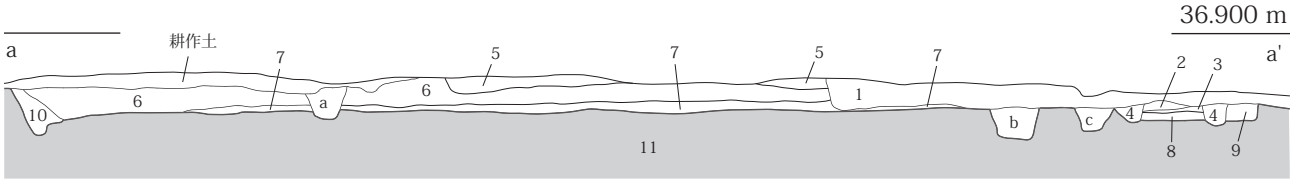
SH0535/36・SH0575（Fig.19）

SH0535/36 は第 5 次調査区の中央付近，AW・AX の 11 ～ 13 区で検出した。2 棟の遺構番号しかつけていないが，周壁溝は 5 条以上確認していることから，実際には 5 棟以上の建て替えがあったものと推定される。外側の竪穴住居を SH0535 とし，内側を SH0536 として調査した。また，床面中央には焼土が広がっており，多少の高低差があることから，いくつかの建物の床面がほぼ同じ高さにあることが確認できた。

なお，SH0535/36 の上部には SH0575 が存在する。SH0575 からは須恵器や土師器，砥石が出土していることから，古墳時代の建物であることが明らかである。この SH0575 は SH0535/36 と一括して掘削してしまったことから，取り上げ遺物は混在している。おそらく SH0535/36 は山中式から廻間式にかけての遺構であろう。

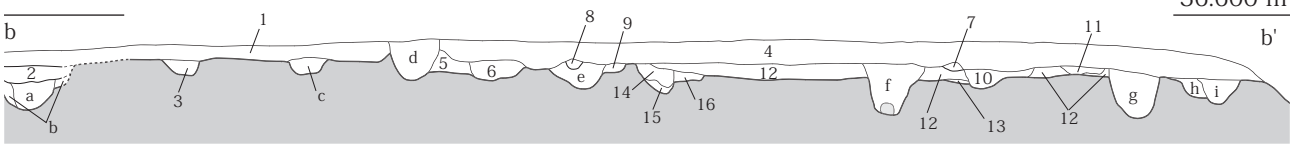
SH0545・SH0535/36

SH0545・SH0537



1 SH0537 埋土　黒褐色砂礫混シルト層　2.5Y3/1　しまりあり , 粘性ややあり , 比較的均質
2 SH0537 炉　にぶい黄褐色砂礫混シルト層　10YR5/4　しまりあり , 粘性ややあり , 比較的均質
3 〃　黒色炭化物集中層　10YR1.7/1　しまりあり , 粘性なし , 炭化物が土壌化した層 , 焼土ブロックを含む
4 〃　褐灰色砂礫混シルト層　10YR4/1　しまりあり , 粘性ややあり
5 SH0545 埋土　黒褐色砂礫混シルト層　2.5Y3/1　しまりあり , 粘性あり ,1 層に近似する
6 SH0545 埋土　灰黄褐色砂礫混シルト層 10YR4/2　しまりあり , 粘性あり , 炭化物 , 黄褐色ブロックを含む
7 SH0545 貼床　褐灰色砂礫混シルト層　10YR4/1　しまりあり , 粘性あり , 炭化物を含む
8 黄褐色（2 層）と黒褐色（3 層）の混在層　しまりあり , 粘性あり
9 SH0545 東辺周壁溝　褐灰色砂礫混シルト層　10YR4/1　しまりあり , 粘性あり , 比較的均質
10 SH0545 西辺周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/2　しまりあり , 粘性あり , 均質
11 地山　明褐色砂礫混シルト層　7.5YR5/6　しまりあり , 粘性あり

SH0533/36・SH0575・SH0537



1 SH0537 埋土　褐色砂礫混シルト層　2.5Y3/1　しまりあり , 粘性ややあり , 比較的均質
2 SH0540 周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/1　しまりあり , 粘性やや強い , 均質
3 SD 埋土　暗灰黄色砂礫混シルト層　2.5Y5/2　しまりあり , 粘性あり
4 SH0575 埋土　黒褐色砂礫混シルト層　7.5YR3/1　しまりあり , 粘性ややあり , 炭化物を含む
5 黒褐色と黄褐色の混在層　しまりあり , 粘性ややあり
6 SH0545 周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/1　しまりあり , 粘性あり
7 SH0535 焼土　暗赤褐色シルト層　2.5YR3/6　よく焼けしまる , 粘性なし
8 SH0535/36 周壁溝　黄褐色砂礫混シルト層　10YR5/6　しまり , 粘性ややあり , 均質
9 SH0535/36 周壁溝　にぶい黄褐色砂礫混シルト層　10YR5/4　しまり , 粘性あり
10 黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/2　しまりあり , 粘性あり

0　2 m

11 黒褐色砂礫混シルト層（10YR3/1）に黄褐色ブロックが混じる　しまり , 粘性あり
12 SH0536 埋土　黒褐色と黄褐色の混在した層序　しまりあり , 粘性ややあり , 一度に埋め戻したような層序
13 SH0536 焼土　極暗赤褐色シルト層　2.5YR2/4　焼けしまる , 粘性なし
14 SH0535/36 周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/2　しまり , 粘性あり
15 〃　14 層に黄褐色ブロックを多く含む層序
16 〃　にぶい黄褐色砂礫混シルト層　10YR5/4　しまり , 粘性あり
17 地山　明褐色砂礫混シルト層　7.5YR5/6　しまりあり , 粘性あり

Fig.19　SH0545・SH0535/36 平面･断面図（S=1/100・1/50）

SH0542/44（Fig.19）

SH0542/44 は第 5 次調査区の中央西，AX・AY の 14 ～ 15 区で検出した。SH0545 と重複するが，SH0542/44 の方が新しい。南東部分を確認したが，大部分が調査区外へ続いているため，詳細は不明である。

出土遺物は少なく特定しがたいが，須恵器等が出土していることから，5 ～ 6 世紀の建物と考えられる。

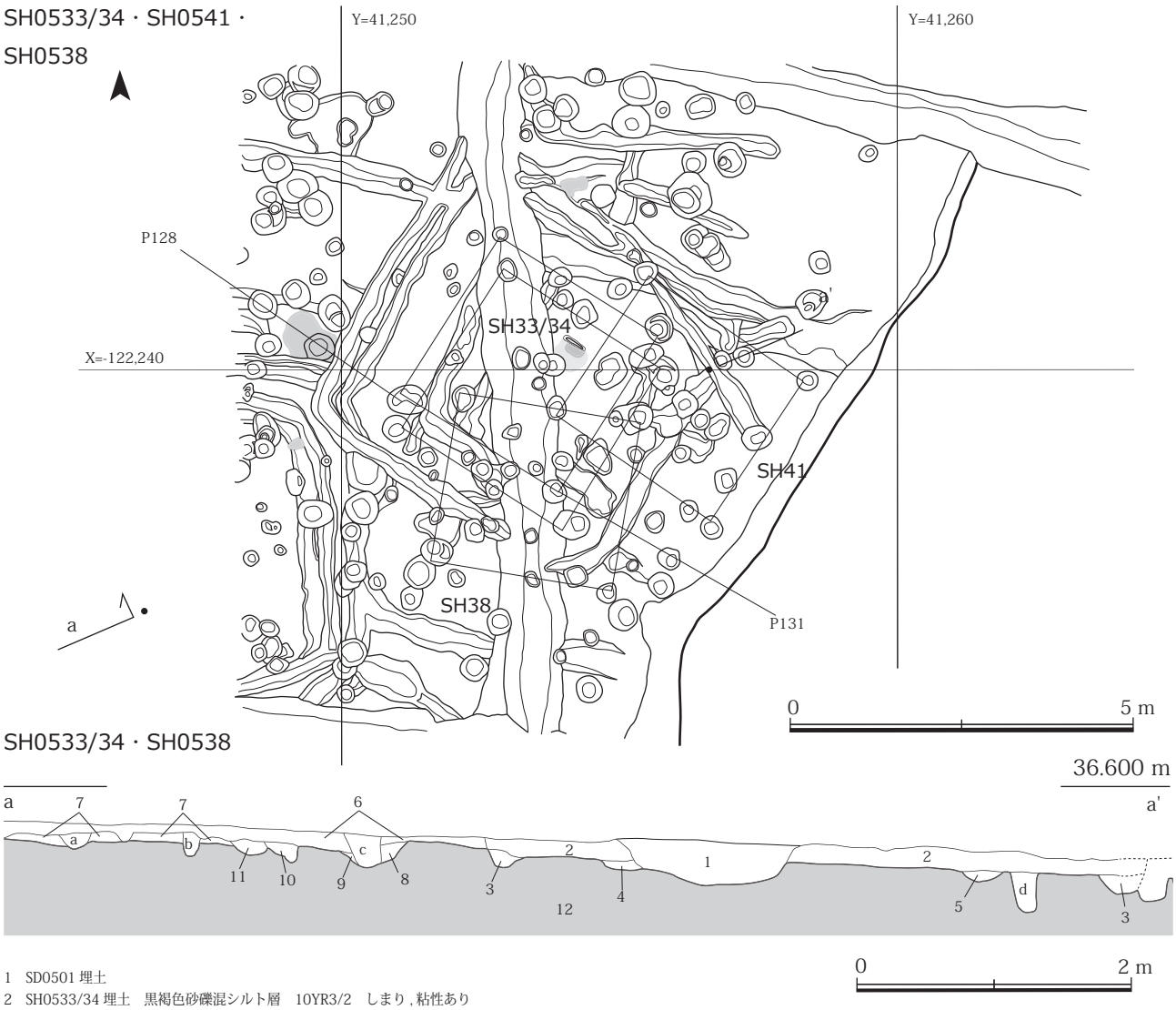
SH0533/34・SH0441・SH0538（Fig.20）

SH0533/34 は第 5 次調査区の東側，AU・AV の 11 ～ 13 区で検出した。ほぼ同一箇所に 2 棟が重複しており，西側の新しい建物を SH0533 とし，東側の古い方を SH0534 とした。東側がより削平の影響が強かったが，東西，南北とも 5.0 mの規模となる。

なお，SH0541 は SH0533/34 の床面まで下げた段階で検出しており，いずれの建物よりも先行する。他の遺構や後世の削平によって破壊が著しいため，規模や帰属時期等は不詳である。

SH0538 は SH0533/34 の南側，AV11 を中心に検出した。SH0533/34 に先行する建物で，南西側を確認したにとどまる。規模の詳細は不明である。

いずれの建物も須恵器や土師器が出土しており，6 世紀前後の遺構だと判断される。



1　SD0501 埋土
2　SH0533/34 埋土　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/2　しまり , 粘性あり
3　SH0533 周壁溝　灰黄褐色砂礫混シルト層　しまり , 粘性あり , 均質
4　SH0541 周壁溝　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/1　しまり , 粘性あり
5　pit か　褐灰色砂礫混シルト層　10YR4/1　しまり , 粘性あり
6　SH0575 埋土　黒褐色砂礫混シルト層　7.5YR3/1　しまりあり , 粘性ややあり , 炭化物を含む
7　SH0536 埋土　黒褐色と黄褐色の混在した層序　しまりあり , 粘性ややあり , 一度に埋め戻したような層序
8　SH0535 北側周壁溝　にぶい黄褐色砂礫混シルト層　10YR4/3　しまり , 粘性あり , 炭化物を含む
9　SH0535/36 周壁溝　にぶい黄褐色砂礫混シルト層　10YR5/4　しまり , 粘性あり
10　〃　にぶい黄褐色砂礫混シルト層　10YR5/4　しまり , 粘性あり
11　〃　黒褐色砂礫混シルト層　10YR3/2　しまり , 粘性あり
12　地山　明褐色砂礫混シルト層　7.5YR5/6　しまりあり , 粘性あり

Fig.20　SH0533/34・SH0441・SH0538 平面･断面図（S=1/100・1/50）

SH0517/27・SH0516/30（Fig.21）

SH0517/27 は第 5 次調査区の北側，AW・AX の 16・17 区で検出した。2 棟が重複しており，北側を SH0517，南側を SH0527 とした。さらに南側で SH0516/30 と重複しており，これらに先行する竪穴住居である。西側は調査区外であるが，SH0527 の南北は 5.0 mある。SH0517 の南北は不明である。SH0527 の北東隅には溝 SD0518 が連結しており，SH0517 も溝 SD0521 が該当する可能性がある。また，両竪穴住居とも南辺の中央付近に貯蔵穴らしい土坑を伴う。弥生時代後期頃の建物であろう。

SH0516/30 は SH0517/27 の南側，AX16 区を中心として確認した。SH0517/27 に後出する建物である。2 棟がほぼ同位置で建て替えられており，北側を SH0530，南側を SH0516 とした。SH0517/27 と同様，北東隅から排水溝が連結しており，SH0516 が SD0526，SH0530 が SD0525 ないし SD0524 が該当する。排水溝が 1 条多いため，もう 1 棟の建物が重複している可能性があるが認識できなかった。SH0516/30 とも西側半分程度は調査区外であるが，南北規模は 5 m前後となる。土師器，須恵器等の出土から 6 世紀代の建物になろう。

SH0508-14（Fig.22）

SH0508-14 は第 5 次調査区の北側，AU・AV の 14 ～ 16 区を中心に検出した一群である。少なくとも 7 棟はあることを確認したが，著しく重複しているため，それが正しいのかどうかも疑わしい。

SH0508 から SH0510 までは，この中でも南西側で検出した。いずれも表土直下が床面であり，遺存状態は悪かった。周壁溝の重複具合から，SH0508 → SH0509 → SH0510 と新しくなることを確認している。規模等は不明なものが多いが，SH0508 の南北は 6.1 m，SH0510 の南北が 5.4 mを測る。

北東側で検出した SH0511 から SH0514 は，特に南辺の周壁溝がほぼ同じ位置にあることら，建て替えの可能性が極めて高い。おそらく 4 回以上の建て替えが行われたのであろう。規模等は不詳だが，6 m前後となろう。

出土遺物はそれほど多くなく，土師器や須恵器などの 5 ～ 6 世紀を中心である。一部，弥生時代の遺物が若干混在するが，いずれも 5 ～ 6 世紀代の竪穴住居だと考えられる。

SH0537/40（Fig.22）

SH0537/40 は第 5 次調査区の中央付近，AU ～ AW の 13・14 区で検出した。少なくとも 2 棟が重複しているが，同時に掘削してしまった。SH0537 は明確な周壁溝を持たないが，竪穴住居と考えた。いずれも規模等の詳細は不明である。

古墳時代の須恵器や土師器が中心的に出土しており，6 世紀前後の建物だと判断される。

SH0517/27・SH0516/30

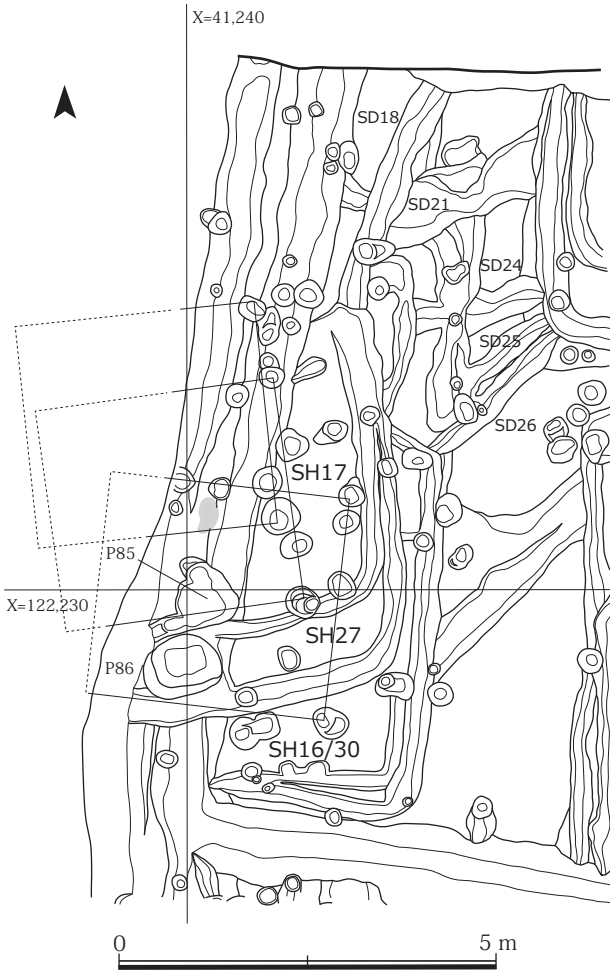


Fig.21　SH0517/27・SH0516/30 平面図（S=1/100）

SH0507/15（Fig.23）

SH0507/15 は第 5 次調査区の北端，AT ～ AV の 17・18 区で検出した。南側半分程度しか検出できなかったが，北側は急斜度の崖帯になっており，既に土砂が流出してしまっていた。

2 棟がほぼ同位置で重複しており，外側を SH0515，内側を SH0507 とした。SH0507 が古く，SH0515 が新しい。なお，SH0516/30 等の排水溝と想定した SD0524 ～ SD0526 はいずれも SH0507/15 より新しいことを確認している。

SH0515 の東西は 6.0 m，SH0507 は 5.2 mを測る。焼土を床面中央の 2 箇所と，東寄りの 1 箇所を確認して

SH0508-14・SH0537/40

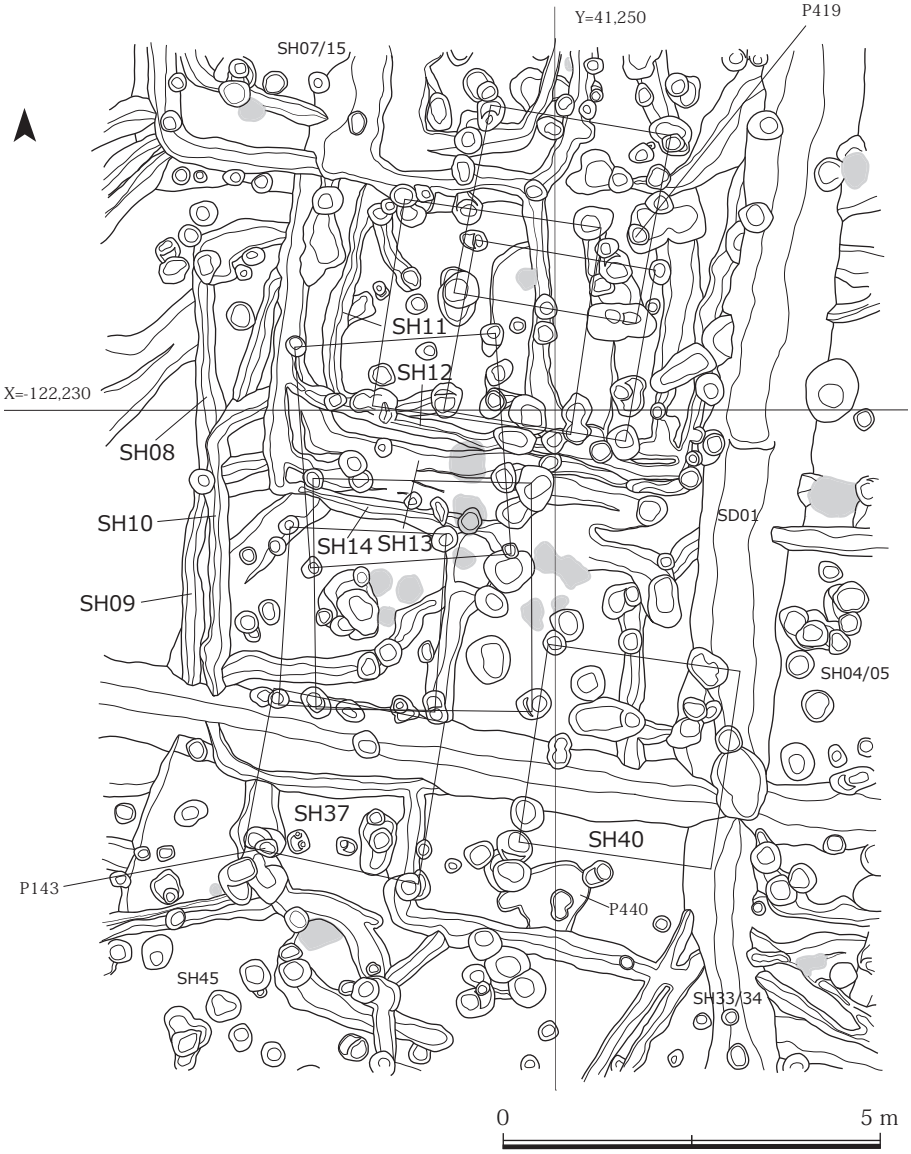


Fig.22　SH0508-14・SH0537/40 平面図（S=1/100）

SH0507/15

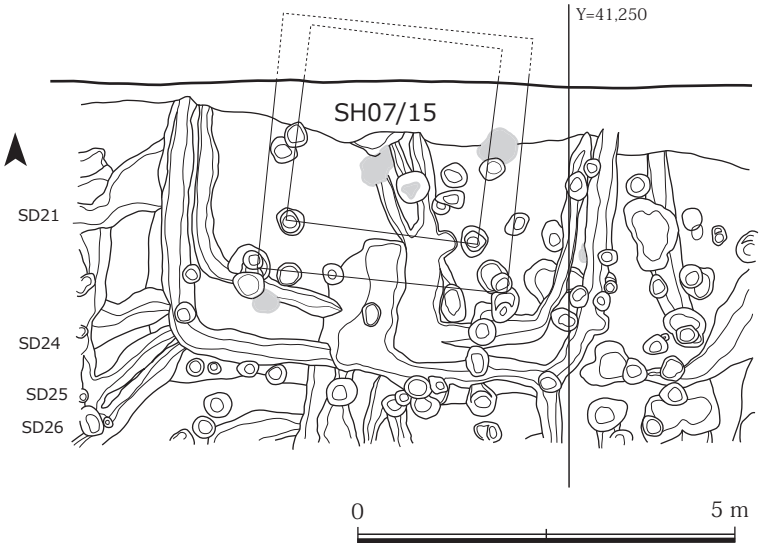


Fig.23　SH0507/15 平面図（S=1/100）

いる。土師器と須恵器が出土しており，6 世紀代の建物だと考えられる。

SH0504/05（Fig.24）

SH0504/05 は第 5 次調査区の北東側，AS ～ AU の 13・14 区で検出した。2 棟が重複しており，北側を SH0405，南側を SH0504 とした。SH0505 が古く，SH0504 の方が新しい。

SH0504 の東西はやや不正確だが 7.0 m前後，南北は 5.4 m あり，平面形が長方形となる。SH0505 は明確な規模は不明である。なお，いずれの建物も北辺周壁溝の中央付近で焼土を検出しており，位置関係からカマドであった可能性がある。

SH0504/05 とも，土師器と須恵器が出土しており，6 世紀代の建物だと判断される。

SH0502（Fig.25）

SH0502 は第 5 次調査区の北東端，AR・AS の 15・16 区で検出した。全体に浅く落ち込み，明確な周壁溝は検出できなかったが，竪穴住居として考えた。

南壁中央付近で焼土を確認しているが，これがカマドに該当するか否か判断できなかった。出土遺物から，6 世紀頃の建物と判断できる。

SH0562

SH0562 は第 5 次調査区の西側，BC13 区を中心に検出した。北辺のみに数 cm の埋土が残っていたが，ほぼ床面直上まで削平されていた。竪穴住居として調査したが，建物にならない可能性もある。

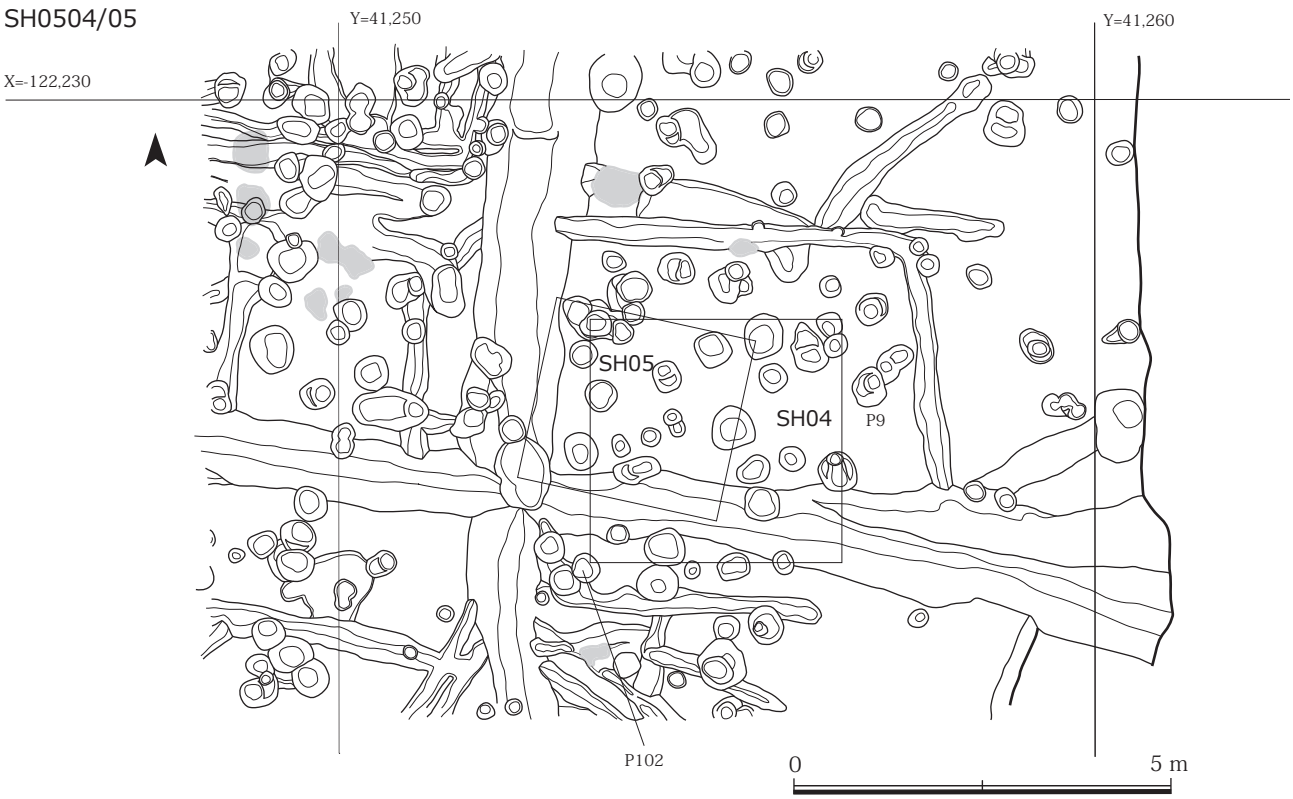


Fig.24　SH0504/05 平面図（S=1/100）

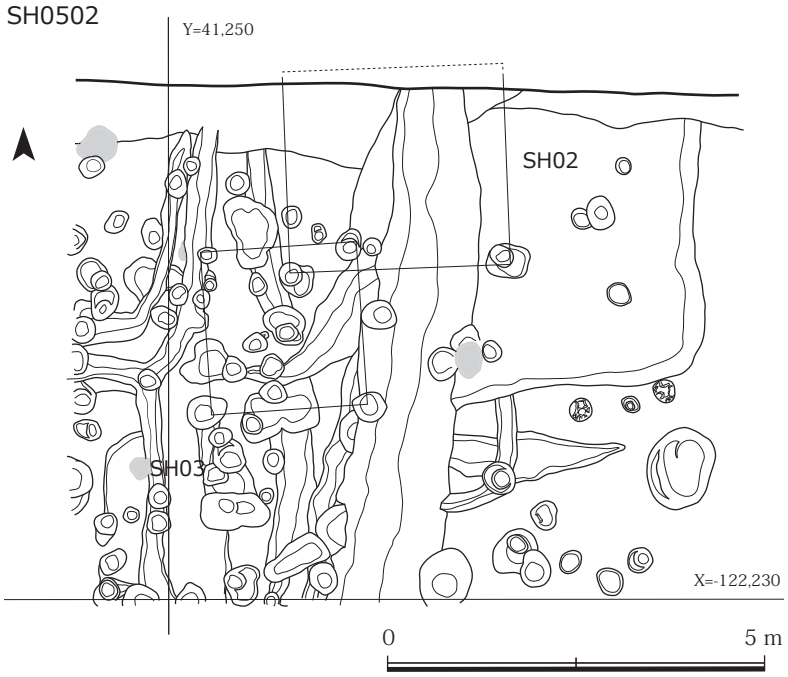


Fig.25　SH0502 平面図（S=1/100）

2　掘立柱建物

SB03102

第 4 次調査区の南端の BG08 区付近で，第 3 次調査で検出していた延長の柱穴 1 基を確認した。この結果，桁行 5 間となることが判明した。桁行の柱間は 1.55 m等間となる。梁行については掘り方が浅かったためか明確にすることはできなかったが，柱穴の芯部分に相当すると考えられる小ピットがあるので，それを該当させた場合に 2 間になると推定される。

出土遺物は限られ，建物の帰属時期を明確にし得ないが，7 世紀以降の建物だと推測される。

SD0453

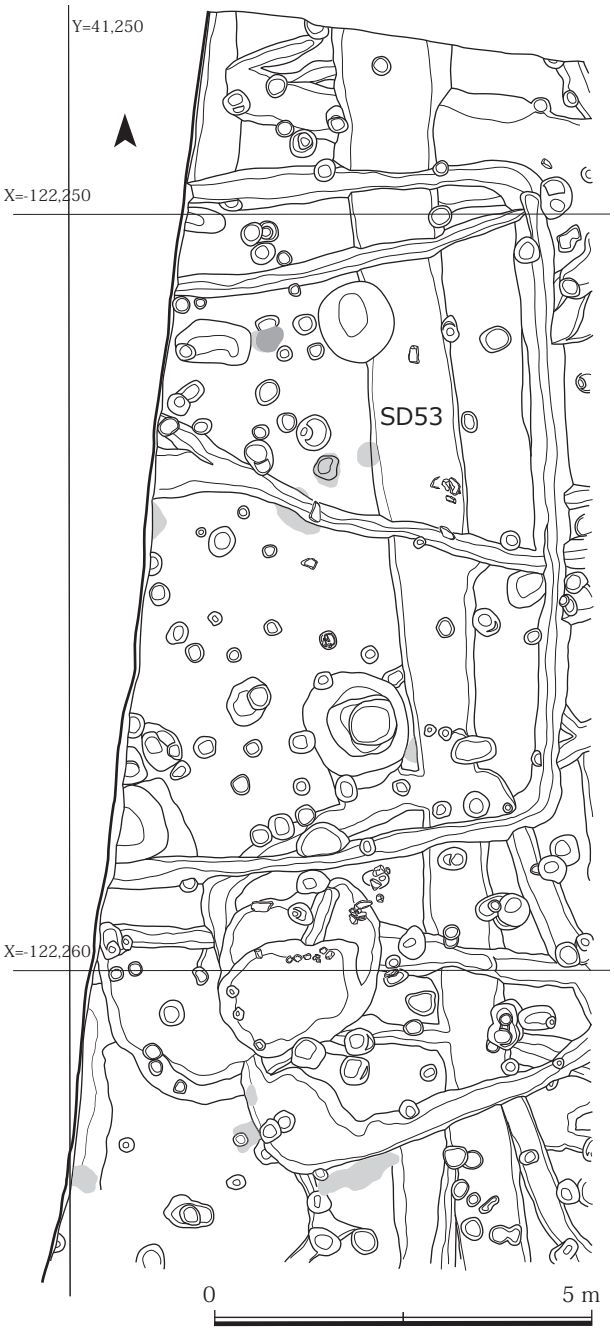


Fig.26　SD0453 平面図（S=1/100）

3　溝

SD0453（Fig.26）

第 4 次調査区の西側の BJ10 から BH15 区に向けて，南北方向に直線的にのびる溝である。第 3 次調査や第 1 次調査でも，この溝の延長を確認している。

溝の幅は 1.3 mで，深さが 0.4 m以上となる。深く，断面が逆台形で，30 m以上にわたって直線的にのびるなど，他に検出された溝とは明らかに異なっている。この SD0453 以西では古代の掘立柱建物が増えるなど，古代の遺構の増加傾向が明らかとなっており，区画等の明確な役割を果たしていた可能性が高い。なお，第 1 次調査区では，この SD0453 は西へ直角に折れ曲がって続いていく。

出土遺物には弥生土器や土師器，須恵器等が出土している。おそらく弥生土器や古式土師器は混入だと考えられ，他の土師器甕や須恵器杯等の 7 世紀以降の年代が考えられる。

SD0425/27（Fig.27）

第 4 次調査区の南東端を東西方向へのびる溝である。SD0446 以東を SD0425 とし，以西を SD0427 として調査したが，同一の溝である。なおかつ，第 3 次調査の SD0327 としたものとも一続きの溝である。SH0307/12 の北東隅と連結することから，竪穴住居の排水溝として掘削された可能性が高い。埋土は褐色を基調とする。

出土遺物には弥生土器の高杯や甕等があり，部分的にまとまって出土する地点などもあった。出土遺物の特徴からは廻間式頃の溝だと考えられる。

SD0442/32（Fig.27）

第 4 次調査区の南東端を南北方向へのびる溝である。SD0441/44 以南を SD0442 とし，以北を SD0432 として調査したが，同一の溝である。なお，第 3 次調査の SD0345 としたものとも一続きの溝であり，さらに第 1 次調査区へと続いている。

出土遺物には弥生土器の高杯や甕等があり，その特徴から山中式頃の溝だと考えられる。

SD0443（Fig.27）

第 4 次調査区の南東端を南北方向へのびる溝である。BE09 区にて SD0441/44 に連結する。第 3 次調査の SD0329 としたものと一続きの溝であり，さらに第 1 次調査区へと続いている。

他の遺構との重複関係から，山中式から廻間式にかけての溝だと推測される。

SD0430/49/82/77（Fig.27）

第 4 次調査区の中央東端から東西方向へのびる溝である。第 3 次調査区の SD03124 からの続きで，SH0528/29 以東を SD0530，SH0528/29 の下部を SD0549，SH0428/29 より西を SD0482，SD0477 として掘削した。SH0471/75 の北東隅に接続するようで，排水溝であった可能性が高い。

弥生土器の壷や高杯等が出土しており，山中式頃の溝である。なお，筋砥石が含まれており注目される。

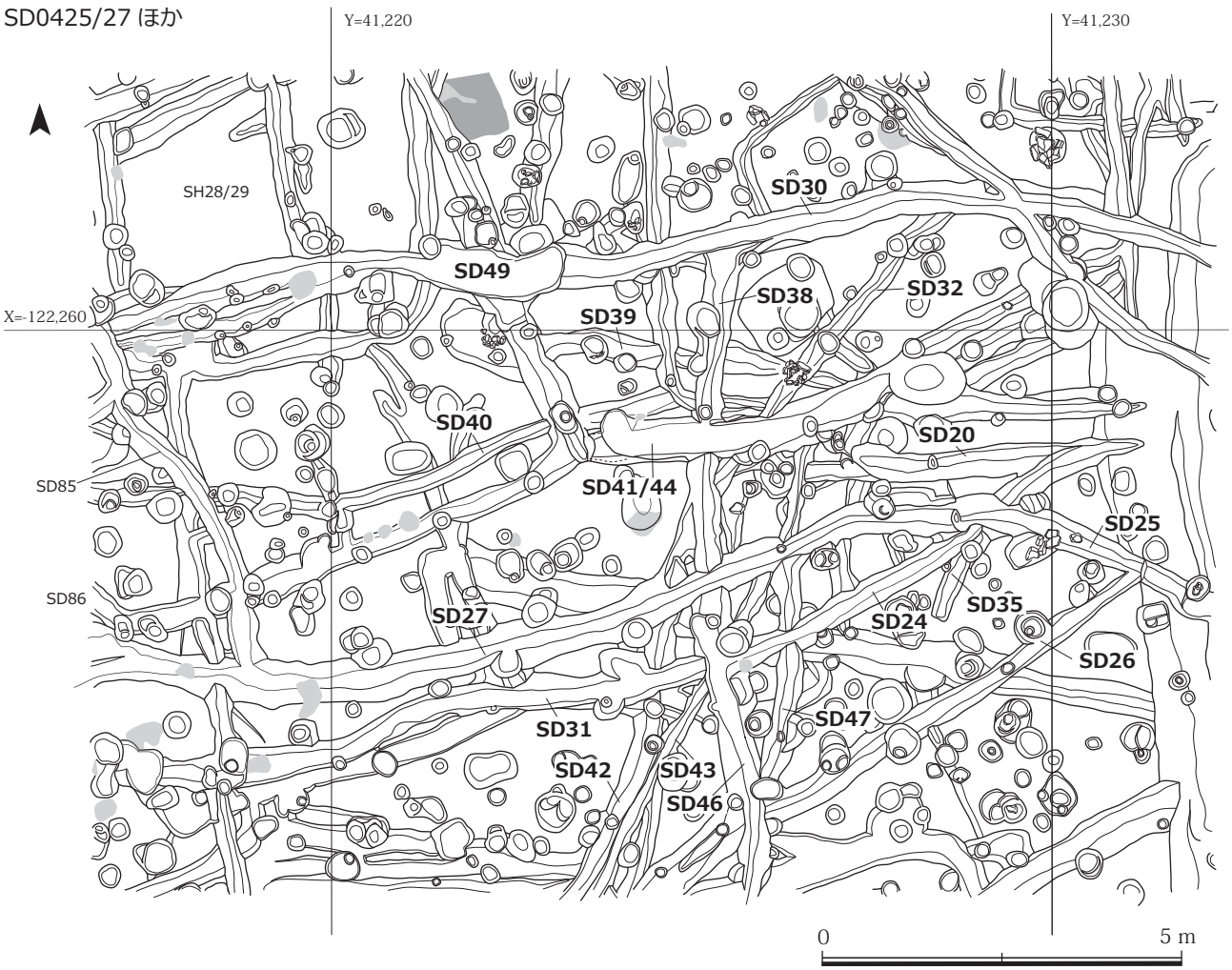


Fig.27　SD0425/27・SD0442/32 平面図（S=1/100）

SD0446/38（Fig.27）

第 4 次調査区の南東端を南北方向へのびる溝である。BF10 区にて SD0441/44 に連結する。第 3 次調査の SD0357 としたものと一続きの溝であり，さらに第 1 次調査区へと続いている。高杯や甕等が出土しており，廻間式頃の溝だと推測される。

SD0441/44（Fig.27）

第 4 次調査区の中央付近から東側で検出した東西方向の溝である。ちょうど，SH0428/29 の南東隅から派生する排水溝である。接続部分の上部には，地山由来の黄橙色砂礫混シルト層が貼られており，溝自体が暗渠状になっていたことが確認された。

出土遺物には高杯や台付甕等があり，SH0428/29 との関係も併せて考えると，廻間式頃の溝であると推定される。

SD0447（Fig.27）

SD0447 は第 4 次調査区の南端を南北方向へのびる溝である。ちょうど BG09 区辺りで SD0427 と接続する。南側は第 3 次調査区の SD0346 とした溝の続きである。

周辺の遺構との重複関係等から , 弥生時代後期頃の溝だと推測される。

SD0440/86（Fig.27）

SD0440/86 は第 4 次調査区の中央付近で東西方向にのびる溝である。東側は SH0404 の南西で重複して不鮮明となる。SD0485 以東を SD0440 とし，SD0485 以西を SD0486 として調査した。

SH0428/29 の下部で検出していること等から , 廻間式以前の弥生時代後期頃の溝だと推定される。

SD0424/31（Fig.27）

SD0424/31 は第 4 次調査区の南東端を東西方向へのびる溝である。SD0446 以東を SD0424 とし，以西を SD0431 として調査したが，同一の溝である。なお，第 3 次調査の SD0336/38，SD03129 としたものとも一続きの溝である。明確ではないが，竪穴住居の排水溝とし

て掘削された可能性が高い。

目立った出土遺物はないが，周辺の遺構の重複関係から弥生時代後期頃の溝だと推測される。

SD0405/61/68（Fig.28）

SD0405/61/68 は第 4 次調査区の中央を東西に貫く溝である。概ね SH0408 以東を SD0405 とし，SH0454 下部を SD0461，SH0455 下部を SD0468 として調査したが，一続きの溝である。総延長は 25 mほど確認している。東は第 3 次調査区の SH03127 辺りで不明となっている。西側はさらに調査区外へと続く。

溝の幅は 0.4 mで，深さは深い所だと 0.4 m以上ある。SH0404 や SH0455 との前後関係を明確に認識することはできなかったが，いずれも床面まで下げた地山上面の段階で認識した。なお，廻間式期の SH0454 等の他の多くの遺構よりも古くなることは確認できている。

埋土はにぶい黄色を基調とし，出土した高杯の脚部が筒形を呈すること等から，SH0404 や SH0455 とほぼ同時期の八王子古宮式併行期まで遡る可能性が高い。

SD0411（Fig.28）

SD0411 は第 4 次調査区の中央付近，BG11 区で検出した。廻間式期の建物である SH0528/29 の北東隅辺りから，SH0414 の南東隅へ接続する。SD0405 とは別の溝であるが，一部，調査段階で誤認して遺物を取り上げてしまった。

深さや形状等は SD0405 と似ているが，SH0428/29 の排水溝である可能性も否定できない。台付甕が出土しているが，詳細な帰属時期は不明である。

SD0460（Fig.28）

SD0460 は第 4 次調査区の北西で南北方向にのびる溝である。SH0454 よりも新しい溝であることを確認している。詳細は明らかでないが，SD0479 等の延長かもしれない。明確な遺物は少なく，時期不明である。

SD0466（Fig.28）

SD0466 は第 4 次調査区の中央を南北方向へのびる溝である。ちょうど，SH0454 の南辺中央付近から北へのび，東へ曲がりながら調査区外へと続いていく。

弥生土器片しか出土していないことから，概ね弥生時代後期頃の溝だと判断できる。

SD0467（Fig.28）

SD0467 は第 4 次調査区の北西側で検出した溝である。調査区の西側から東へのび，BG14 区内で北側へ屈曲していく。SD0453 以前で，かつ SH0455 よりも新しい溝である。

SD0479（Fig.28）

SD0479 は第 4 次調査区の中央南端から北へのびる溝である。いずれも第 3 次調査区からの延長となる。BI10 区辺りで SD0485 と重複するが，新旧関係を明らかにすることができなかった。明確な遺物は少なく，時期不明である。

SD0478/85（Fig.28）

SD0485 は第 4 次調査区の中央南端から，北西方向へのびる溝である。SK0474 に削平されており，それ以前の溝であることが分かる。

SD0409（Fig.28）

SD0409 は第 4 次調査区の北側を東西方向に 26 m程確認した。幅 1.2 m，深さ 0.15 mと幅広で浅い溝であるが，埋土は他の遺構ほどしまりがない。ちょうど SH0462 ～ SH0465 の西壁周壁溝の上部に拳大から人頭大の礫が集中して検出された。

出土遺物は多くの弥生土器や土師器，須恵器，灰釉陶器，山茶椀等が混在していたものの，土師器の皿，常滑焼等の中世後半の遺物が出土している。このことから，中世後半の溝だと考えられる。

SD0396/03121（Fig.6）

SD0396/03121 は第 4 次調査区の南東隅から北上し，東へ延長する溝である。0.2 m程度の深さがあり，2 段に落ち込んでいる。第 3 次調査の延長であるが，南北方向の SD03121 と東西方向の SD0396 が交差して同一の遺構となることが確認された。埋土の色調も，他の弥生時代から古墳時代ものと異なり，しまりがない。

出土遺物には弥生土器や土師器等があるが，多くは混在だと考えられ，土師器皿や陶器等の出土から中世後半から近代の溝だと考えられる。

SD0501（Fig.29）

SD0501 は第 5 次調査区の東側を南北方向へのびる溝である。約 22 mを検出したが，北側はさらに調査区外へと続いていく。現代の地割溝には先行するが，他の竪穴住居等の遺構の全てに後出する。埋土もしまりがやや甘く，褐色を呈す。

出土遺物には弥生土器や土師器，須恵器等があるが，

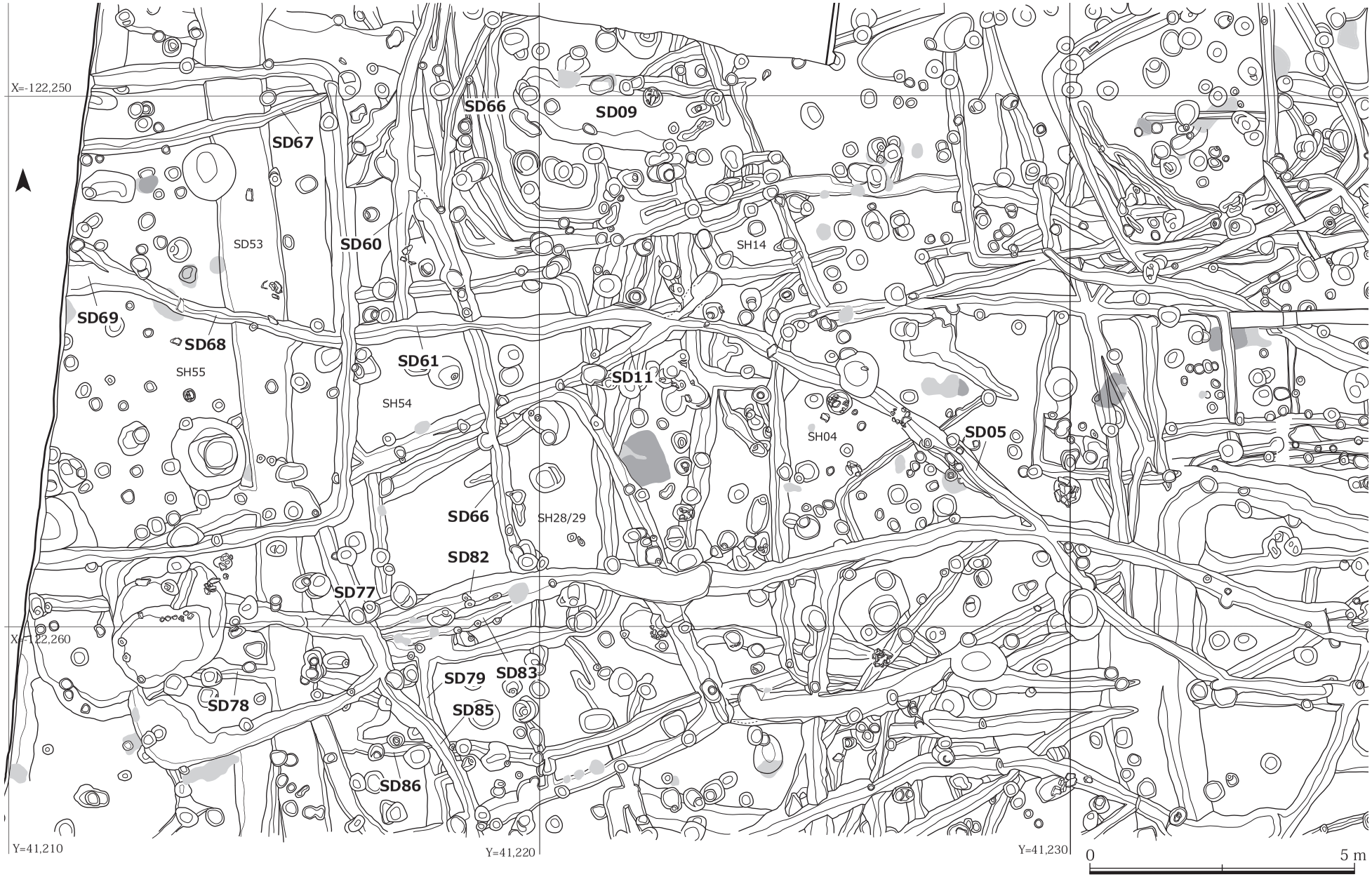


Fig.28　SD0405/61/68 平面図（S=1/100）

Fig.29　SD0501 平面図（S=1/100）

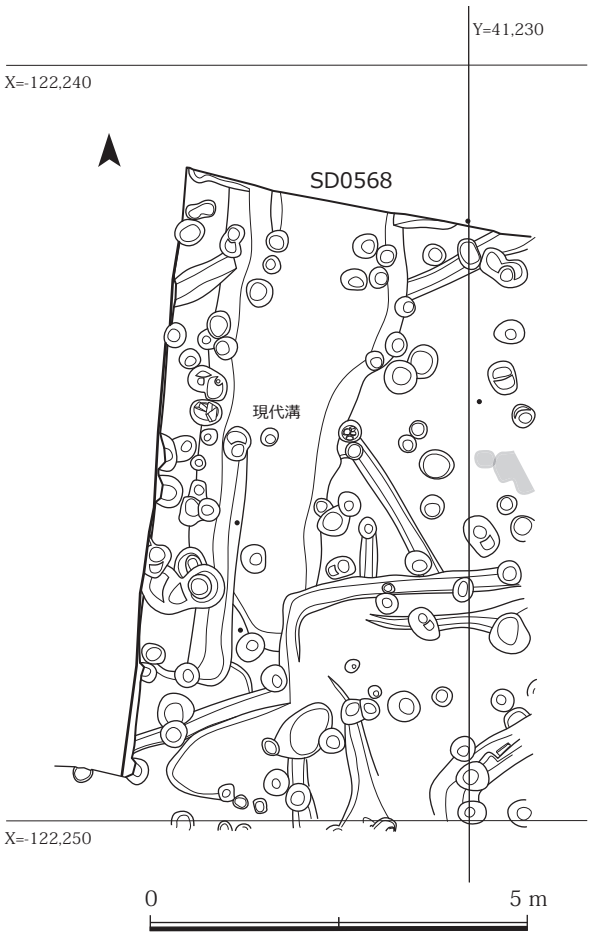


Fig.30　SD0568 平面図（S=1/100）

これらはいずれも混入品であろう。土師器の羽釜が出土していることから，中世後半の区画溝と考えられる。

SD0568（Fig.30）

SD0568 は第 5 次調査区の西側を南北方向へのびる溝である。多くを現代の地割り溝と重複するが，その下部で 2 mほど確認した。大部分は北側の調査区外へと続いていく。

埋土は褐色で，比較的しまりのある均質な層序で，現代の地割り溝とは一見して異なっていた。ただし，SH0561 等の遺構には全て後出する。

弥生土器や土師器，須恵器が混在して出土しているが，土師器の皿や羽釜などから，中世後半の区画溝であろう。ちょうど，SD0501 と同時期の溝であり，軸方向も概ね併行する。両者の間は，約 24 m開いており，本来この間に屋敷等が存在していたのであろう。

第Ⅴ章　出土遺物

磐城山遺跡第 4 次から出土した遺物は，整理箱（55 × 33 × 10cm）に 83 箱あった。ほとんどが竪穴住居や溝から出土した弥生土器と土師器，須恵器であるが，灰釉陶器や山茶椀，石器等も少量出土した。特に，SH0404 及び SH0455 から出土した土器は，弥生時代後期前半まで遡り得る土器群であり，まとまった資料として貴重である。

磐城山遺跡第 5 次から出土した遺物は，整理箱（55 × 33 × 10cm）に 30 箱あった。第 4 次調査と同様，多くが竪穴住居と溝からの出土遺物であったが，古墳時代の遺物が多い点でやや様相が異なる。

以下 , 遺構のまとまりごとに解説する。これは，遺構の重複が著しいため，明確に区別して遺物を取り上げることが困難であったためである。そのため，各遺構では若干の遺物の混入が認められることを付記しておく。

なお，いずれの出土遺物も磨滅が激しく，調整等が不明なものが多い。器壁が 1mm 程度も剥落しているものも一定量存在し，遺存状態は決して良好とはいえない。

1　竪穴住居･土坑

SK0474・SH0471/75/88・SH0484（Fig.31）

1 ～ 14 までが SK0474，15 ～ 22 が SH0471/75/88・SK0474 の混在，23・24 が SH0471，25 ～ 29 が SH0484 の出土遺物である。

1・2 の須恵器杯蓋は SH0471/75 からの混入の可能性がある。3 は段が不明瞭となり，やや後出する。4 は壷類の肩部の破片であり，最大径の辺りに 2 条の沈線を巡らせる。6 は小型の壷であろう。口縁端部を欠損し，底部にはタタキが残る。7 はハソウの体部片と考えられ，肩部に列点刺突が巡る。8 のハソウは頸部が長くのび，細身の体部形状を呈する。

9 は土師器の椀で，10 ～ 12 は土師器の甕である。10・11 はいずれも口縁端部を丸くおさめる。11 の内面には煤が付着する。12 の口縁内面はヨコナデにより段状になっているが，つまみ上げてはいない。13 は弥生土器の甕が混在したものであろう。受口状の口縁の外面に刺突を施す。14 は甑である。内外面とも粗いハケで調整され，口縁端部は内面に折り曲げるように成形される。

15・16 は須恵器の杯蓋である。19 は杯身ではなく，底部付近の湾曲具合から有蓋高杯になろう。20 は土師器の甕で，端部を丸くおさめるが，21・22 は口縁をヨコナデによって外反させ，いわゆる宇田型甕の系統である。

23 も底部に脚部との接合痕が残ることから，有蓋の高杯になると考えられる。24 は土師器の椀形高杯であるが，ちょうど擬口縁の部分で欠損している。

25 は廻間式期の椀形高杯であろう。椀部と脚部は接合しないものの，胎土の特徴から同一個体と判断した。脚部の円孔は 5 ないし 6 箇所になろう。26 は台付甕の脚台部である。

27 ～ 29 は SH0484 の南東主柱穴（P04260）から出土したものである。27 は弥生土器の甕で，外面をタタキ後にナデ消す。また，外面には部分的に煤が付着し，被熱により剝落している箇所もある。内面は丁寧にナデ上げられており，比較的平滑に仕上げられている。淡黄灰色を呈す。28 も甕であるが，内外面ともにハケ調整して，非常に薄く仕上げられている。体部最大径辺りには櫛描きの波状文が施され，その下部に薄い突帯を貼り付けて，その上を刻む。

このように SK0474 は 6 世紀末～ 7 世紀代，SH0471/75 は 5 ～ 6 世紀，SH0484 は廻間式期の遺物が多く出土している。

SH0428/29・SH0454（Fig.32・33）

SH0428/29 からは，30 ～ 70 までの多くの遺物が出土した。30 ～ 44 までが壷である。30 は口縁上端に綾杉文を 2 段半分施す。口縁端部は 2 個 1 単位の円形浮文を貼り付けるが，破片のため全体の個数は不明である。31 の口縁上端の綾杉文は少なくとも 1 段目までは確認できるが，2 断面以下は磨滅のため判然としない。口縁端部にも綾杉文を施す。32 の口縁端部は櫛状のハケ調整の上に，1 単位 3 条の棒状浮文に 1 単位 2 個の円形浮文の組み合わせを繰り替えしている。ただし，割り付け方が未熟のためか，広く空白部が残った範囲のみ円形浮文が 1 単位 3 個となっている部分が存在する。33 は円形浮文を 2 個 1 単位で 6 箇所巡らす。34 ～ 39 は，いずれも磨滅のため調整は不明である。41 の口縁部はヨコナデし，頸部に突帯を貼り付ける。体部外面は不鮮明ながら太めのタテミガキが，内面にはハケ目とユビオサエが観察される。44 は瓢壷の口縁部になろう。

45 ～ 48 はく字甕である。45 の内面にはヨコハケが認められるものの , 外面は磨滅しており不明である。46 のように内外ともハケ調整があったのかもしれない。49

は受口状口縁の甕である。50・51 はいわゆる S 字甕である。51 は不明であるが，50 は口縁外面に刺突を施し，口縁内面にもハケ調整を施す。これらの特徴から， S 字甕の A 類から B 類になろう。

53・54 の須恵器杯蓋は混在の可能性が高い。55 は灰白色の須恵質の器形不明のものである。天地も不明であるが，沈線，波状文，刺突を繰り返す。内面に粘土紐の接合痕が顕著に残る。

68 の器台を除き，57 ～ 70 は高杯である。58 はほぼ完形で，口径 25.4cm，器高 20.1cm である。杯部の稜部の口径が 10.8cm で，径稜比率で 42.5 となる。57 は口径 25.3cm，稜径 11.1cm で，径稜比率は 43.8 となる。

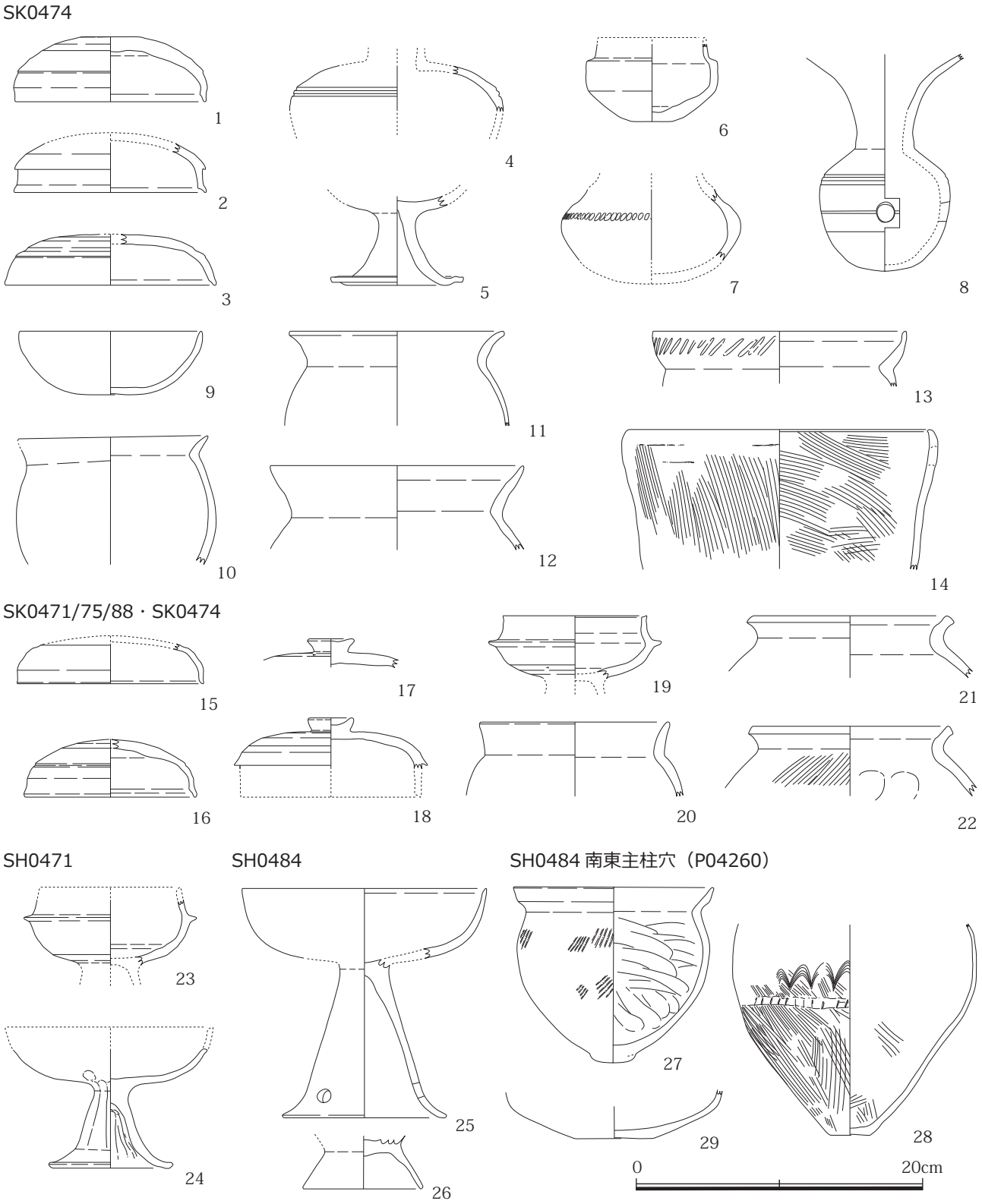


Fig.31　SK0474・SH0471/75/88・SH0484 出土遺物（S=1/4）

61 は椀形高杯になろう。62 ～ 70 は高杯の脚部である。

71 ～ 79 までが SH0454 からの出土遺物である。71 ～ 74 は壷である。75 は小型の鉢である。76・77 は高杯で，内湾する脚部もつ。78 の弥生土器の受口甕と 79 の須恵器杯身は混入であろう。

このように SH0428/29，SH0454 とも廻間式期の遺物が主体となっている。

SH03134・SH0421/22/23・SH0404（Fig.34・35）

80 ～ 85 が SH03134，86 ～ 90 が SH0421/22/23，91 ～ 110 が SH0404 の出土遺物である。

80 は弥生土器の壷，81 は高杯である。いずれも下部の竪穴住居 SH0404 や SH0421/22/23 からの混在と考えられる。82 は須恵器の短頸壷であるが，脚部を伴うかどうかは不明である。84 は土師器のく字甕で，85 が

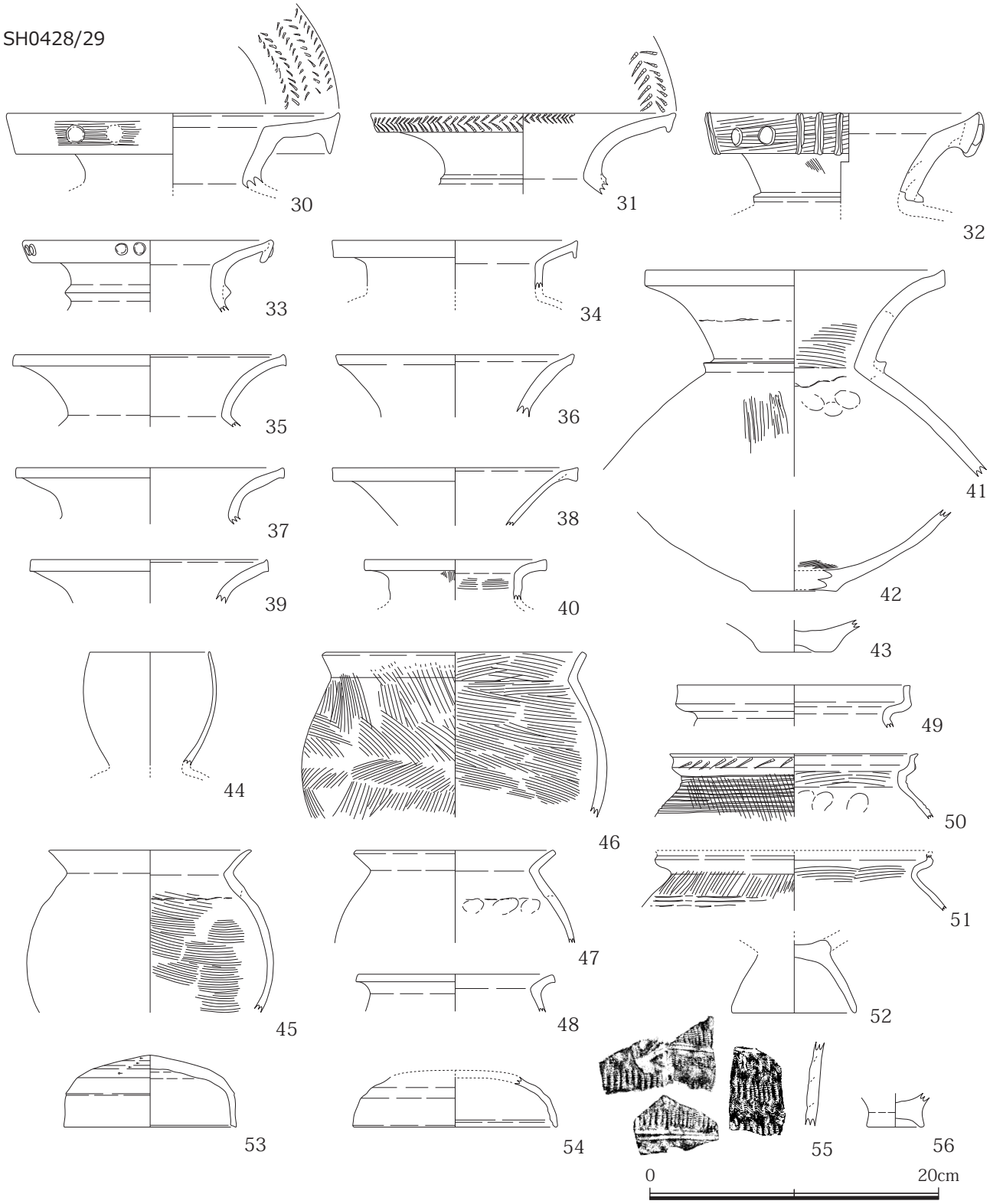
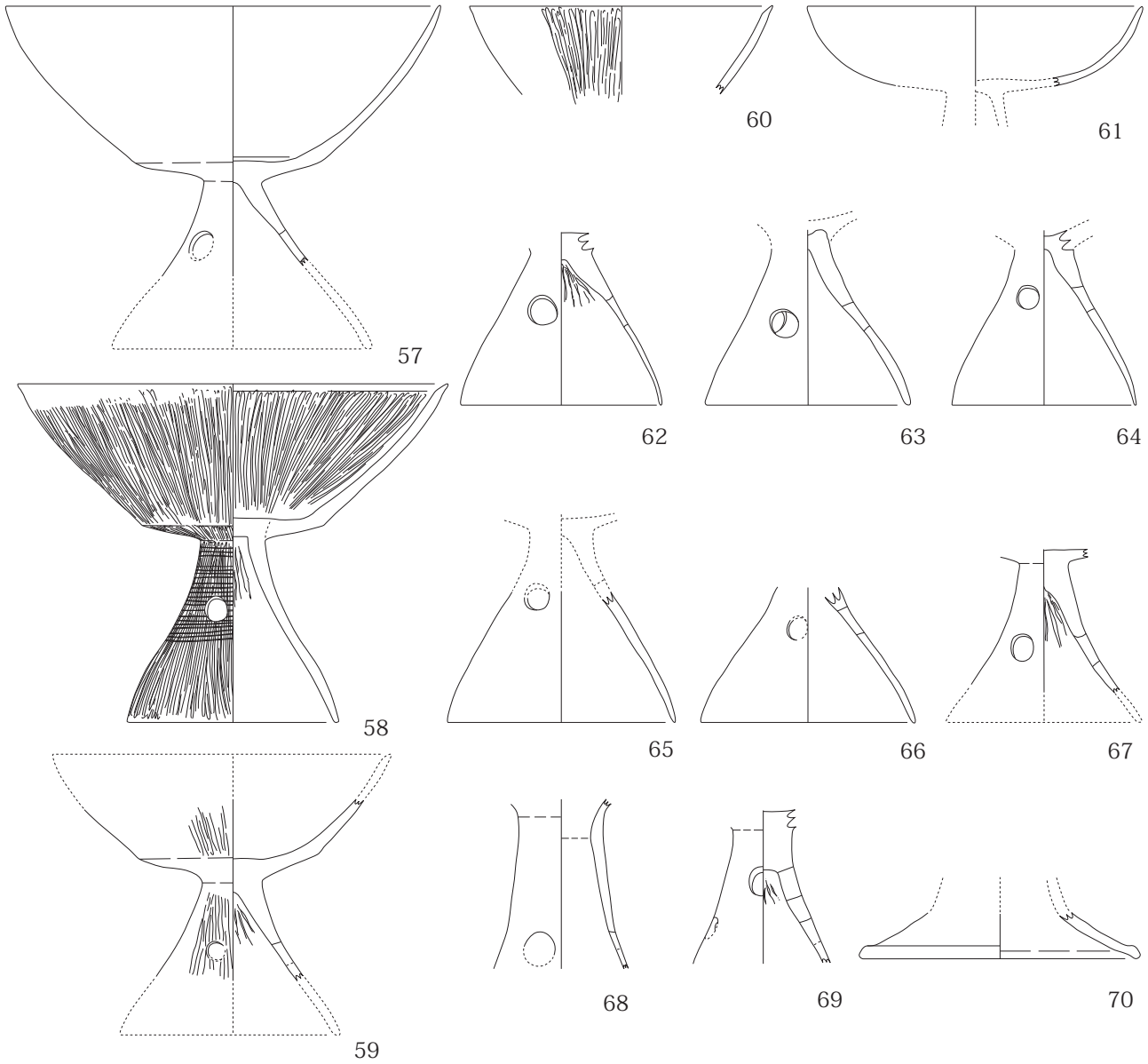


Fig.32　SH0428/29 出土遺物（S=1/4）

SH0428/29



SH0454

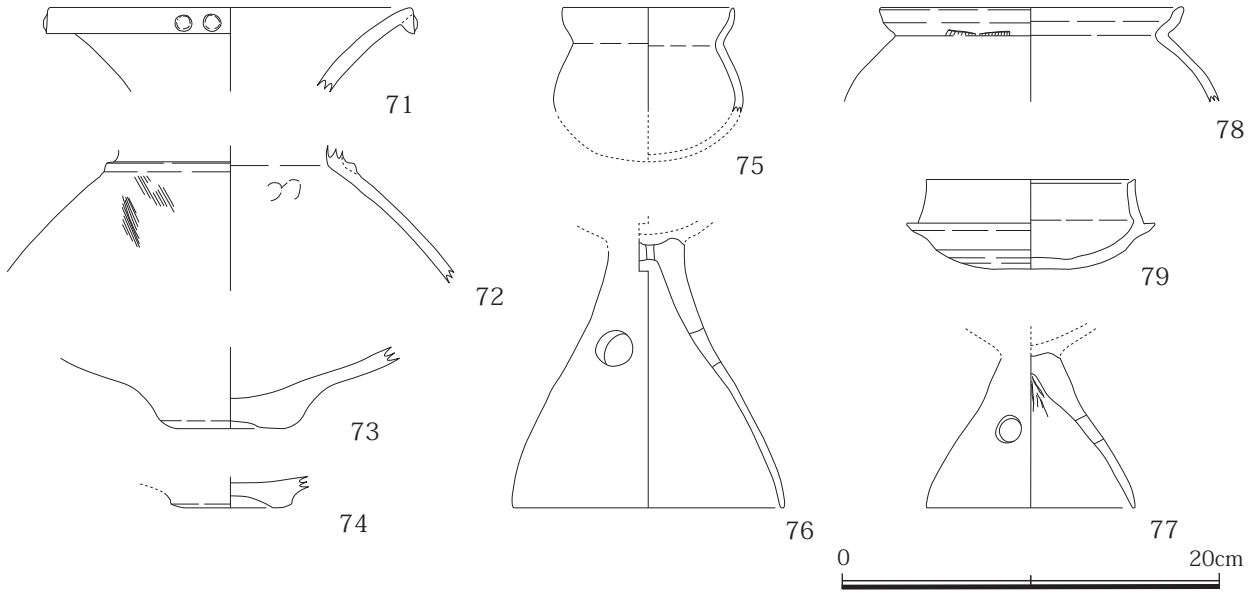


Fig.33　SH0428/29・SH0454 出土遺物（S=1/4）

宇田型甕となる。

86・87 はともにく字甕で，87 は口縁端部に刻みを伴う。88 は高杯で稜部の段が不明瞭になっている。

91 は壷で，上半部のみであるが残りは良好である。頸部に刺突列があるかもしれないが，磨滅のため不明である。92 の壷は，体部にヘラ描きによって線刻された絵画土器である。93 ～ 97 は甕である。いずれも口縁端部を短くく字状に屈曲させた形状を呈する。99 ～ 103 は高杯である。99 ～ 101 は山中式以前とされる盤状の有段高杯である。102 は長く屈曲する特異な形状である。104 は壷の口縁部破片であろう。

102・105 ～ 110 までは南西主柱穴 P04171 から出土している。105 は壷で口縁端部には円形浮文を貼り付け，その上に刺突を施す。106 は完形の甕で，脚台はつかない。一部ハケが残るが，ほとんど磨滅のため調整不明である。内面はナデのためか平滑に仕上げられている。107 は高杯の脚部である。脚部は筒形で細く，端部で屈折する。108 は器台になろうか。端部外面に 4 条の凹線を施す。109 と 110 は同一個体と考えられる。109 は円形の透かしが 1 箇所確認できるが破片のため，いくつあけられているか不明である。円形透かしの下部には直線文と波状文が施される。110 はその端部だと考えられるが，独特の波状文が施される。

このように，SH03134 は 6 世紀頃，SH0421/22/23 は廻間式期，SH0404 は八王子古宮式併行期の遺物が多く出土している。

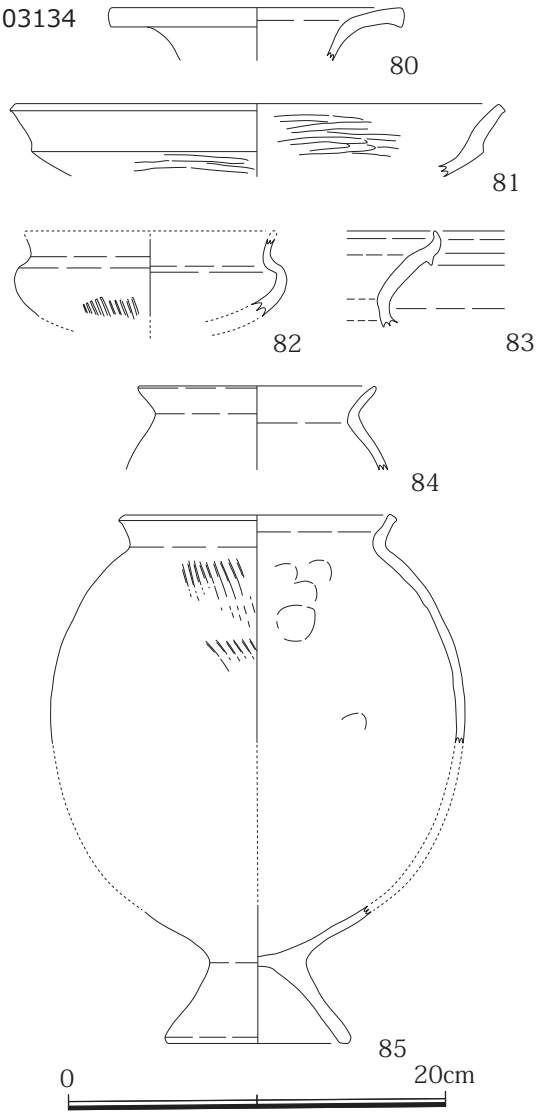


Fig.34　SH03134 出土遺物（S=1/4）

SH0455/51/56（Fig.36・37）

111 ～ 113 が SH0451，114 ～ 121 が SH0456，122 ～ 166 が SH0455 の出土遺物である。この内，SH0451 は SH0455 上部にある竪穴住居と理解して調査したが明確に捉えることができなかった。ただし，黒色土層からの出土であり，下部の SH0455 とは区別するべきである。また，SH0456 としたものは，ここでは区別して示したが，本来 SH0451 と SH0455 の両者を混在して取り上げた可能性が高く，SH0455 埋土として掘削した中にも SH0451 や SH0454 等の遺物を含んでいる可能性も否めない。ただし，南東主柱穴 P04242 からはまとまった状態で出土しており，一括資料として高く評価できる。

111 は弥生土器の壷である。112 は弥生土器の台付甕で，113 は土師器の台付甕である。ハケは櫛状であり，他の宇田型甕のつくりに似ている。

114 は有段口縁の壷であろうか。116 は受口甕で，口縁端部に刺突，体部上半に直線文と刺突が施される。117 はく字甕，118 は宇田型甕の系統になろう。120 は盤状高杯で，口縁端部から 3 条 1 単位の棒状浮文が貼り付けられている。剝落が著しく不鮮明であるが，少なくとも内面には部分的に赤彩された痕跡が残されている。121 は小型の高杯の脚部と考えられるが，円孔が 5 箇所あけられる。

122 ～ 128 までが壷である。122 ～ 124 は肥厚させた口縁端に凹線や円形浮文を貼り付け，端部上面には綾杉文を施す。126・127 は頸部破片であり，いずれも素文の突帯を貼り付ける。長頸壷になろうか。128 は頸部に円形の刺突列を巡らす。129 は鉢になろう。内外面ともユビオサエが残るもののナデ調整で，口縁部はヨコナデする。

130 ～ 132 は甕である。130 はく字甕で外面にハケが残る。131・132 は受口甕で口縁外面に刺突を施す。

133 ～ 143 は高杯である。133・134 は盤状高杯で，133 には内面ヨコミガキ，外面タテミガキが密に施され

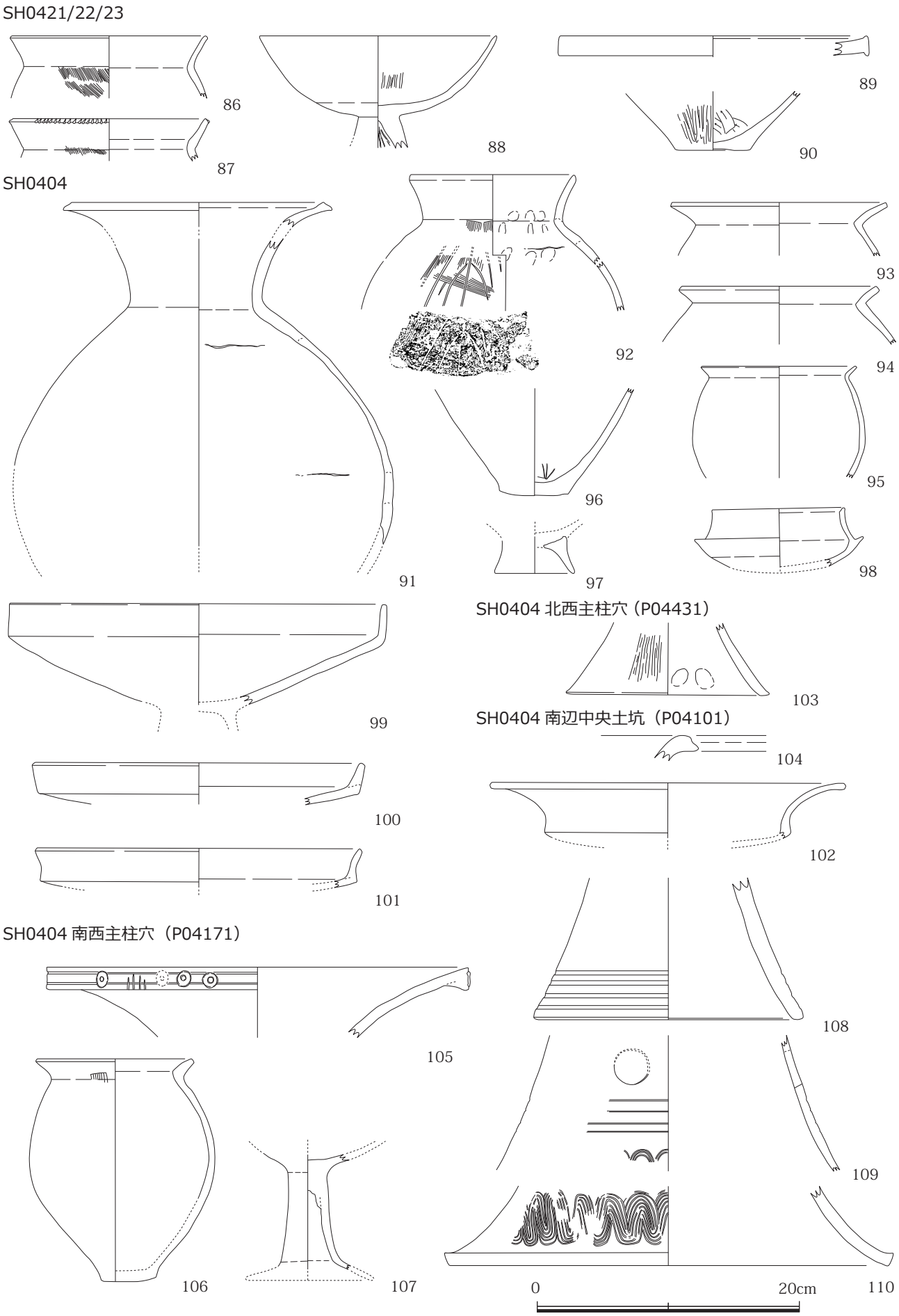


Fig.35　SH0421/22/23・SH0404 出土遺物（S=1/4）

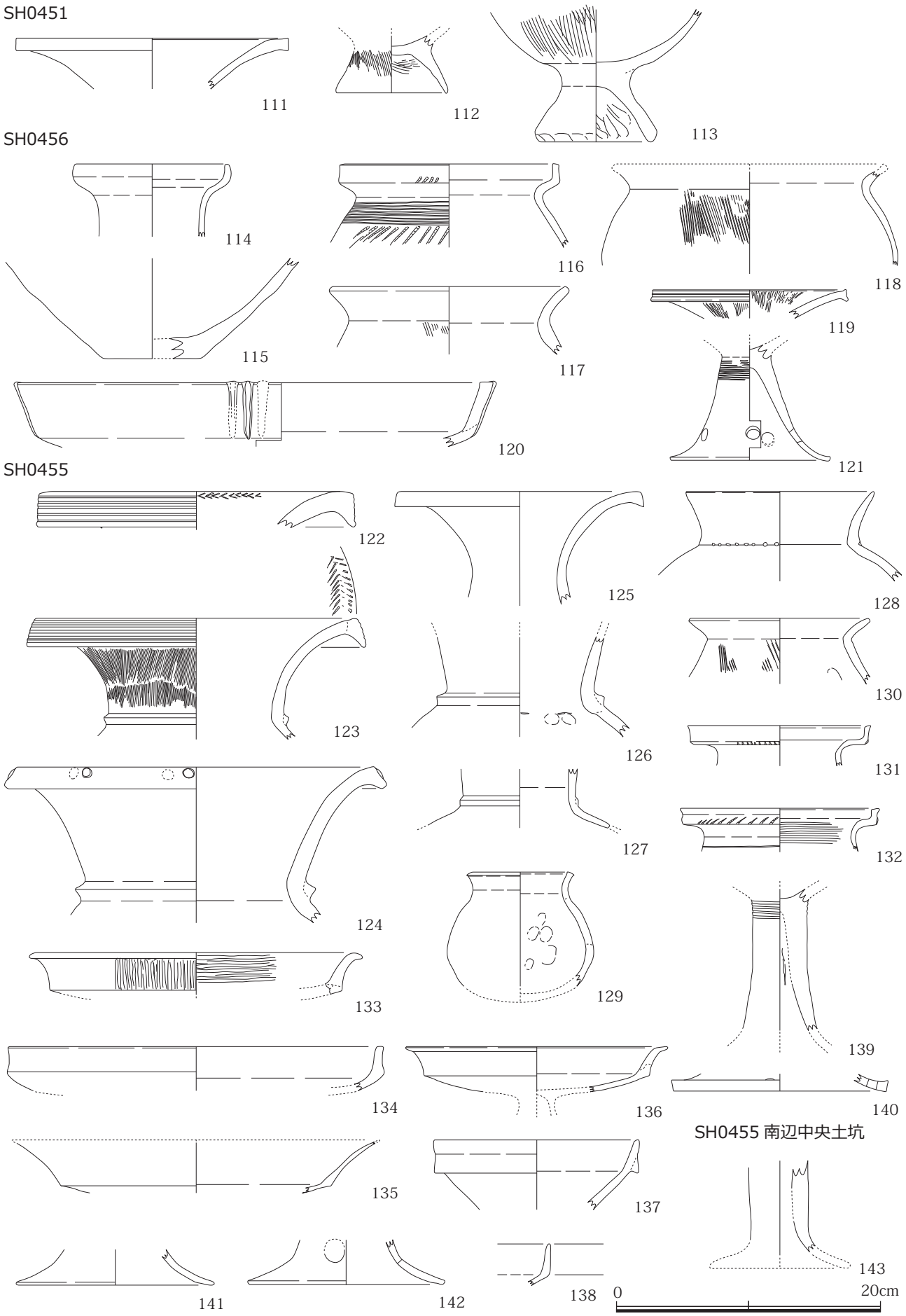
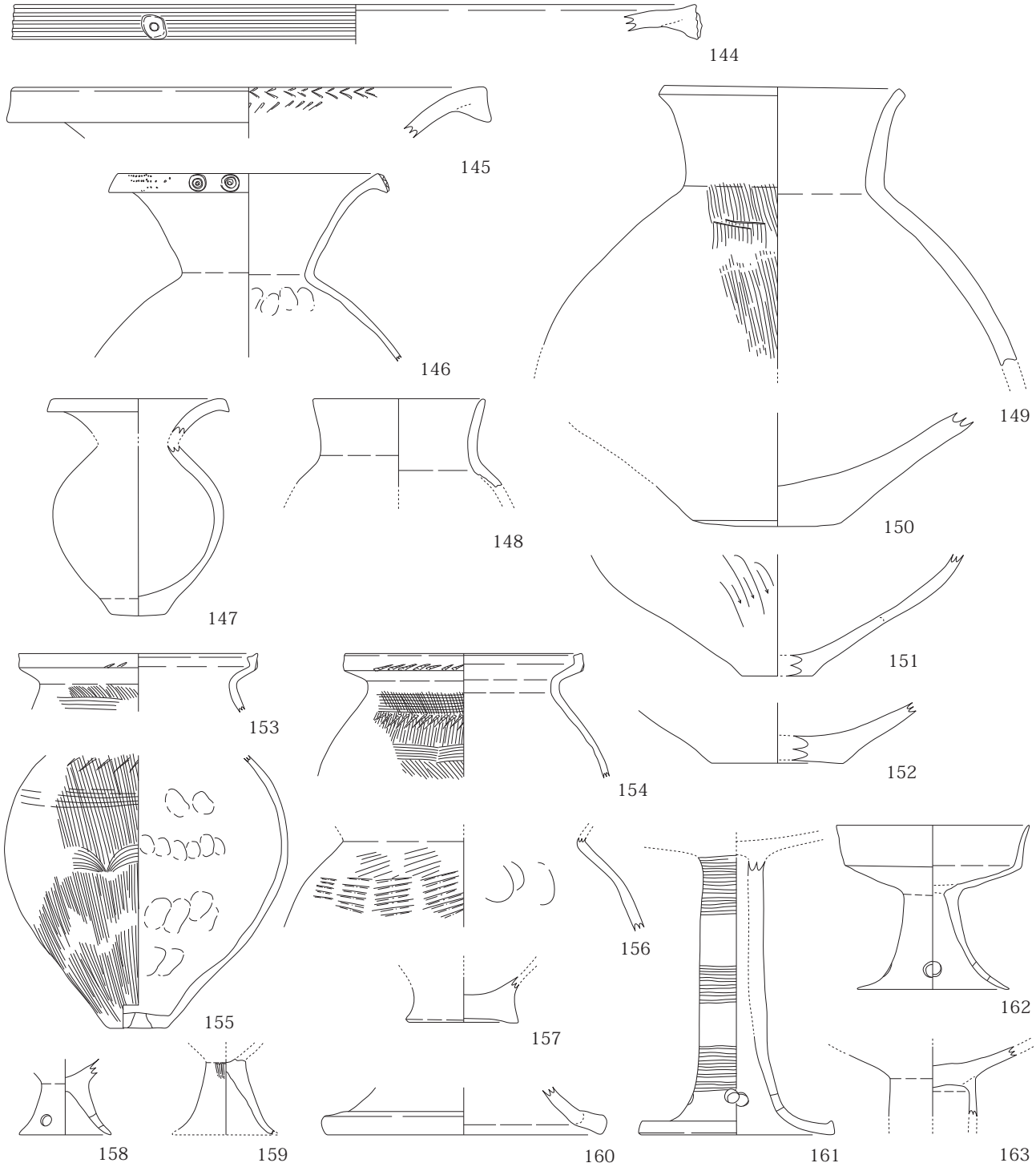
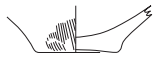


Fig.36　SH0455/51/56 出土遺物（S=1/4）

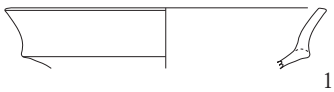
SH0455 南東主柱穴（P04242）



SH0455 北東主柱穴（P04200）



SH0455 内（P04234）



SH0455 内（P04235）

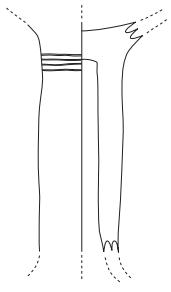


Fig.37　SH0455 出土遺物（S=1/4）

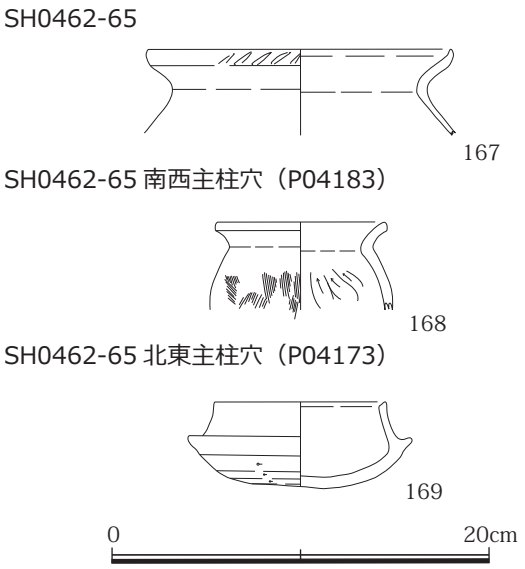


Fig.38　SH0462-65 出土遺物（S=1/4）

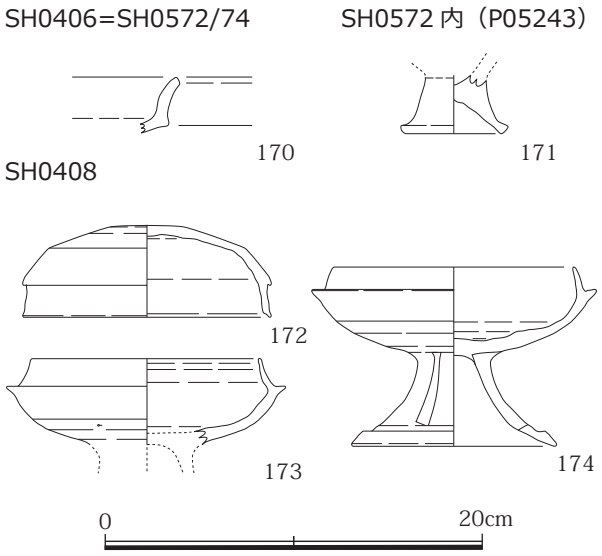


Fig.39　SH0406・SH0408 出土遺物（S=1/4）

ている。135 は薄く山中式に特徴的な形状を呈す。136 は口縁端部が外反する。137 は特異な形状である。口縁部として図示したが，天地逆となり脚端部の可能性もある。139 は筒状の脚部で細く長い形状である。140 は高杯の端部で，端部付近に円孔が施される。

144 ～ 163 は南東主柱穴 P04242 から出土した，一括資料である。144 ～ 152 は壷である。144 は口径 44.8 cm の大型品である。145 は口縁端部上面に綾杉文が 1 段半施される。146 の口縁には円形浮文が施される。その周囲には刺突の痕跡も窺えるが，磨滅のため不鮮明である。147 は柱の抜き取り痕から出土している。149 は上半部の完形資料であるが，外面には縦方向のハケを施す。151 は壷の底部で，外面はナデで仕上げられる。

153 ～ 157 は甕である。153 ～ 154 は受口甕で，口縁外面は刺突，体部に直線文，刺突，波状文が施されている。155 の底部は穿孔される。156 はタタキ甕で，淡黄褐色を呈す。

158 ～ 163 は高杯である。158・159 は小型で，161 は細身で筒状に長い。161 には太く浅めの直線文が 3 帯あり，円孔は 4 箇所施される。なお，160 は天地逆で高杯とは異なる可能性がある。162 はほぼ完形の高杯である。脚部との接合部分が剥落している。

164 は甕の底部片で，北東主柱穴 P04200 の出土である。165 の高杯は SH0455 内の P04234 出土，166 の高杯は同 P04235 の出土である。

このように SH0451 は不明確だが弥生時代～古墳時代までが混在しており，SH0455 は八王子古宮式併行から山中式古段階にかけての遺物がまとまっている。

SH0462-65（Fig.38）

167 は弥生土器の甕である。口縁外面に刺突を施す。168 は南西主柱穴 P04183 から出土した。弥生土器の小型甕で，口径は 8.8cm 程度である。169 は北東主柱穴 P04173 から出土した，須恵器の杯身である。

このように，全体的な出土量は少ないが，弥生土器が主体であり，一部古墳時代の土師器や須恵器が混じっている。

SH0406=SH0572/74・SH0408（Fig. 39）

170 は SH0406 から出土した，山中式の高杯である。171 は SH0572 内部の柱穴 P05243 から出土した台付甕の底部である。

172 ～ 174 は SH0408 の出土遺物である。いずれも須恵器で，172 が杯蓋，173・174 が須恵器の有蓋高杯である。172 の天井部には重ね焼きの痕跡が認められる。174 の高杯は 1 段の方形透かしが 4 箇所あけられている。

このように，SH0406=SH0572/74 は山中式前後，SH0408 は 6 世紀代の遺物が中心となっている。

SH03136=SH0566・SH03138/139=SH0565・SH0560（Fig.40・41）

175 ～ 197 が SH03136=SH0566，198・199 が SH 0560/66 混在，200 ～ 209 が SH03138/139=SH0565，210 ～ 224 が SH0560 の出土遺物である。

175 の須恵器の杯蓋と 176 の高杯は東辺周壁溝からの出土である。175 の杯蓋は箱形で，176 の脚部にはカキ目が施され，方形の透かしがあけられている。

177・178 は土師器の壷としたが，178 は 182・183 のような鍋になる可能性もある。182 の口縁端部はく字状であるが，183 は宇田型甕の口縁と同じ形状を呈す。179 ～ 181・184 ～ 190 は甕である。179 は弥生土器の混入であろう。180・181 は宇田型甕の系統である。184 は平底で，上底状になる。185・186 は台付甕の脚台部である。187・188 はく字甕，189 は S 字甕，190 は宇田型甕の口縁部片になろう。

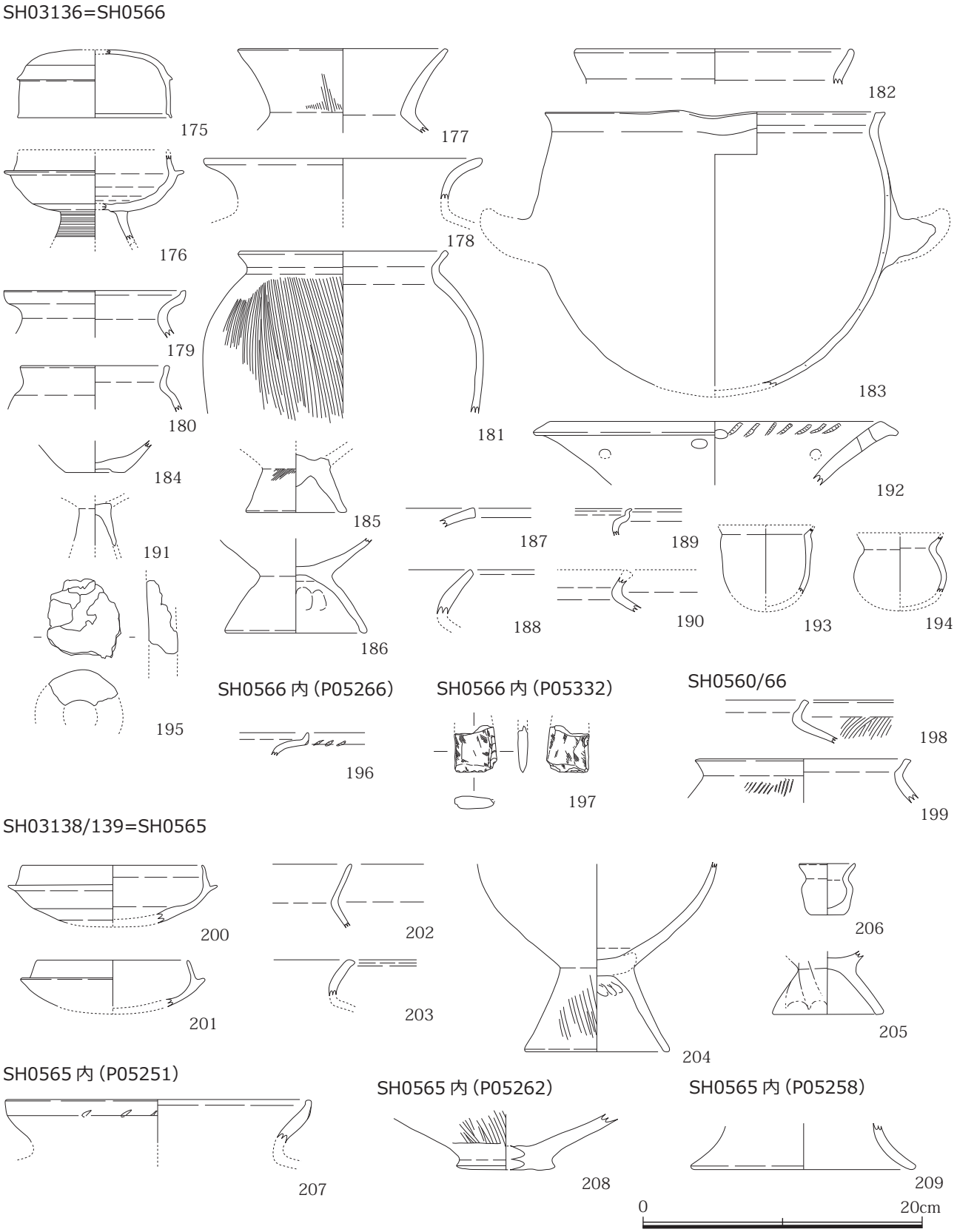


Fig.40　SH03136=SH0566・SH03138/139=SH0565 出土遺物（S=1/4）

SH0560

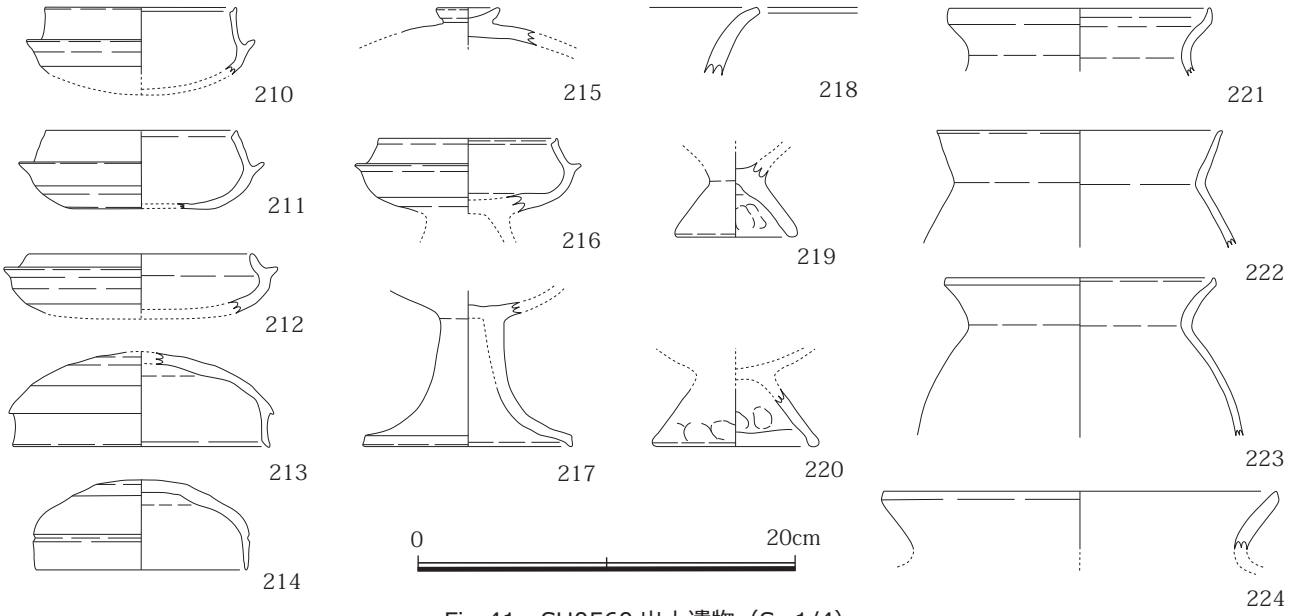


Fig.41　SH0560 出土遺物（S=1/4）

192 は器形の不明品である。全体の器形や端部付近に円孔をあけること等から，弥生土器の器台の脚部のように見受けられるが，内面に列点刺突を施すことから，こちら側を口縁部と理解して図示した。

193・194 はミニチュア土器である。193 は鉢形，194 は甕形である。191 の高杯も小型であり，ミニチュア土器になるかもしれない。195 は鞴の羽口の破片である。197 は内部の柱穴である P05332 からの出土で，凝灰岩製の磨製石斧である。幅 3cm 程度の小型品で，上半分を欠損する。

200・201 は須恵器の杯身である。200 は焼け歪が激しく，口径の誤差が大きい。202 ～ 205 は土師器の甕で，202・203 はく字甕の口縁部，204・205 は台付甕の脚台部となる。204 は弥生の台付甕で混入品であろう。206 はミニチュア土器である。

207 ～ 209 は内部の柱穴から出土した。207 の受口甕，208 のミガキを施した壷，209 の高杯とも弥生土器である。

210 ～ 217 は須恵器である。213 の天井部の回転ヘラ削りは単位が認めがたいほど平滑となっている。214 は焼け歪みが激しくやや不整形である。216 は高杯になろう。

218 ～ 224 は甕である。221 は弥生土器の受口甕で，219 も弥生土器の台付甕の可能性がある。他は土師器で，いずれもく字甕である。特に，223 は口縁端部を上方へつまみ上げている。

このように，弥生土器が混在するものの，5 ～ 6 世紀代の遺物が多く出土している。

SH0401（Fig.42）

225 は土師器のく字甕である。

SH0402（Fig.42）

226 は須恵器の杯身，227 は有蓋高杯の蓋のつまみ部分である。228・229 はともに土師器の壷と考えられ，口縁内面を浅く凹ませる点が共通する。

SH0403（Fig.42）

230 は土師器のく字甕である。口縁端部を上方へつまみあげる。

SH03111（Fig.42）

231 は高杯である。短く屈曲した口縁端部を持ち，内面には横方向のミガキが施される。山中式の古い形状を呈す。

SH0559（Fig.43）

232 ～ 256 が SH0559 の出土遺物である。232 は長頸壷になろう。頸部と体部の境界に突帯を貼り付ける。235 ～ 240 は甕である。235 の受口甕は口縁端部を僅かに欠損する。237 の口縁部は強く屈曲し，短く開く。口縁部のみヨコナデし，内面にはユビオサエとナデの痕跡が残る。外面は磨滅のため不鮮明であるが，ナデで仕上げられているようである。

241 は器形不明である。肩部が鋭く屈曲して段を形成し，そこに波状文を施している。内面は細かなナデで成形される。242 ～ 249 は高杯である。242 は盤状

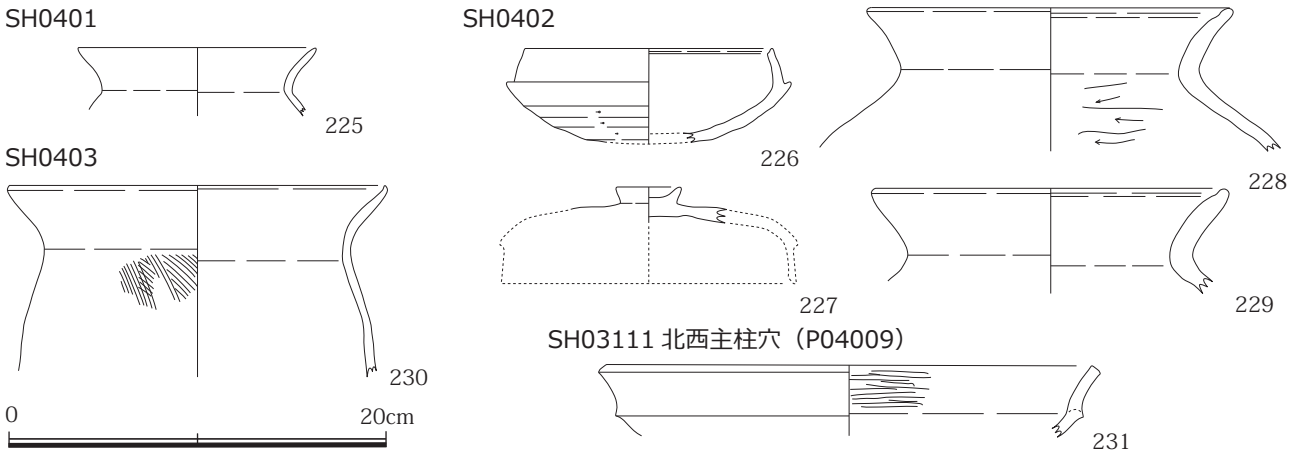


Fig.42　SH0401・SH0402・SH0403・SH03111 出土遺物（S=1/4）

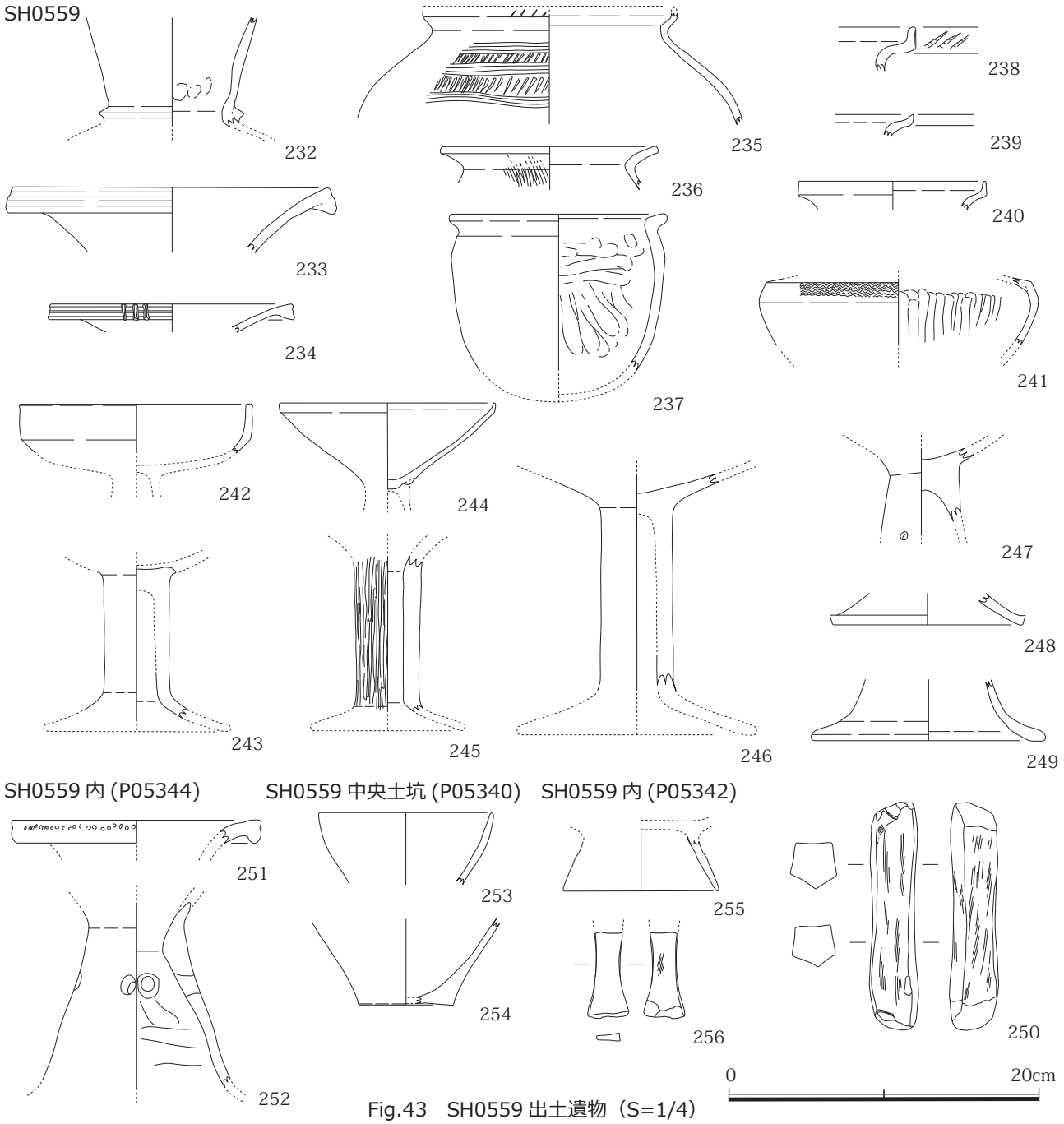


Fig.43　SH0559 出土遺物（S=1/4）

で，244 は端部を上方へつまみあげたような形状である。243 ～ 246 の脚部はいずれも細身で筒状になっている。脚端部まで遺存していないが，屈折して大きく外方へ開く形状となる。248 は 245 と同一個体の可能性がある。

250 は凝灰岩製の砥石である。断面五角形で，いずれの面もよく使用されている。

251・252 は SH0559 内部の P05344 から出土している。251 の口縁端部には，円形の刺突が巡る。252 は中空の器台になると思われる。

253・254 は南辺中央沿いの貯蔵穴 P05340 から出土した。253 は壷になろう。254 は甕である。

255・256 は P05342 から出土した。255 は台付甕の脚台部である。256 は凝灰岩製の砥石である。厚さが

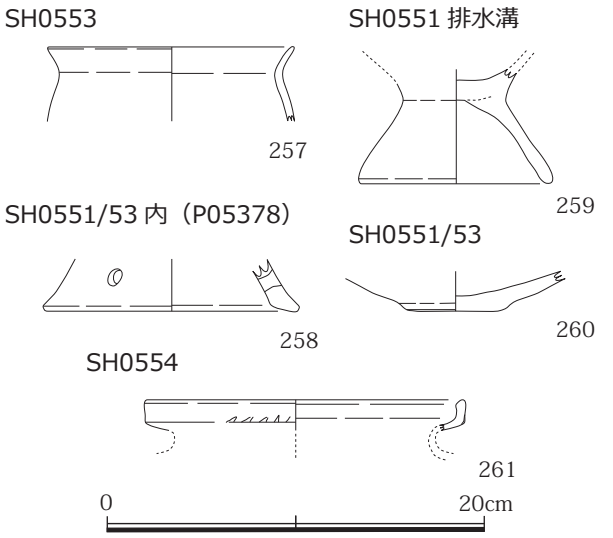


Fig.44　SH0551/53・SH0554 出土遺物（S=1/4）

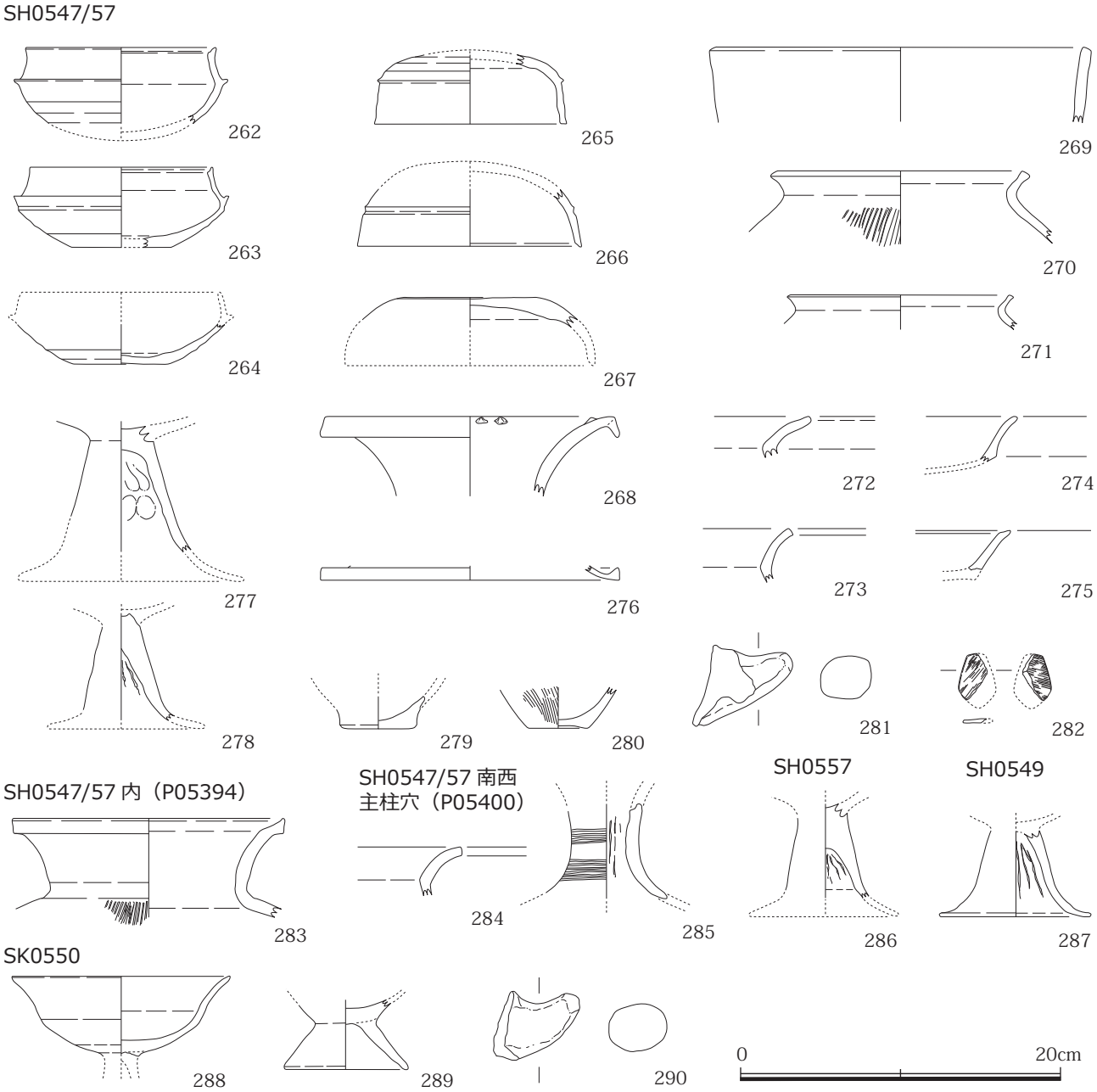


Fig.45　SH0547/57・SH0549・SK0550 出土遺物（S=1/4）

0.5cmになるまで使い込まれている。

このように，八王子古宮式併行の土器が多く含まれており，砥石の存在も目立つ。

SH0551/53・SH0554（Fig.44）

257～260がSH0551/53，261がSH0554の出土遺物である。

257はおそらく，く字甕である。258はSH0551/53内のP05378から出土しており，器台になろう。259はSH0551の排水溝から出土した台付甕の脚台部である。261は受口甕となる。

このように出土量自体は少ないものの，弥生時代後期頃の遺物がまとまっている。

SH0547/57・SH0549・SK0550（Fig.45）

262～286がSH0547/57，287がSH0549，288～290がSK0550の出土遺物である。

262～264は須恵器杯身，265～267が杯蓋となる。268は弥生土器の壷で，口縁内面に瘤状突起が少なくとも2個以上貼り付けられている。269は土師器の甑，270・271は宇田型甕となる。282は滑石製の石製模造品で，剣形を呈す。欠損するが，両面とも擦痕が明瞭に観察される。

283はSH0547/57のP05394から出土した須恵器の甕である。体部外面にはタタキが認められる。284・285は南西主柱穴であるP05400から出土した。284はく字甕，285は弥生の器台になろう。

287は土師器の屈折脚の高杯である。288は外反する口縁部をもつ高杯で，松河戸式併行になろう。

このように，一部弥生土器の混在が認められるが，いずれも5～6世紀代の遺物がまとまっている。

SH0545（Fig.46）

291～310がSH0545の出土遺物である。291～293は壷で，291の口縁部には3本1単位の棒状浮文を貼り付ける。293は薄手のつくりで，小型壷であろうか。294～298が甕となる。295～297は受口甕の口縁部で，298は台付甕の脚台部である。299～301はいずれも山中式の高杯の形態である。302は土師器の椀で，303は須恵器のハソウの口縁部である。302や303は混入であろう。

304・305はSH0545内のP05184から出土した。305は高杯の脚部であろう。306～308は同じくP05198から出土している。306・307とも須恵器の杯蓋で，308は土師器の甕ないし鍋になろう。309はP05200から出土した土師器の長頸壷で，310はP05191の須恵器の杯蓋となる。

このようにSH0545からは山中式を中心とした遺物が

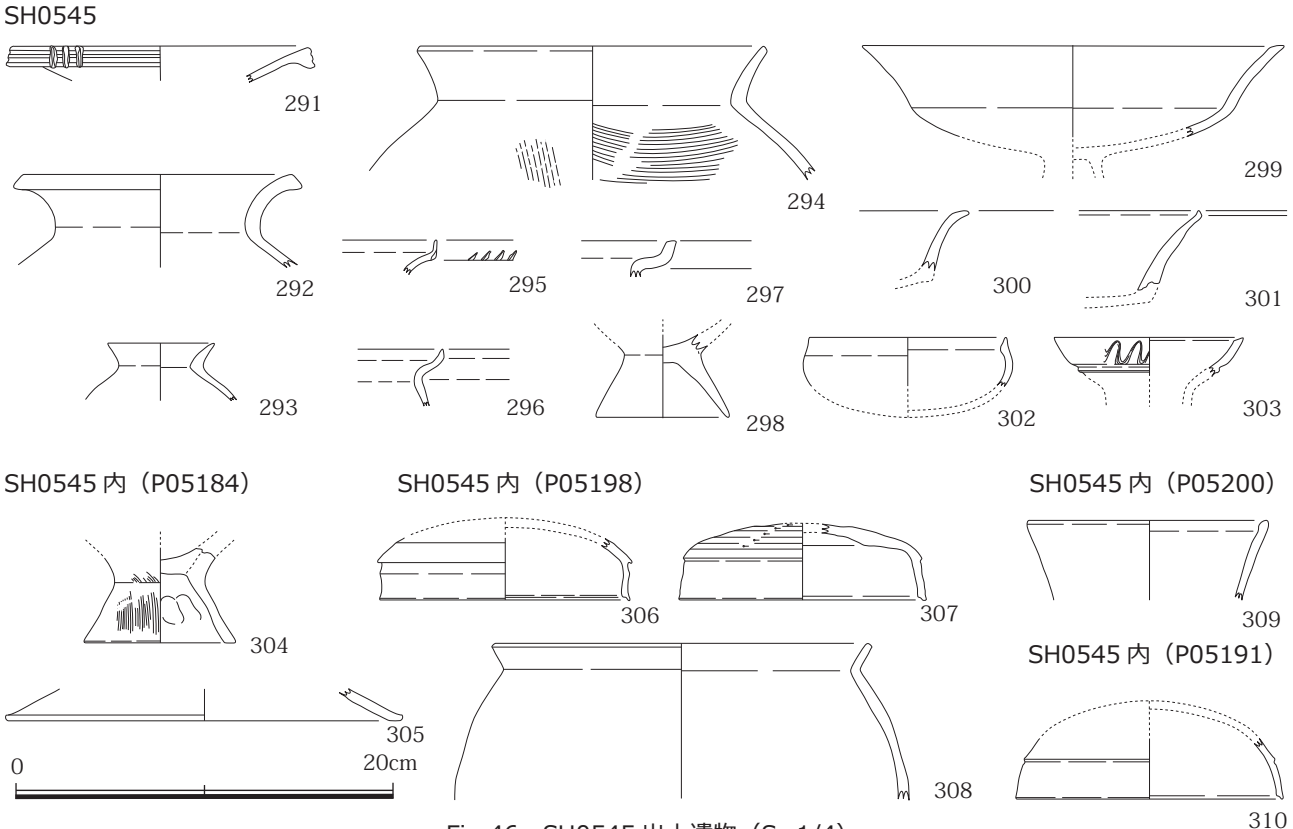


Fig.46　SH0545出土遺物（S=1/4）

出土している。ただし，SH0545 の埋土の一部に古墳時代の遺物が混じり，かつ P05198 や P05200，P05191 等のように古墳時代の柱穴があることから，SH0545 の上部には古墳時代の竪穴住居があった可能性が高い。

SH0535/36・SH0575（Fig.47）

311 ～ 335 が SH0535/36，336 ～ 341 は SH0575 の出土遺物である。ただし，321 ～ 333 から出土している古墳時代の遺物は，本来 SH0535/36 に伴うものでなく SH0575 のものである可能性が高い。

311・312 はともに口縁部を欠くが，弥生土器の壷である。313・314 は受口甕で，314 は口径 25.6cm の大型品である。315・316 は器台の口縁部，317 ～ 320 が高杯となる。318 ～ 320 は山中式から廻間式の範疇である。

321・322 は宇田型甕で，323 以下が須恵器となる。

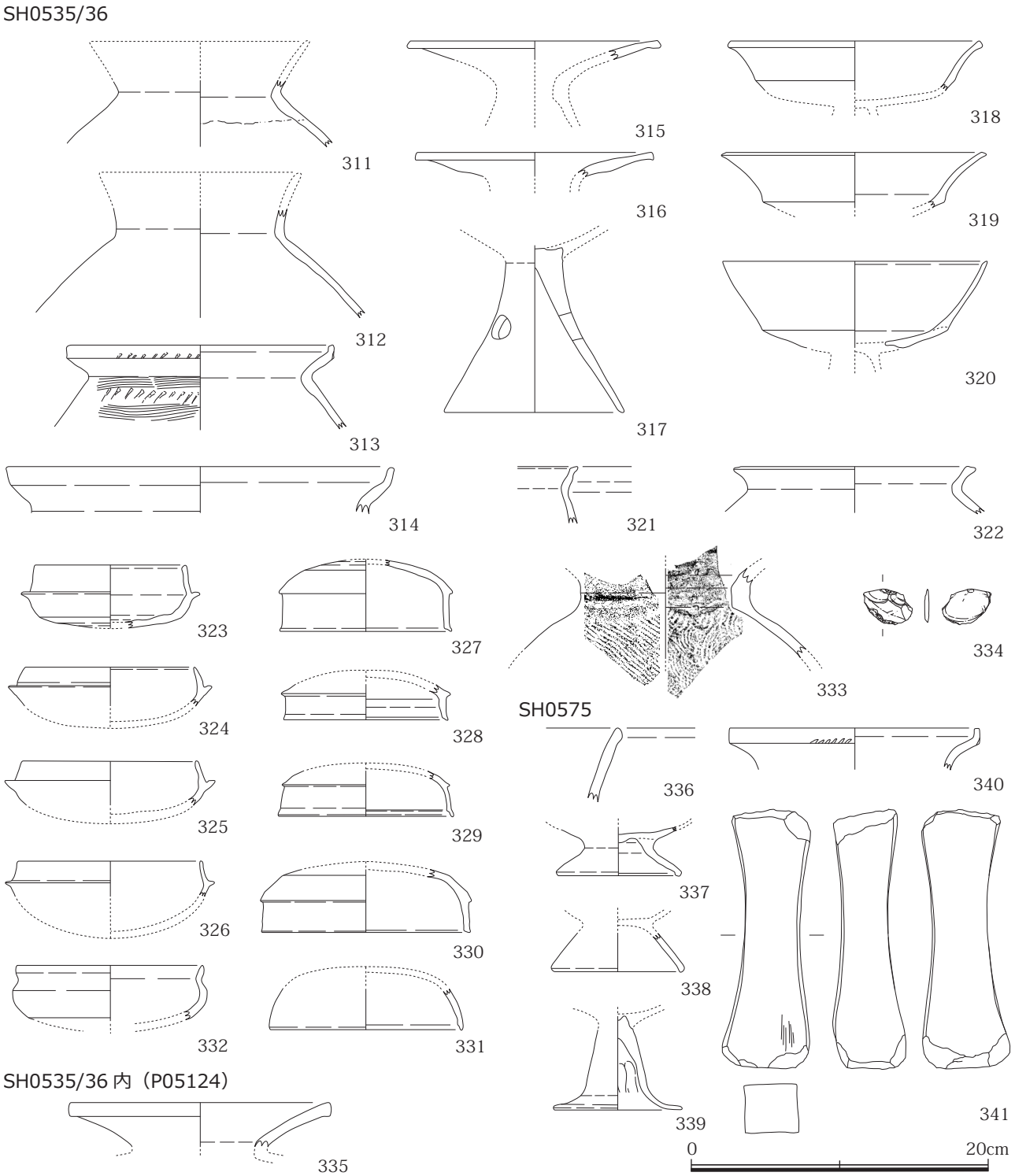


Fig.47　SH0535/36・SH0575 出土遺物（S=1/4）

須恵器には 323 ～ 326 の杯身，327 ～ 331 の杯蓋，332 の短頸壷，333 の壷等がある。334 は片岩系の剥片である。何の製作を意図したものかは明らかでない。335 は P05124 から出土した弥生土器の壷である。

336 からが SH0575 の出土遺物となる。336 は土師器の壷の口縁部，337 は土師器の台付椀になろう。339 は屈折高杯の脚部である。341 は凝灰岩質砂岩の砥石である。断面は四角形で比較的よく使用されている。

このようには山中式から廻間式にかけての遺物と 5 ～ 6 世紀代の土師器，須恵器が混在している。上下に建物が重複していることから，前者が SH0535/36，後者が SH0575 の帰属時期を示すものと考えられる。

SH0533/34・SH0538（Fig.48）

342 ～ 353 が SH0533/34，354 ～ 357 が SH0538 の出土遺物である。

342 ～ 347 は須恵器で，342 が杯身，343 と 344 は杯蓋，345 は高杯，346 は壷類の脚台部，347 はハソウとなる。347 は口縁外面に波状文を施すほか，頸部にも少なくとも 2 段の波状文を施している。348 から 351 は甕である。349 は弥生の受口甕で，混入であろう。352 は P05131 から出土した須恵器杯蓋である。353 は P05128 から出土した弥生土器の壷である。

354 ～ 357 はいずれも須恵器で，357 の杯蓋を除き，杯身である。

このように，一部弥生土器の混在が認められるものの，6 世紀代の遺物が主体となって出土している。

SH0517/27・SH0516/30（Fig.49）

358 ～ 374 が SH0517/27・SH0516/30 の出土遺物である。掘削当初，1 棟の竪穴住居と認識して掘削したため，大部分を一括して取り上げてしまっているので，まとめて報告する。

358 ～ 362 が須恵器である。358 は杯身で，扁平で退化が著しい。359 ～ 362 は杯蓋となる。363 ～ 365・371・372 は土師器の甕で，363 ～ 365 まではいずれもく字甕である。364 は口縁端部を上方へつまみ上げている。366・367 はいずれも土師器の壷で，368・369 が鍋となる。369 の口縁部は宇田型甕のそれと酷似する。370 は土師器の高杯である。

373 は P0585 から出土した弥生の甕で，374 は P0586 から出土した山中式から廻間式にかけての高杯の脚部である。

このように大部分が 6 世紀代の遺物で占められるが，一部弥生土器が含まれている。おそらく，上部の建物が遺物の多かった前者の時期で，下部の建物には後者の遺物が含まれていたのであろう。

SH0510-14（Fig.50）

375・376 は SH0510 で，377 が SH0513，378 が SH0511-14，379 が SH0511-14 内の柱穴 P05419 からの出土遺物である。

375 は SH0510 の西辺周壁溝から出土した須恵器の杯蓋で，376 は SH0510 の焼土の直上で出土した刀子の類である。

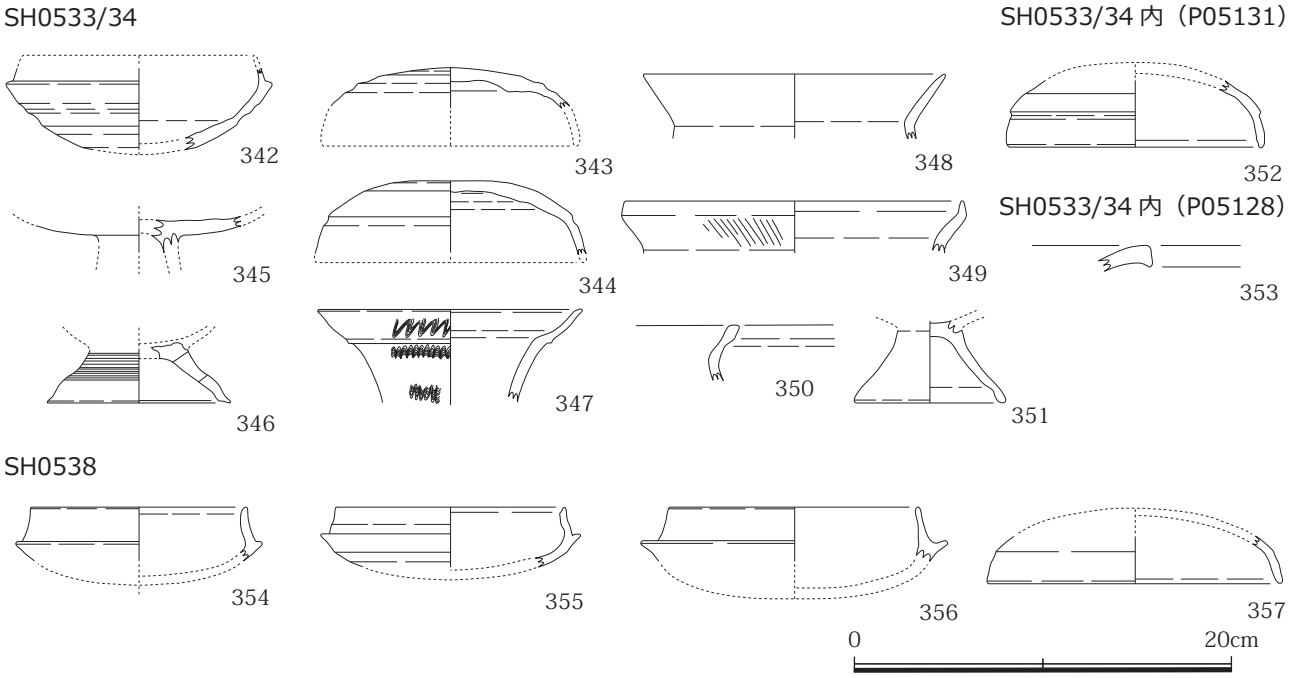


Fig.48　SH0533/34・SH0538 出土遺物（S=1/4）

SH0517/27・SH0516/30

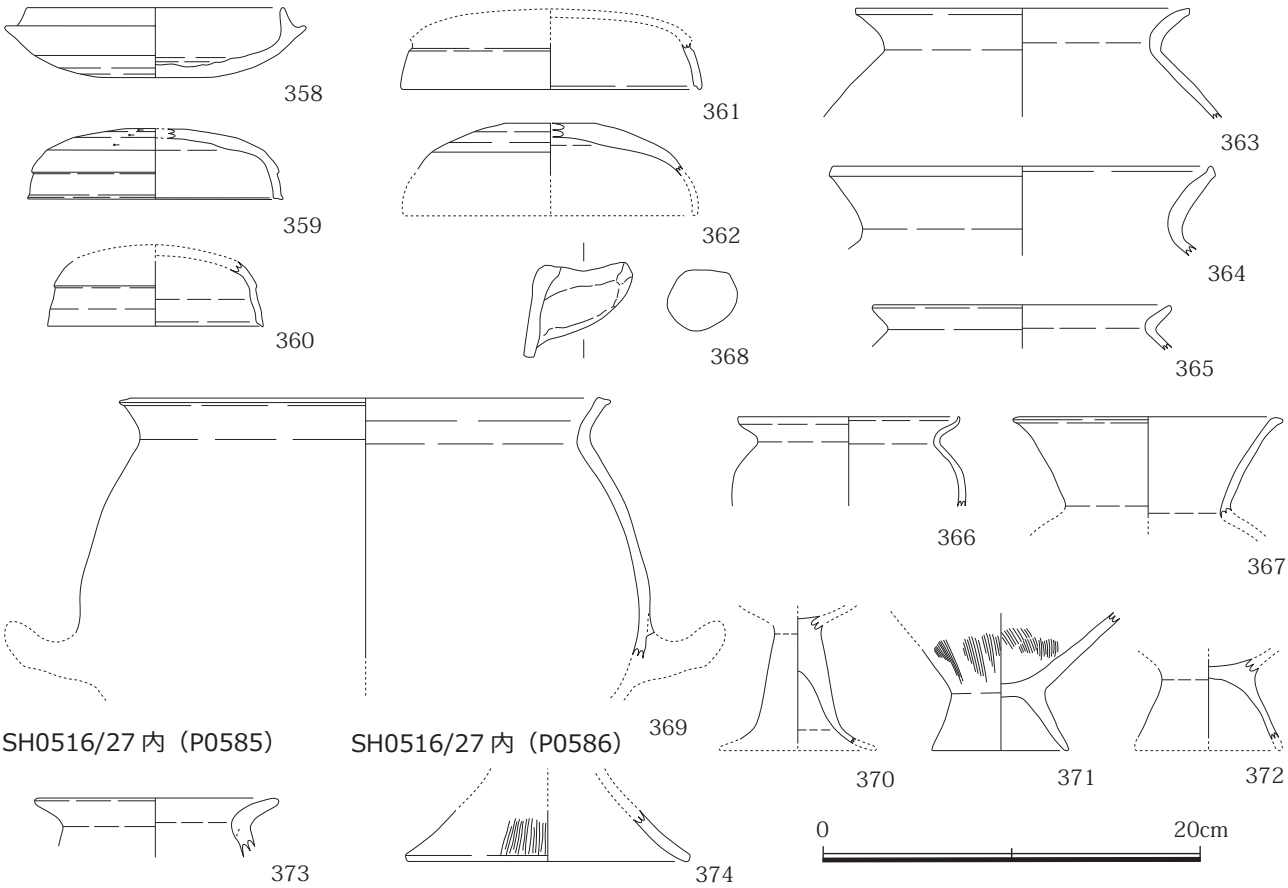


Fig.49　SH0517/27・SH0516/30 出土遺物（S=1/4）

377 は SH0513 の南辺周壁溝から出土した杯蓋である。379 は土師器の高杯で，脚端部は屈折する。外面には縦方向のミガキが認められる。

全体的な出土量は少ないが，5 ～ 6 世紀代の遺物が出土している。

SH0507/15（Fig.51）

380 ～ 384 が SH0507/15 の出土遺物である。380 ～ 382 は須恵器である。382 は壷で頸部には 2 段にわたって沈線を巡らせる。上段の沈線は 3 条で，下段の沈線は 2 条となり，その間に波状文を施す。体部は内面に平滑な工具のあて具痕が残り，外面にはタタキ後カキ目を施している。比較的残りがよく，まとまった状態で出土した。384 は宇田型甕であろう。

このように，いずれも 6 世紀代の遺物が中心に出土している。

SH0504/05（Fig.52）

385 ～ 389 が SH0504/05 の出土遺物である。385 は須恵器の杯蓋であるが，極めて扁平となっている。386 は土師器の甕で，口縁端部をつまみ上げる。387 は

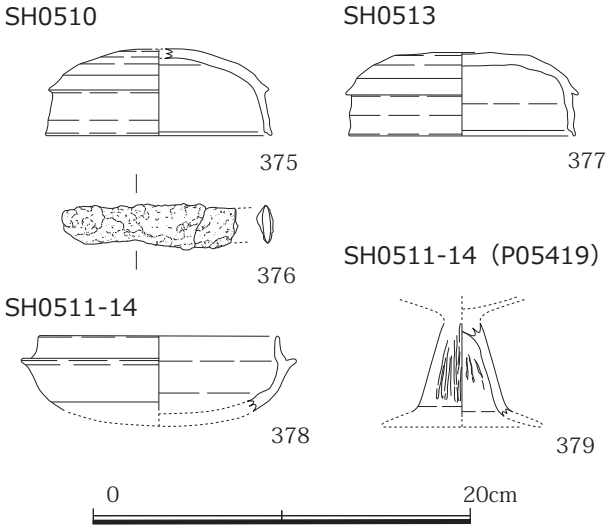


Fig.50　SH0510-14 出土遺物（S=1/4）

P0509 から出土した土師器の甕ないし鍋で，386 と同様，口縁端部をつまみ上げる。388 は P0596 から出土した須恵器杯身で，389 は P05102 出土の土師器甕である。同様に口縁端部をつまみ上げる。

このように，いずれも 6 世紀末から 7 世紀の遺物が出土している。

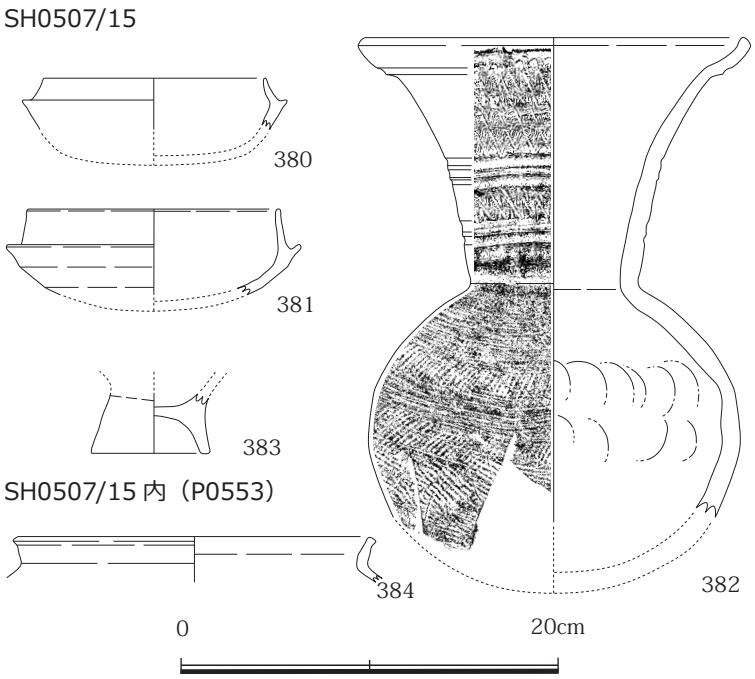


Fig.51　SH0507/15 出土遺物（S=1/4）

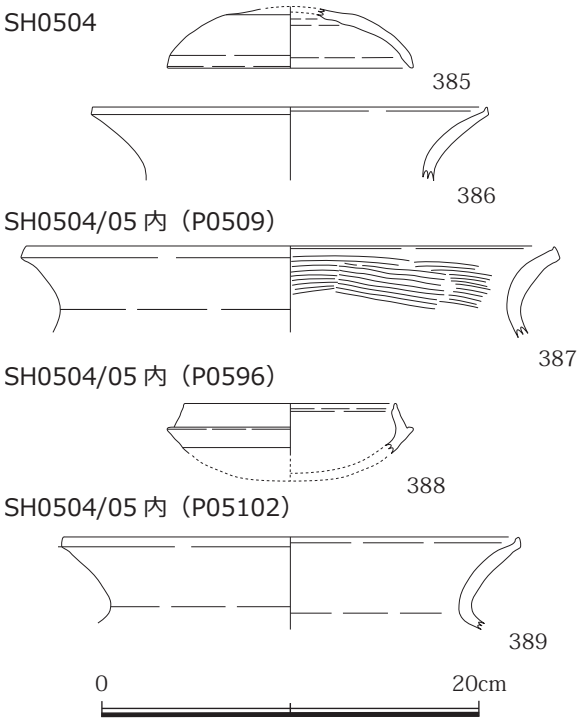


Fig.52　SH0504/05 出土遺物（S=1/4）

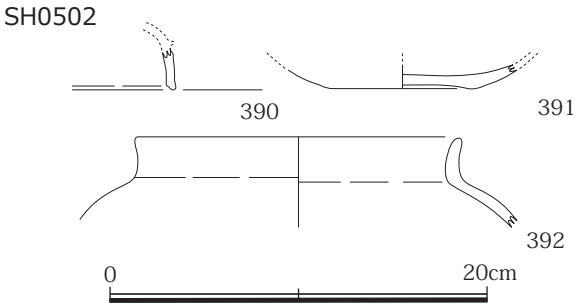


Fig.53　SH0502 出土遺物（S=1/4）

SH0502（Fig.53）

390 ～ 392 が SH0502 の出土遺物である。390 は須恵器杯蓋，391・392 は土師器の壷である。392 は短く直立した口縁を持つ。

出土遺物は少ないが，概ね 6 世紀頃の遺物が出土している。

SH0542（Fig.54）

393 は須恵器の杯身である。394 は土師器の皿で，内部の P05163 から出土している。394 は中世の混在遺物であるが，他は概ね 6 世紀代の遺物で占められる。

SH0548（Fig.54）

395 ～ 401 が SH0548 の出土遺物である。395・396 は須恵器で，396 は比較的口径が小さい。397 ～ 401 が土師器となる。397 はやや厚手の椀で，口縁端部を外方へつまみ出す。399 は宇田型甕である。401 は鍋になろうが，宇田型甕の口縁部形状と酷似する。

このように，6 世紀代の遺物がよくまとまっている。

SH0562（Fig.54）

402 は土師器のく字甕である。出土遺物は少ないが，6 世紀代のものが中心である。

SH0537/40（Fig.54）

403 ～ 413 が SH0537/40 の出土遺物である。調査段階で 2 棟を区別できず，一括して掘削してしまっている。

403 は須恵器の杯身，404 が同杯蓋となる。405 は有蓋高杯の蓋のつまみ部分である。406 も須恵器であり，ハソウの可能性が高い。底部は回転ヘラ削りで仕上げられている。

407・408 は土師器甕の口縁部片で，409 は鍋の把手部分である。断面が比較的四角い。411 はミニチュア土器である。

412 は土師器の甕ないし壷で，P05143 から出土している。413 は鍋の把手部分で，P05440 から出土している。

いずれも 6 世紀代の遺物が中心である。

2　溝

SD0453（Fig.55）

414 ～ 425 が SD0453 の出土遺物である。420 までが須恵器で，414 の杯身，415・416・418 の杯蓋，417 の短頸壷，419 の長頸壷，420 の広口壷等がある。418 は所謂，杯Ｂの蓋で，当調査区で唯一の杯Ｂである。419 の頸部は細く，外面には自然釉がかかっている。断面には気泡のために焼成時に膨れてしまっているが，全体はロクロナデで成形される。420 の壷は頸部中央に 1 条の沈線を巡らし，他はロクロナデで仕上げる。

421 はおそらく弥生土器の壷の頸部片であり，混入品であろう。SH0554 の由来であろうか。

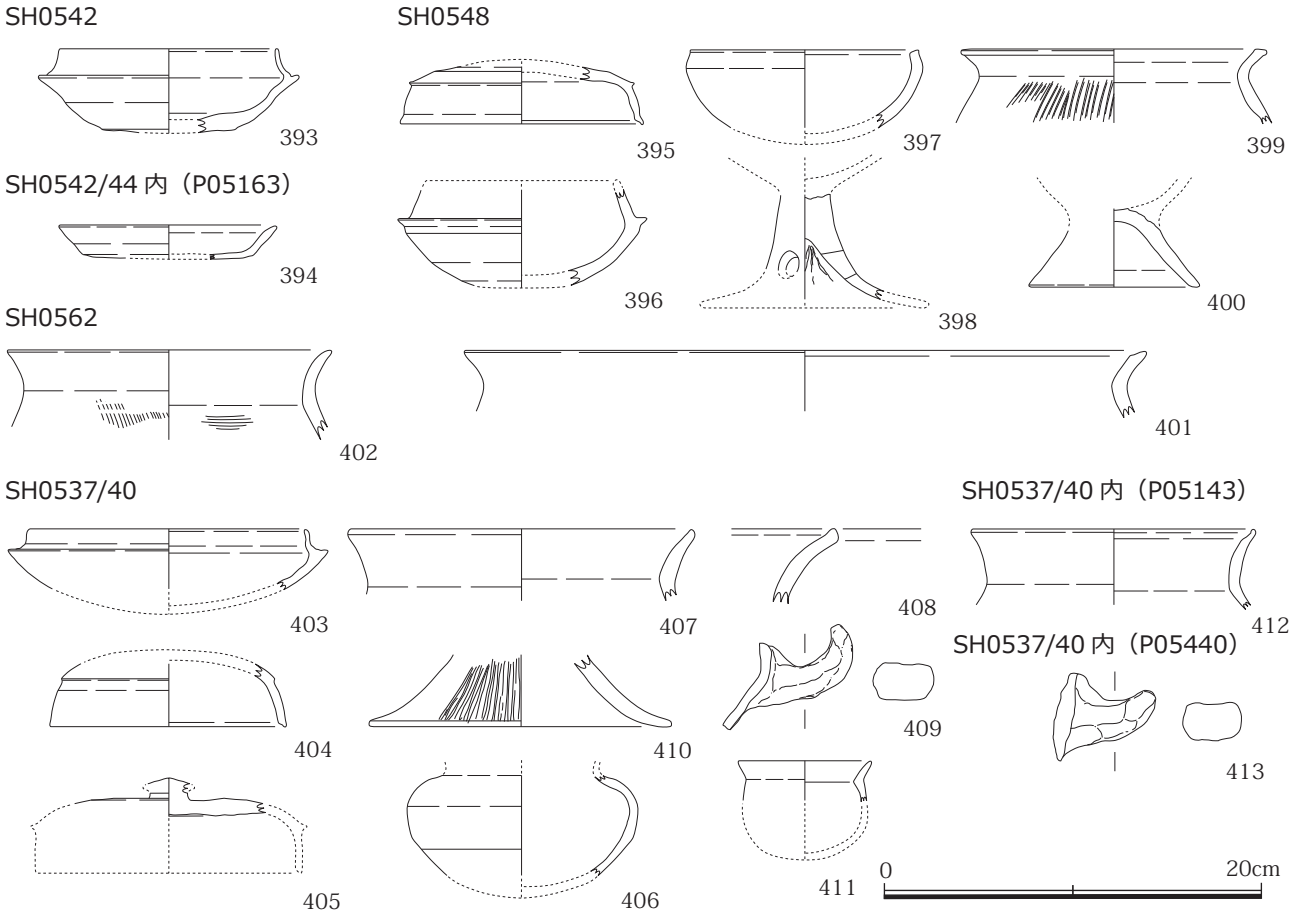


Fig.54　SH0542・SH0548・SH0562・SH0537/40 出土遺物（S=1/4）

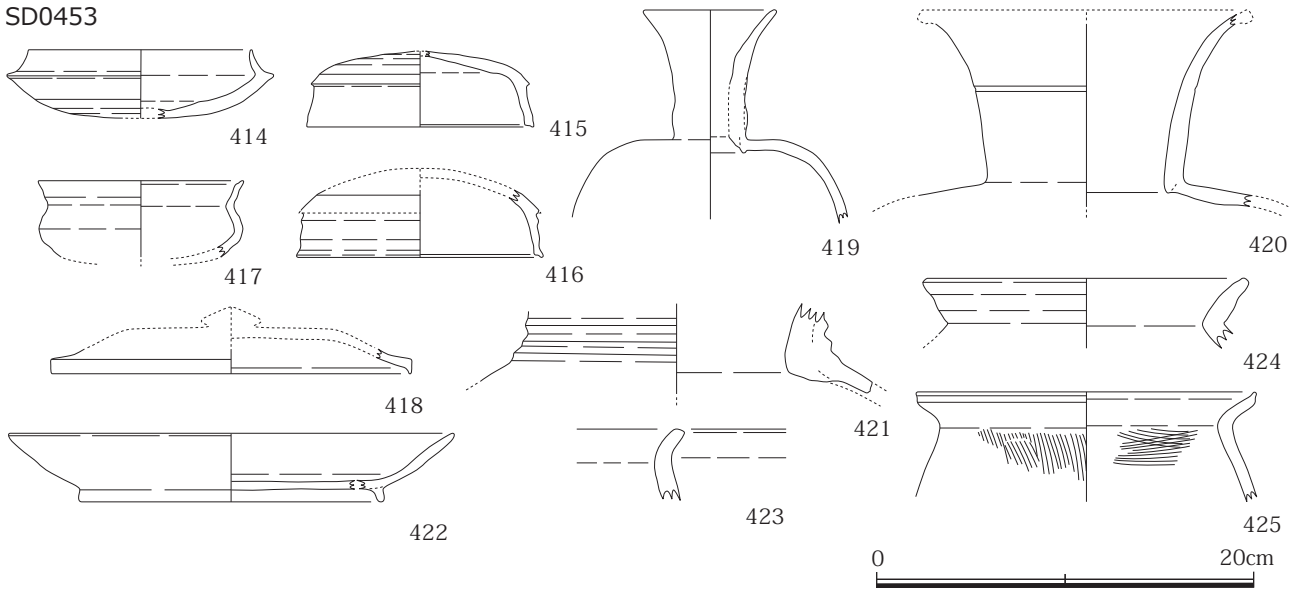


Fig.55　SD0453 出土遺物（S=1/4）

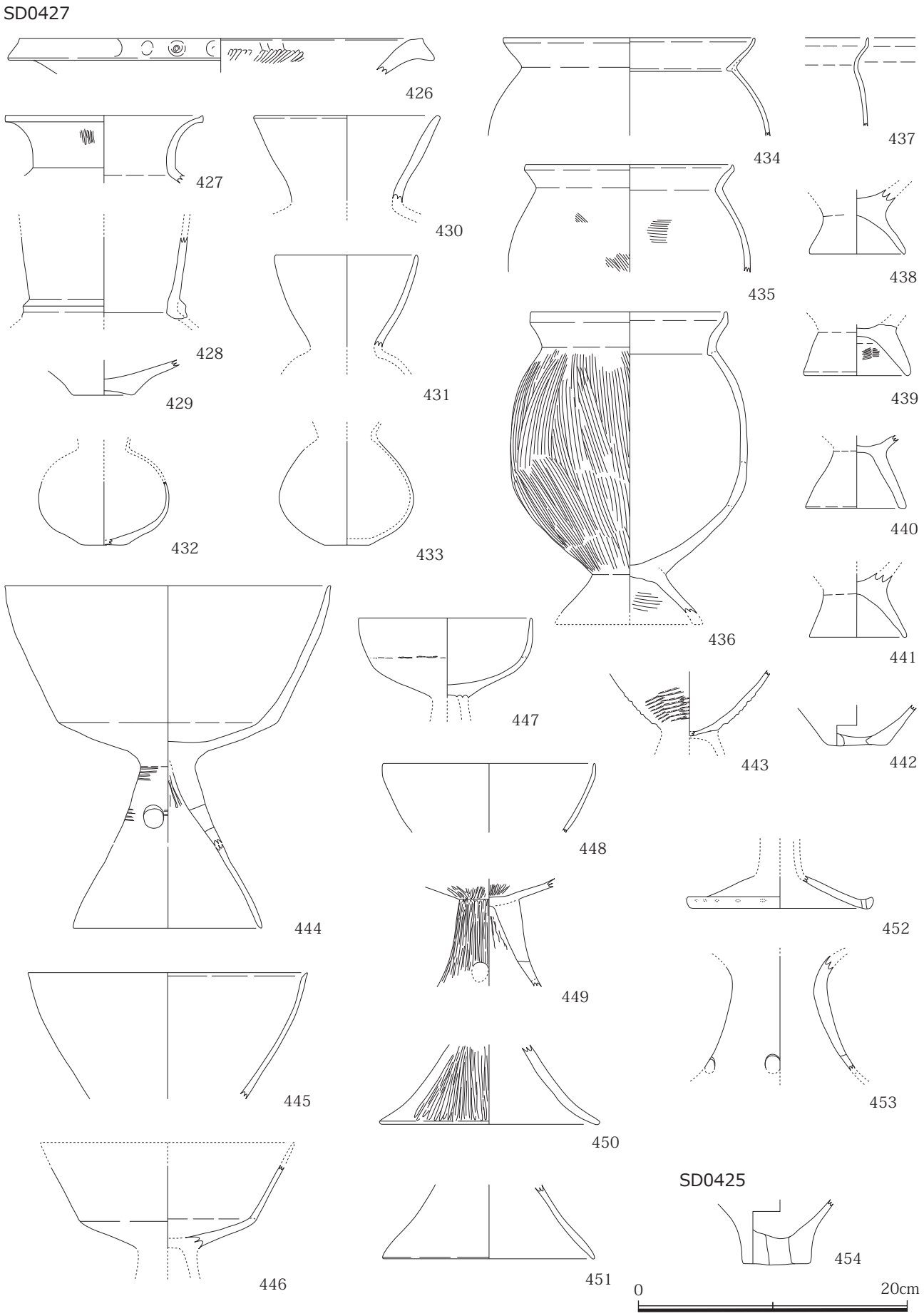


Fig.56　SD0425/27 出土遺物（S=1/4）

422 ～ 425 までが土師器で，422 は高台付の杯，423 は鍋，424・425 が甕となる。422 の杯の出土も，当調査区では稀有な存在である。425 は口縁端部をつまみ上げる。

このように，6 世紀代の須恵器や土師器が混じるが，中心となるのは 7 世紀代のものだと想定される。

SD0425/27（Fig.56）

426 ～ 453 が SD0427，454 は SD0425 の出土遺物である。

426 以下，全て弥生土器であるが，433 までが壷となる。426 は全体に磨滅が著しく文様が不鮮明であるが，口縁内面には綾杉文 1 段半が施されている。口縁端部には円形浮文があったのか，竹管刺突が認められる。427 の頸部外面には縦方向のミガキが認められる。428 は長頸壷になろう。431 の口縁は明確に内湾する。432・433 は甑壷になると考えられる。

434 ～ 443 までが甕である。434 は薄手で白色系の特徴ある胎土であり，内湾する口縁を持つ。436 は受口甕で，半分くらい残存している。443 はタタキ甕であるが，脚台部が剥落したような痕跡が残る。

444 ～ 452 は高杯である。444 は口径 23.9cm，稜径 16.2cm で，径稜比率は 67.8 となる。脚部の透かしは 3 箇所あけられる。445 と 446 は図化後に接合した。

SD0442/32

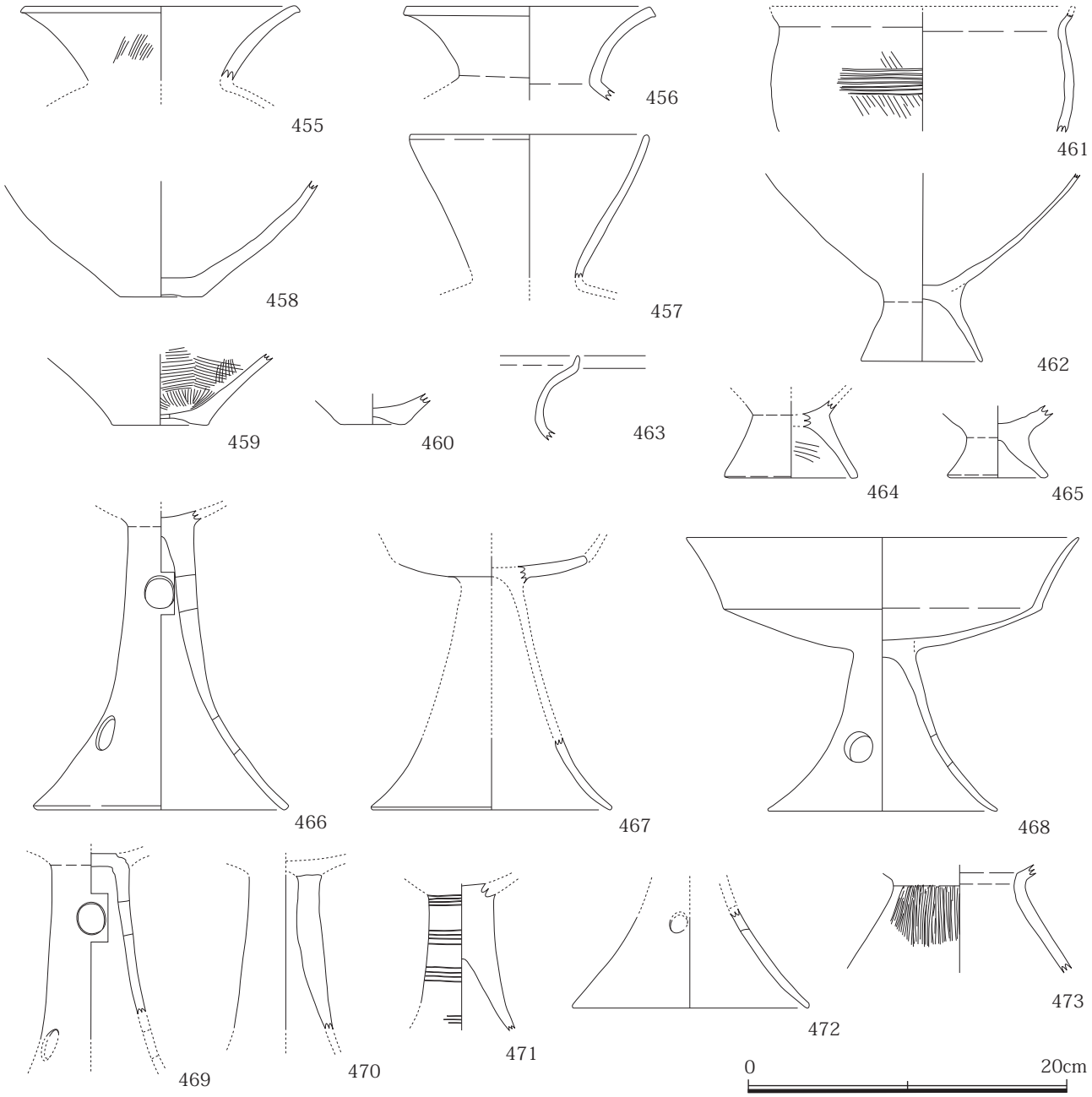


Fig.57　SD0442/32 出土遺物（S=1/4）

447は椀形の高杯になる。452は脚端部に約2cm間隔で，直径3mm程度の円孔があけられている。453は器台であろう。

454はSD0425出土の甕の底部片であるが，底の中央が穿孔されている。

このように多くの遺物が出土しており，概ね廻間式を中心としていることが明らかである。

SD0442/32（Fig.57）

455～473がSD042/32の出土遺物である。455～460までが壷である。457は内湾した口縁形状を呈する。461～465までが甕である。461体部に7条の直線文を施している。466～472までは高杯となる。466と469は脚部の上部に1箇所の円孔をあけ，下部には同じ円孔をおそらく3箇所施している。471には3～4条の直線文が，少なくとも4段以上施される。468の口径は24.4cm，杯部の深さは6.4cmで，径深比率は26.2となる。脚部には円孔が3箇所あけられる。473は中空の器台で，よく磨かれている。

このように，山中式の遺物が中心として出土している。

SD0430/49/82/77（Fig.58）

474～480までがSD0430/49/82/77の出土遺物である。474～476が壷で，474は口縁上面に面をもつものの，肝心の文様が磨滅のために不明である。477・478は高杯で，山中式の範疇である。479は甕の底部で，480は須恵器杯B身である。

480は混入と考えられ，山中式が中心である。

SD0446/38（Fig.58）

481～488がSD0446/38の出土遺物である。481は内湾する長頸壷である。482は鉢となる。483～486が甕で，486はS字甕の脚台部になるかもしれない。487・488は高杯で，487は椀形の高杯になる。

このように，廻間式前後の遺物が比較的まとまっている。

SD0441/44（Fig.58）

489～493がSD0441/44の出土遺物である。489・490は高杯である。489の杯部はすでに段が消滅している。491・492は台付甕の脚台部である。493は縄文土器で，おそらく中期後半の胴部破片であろう。

493は混入であるが，他は廻間式の遺物が中心となっている。

SD0447（Fig.58）

494～496がSD0447の出土遺物である。494・495は壷で，496は台付甕である。

全体の出土量は少ないが，山中式から廻間式頃の遺物が中心として出土している。

SD0440/86（Fig.58）

497・498がSD0440の出土遺物である。497は壷で，498は甕の底部になろう。内面には焦げの跡が残る。

全体の出土量は少ないが，山中式前後の遺物が出土している。

SD0424/31（Fig.58）

499のく字甕と500の山中式の高杯が出土した。出土量は少ないが，山中式前後の遺物が出土している。

SD0405/11/61/68（Fig.59）

501～518がSD0405/11/61/68の出土遺物である。501～509までが壷である。501の口縁端部に6条以上の凹線を施し，内面には2段にわたる放射状の刺突が施される。502～504は同一個体と考えられる。504の外面には斜め方向の太いタテミガキが施される。505も504の底部と似たつくりであるが，厚さが薄い。507は口縁内面に綾杉文があるが，磨滅が著しく判然としない。508の外面は縦方向に磨き，内面は横方向のハケが残る。509は受口状口縁の壷であろう。内面にはオサエの痕跡が観察される。

510は甕である。口縁は短く外方へ直線的に開く。

511～517までが高杯である。511・512は盤状の高杯で，511にはヘラミガキが施される。513は盤状高杯の脚部になろう。514は小型高杯の脚部で，密なミガキが施される。515は加飾された高杯の脚部で，直線文と貝殻かと思しき刺突が繰り返される。ミガキも密に施され，円孔は3箇所あけられる。516は廻間式の高杯と考えられる。

518は大型の鉢である。口縁には片口がつけられ，体部には2個1対のアーチ状把手が貼り付けられる。

516の高杯は混在と考えられるが，他は八王子古宮式併行の遺物が多く出土している。

SD0409（Fig.60）

519～521がSD0409の出土遺物である。519は土師器の皿である。520は緑釉陶器の椀である。当調査区では唯一の出土である。521は須恵器の壷で，波状文と沈線を繰り返す。

弥生土器や古墳時代の土師器，須恵器等，遺物の混在が著しいが，519 の土師器皿の 15 ～ 16 世紀頃が本来の遺構の年代だと推測される。

SD0396/121（Fig.60）

522・523 は SD0396，524 が SD03121 の出土遺物である。

522 は弥生土器の壷で，523 は須恵器の壷である。524 は弥生土器の壷で，底部が穿孔される。

この他にも，弥生土器や須恵器，中近世の陶磁器や瓦片が含まれており，遺物の混在が著しい。遺構自体は近現代の地割溝だと考えられる。あるいは中世頃の溝が近現代まで重複して存在しているのかもしれない。

SD03110（Fig.60）

525 ～ 528 が SD03110 の出土遺物である。525 ～ 527 は高杯で，528 は台付甕である。525 は山中式の古手の形状をしており，内外面とも太めのミガキを施す。526 は直線文を少なくとも 5 段以上施す。

このように，山中式の遺物が中心となっている。

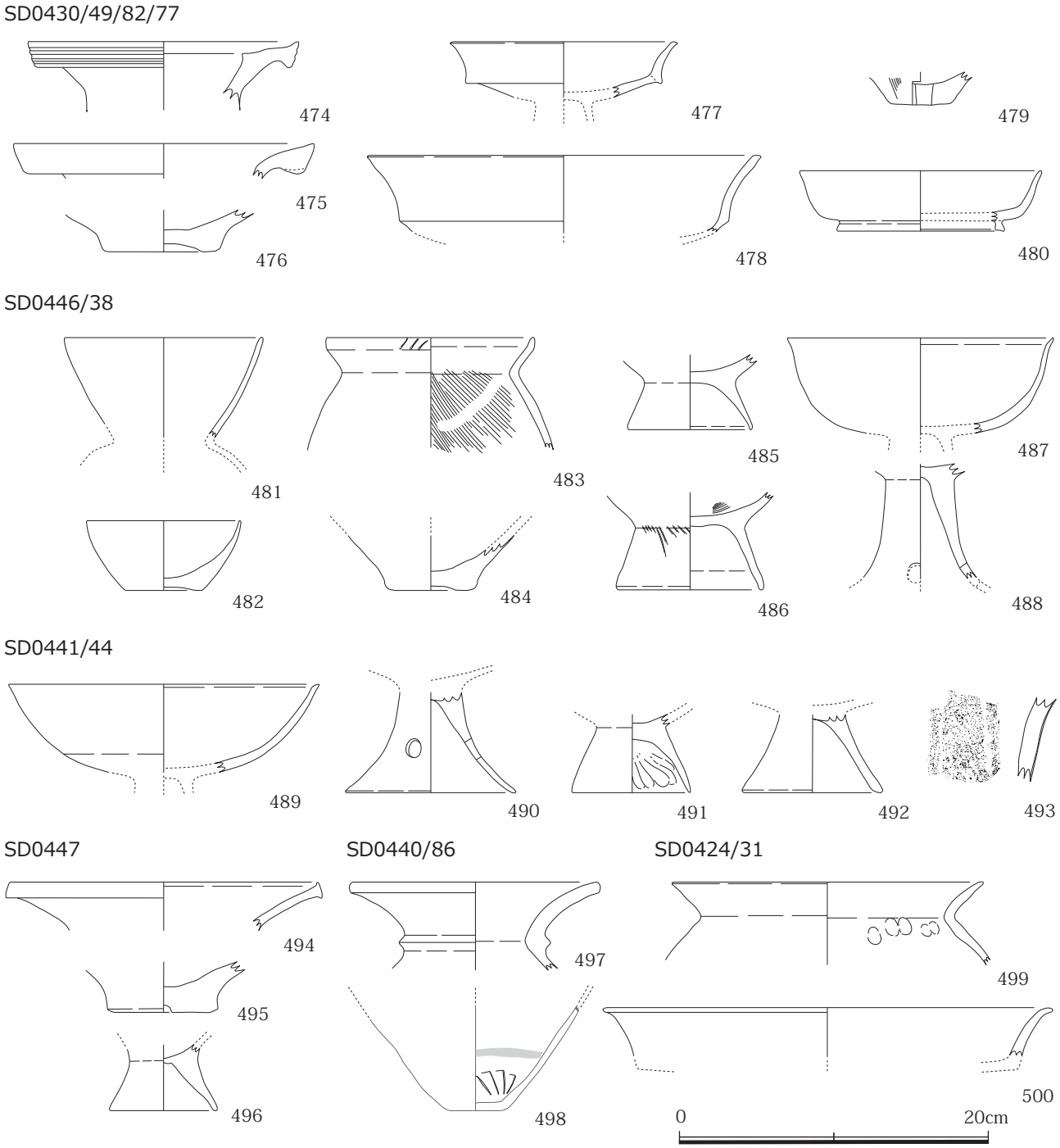


Fig.58　SD0430/49/82/77・SD0446/38・SD0441/44・SD0447・SD0440/86・SD0424/31 出土遺物（S=1/4）

SD0405/11/61/68

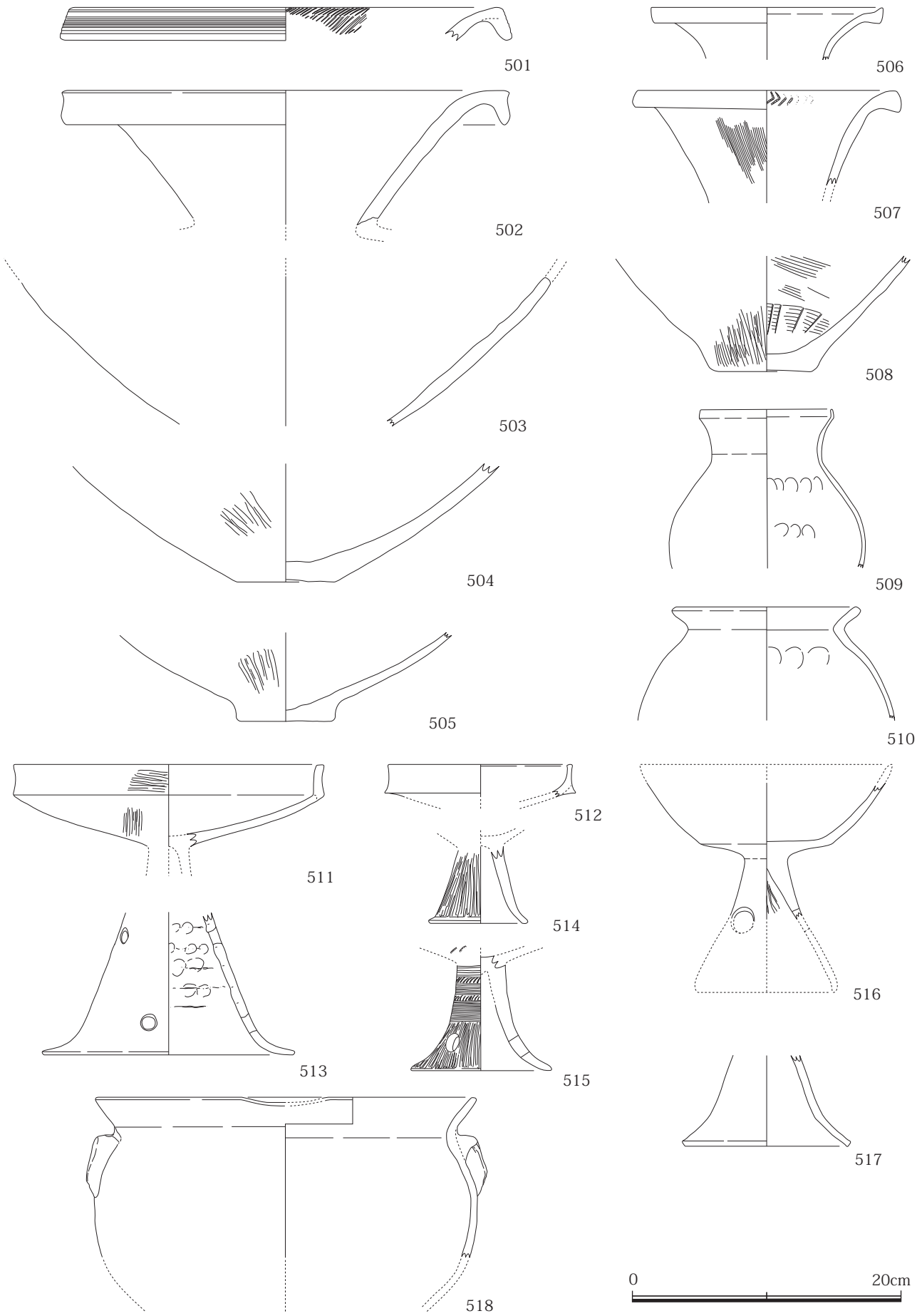


Fig.59　SD0405/11/61/68 出土遺物（S=1/4）

SD0417（Fig.60）

529 は弥生土器の壷で，530 は甕となる。出土遺物は少ないが，弥生時代後期頃の遺物が主体となっている。

SD0414（Fig.60）

531 は弥生土器で，台付甕の脚台部である。出土遺物は極めて少ないが，概ね弥生土器で占められる。

SD0460（Fig.60）

532 は弥生土器の甕である。口径 25.0cm と比較的大型品である。出土遺物は極めて少ないが，概ね弥生土器で占められる。

SD0466（Fig.60）

533 ～ 535 が SD0466 の出土遺物である。533・534

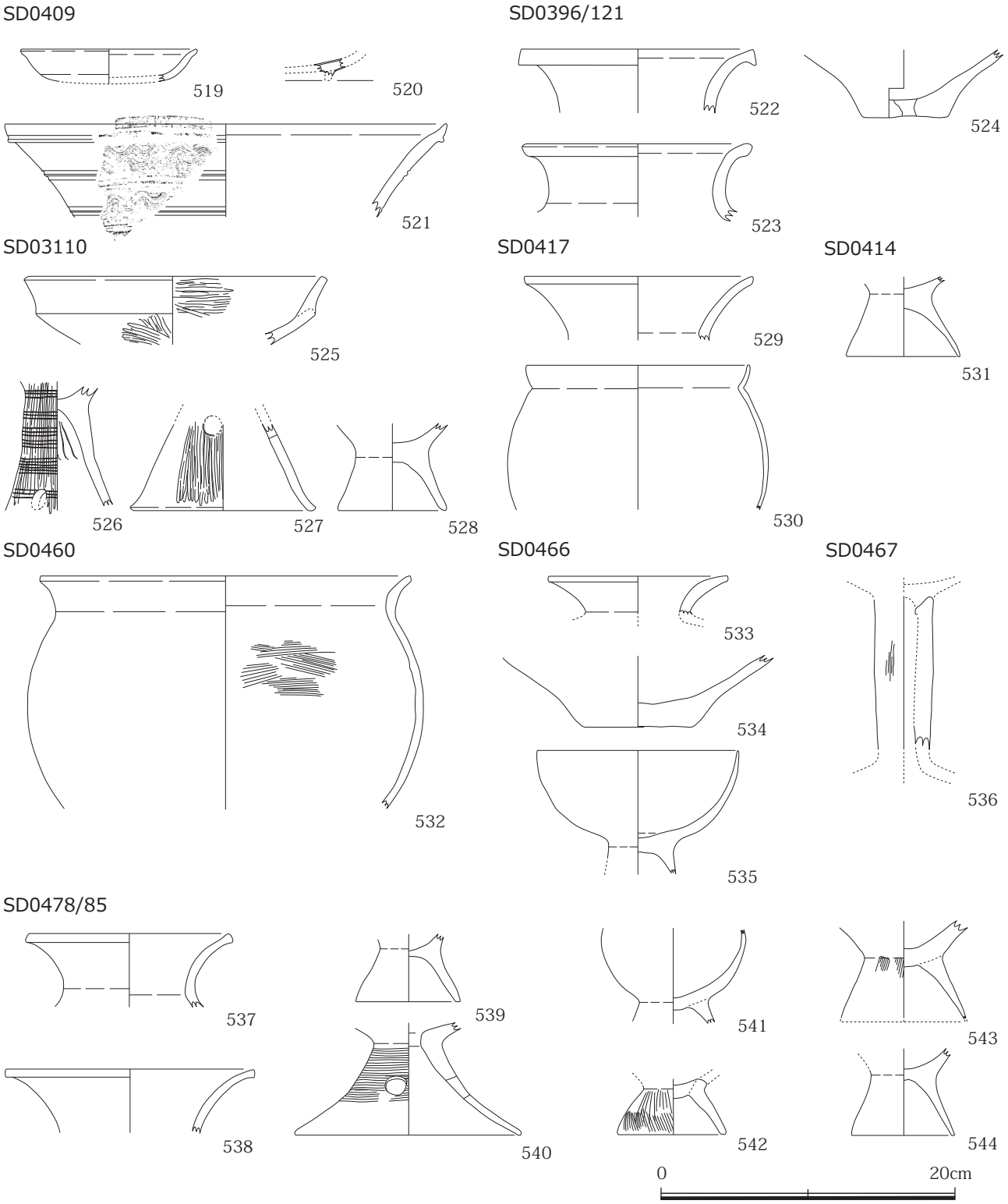


Fig.60　SD0409 ほか出土遺物（S=1/4）

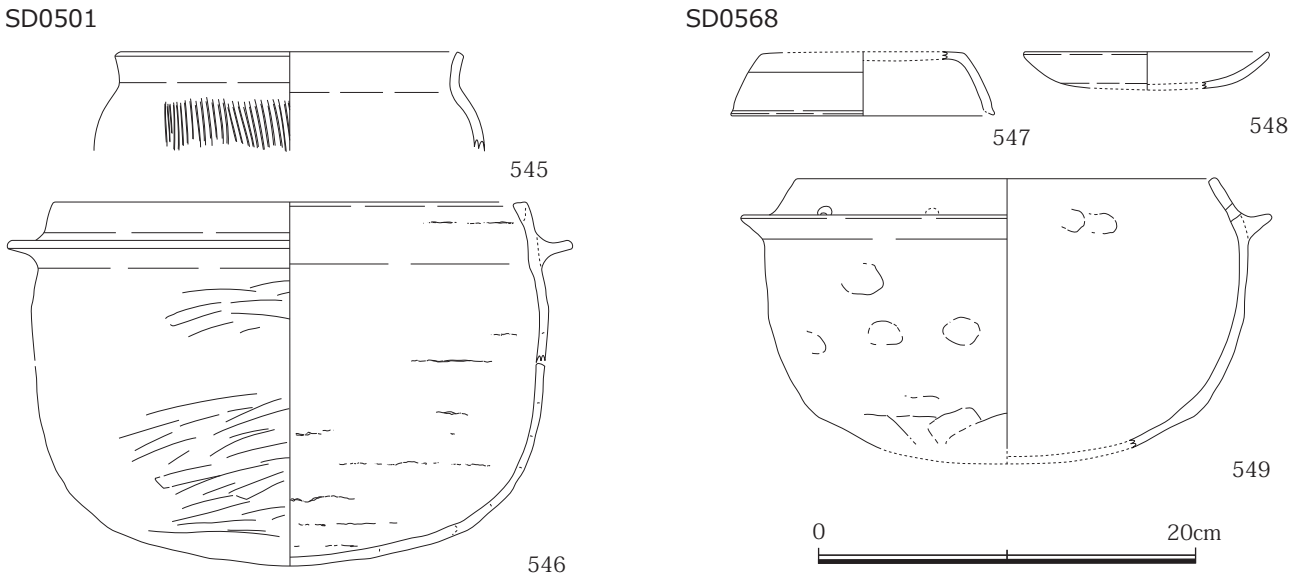


Fig.61　SD0501・SD0568 出土遺物（S=1/4）

とも弥生土器の壷で，535 は椀形の高杯である。このように，山中式から廻間式前後の遺物がまとまっている。

SD0467（Fig.60）

536 は弥生土器の高杯であろう。細身の筒形で，杯部，脚端部とも欠落するが，外面にはミガキが施される。弥生土器が主体である。

SD0478/85（Fig.60）

537 ～ 544 が SD0478/85 の出土遺物である。537・538 はともに壷で，539 が台付甕，540 が器台となる。540 の脚部には 6 条 1 単位の直線文が 4 単位観察される。541 は脚付短頸壷になろうが，他は台付甕である。

出土遺物は弥生土器で占められ，概ね山中式から廻間式の頃のものが主体であろう。

SD0501（Fig.61）

545 は須恵器の甕である。口縁は直立気味で，端部は丸みをもつ。内面は平滑にロクロナデされるが，外面にはハケが残されている。ハケは土師器の製作技法が取り入れられたのであろう。

546 は土師器の羽釜である。口径は 26.8cm あり，器高は約 20cm に復元される。底部は比較的平たい形状をしており，鍔部以下は細かい単位のケズリが施される。また，煤の付着も顕著である。

出土遺物は多くはないが，弥生土器や土師器，須恵器が混在している。遺構自体は羽釜の年代である，15 ～ 16 世紀頃と考えられる。

SD0568（Fig.61）

547 ～ 549 が SD0568 の出土遺物である。547 は須恵器の蓋であろうか。口縁内面を僅かに欠損する。548 は土師器の皿で，549 が羽釜となる。549 は 2 孔を 1 単位とする吊手の孔が 2 箇所用意されていたようである。鍔部以下には煤が付着するが，上半はオサエ，下半は板ナデの面が残る。

出土遺物には土師器や須恵器が混在するものの，土師器皿や羽釜の中世の遺構だと判断できる。

3　単独ピット（Fig.62）

550 ～ 571 までを図示した。550 ～ 557 までが第 4 次調査区からの出土である。552 の須恵器杯蓋と 553 の土師器椀は，5 ～ 6 世紀頃の組み合わせとして認識できる。554 は須恵器の甕で，内面はロクロナデ，外面にはタタキを施す。556 は鞴の羽口の破片である。557 は鉄製品で，ヤリガンナあるいは刀子等になろう。

558 ～ 571 は第 5 次調査区の出土である。558・561 は須恵器杯蓋で，562 が須恵器のハソウの口縁部である。563・567 は宇田型甕で，568・570 の高杯は山中式になろう。571 は土師器の甑である。

いずれも山中式から廻間式にかけてか，古墳時代の 5 ～ 6 世紀代のものであり，他の遺構出土の遺物とかわりない。

4　包含層ほか（Fig.63・64）

572 ～ 607 が包含層として取り上げたものである。572 ～　576 は弥生土器の壷である。572 は口縁端部を欠損するが，頸部に円孔を 2 箇所以上施す。573 は口

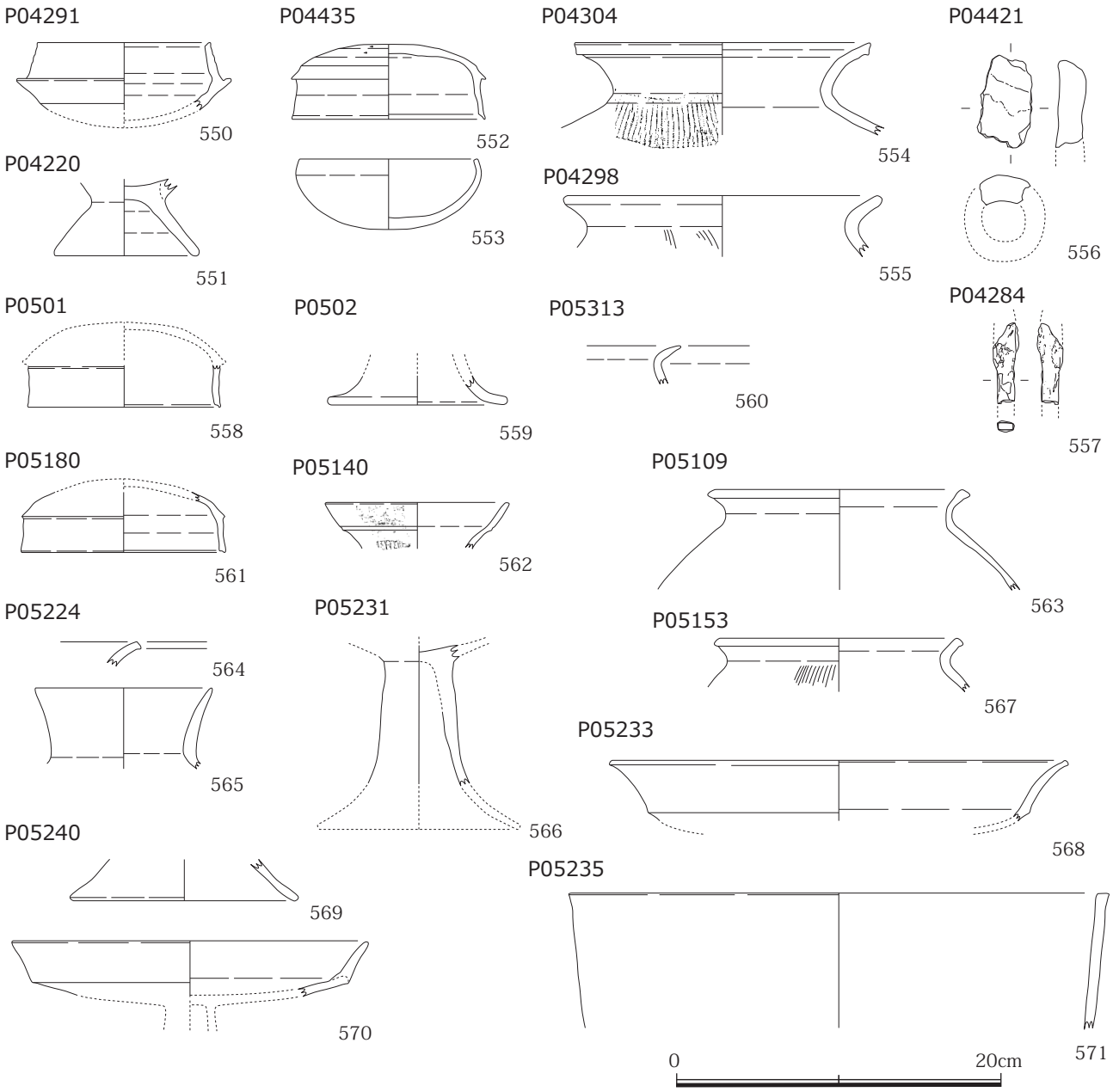


Fig.62　単独ピット出土遺物（S=1/4）

縁内面に綾杉文を 1 段とその下に円形刺突を巡らすようである。

577 ～ 581 は甕である。580 は弥生土器であろうが，他は土師器の可能性が高い。582・583 は鍋の把手部分である。

584 ～ 588 は高杯である。584 は山中式の高杯で，585 も山中式から廻間式の頃のものである。他は土師器で 5 ～ 6 世紀代の所産であろう。

589 ～ 606 が須恵器である。589 ～ 596 までが杯身であるが概ね 6 世紀代のものである。599 ～ 601 が杯蓋であるが，同時期のものである。597・598 は高杯である。597 は無蓋高杯であり，外面には波状文が施される。598 は方形透かしがあけられている。602 は杯 B 身であり，7 世紀以降の所産であろう。

603 は須恵器の短頸壷になろう。ロクロナデで成形される。604 ～ 606 は須恵器の甕である。

607 は唯一の灰釉陶器の椀である。口縁部を欠損するが，内外面にツケガケの痕跡が認められる。

608 ～ 613 は表面採取したものである。山中式頃の弥生土器と 5 ～ 6 世紀の須恵器，土師器である。

614 ～ 616 は，第 4 次調査区の調査開始当初に，中央南北セクション沿いにサブトレンチを掘削した際に出土したものを一括した。いずれも弥生土器の高杯である。

617 は第 4 次調査区の BJ ライン南北セクションから出土した。弥生土器で，高い台が付く甕になろうか。618 は第 4 次調査区の 14 ライン東西セクションから出土し

包含層

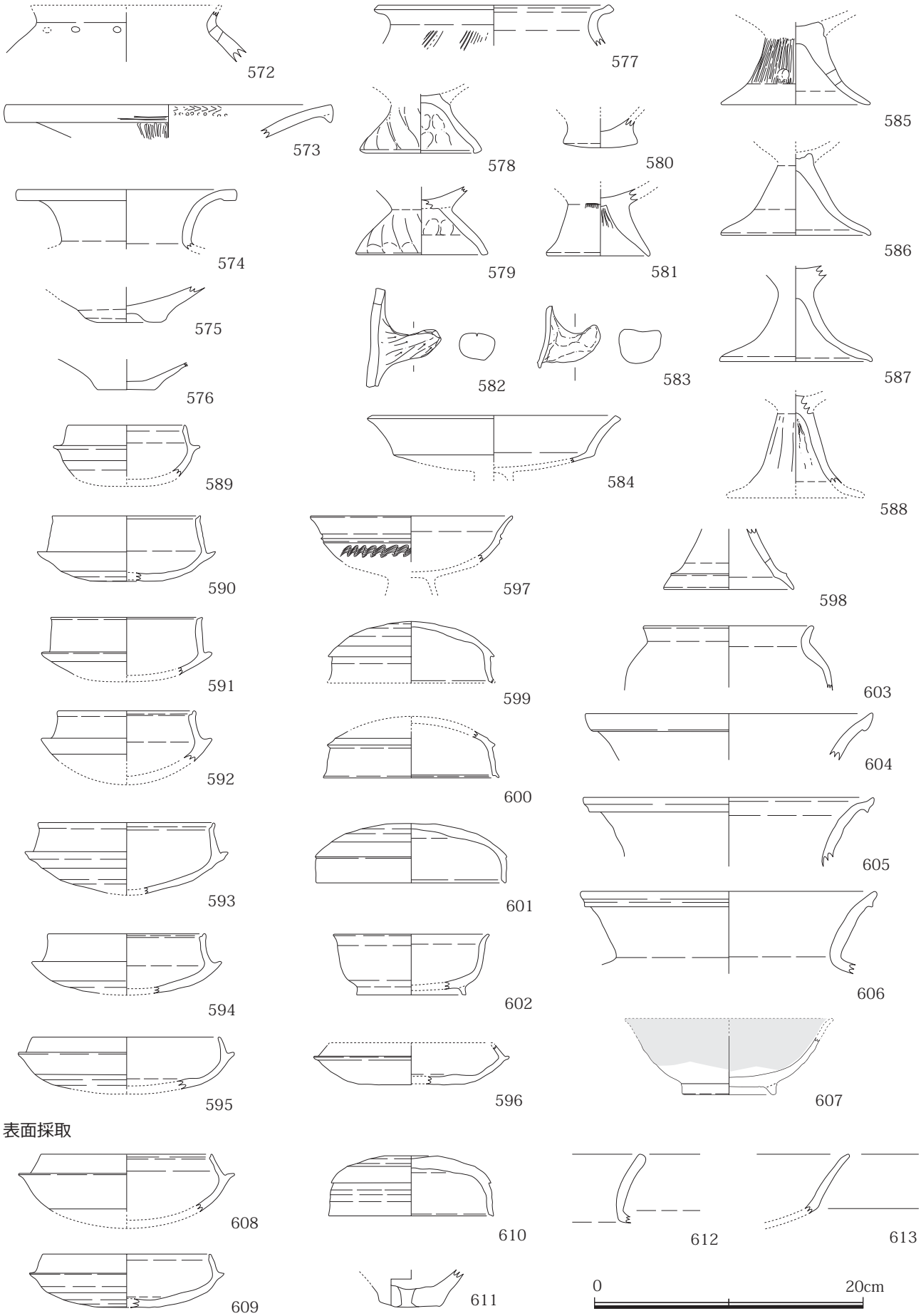


Fig.63　包含層･表面採取出土遺物（S=1/4）

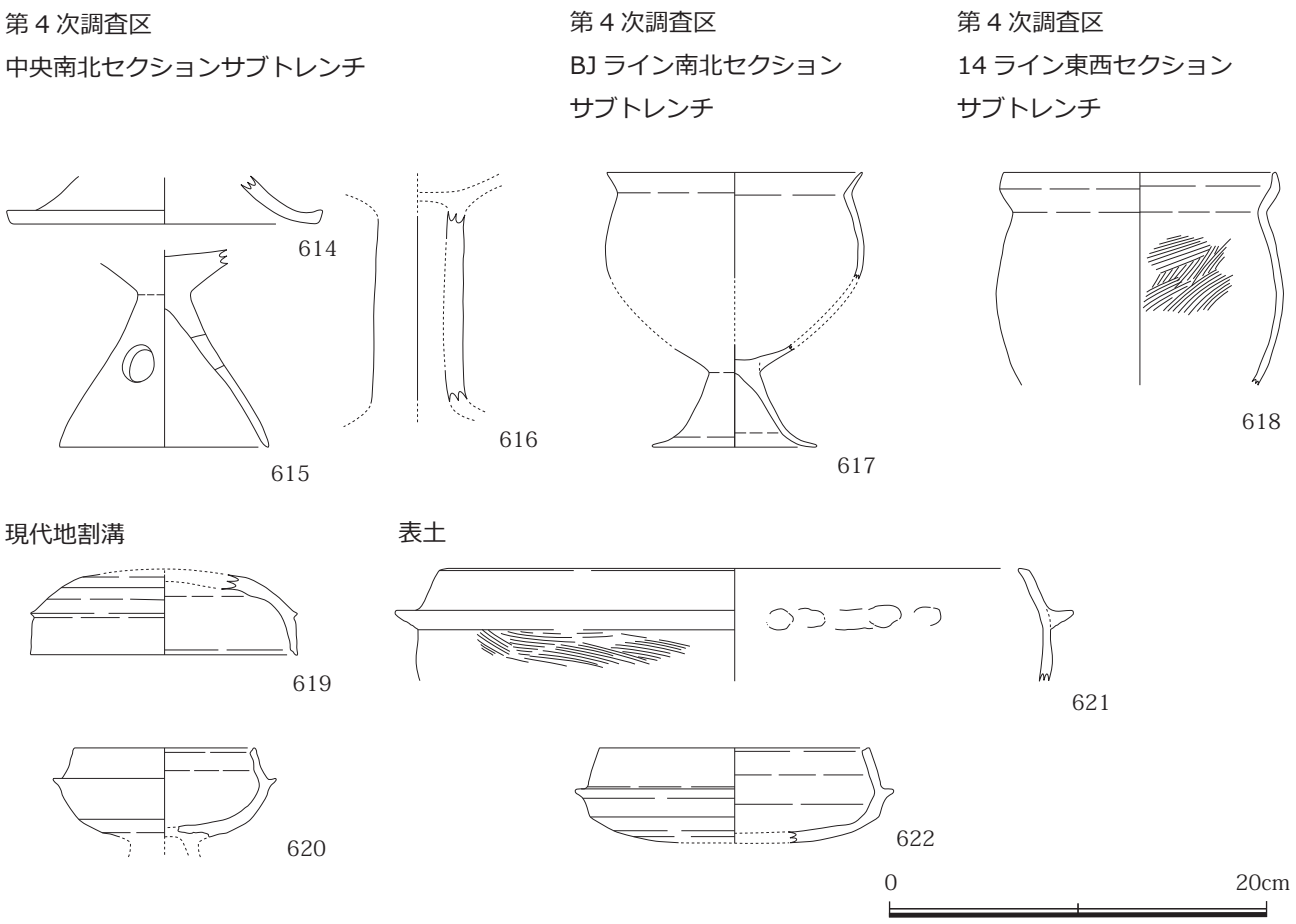


Fig.64　サブトレンチ･現代地割溝･表土出土遺物（S=1/4）

た。弥生土器の受口甕である。

619・620 は第 5 次調査区の現代の地割溝から出土した。いずれも須恵器であるが，620 は接合部が剥落していることから，高杯であることが分かる。

621・622 は第 5 次調査区の表土除去の際に採取したものである。621 は土師器の羽釜で，本来は SD0501 の出土である可能性が高い。622 は須恵器の杯身である。いずれかの遺構に伴ったものであろうが，不明である。

5　その他

時間的な制約から図示し得なかったものがあるので，以下，特徴ある遺物のみ列挙しておく。

SD0466，SD0446，SH0556 からは，断面四角形の砥石が出土している。いずれもよく使用されている。また，筋砥石として考えられるものが，SD0430 から 1 点のみ出土している。P04307 から水晶の砕片も確認されており，これらの加工に利用された可能性もあるが，玉造りに係る遺物が希少であることは明記しておきたい。

また，SH0455 からは磨製石鏃の破片と考えられる，穿孔のある片岩の磨製石器片が出土している。この他にも，SH0465 からは人頭大の軽石が，SK0474 からは磨石，BF12 区の下部の竪穴住居 (SH0462-65 か) からはサヌカイト製の石匙，BE08 区の地山直上で，遺構に伴わないものの柱状片刃石斧等が出土している。

Tab.5-1　遺物観察表

報告番号	調査次数	実測番号	種別	器種	地区	遺構 / 層位	法量			調整･技法の特徴	胎土 / 礫の大きさ		色調	焼成	残存度	特記事項
							口径	底部径	器高							
001	4	009	須恵器	杯蓋	BJ11	SK0474　最下層	12.2		4.5	内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	2	青灰	良好	1/3	
002	4	010	須恵器	杯蓋	BJ11	SK0474　上層 0-20cm	13.2			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	3	灰白	良好	口縁にて 1/8	
003	4	004	須恵器	杯蓋	BJ11	SK0474　個別⑤＋ 下層 (20cm- 基底面)	14.5		3.7	内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	灰	良好	口縁にて 1/4	
004	4	007	須恵器	壷	BJ11	SK0474 上層 0-20cm				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ→沈線	密	-	灰白	良好	体部破片	外面に降灰痕あり
005	4	008	須恵器	高杯	BJ11	SK0474　下層 (20cm- 基底面)		9.0		内外 ; ロクロナデ	密	2	灰	良好	杯部を欠く	
006	4	002	須恵器	壷	BJ11	SK0474　個別⑥				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ→タタキ	密	-	青灰	良	底部にて完形	
007	4	013	須恵器	ハソウ	BK ライン	SK0474 南北ベルト撤去				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ→刺突	やや粗	2-5	灰	良	体部破片	

Tab.5-2　遺物観察表

008	4	316	須恵器	ハソウ	BJ11	SK0474　個別①				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 沈線 , 円孔	密	1-2	灰	良好	口縁を欠く	
009	4	006	土師器	椀	BJ11	SK0474　下層 (20cm- 基底面)	12.6			磨滅のため不明	やや粗	2-5	淡黄橙	良	口縁にて 1/3	
010	4	011	土師器	く字甕	BJ11	SK0474　下層 (20cm- 基底面)	13.6			磨滅のため不明	密	1-3	内 ; 灰褐 外 ; 淡赤褐	良	上半部にて完形	外面下半に煤付着
011	4	001	土師器	く字甕	BJ11	SK0474　上層 0-20cm	14.8			磨滅のため不明	密	2-5	黄褐 - 赤褐	良	口縁にて 1/4	
012	4	012	土師器	く字甕	BJ11	SK0474　上層 0-20cm	17.6			磨滅のため不明	やや粗	1-4	内 ; 浅黄褐 外 ; 灰褐 - 黒灰	良	口縁にて 1/8	壷かも
013	4	003	弥生土器	受口甕	BJ11	SK0474　上層 0-20cm	17.6			口外 ; 刺突	密	1-5	淡褐	良	口縁にて 1/2	
014	4	014	土師器	甑	BJ11	SK0474　上層 0-20cm	21.2			内外 ; ハケ	やや粗	1-5	浅黄	良	口縁にて 1/6	粘土紐の接合痕あり
015	4	428	須恵器	杯蓋	BJ11	SH0471/SK0474	12.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	暗青灰	良好	口縁に 1/6	
016	4	429	須恵器	杯蓋	BJ11	SH0471/SK0474	11.8		4.0	内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1	灰青	良好	1/8	
017	4	430	須恵器	有蓋高杯	BJ11	SH0471/SK0474 10-20cm				内 ; ロクロナデ 外 ; 回転ヘラ削り (時計周り)	やや密	1-3	暗青灰	良好	つまみ部のみ	
018	4	339	須恵器	有蓋高杯	BJ11	SH0471/SK0474				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	2-3	内 ; 灰青 外 ; 黒灰	良好	天井部にて 1/8	外面に自然釉付着する
019	4	504	須恵器	高杯	BJ11	SH0471/SK047 10-20cm	9.9			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	2-4	青灰	良好	杯部にて 1/6	
020	4	503	土師器	く字甕	BJ11	SH0471/SK0474 10-20cm	13.0			磨滅のため不明	やや密	1-4	灰褐	良	口縁にて 1/8	
021	4	340	土師器	宇田型甕	BJ11	SH0471/SK0474	13.4			口縁 ; ヨコナデ 内外 ; 磨滅のため不明	密	1	黄褐	良	口縁にて 1/8	
022	4	502	土師器	宇田型甕	BJ11	SH0471/SK0474 10-20cm	13.6			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ , オサエ　外 ; ハケ	密	-	黄褐	良好	口縁にて 1/6	
023	4	300	須恵器	有蓋高杯	BJ10	SH0471　東半分				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-2	内 ; 灰青 外 ; 青灰	良好	口縁にて 1/3	
024	4	501	土師器	椀形高杯	BJ10	SH0471　東半分		8.2		内 ; 磨滅のため不明 外 ; ケズリ	密	-	明褐	良	底部にて完形	
025	4	505	弥生土器	椀形高杯	BJ10/11	SH0484 等 東西ベルト撤去	17.0	11.2		円孔 5 ないし 6 ヶ所	密	1-4	淡黄褐	良	口縁にて 1/3, 底部にて 1/3	
026	4	506	弥生土器	台付甕	BJ10/11	SH0484 等 東西ベルト撤去		9.0		磨滅のため不明	やや密	2-5	淡赤褐	良	底部にてほぼ完形	
027	4	025	弥生土器	く字甕	BI10	P04260	13.7	3.2	12.2	口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ　外 ; タタキ→ナデ	密	2-4	淡黄灰	良	1/2	外面に煤付着 , 下半部が被熱のため剥落
028	4	026-1	弥生土器	甕	BI10	P04260		3.0		内 ; ハケ＋オサエ 外 ; ハケ , 波状文 , 突帯上刻み	やや密	1-2	淡赤褐	良	下半部にて 1/3	
029	4	026-2	弥生土器	壷	BI10	P04260		5.0		磨滅のため不明	密	2-5	内 ; 淡黄褐 外 ; 褐灰	良	底部にて 1/2	
030	4	415	弥生土器	壷	BG11	SH0428/29 個別①	22.8			口縁 ; 凹線→円形浮文 内 ; 綾杉文　外 ; 磨滅のため不明	密	2-5	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
031	4	324	弥生土器	壷	BH10	SH0428/29 個別②	20.6			口縁 ; 綾杉文　内 ; 綾杉文 外 ; 磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/3	
032	4	255	弥生土器	壷	BH11	SH0428/29 個別⑦	18.7			口縁 ; 櫛状の凹線→円形浮文 , 棒状浮文 内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ , 貼付突帯	密	1-4	褐灰	良	口縁にて完形	
033	4	257	弥生土器	壷	BH11	SH0428/29 個別⑥	16.6			口縁 ; 円形浮文 内外 ; 貼付突帯	密	2-4, 8-10	内 ; 淡黄褐 外 ; 明褐	良	口縁にてほぼ完形	
034	4	120	弥生土器	壷	BI10	SH0428/29 最下層	16.8			磨滅のため不明	密	-	明褐	やや軟	口縁にて 1/8	
035	4	126	弥生土器	壷	BI10	SH0428/29 最下層	18.5			磨滅のため不明	やや密	2-4	黄灰	良	口縁にて 1/8	
036	4	087	弥生土器	壷	BI10	SH0428/29	16.2			磨滅のため不明	密	4	淡黄褐	良	口縁にて 1/6	
037	4	037	弥生土器	壷	BH09	SH0429	18.4			磨滅のため不明	密	3	灰褐	良	口縁に 1/12	
038	4	333	弥生土器	壷	BG11	SH0428/29 /SH0433	16.8			磨滅のため不明	密	1-2	黄褐	良	口縁にて 1/8	
039	4	130	弥生土器	壷	BH09	SH0428	16.0			磨滅のため不明	密	-	黄灰	良	口縁にて 1/8	
040	4	088	弥生土器	壷	BI10	SH0428/29	12.4			口縁 ; ヨコナデ　内外 ; ハケ	密	3-4	黄褐	良	口縁にて 1/4	
041	4	295	弥生土器	壷	BI10	SH0428/29 個別④	20.6			口縁 ; ヨコナデ　内 ; ハケ , オサエ　外 ; タテミガキ	密	1-4	淡黄褐	良	口縁にて 1/3	
042	4	116	弥生土器	壷	BH11	SH0428/29 床面まで		5.8		磨滅のため不明	密	2-3	内 ; 灰 外 ; 黄褐	良	底部にて 1/2	
043	4	129	弥生土器	壷	BH08	SH0428		4.9		磨滅のため不明	やや密	2-4	黄褐	良	底部にて完形	
044	4	115	弥生土器	甕	中央南北 セクション	SH0428/29	8.2			磨滅のため不明	やや密	2-4	黄白	良	口縁にて 1/3	
045	4	127	弥生土器	く字甕	中央南北 セクション	SH0428/29	13.6			内 ; ヨコハケ 外 ; 磨滅のため不明	やや密	2-4	灰褐	良	口縁にて 1/6	
046	4	202	弥生土器	く字甕	中央南北 セクション	SH0428/29	17.4			口縁 ; ハケ→ヨコナデ 内外 ; ハケ	密	-	淡黄褐	良	上半部にて完形	
047	4	090	弥生土器	く字甕	BG11	SH0428/29	13.6			内 ; オサエ 外 ; 磨滅のため不明	やや粗	2-5	黄灰	良	口縁にて 1/6	
048	4	121	弥生土器	く字甕	BH/BI11	SH0428/29 北辺周壁溝	13.4			口縁 ; ヨコナデ 内外 ; 磨滅のため不明	密	3	黄灰	良好	口縁にて 1/8	
049	4	122	弥生土器	受口甕	BH,BI11	SH0428/29 北辺周壁溝	16.0			磨滅のため不明	やや粗	1-3	暗褐	やや軟	口縁いて 1/8	
050	4	211	弥生土器	S 字甕	BG11	SD0411 SH0428/29 北東隅	17.0			内 ; オサエ , ヨコハケ 外 ; ハケ→直線文 , 刺突	密	1-2	黄灰	良	口縁にて 1/3	
051	4	093	弥生土器	S 字甕	BH11	SH0428/29　0-10cm	19 くらい			内 ; ヨコナデ→ハケ 外 ; ハケ→直線文	密	-	黄灰	良	口縁にて 1/4	櫛状のハケ
052	4	131	弥生土器	台付甕	BH09	SH0428		8.4		磨滅のため不明	やや粗	2-4	黄褐	良	底部にて 1/2	
053	4	113	須恵器	杯蓋	BI11	SH0428/29 0- 床直まで	11.8		5.0	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	やや密	2-4	内 ; 灰青 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/4	
054	4	424	須恵器	杯蓋	BG11	SH0428/29 (SH04339)	13.9			内外 ; ロクロナデ	密	-	暗赤褐	良好	口縁にて 1/6	
055	4	521	須恵質	?	BH10	SH0428/29 (SH0433)				内 ; 粘土紐の接合痕残る 外 ; 沈線 , 波状文 , 刺突	密	-	灰白	良	体部破片	器形等不詳
056	4	089	弥生土器	壷	BI10	SH0428/29		3.6		内 ; ナデ　外 ; 磨滅のため不明	密	-	褐灰	良	底部にて完形	小型壷か
057	4	338	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	SH0428/29	24.6			磨滅のため不明	やや密	2-5	淡黄褐	良	脚端部を欠く	
058	4	301	弥生土器	高杯	BH11	SH0428/29 床面まで	25.4	12.5	20.1	内 ; タテミガキ 外 ; ミガキ , 直線文 , 円孔 3 ヶ所	密	-	明褐	良好	1/2	
059	4	094	弥生土器	高杯	BH11	SH0428/29 0-10cm				内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	密	-	明褐	良	口縁と脚端部を欠く	
060	4	114	弥生土器	高杯	BI11	SH0428/29 0- 床直まで	18.0			内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	密	-	明褐 - 黒褐	良	口縁にて 1/4	

Tab.5-3　遺物観察表

061	4	119	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	SH0428/29	20.0			磨滅のため不明	やや粗	2-4	黄灰	良	口縁にて 1/6	
062	4	123	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	SH0428/29		11.9		磨滅のため不明	密	3-4	灰白	良	底部にて 1/2	円孔は 3 ヶ所になろう
063	4	254	弥生土器	高杯	BI11	SH0428/29 個別⑤		12.1		円孔 3 ヶ所	密	1-3	赤褐	良	底部にて完形	
064	4	125	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	SH0428/29		10.9		円孔 3 ヶ所	やや密	3-4	淡黄褐	良	底部にて 1/2	
065	4	092	弥生土器	高杯	BG10	SH0428/29 - 床面まで		13.5		円孔 , 磨滅のため不明	密	3	黄褐	良	底部にて 1/8	
066	4	112	弥生土器	高杯	BG10	SH0428/29 地山まで		12.6		円孔 , 磨滅のため不明	やや密	3-5	淡黄褐	良	底部にて 1/2	
067	4	091	弥生土器	高杯	BH10	SH0428/29 個別③				円孔 3 ヶ所	やや粗	2-4	明褐	良	脚部にて端部を欠く	
068	4	117	弥生土器	器台	中央南北 セクション	SH0428/29				円孔 , 磨滅のため不明	やや密	2-5	淡黄褐	良	体部破片	
069	4	124	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	SH0428/29				磨滅のため不明	密	3-5	淡黄褐	良	体部破片	円孔は上段に 1 ヶ所 , 下段は 3 ヶ所になろう
070	4	118	弥生土器	高杯	BH11	SH0428/29 床面まで		16.2		磨滅のため不明	密	-	橙	良	底部にて 1/6	
071	4	288	弥生土器	壷	BF13	SH0454	19.0			口縁 ; 円形浮文 内外 ; 磨滅のため不明	密	1	灰黄	良	口縁にて 1/8	
072	4	290	弥生土器	壷	BH11	SH0454 南北ベルト撤去				内 ; オサエ 外 ; ハケ , 貼付突帯	密	2-4	淡黄褐	良	頸部にて 1/4	
073	4	431	弥生土器	壷	BH11	SH0454 南北ベルト撤去		5.8		磨滅のため不明	密	7	褐	良	底部にて 2/3	
074	4	292	弥生土器	壷	BH11	SH0454 南北ベルト撤去		5.1		磨滅のため不明	密	1-2	褐	良	底部にて完形	
075	4	287	弥生土器	鉢	BI12	SH0454	8.9			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
076	4	336	弥生土器	高杯	BI12	SH0454　西辺周壁溝 個別①		14.2		円孔 3 ヶ所	密	1-3	淡黄褐	良	底部にて完形	杯部にも φ 3-4 mm の穿孔を施す
077	4	507	弥生土器	高杯	BH11	SH0454 南北ベルト撤去		11.0		円孔 3 ヶ所	やや粗	2-4	淡赤褐	良	底部にて 1/3	
078	4	291	弥生土器	受口甕	BH11	SH0454 南北ベルト撤去	16.0			内 ; 磨滅のため不明 外 ; 一部にハケ	やや密	2-3	淡黄褐	やや軟	口縁にて 1/6	
079	4	337	須恵器	杯身	BH12	SH0454 床直	11.0		4.8	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-3	灰	良好	1/3	
080	4	105	弥生土器	壷	BD10	SH03134 東西ベルト以北　下層	15.4			磨滅のため不明	やや密	2-4	淡赤褐	良	底部にて 1/4	
081	4	108	弥生土器	高杯	-	SH03134 貼床層	25.4			内外 ; ミガキ	やや密	1-2	黄褐	良好	口縁にて 1/12	
082	4	107	須恵器	短頸壷	BD10	SH03134 東西ベルト以南　下層				内外 ; ロクロナデ	密	-	灰	良好	頸部にて 1/4	外面にタタキ残る
083	4	111	須恵器	甕	BD10	SH03134　上層				内外 ; ロクロナデ	密	-	青灰	良好	口縁部破片	
084	4	520	土師器	く字甕	BD10	SH04134 南北ベルト撤去	12.4			磨滅のため不明	密	2-3	黄褐	良	口縁にて 1/6	
085	4	432	土師器	宇田型甕	BD10	SH03134 南北ベルト撤去	14.0			口縁 ; ヨコナデ 内 ; オサエ , ナデ　外 ; ハケ	密	1-3	淡赤褐	良	口縁にて 1/2 底部にて完形	
086	4	334	土師器	く字甕	BF09	SH0445	14.6			内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	1-3	黄褐	良	口縁にて 1/3	
087	4	425	弥生土器	く字甕	BF09	SH0445	14.6			口縁 ; ヨコナデ→刻み 内 ; ナデ　外 ; ハケ	密	1-3	灰黒 - 褐灰	良	口縁にて 1/6	
088	4	216	弥生土器	高杯	BE09	SH0421 南辺周壁溝	18.0			内 ; ミガキ , 他は磨滅のため不明	密	2-5	黄褐	良	杯部にて完形	
089	4	305	弥生土器	壷	BE09	SH0422	23.2			磨滅のため不明	密	1-3	黄褐	良	口縁にて 1/12	
090	4	213	弥生土器	壷	BF09	SH0421/22/23 南北ベルト撤去		5.5		内 ; 板ナデ　外 ; ミガキ	密	1-3	内 ; 黒灰 外 ; 黄灰	良	底部にて完形	
091	4	518-1	弥生土器	壷	BF10	SH0404	18.6			内 ; ナデ , オサエ 外 ; 磨滅のため不明	密	2-7	内 ; 灰黒 外 ; 灰白	良	上半にてほぼ完形	頸部に刺突 (押し引きか) の痕跡あるも不鮮明
092	4	147	弥生土器	壷	BF09	SH0404　個別③	12.4			口縁 ; ヨコナデ 内 ; オサエ , ナデ　外 ; ハケ , 線刻	密	1-5	浅黄褐	良	口縁にて 1/4	
093	4	144	弥生土器	く字甕	BE10/11	SH0404 東西ベルト撤去	16.2			磨滅のため不明	やや粗	3-5	淡黄白	良	口縁にて 1/4	
094	4	146	弥生土器	く字甕	BE010/11	SH0404 東西ベルト撤去	14.6			磨滅のため不明	やや粗	2-3	浅黄褐	良	口縁にて 1/8	
095	4	157	弥生土器	く字甕	BF10	SH0404 西辺周壁溝	11.5			磨滅のため不明	やや粗	3-5	内 ; 灰黄　外 ; にぶい黄褐	良	口縁にて 1/8	
096	4	212	弥生土器	甕	BF09	SH0404　南辺周壁溝 =SD0419		5.2		内 ; 板ナデ 外 ; ミガキか	密	3-9	内 ; 黒灰 外 ; 褐灰	良	底部にて完形	
097	4	143	弥生土器	台付甕	BE10/11	SH0404 東西ベルト撤去		6.0		磨滅のため不明	密	1-2	内 ; 淡褐 外 ; 淡赤褐	良	底部にて 1/2	
098	4	149	須恵器	杯身	BD10	SH0404 東西ベルト南	9.9			内外 ; ロクロナデ	密	1	灰褐	やや軟	口縁にて 1/6	
099	4	201	弥生土器	高杯	BE09	SH0404　個別①	28.5			磨滅のため不明	密	1-4	内 ; 灰褐 外 ; 灰褐 - 淡赤褐	良	杯部にて完形	
100	4	153	弥生土器	高杯	BD10	SH0404 東辺周壁溝	24.8			磨滅のため不明	密	2-4	灰白	良	口縁にて 1/6	
101	4	156	弥生土器	高杯	BE11	SH0404 北辺周壁溝	24.4			磨滅のため不明	密	-	にぶい黄橙	良	口縁にて 1/12	
102	4	150	弥生土器	高杯	BF09	SH0404　南西主柱穴 ベルト撤去	26.6			磨滅のため不明	やや粗	1-4	灰黄	良	口縁にて 1/4	
103	4	145	弥生土器	高杯	BF11	SH0404　北西主柱穴 P04431		15.0		内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	密	4	灰白	良	底部にて 1/8	
104	4	155	弥生土器	壷	BE09	P04101				磨滅のため不明	密	1-2	灰褐	良	口縁部破片	
105	4	151	弥生土器	壷	BF09	SH0404　南西主柱穴 P04171　個別④	32.0			磨滅のため不明	密	2-4	明褐	良	口縁にて 1/8	口縁に円形浮文を貼り付ける
106	4	293	弥生土器	く字甕	BF09	SH0404 南西主柱穴 P04171　個別③	11.7	4.2	16.9	内 ; 磨滅のため不明 外 ; 一部ハケ	密	2-4	黄灰 - 暗褐	良	完形	
107	4	158	弥生土器	高杯	BF09	SH0404　南西主柱穴 P04171　個別④				磨滅のため不明	やや粗	3-4	淡黄褐	良	脚部にて端部を欠く	
108	4	412	弥生土器	器台	BF09	P04171　個別②		19.2		内 ; 磨滅のため不明　外 ; 凹線	密	1-3	明褐	良	底部にて 1/8	
109	4	159	弥生土器	器台	BF09	SH0404　南西主柱穴 P04171　個別⑤				内 ; 磨滅のため不明 外 ; 円形透かし , 直線文 , 波状文	密	-	にぶい黄橙	良	体部にて 1/6	
110	4	152	弥生土器	器台	BF09	SH0404　南西主柱穴 P04171		33.2		内 ; 磨滅のため不明 外 ; 波状文	密	1-9	明褐	良	底部にて 1/6	
111	4	335	弥生土器	壷	BI10	SH0451 黒色土層	20.6			磨滅のため不明	やや密	2-5	黄白	やや軟	口縁にて 1/8	
112	4	286	弥生土器	台付甕	BI14	SH0451 黒色土層		8.3		内外 ; ハケ	密	1-2	黄褐~淡赤褐	良	底部にて完形	
113	4	426	土師器	台付甕	BH/BI14	SH0451 ベルト撤去		8.6		内 ; ナデ 外 ; ハケ , ナデ	密	1-3	黄褐~淡赤褐	良	底部にて完形	ハケは櫛状
114	4	341	弥生土器	壷	BI13	SH0456	11.4			磨滅のため不明	やや密	1-3,7	内 ; 灰褐 外 ; 淡赤褐	やや軟	口縁にて 2/3	SH でなく包含層か
115	4	517	弥生土器	壷	BI13	SH0456		7.2		磨滅のため不明	密	2	淡黄褐	良	底部にて 1/3	

Tab.5-4　遺物観察表

116	4	513	弥生土器	受口甕	BI13	SH0456	16.6			口縁 ; 刺突　内 ; ナデか 外 ; 直線文 , 刺突	やや密	1-3	内 ; 褐 外 ; 黒褐	良	口縁にて 1/4	
117	4	298	弥生土器	く字甕	BI13	SH0456	17.6			内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	-	灰褐	良	口縁にて 1/8	
118	4	516	土師器	甕	BI13	SH0456				内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	1-3	黄褐	やや軟	頸部にて 1/12	宇田型甕の可能性大
119	4	510	弥生土器	器台	BI13	SH0456	14.6			口縁 ; 凹線　内外 ; タテミガキ	密	2	黄褐	良好	口縁にて 1/4	
120	4	512	弥生土器	高杯	BI13	SH0456	35.2			内 ; ミガキ→赤彩 外 ; 棒状浮文 (3 条 1 単位)	密	1-5	黄灰	良	口縁にて 1/16	外面の赤彩は磨滅のため不明
121	4	514	弥生土器	高杯	BI13	SH0456		12.0		内 ; 磨滅のため不明 外 ; 円孔 5 ケ所 , 直線文	密	1	淡褐	良	底部にて 1/2	
122	4	162	弥生土器	壷	BI14	SH0455　北西	23.6			内 ; 綾杉文　外 ; 凹線	やや密	4	浅黄褐	良	口縁にて 1/12	
123	4	168	弥生土器	壷	BH14	SH0455　個別②	24.2			内 ; 綾杉文 外 ; 凹線 , ハケ , 貼付突帯	密	1-3	灰白	良	口縁にて 1/6	
124	4	321	弥生土器	壷	BH14+ BH/BI14	SH0455　個別① +SH0455 ベルト撤去	26.8			口縁 ; 円形浮文 内外 ; 貼付突帯	密	1-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/4	
125	4	169	弥生土器	壷	BH12	SH0455 東西ベルト撤去	18.0			磨滅のため不明	密	3	淡灰褐	良	口縁にて 1/8	
126	4	173	弥生土器	長頸壷	BI11	SH0455　0-20cm				内 ; オサエ 外 ; 貼付突帯	密	3-5	内 ; 黒褐 外 ; 淡黄褐	良	頸部にて 1/6	
127	4	171	弥生土器	長頸壷	BI12	SH0455　最下層				磨滅のため不明	密	2-3	灰褐	良	頸部にて 1/4	
128	4	175	弥生土器	壷	BJ12	SH0455	14.0			頸部に円形刺突 , 他は磨滅のため不明	密	2-5	灰白	良	口縁にて 1/6	
129	4	259	弥生土器	鉢	BJ13	SH0455	9.0			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ , オサエ　外 ; ナデ	密	-	褐灰	良好	1/3	
130	4	163	弥生土器	く字甕	BI14	SH0455　北西	13.4			口縁 ; ヨコナデ 内 ; オサエ , ナデ　外 ; ハケ	密	-	にぶい黄褐	良	口縁にて 1/12	
131	4	166	弥生土器	受口甕	BI12	SH0455　最下層	15.8			口縁 ; 刺突 内外 ; 磨滅のため不明	密	1-3	暗褐	良	口縁にて 1/8	
132	4	325	弥生土器	受口甕	BJ13	SH0455	14.8			口縁 ; ヨコナデ→刺突 内 ; ヨコハケ　外 ; 直線文	密	-	内 ; 黄褐 外 ; 褐灰	良好	口縁にて 1/6	
133	4	261	弥生土器	高杯	BJ13	SH0455/ SD0468/69	24.4			内外 ; ミガキ	密	1-3	褐灰	良好	口縁にて 1/8	
134	4	174	弥生土器	高杯	BH/BI14	SH0455 ベルト撤去	27.8			磨滅のため不明	密	1	内 ; 灰褐 外 ; 淡黄褐	良	口縁にて 1/12	
135	4	511	弥生土器	高杯	BJ	SH0455　南辺周壁溝 南北ベルト撤去	28 くらい			磨滅のため不明	密	-	灰褐	良	口縁にて 1/8	
136	4	167	弥生土器	高杯	BI13	SH0455	19.6			磨滅のため不明	やや密	3	明褐	良	口縁にて 1/8	
137	4	509	弥生土器	高杯	BK12	SH0455　南辺周壁溝	15.4			磨滅のため不明	密	1-6	淡褐	良	口縁にて 1/8	天地逆かも
138	4	508	弥生土器	高杯	BI14	SH0455　北辺周壁溝				磨滅のため不明	密	1-2	内 ; 灰 外 ; 灰 - 褐灰	良	口縁部破片	
139	4	260	弥生土器	高杯	BJ13	SH0455/ SD0468/69				内 ; ナデ　外 ; 直線文 (4 条)	密	1-2	淡赤褐 - 黄褐	良	脚部にて端部を欠く	
140	4	160	弥生土器	高杯	BH/BI14	SH0455 ベルト撤去		16.0		磨滅のため不明	密	1-3	褐灰	良	底部にて 1/8	穿孔あり
141	4	164	弥生土器	高杯	BI13	SH0455		14.6		磨滅のため不明	密	1-3	淡黄灰	良	底部にて 1/3	
142	4	165	弥生土器	高杯	BI13	SH0455		14.5		円孔 , 磨滅のため不明	密	1-4	淡黄褐 - 淡赤褐	良	底部にて 1/3	
143	4	326	弥生土器	高杯	BK12	SH0455 南辺中央土坑				磨滅のため不明	密	1-2	内 ; 淡褐灰 外 ; 淡赤褐	良	脚部破片	
144	4	522	弥生土器	壷	BI12	P04242　個別②	44.8			口縁 ; 円形浮文	密	1-5	淡黄褐	良	口縁にて 1/12	大型品
145	4	265	弥生土器	壷	BI12	SH0455 南東主柱穴 P04242　個別①	30.8			内 ; 綾杉文 外 ; 磨滅のため不明	密	1-3,7	明褐	良	口縁にて 1/8	
146	4	095	弥生土器	壷	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑯	17.0			口縁 ; 円形浮文上刺突 内 ; オサエ　外 ; 磨滅のため不明	やや粗	3-4	灰白 - 淡橙	良	口縁にて 1/4	
147	4	264	弥生土器	壷	BI12	SH0455 南東主柱穴 P04242 柱抜き取り痕	11.6	3.5	13 くらい	磨滅のため不明	密	1-4	淡黄褐	良	1/3	外面に黒斑あり
148	4	096	弥生土器	壷	BI12	SH0455 南東主柱穴 P04242　個別⑮	11.0			磨滅のため不明	密	3	淡灰褐	良	口縁にて 1/6	
149	4	296	弥生土器	壷	BI12	P04242 個別③～⑥ + ⑯	15.5			内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテハケ	密	2-6	黄灰	良	上半部にて完形	
150	4	330	弥生土器	壷	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242 柱抜き取り痕		9.7		磨滅のため不明	やや粗	1-9	内 ; 淡灰褐 外 ; 淡黄褐	やや軟	底部にて完形	
151	4	098	弥生土器	壷	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑭		4.6		内 ; 磨滅のため不明 外 ; ナデ	密	3	灰黄	良	底部にて 1/3	
152	4	097-1	弥生土器	壷	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑰		8.6		磨滅のため不明	やや密	2-4	灰黄	良	底部にて 1/2	
153	4	263	弥生土器	受口甕	BI12	SH0455 南東主柱穴 P04242	15.6			口縁 ; ヨコナデ→刺突 内 ; ナデ　外 ; ハケ→直線文	密	1-3	淡黄灰	良	口縁にて 1/8	
154	4	427	弥生土器	受口甕	BI12	P04242　個別⑦	15.5			口縁 ; ヨコナデ→刺突　内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ→直線文 , 刺突 , 波状文	密	1-3	褐	良好	口縁にて 1/4	
155	4	101	弥生土器	甕	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑬		3.8		内 ; ナデ , オサエ 外 ; ハケ , 波状文 , 直線文 , 刺突	密	1-3	内 ; 淡灰褐 外 ; 淡灰褐 - 褐	良	口縁部を欠くのみ	底部穿孔
156	4	100	弥生土器	タタキ甕	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑰				内 ; オサエ 外 ; タタキ	やや粗	3-4	淡黄褐	やや軟	体部破片	
157	4	099	弥生土器	甕	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑫		7.1		磨滅のため不明	密	2-3	淡黄褐	良	底部にて完形	
158	4	328	弥生土器	高杯	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242		6.0		円孔 3 ヶ所	密	1-4	灰黄	良	底部にて完形	
159	4	329	弥生土器	高杯	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242 柱抜き取り痕		6.8		内 ; ナデ 外 ; ミガキ	密	2-4	暗灰褐	良	脚部にて端部を欠く	
160	4	097-2	弥生土器	高杯	BI12	SH0455　南東主柱穴 P04242　個別⑰		18.0		磨滅のため不明	密	6	黄灰	良	底部にて 1/6	天地逆かも
161	4	294	弥生土器	高杯	BI12	P04242　個別⑩		12.7		内 ; ナデ 外 ; 直線文 , 円孔透かし 4 ヶ所	密	1-3	淡黄灰	良	底部にて完形	
162	4	323-1	弥生土器	高杯	BI12	P04242　個別⑪	12.6	9.9	10.8	円孔 4 ヶ所	密	2-5	淡黄褐	良	完形	外面に黒斑あり
163	4	297	弥生土器	高杯	BI12	P04242　個別⑦				磨滅のため不明	密	1-3	明褐	良	杯部にて 1/3	
164	4	262	弥生土器	甕	BI14	P04200		4.2		内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	1-2	黒褐	良	底部にて完形	
165	4	020	弥生土器	高杯	BJ12	P04234	17.0			磨滅のため不明	やや密	1-3	黄白	良	口縁にて 1/8	
166	4	023	弥生土器	高杯	BJ12	P04235				外 ; 直線文	密	2-5	灰白	良	体部破片	
167	4	299	弥生土器	受口甕	BF14	SH0462-65	15.9			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/3	
168	4	021	弥生土器	く字甕	BG13	P04183	8.8			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ　外 ; ハケ	密	2	黄灰	良	口縁にて 1/6	
169	4	245	須恵器	杯身	BF13	P04173　個別①	9.0		4.6	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	2-4	灰青	良好	ほぼ完形	
170	4	109	弥生土器	高杯	BE11	SH0406 南北ベルト撤去				磨滅のため不明	密	1-2	淡黄灰	良	口縁部破片	
171	5	079	弥生土器	台付甕	BD12	SH0572 内　P05243		5.0		磨滅のため不明	密	1-2	淡褐	良	底部にて完形	
172	4	132	須恵器	杯蓋	BF/BG11	SH0408 東西ベルト撤去	12.9		4.7	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/4	自然釉がかかる

Tab.5-5　遺物観察表

173	4	414	須恵器	有蓋高杯	BF11	SH0408　南辺周壁溝	11.8			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	1	内 ; 暗青灰 外 ; 灰黒	良好	杯部にて 1/3	
174	4	133	須恵器	有蓋高杯	BF/BG11	SH0408 東西ベルト撤去	12.6	10.7	9.5	内 ; ロクロナデ , 当て具痕 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	10	灰青	良好	1/4	方形透かし 4 ヶ所
175	5	231	須恵器	杯蓋	BB11/12	SH0566　東辺周壁溝	10.8		4.8	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	やや密	1-3	灰褐	やや軟	1/4	
176	5	235	須恵器	有蓋高杯	BB11	SH0566　東辺周壁溝 遺物集中部	10 くらい			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り), カキ目	密	1-4	灰青	良好	杯部にて 1/8	方形透かし 3 ヶ所
177	5	352	土師器	壷	BB12	SH0566　貼床 南北ベルト 2 層目	14.6			内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ	密	1-3	内 ; 淡灰褐 外 ; 明褐	良	口縁にて 1/6	
178	5	355	土師器	鍋	BB/BC12	SH0566　貼床層 南北ベルト 2 層目	19.6			磨滅のため不明	密	1-2	黄白	やや軟	口縁にて 1/12	
179	5	354	弥生土器	受口甕	BB/BC12	SH0566　貼床層 南北ベルト 2 層目	12.6			磨滅のため不明	密	2-3	明褐	良好	口縁にて 1/6	
180	5	353	土師器	宇田型甕	BB12	SH0566　貼床 南北ベルト 2 層目	10.5			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
181	5	356	土師器	宇田型甕	BB11	SH0566　東辺周壁溝 遺物集中部	14.6			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ　外 ; タテハケ	密	1-4	暗褐	良好	上半部にて 1/3	
182	5	357	土師器	鍋	BC/BD13	SH0566　北西	19.4			磨滅のため不明	密	2-3	褐灰	良	口縁にて 1/8	
183	4	416	土師器	片口鉢	SD11	SH03136	24.1		20 くらい	磨滅のため不明	密	1-2,4-7	黄白	良	1/4	
184	5	304	弥生土器	甕	BC12	SH0566　北東貼床		4.3		磨滅のため不明	密	1-2	内 ; 灰褐 外 ; 明褐	良	底部にて 1/2	
185	4	104	土師器	台付甕	-	SH03136　貼床		7.0		内 ; ナデ　外 ; ハケ	やや粗	3	淡褐	良	底部にて 1/2	細かなハケ
186	4	342	土師器	台付甕	BC11	SH03136 東端南北ベルト		9.7		内 ; オサエ 外 ; 磨滅のため不明	やや密	1-4	淡黄褐	やや軟	底部にて 1/4	
187	5	112	土師器	く字甕	BD12/13	SH0566　北西				磨滅のため不明	やや密	1-2	黒褐	良	口縁部破片	
188	5	100	土師器	く字甕	BC12	SH0566　北東貼床				磨滅のため不明	やや密	1-3	赤褐	良	口縁部破片	
189	5	359	土師器	S 字甕	BC/BD13	SH0566　北西				磨滅のため不明	密	1	内 ; 黒灰 外 ; 灰褐	良	口縁部破片	
190	5	303	土師器	宇田型甕	BD13	SH0566 東西ベルト 1 層目	16.4			磨滅のため不明	やや密	5-8	黄白	やや軟	口縁にて 1/8	
191	5	234	弥生土器	高杯	BB11	SH0566　東辺周壁溝 遺物集中部				磨滅のため不明	密	-	淡褐	良	脚部にて端部を欠く	ミニチュア土器かも
192	4	106	弥生土器	器台	BD12	SH03136　下層	23.4			内 ; 刺突 外 ; 磨滅のため不明	密	-	内 ; 灰褐 外 ; 淡褐	良	口縁にて 1/6	円孔は 8 ヶ所になろう
193	5	412	ミニチュア土器	鉢形	BD13	SH0566 東西ベルト 1 層目	6.8			内 ; ナデ 外 ; 磨滅のため不明	密	1	淡黄灰	良	口縁にて 1/8	
194	5	111	ミニチュア土器	甕形	BD13	SH0566　貼床 東西ベルト 2 層目				磨滅のため不明	密	-	灰褐	良	頸部にて 1/3	
195	4	110	土製品	鞴の羽口	BD11	SH03136　下層					密	2-3	淡黄灰	良好	先端部付近の破片	
196	5	228	弥生土器	受口甕	BC13	SH0566 内　P05266				口縁 ; 刺突	密	1-3	淡黄褐	良	口縁部破片	
197	5	420	石器	磨製石斧	BB12	SH0566 内　P05332				長×幅×厚さ×重さ ;3.2cm × 3.0cm × 0.7cm × 12.4g					基部を欠損する	凝灰岩 , 擦痕あり
198	5	302	土師器	宇田型甕	BC12	SH0560/66　北				外 ; ハケ	やや密	1	黄白	やや軟	口縁部破片	
199	5	305	土師器	宇田型甕	BC12	SH0560/66　中南	14.6			外 ; ハケ	密	-	淡褐	良	口縁にて 1/12	
200	4	103	須恵器	杯身	BC11	SH03138/139 下層	12.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1	黒灰	良好	口縁にて 1/8	焼け歪みが激しい
201	5	358	須恵器	杯身	BB12	SH0565　東辺周壁溝 東西ベルト撤去	10.7			内外 ; ロクロナデ	密	-	青灰	良好	口縁にて 1/8	
202	5	360	土師器	く字甕	BB11/12	SH0565　東辺周壁溝				磨滅のため不明	密	1	内 ; 淡赤褐 外 ; 淡黄褐	良	口縁部破片	
203	5	361	土師器	く字甕	BC12	SH0565　北辺周壁溝				口縁 ; ヨコナデ	密	1-3	淡黄褐	良好	口縁部破片	
204	4	086	弥生土器	台付甕	-	SH03138/139　下層		10.0		内 ; ナデ , オサエ　外 ; ハケ	やや粗	3-6	淡赤褐	良	底部にて 1/2	
205	4	102	土師器	台付甕	BD11	SH03138/139　下層		7.3		内 ; 磨滅のため不明　外 ; ナデ	密	3	淡黄褐	良	底部にて完形	
206	4	237	ミニチュア土器	甕形	BD11	SH03138/139	3.8	2.3	3.7	内外 ; 手づくね	密	-	黄褐	良好	完形	
207	5	082	弥生土器	受口甕	BC12	SH0565 内　P05251	20.6			口縁 ; 刺突	密	1-3	白灰	やや軟	口縁にて 1/12	刺突の間隔が広い
208	5	083	弥生土器	壷	BC12	SH0565 内　P05262		6.4		内 ; ナデ　外 ; ミガキ→ナデ	密	1	内 ; 黒灰 外 ; 明褐	良	底部にて 1/3	
209	5	080	弥生土器	高杯	BC12	SH0565 内　P05258		15.3		磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	底部にて 1/6	
210	5	098	須恵器	杯身	BB12	SH0560　北西	10.0			内外 ; ロクロナデ	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/4	
211	5	233	須恵器	杯身	BC12	SH0560/66　北	10.0		4.0	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	2-5	灰青	良好	1/4	
212	5	110	須恵器	杯身	BB12	SH0560　北西	11.8		3.5 くらい	内外 ; ロクロナデ	密	-	灰	良好	口縁にて 1/8	
213	5	123	須恵器	杯蓋	BB11/12	SH0560　南東	13.4		5.0	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1	灰	良好	1/3	重ね焼きの痕跡あり
214	5	301	須恵器	杯蓋	BB12	SH0560　検出	11.1		4.8	内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	黒灰	良好	1/4	焼け歪む
215	5	319	須恵器	有蓋高杯	BB11	SH0560　検出				内外 ; ロクロナデ	密	1-3	青灰	良	つまみ部のみ	
216	5	099	須恵器	高杯	BB12	SH0560　南北ベルト	9.4			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	内 ; 灰 外 ; 黒灰	良好	口縁にて 1/4	
217	5	367	須恵器	高杯	BB11	SH0560　個別①		10.8		内外 ; ロクロナデ	密	-	灰	良好	底部にて完形	
218	5	096	土師器	く字甕	BB12	SH0560　北西				磨滅のため不明	やや密	-	淡黄褐	やや軟	口縁部破片	
219	5	318	土師器	台付甕	BB/BC12	SH0560 北 - 西辺周壁溝		6.0		内 ; オサエ　外 ; 磨滅のため不明	密	1-2	淡赤褐	良	底部にて完形	
220	5	095	土師器	台付甕	BC12	SH0560　南西		8.2		内 ; ナデ , オサエ　外 ; オサエ	密	1-2	淡黄褐	良	底部にて 1/3	
221	5	317	弥生土器	受口甕	BC11	SH0560	13.6			磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	やや軟	口縁にて 1/6	
222	5	093	土師器	く字甕	BB11	SH0560　個別②	15.0			磨滅のため不明	密	-	明褐	良	口縁にて 1/6	
223	5	094	土師器	く字甕	BB12	SH0560　検出	14.0			磨滅のため不明	密	2-3	淡褐 - 淡赤褐	良	口縁にて 1/4	
224	5	097	土師器	く字甕	BB12	SH0560　北西	20.8			磨滅のため不明	密	2-4	明褐	良	口縁にて 1/12	
225	4	134	土師器	く字甕	BE09	SH0401 上層	10.4			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/4	
226	4	413	須恵器	杯身	BE11	SH0402　上層	13.0		5.0	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	-	灰青	良好	1/3	
227	4	138	須恵器	有蓋高杯	BE11	SH0402　上層				内 ; ロクロナデ 外 ; 回転ヘラ削り	密	1-2	内 ; 灰青 外 ; 灰	良好	つまみ部のみ	
228	4	135	土師器	壷	BE11	SH0402	19.0			口縁 ; ヨコナデ , 沈線気味 内 ; ナデ　外 ; 磨滅のため不明	密	-	黄灰	良	口縁にて 1/12	
229	4	136	土師器	壷	BE11	SH0402	18.4			口縁 ; ヨコナデ 内外 ; 磨滅のため不明	密	-	内 ; 灰褐 外 ; 黄灰	良	口縁にて 1/4	
230	4	140	土師器	く字甕	BF10	SH0405 等 東西ベルト撤去	19.8			内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	1-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
231	4	022	弥生土器	高杯	BD10	P0409	25.6			内 ; ミガキ　外 ; 磨滅のため不明	やや密	2-3	黄灰	良	口縁にて 1/12	

Tab.5-6　遺物観察表

232	5	213	弥生土器	長頸壺	BA12	SH0559　南				内 ; オサエ　外 ; 貼付突帯	密	1-3	内 ; 灰褐 外 ; 明褐	良	頸部にて 1/4	
233	5	032	弥生土器	壺	BA12	SH0559　南	20.0			口縁 ; 凹線	密	1-4	淡褐	良	口縁にて 1/8	
234	5	368	弥生土器	壺	BA12	SH0559　南	15.4			口縁 ; 凹線→棒状浮文 (3 条 1 単位)	密	1	橙	良	口縁にて 1/4	
235	5	215	弥生土器	受口甕	BA12	SH0559　個別④	16 くらい			口縁 ; ヨコナデ　内 ; 磨滅のため不明　外 ; 直線文 , 刺突	密	1-4	褐	良	口縁にて 1/6	
236	5	208	弥生土器	く字甕	BA12	SH0559　検出	13.6			口縁 ; ヨコナデ　外 ; ハケ	密	1-3	明褐	良好	口縁にて 1/6	
237	5	369	弥生土器	甕	BA12	SH0559　個別⑧	13.6			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ　外 ; ハケ→ナデ	密	-	内 ; 黒 外 ; 褐	良好	口縁にて 1/3	
238	5	030	弥生土器	受口甕	BA12	SH0559　南				口縁 ; 刺突	密	1-3	内 ; 淡黄褐 外 ; 灰黒	良	口縁部破片	
239	5	031	弥生土器	受口甕	BA12	SH0559　南				磨滅のため不明	密	1	内 ; 淡黄褐 外 ; 灰黒	良	口縁部破片	
240	5	037	弥生土器	受口甕	BA12	SH0559　個別⑭	11.8			磨滅のため不明	密	1-2	灰褐	良	口縁にて 1/4	
241	5	017	弥生土器	鉢？	BA12	SH0559　検出				内 ; ナデ 外 ; ミガキ→波状文	密	2	内 ; 黒 外 ; 黒 - 褐	良	体部にて 1/6	器種不明
242	5	018	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　検出	14.8			磨滅のため不明	密	1-2	明褐	良	口縁にて 1/12	
243	5	034	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　個別⑪				磨滅のため不明	密	1-3	黄白	良	脚部にて端部を欠く	
244	5	029	弥生土器	高杯	BA13	SH0559　検出 個別①	13.7			磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	杯部にて 1/3	
245	5	120	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　個別⑫				内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	密	1-3	灰褐	良	脚部にて端部を欠く	
246	5	373-2	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　個別⑨				磨滅のため不明	密	1-4	白黄	良	脚部にて端部を欠く	
247	5	214	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　個別⑪				円孔 , 磨滅のため不明	密	1-7	灰黄	良	脚部にて端部を欠く	
248	5	033	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　南		12.0		磨滅のため不明	密	1-3	灰褐	良	底部にて 1/8	器台かも
249	5	373-1	弥生土器	高杯	BA12	SH0559　個別⑨		14.8		磨滅のため不明	密	1-4	白黄	やや軟	底部にて 1/4	
250	5	421	石製品	砥石	BA12	SH0559　個別①				長×幅×厚さ×重さ ;14.6cm × 3.2cm × 3.2cm × 179.1g					完形	凝灰岩 , 断面五角形の砥面をもつ , 擦痕あり
251	5	087	弥生土器	壺	BA12	SH0559 内　P05344	15.8			口縁 ; 円形刺突 内外 ; 磨滅のため不明	密	2-3	褐	良	口縁にて 1/4	
252	5	405	弥生土器	器台	BA12	SH0559 内　P05344				内 ; ナデ 外 ; 円孔 , 磨滅のため不明	密	1-6	明褐	良好	底部にて 1/4	
253	5	085	弥生土器	壺	BA11	SH0559 内　P05340	11.0			口縁 ; ヨコナデ 外 ; ナデ , オサエ	密	1	褐	良	口縁にて 1/4	
254	5	086	弥生土器	甕	BA11	SH0559 内　P05340		6.0		磨滅のため不明	密	1-4	内 ; 黒灰 外 ; 褐	良	底部にて 1/4	
255	5	229	弥生土器	台付甕	AZ11	SH0559 内　P05342		9.8		磨滅のため不明	密	-	淡赤褐	やや軟	底部にて 1/6	
256	5	422	石製品	砥石	BA12	SH0559 内　P05342 東西ベルト撤去				長×幅×厚さ×重さ ;5.6cm × 2.6cm × 1.6cm × 17.0g					半分程度	凝灰岩 , 断面四角形の砥面をもつ , 擦痕は少しだがよく使い込まれている
257	5	330	土師器	く字甕	AY/AZ11	SH0553　南辺周壁溝	12.8			磨滅のため不明	密	1-3	淡灰褐	良	口縁にて 1/6	弥生土器かも
258	5	108	弥生土器	器台	AY11/12	SH0551/53 内 P05378		13.4		磨滅のため不明	密	-	内 ; 灰褐 外 ; 明褐	良	底部にて 1/12	円孔あり
259	5	019	土師器	台付甕	AX10	SH0551　排水溝		9.9		磨滅のため不明	密	1-5	淡黄褐	やや軟	底部にて 2/3	
260	5	338	土師器	壺	AY11	SH0551/53		5.2		磨滅のため不明	密	1-6	暗褐	良	底部にて 1/3	
261	5	320	弥生土器	受口甕	AZ10	SH0554	17.6			口縁 ; 刺突	密	1-3	内 ; 黒褐 外 ; 褐灰	良	口縁にて 1/8	
262	5	315	須恵器	杯身	AY10	SH0547	11.7			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-2	灰青	良好	口縁にて 1/6	
263	5	210	須恵器	杯身	AY09	SH0547	11.3		5.0	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	灰	良好	1/4	
264	5	113	須恵器	杯身	AX10	SH0547				内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	やや粗	1-2	灰青	やや軟	底部にて 1/2	
265	5	311	須恵器	杯蓋	AX09	SH0547	12.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1	灰	良好	口縁にて 1/8	
266	5	404	須恵器	杯蓋	AX10	SH0547	13.8			内外 ; ロクロナデ	密	-	内 ; 灰青 外 ; 黒灰	良好	口縁にて 1/12	
267	5	309	須恵器	杯蓋	AX09	SH0547				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	灰	良好	天井部にて 1/4	
268	5	370	弥生土器	壺	AX10	SH0547　北辺周壁溝	17.8			口縁内部 ; 瘤状突起貼り付け	密	1-3	褐 - 淡赤褐	良	口縁にて 1/4	
269	5	306	土師器	甑	AX10	SH0547	22.8			磨滅のため不明	やや粗	1-4	淡黄褐	やや軟	口縁にて 1/12	
270	5	310	土師器	宇田型甕	AX09	SH0547	15.3			口縁 ; ヨコナデ　外 ; ハケ	密	2	淡黄褐	良	口縁にて 1/6	
271	5	316	土師器	宇田型甕	AY10	SH0547	13.6			口縁 ; ヨコナデ	密	1-3	内 ; 褐 外 ; 淡赤褐	良	口縁にて 1/8	
272	5	307	土師器	く字甕	AX10	SH0547				磨滅のため不明	やや密	1-5	淡黄褐	やや軟	口縁部破片	
273	5	115	土師器	く字甕	AY10	SH0547				磨滅のため不明	密	1-4	淡黄褐	良	口縁部破片	
274	5	114	弥生土器	高杯	AY10	SH0547				磨滅のため不明	密	1	明褐	良	口縁部破片	
275	5	209	弥生土器	高杯	AY09/10	SH0547　西辺周壁溝				磨滅のため不明	密	2-3	灰褐	良	口縁部破片	
276	5	314	弥生土器	高杯	AX13	SH0547　貼床		18.6		磨滅のため不明	密	2-3	淡黄灰	良	底部にて 1/8	
277	5	313	弥生土器	高杯	AX/AW10	SH0547　北辺周壁溝				内 ; オサエ , ナデ 外 ; 磨滅のため不明	やや密	2-4	淡黄灰	良	脚部にて端部を欠く	
278	5	022	土師器	高杯	AY09	SH0547				磨滅のため不明	やや密	3	淡赤褐	やや軟	脚部にて端部を欠く	
279	5	308	弥生土器	甕	AX10	SH0547		4.2		磨滅のため不明	密	2-3	灰褐	良	底部にて 1/3	
280	5	312	弥生土器	甕	AX09	SH0547		3.6		内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	1-3	内 ; 灰黒 外 ; 淡褐	良	底部にて完形	
281	5	416	土師器	鍋	AX10	SH0547				外 ; ナデ , オサエ	密	1-8	灰褐	良	把手部分のみ	
282	5	419	石製品	石製 模造品	AY09	SH0547				長×幅×厚さ×重さ ;2.9cm × 1.7cm × 0.3cm × 1.5g					一部欠損	滑石 , 剣形 , 擦痕が顕著
283	5	372	須恵器	甕	AX10	SH0547/57 内 P05394	16.7			口縁 ; ロクロナデ　外 ; タタキ	やや密	-	灰	良	口縁にて 1/3	
284	5	088	土師器	鍋	AX09	SH0547　南西主柱穴 P05400				磨滅のため不明	密	1-4	黄白	良	口縁部破片	
285	5	230	弥生土器	器台	AX09	SH0547 南西主柱穴　P05400				内 ; 絞り　外 ; 直線文	密	2	淡褐	良	底部にて 1/2	
286	5	021	土師器	高杯	AX09	SH0557 南辺周壁溝				磨滅のため不明	密	1-4	淡黄褐	良	脚部にて端部を欠く	
287	5	028	土師器	高杯	AY09/10	SH0549 周壁溝		9.2		磨滅のため不明	密	2-4	淡赤褐	良	脚部にて端部を欠く	
288	5	091	土師器	高杯	AY10	SK0550	13.6			磨滅のため不明	密	-	橙	良	杯部にて 1/6	
289	5	090	土師器	台付甕	AY10	SK0550		7.5		磨滅のため不明	密	1-8	淡赤褐	良	底部にて完形	

Tab.5-7　遺物観察表

290	5	414	土師器	鍋	AY10	SK0550				外 ; ナデ , オサエ	密	1-5	黄褐	良	把手部分のみ	
291	5	218	弥生土器	壷	AY12	SH0545	15.6			口縁 ; 凹線→棒状浮文 (3 条 1 単位)	密	1-2	橙	良	口縁にて 1/8	
292	5	061	弥生土器	壷	AX13	SH0545				磨滅のため不明	密	2-6	淡黄褐	良	口縁にて 1/2	
293	5	063	弥生土器	壷	AX14	SH0545	5.6			磨滅のため不明	密	2	内 ; 灰褐 外 ; 淡黄褐	良	口縁にて 1/3	
294	5	043	弥生土器	く字甕	AY12	SH0545 西辺周壁溝	18.2			内外 ; ハケ	密	1-4	内 ; 淡赤褐 外 ; 淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
295	5	065	弥生土器	受口甕	AY14	SH0545 北西隅　貼床層				口縁 ; 刺突	密	2	内 ; 灰褐 外 ; 淡褐 - 黒褐	良	口縁部破片	
296	5	067	弥生土器	受口甕	AY14	SH0545				磨滅のため不明	やや密	1-3	灰黄	良	口縁部破片	
297	5	104	弥生土器	受口甕	AX12	SH0545				磨滅のため不明	密	1-3	灰褐 - 淡赤褐	良	口縁部破片	
298	5	042	弥生土器	台付甕	AY11/12	SH0545 西辺周壁溝		7.0		磨滅のため不明	密	1-3	褐灰	良	底部にて 1/3	
299	5	223	弥生土器	高杯	AY14	SH0545	22.0			磨滅のため不明	密	-	黄褐	良	口縁にて 1/6	
300	5	044	弥生土器	高杯	AX13	SH0545				磨滅のため不明	やや密	-	白黄	やや軟	口縁部破片	
301	5	062	弥生土器	高杯	AX14	SH0545				磨滅のため不明	密	1-2	黄褐	良	口縁部破片	
302	5	064	土師器	椀	AY13	SH0545	10.3			磨滅のため不明	密	-	橙	良	口縁にて 1/6	椀形高杯かも
303	5	045	須恵器	ハソウ	AX13	SH0545	9.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 波状文	密	-	内 ; 灰 外 ; 黒	良好	口縁にて 1/12	
304	5	072	弥生土器	台付甕	AX13	SH0545 内　P05184		7.8		内 ; ナデ , オサエ　外 ; ハケ	密	1-3	褐灰	良	底部にて 1/3	
305	5	106	弥生土器	高杯	AX13	SH0545 内　P05184		20.6		磨滅のため不明	密	1-6	淡黄褐	良	底部にて 1/12	
306	5	074	須恵器	杯蓋	AY12	SH0545 内　P05198	13.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/12	
307	5	122	須恵器	杯蓋	AY12	SH0545 内　P05198	12.8		4.1	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-2	内 ; 青灰 外 ; 灰	良好	1/2	自然釉かかる
308	5	073	土師器	甕	AY12	SH0545 内　P05198	19.6			磨滅のため不明	密	1-2	淡赤褐 - 黄褐	良	口縁にて 1/12	
309	5	075	土師器	壷	AY12	SH0545 内　P05200	12.6			磨滅のため不明	密	1-3	褐 - 淡赤褐	良	口縁にて 1/8	
310	5	226	須恵器	杯蓋	AW13	SH0545 内　P05191	14.0			内外 ; ロクロナデ	密	-	暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
311	5	023	弥生土器	壷	AW12	SH0535/36				磨滅のため不明	密	2-5	褐灰	良	頸部にて 1/4	
312	5	056	弥生土器	壷	AX12	SH0535				磨滅のため不明	やや密	1-5	褐灰	やや軟	頸部にて 1/6	
313	5	012	弥生土器	受口甕	AX12	SH0535/36	17.8			口縁 ; 刺突　内 ; 磨滅のため不明 外 ; 直線文 , 刺突	密	2-6	明褐	良	口縁にて 1/6	
314	5	060	弥生土器	受口甕	AW11	SH0535/36 埋土一括	25.6			磨滅のため不明	密	1-4	灰褐	良	口縁にて 1/8	
315	5	011	弥生土器	器台	AX12	SH0535/36	16.6			磨滅のため不明	密	1-3	褐灰	良	口縁にて 1/8	
316	5	013	弥生土器	器台	AX11	SH0535/36	15.8			磨滅のため不明	密	1-2	淡黄褐	良	口縁にて 1/6	
317	5	371	弥生土器	高杯	AW11	SH0535/36　排水溝		11.8		円孔 3 ヶ所	密	1-4	黄灰	良	底部にてほぼ完形	
318	5	222	弥生土器	高杯	AW13	SH0535/36 埋土一括	16.6			磨滅のため不明	密	3	褐	良	口縁にて 1/8	
319	5	206	弥生土器	高杯	AX12	SH0535/36	17.2			磨滅のため不明	密	2	灰褐	良	口縁にて 1/8	
320	5	121	弥生土器	高杯	AW11	SH0535/36 埋土一括	17.8			磨滅のため不明	やや密	1-6	淡黄灰	良	杯部にて 1/3	
321	5	055	土師器	宇田型甕	AW13	SH0535/36 埋土一括				磨滅のため不明	密	1-3	淡赤褐	良	口縁部破片	鍋かも
322	5	211	土師器	宇田型甕	AW12	SH0535/36 埋土一括	15.1			磨滅のため不明	密	2-3	淡灰褐	良	口縁にて 1/8	
323	5	057	須恵器	杯身	AW12	SH0535　貼床層	10.0			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-3	灰青	良好	1/4	
324	5	059	須恵器	杯身	AW11	SH0535/36 埋土一括	11.3			内外 ; ロクロナデ	密	1	灰青	良好	口縁にて 1/6	
325	5	058	須恵器	杯身	AV12	SH0533-36 埋土一括	11.6			内外 ; ロクロナデ	密	1	暗青灰	良好	口縁にて 1/6	
326	5	024	須恵器	杯身	AW12	SH0535/36	12.2			内外 ; ロクロナデ	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/8	
327	5	207	須恵器	杯蓋	AW13	SH0535/36 埋土一括	11.4			内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-2	内 ; 灰 外 ; 黒灰	良好	1/6	
328	5	103	須恵器	杯蓋	AW11	SH0535/36 埋土一括	10.9			内外 ; ロクロナデ	密	1-5	灰青	良好	口縁にて 1/8	
329	5	101	須恵器	杯蓋	AX12	SH0535/36	11.6			内外 ; ロクロナデ	密	-	青灰	良好	口縁にて 1/12	
330	5	212	須恵器	杯蓋	AW12	SH0535/36 埋土一括	13.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-2	暗青灰	良好	口縁にて 1/8	
331	5	014	須恵器	杯蓋	AV11	SH0535 東辺周壁溝	12.8			内外 ; ロクロナデ	密	2-3	暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
332	5	016	須恵器	短頸壷	AW13	SH0535/36	12.3			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	5	内 ; 灰 外 ; 灰青	良好	口縁にて 1/8	
333	5	054	須恵器	壷	AW13	SH0535/36 埋土一括				頸部 ; ロクロナデ 内外 ; タタキ	密	1-2	内 ; 暗青灰 外 ; 灰青	良好	頸部にて 1/6	
334	5	418	石器	剥片	AW/AX13	SH0536 北辺周壁溝　個別④				長×幅×厚さ×重さ ;2.3cm × 3.3cm × 0.3cm × 2.3g					完形	片岩系の石材
335	5	324	弥生土器	壷	AW13	SH0535/36　主柱穴 P05124	17.2			磨滅のため不明	密	1	淡赤褐	良	口縁にて 1/4	
336	5	237	土師器	壷	AW12	中央南北ベルト上層				磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	口縁部破片	
337	5	362	土師器	台付椀	AW12	SH0575 中央南北ベルト		8.0		磨滅のため不明	密	3-4	橙	やや軟	底部にて完形	
338	5	236	土師器	台付甕	AW12	中央南北ベルト上層		8.3		磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	底部にて 1/3	
339	5	025	土師器	高杯	AW12	SH0575		8.6		内 ; オサエ　外 ; 磨滅のため不明	密	1-2	橙	良	底部にて完形	
340	5	116	弥生土器	受口甕	AX13	SH0575 東西ベルト	16.6			口縁 ; 刺突	やや密	2-3	内 ; 黄灰 外 ; 褐	良	口縁にて 1/8	
341	5	423	石製品	砥石	AW12	SH0575				長×幅×厚さ×重さ ;17.4cm × 5.9cm × 4.9cm × 653g					完形	凝灰岩質砂岩 , 断面四角形の砥面をもつ , 擦痕はあまり認められない
342	5	008	須恵器	杯身	AV12	SH0533/34 埋土一括	12 くらい		5 くらい	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-2	灰青	良好	底部にて 1/4	
343	5	015	須恵器	杯蓋	AT12	SH0533/34				内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , ヘラ切りか	やや密	-	灰	良	天井部にて 2/3	
344	5	204	須恵器	杯蓋	AU11	SH0533/34 埋土一括	14 くらい		4 くらい	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	1-3	青灰	良好	1/6	
345	5	010	須恵器	高杯	AV11	SH0433/34- SH0435/36 間				内 ; ロクロナデ , 当て具痕 外 ; ロクロナデ	密	1-2	暗青灰	良好	杯部にて 1/4	
346	5	205	須恵器	脚付壷	AV12	SH0533/34 埋土一括		9.7		内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , カキ目 , 方形透かし	密	-	灰青	良好	底部にて 1/8	透かしは 3 ヶ所のよう

Tab.5-8　遺物観察表

347	5	401	須恵器	ハソウ	AU12	SH0533/34 埋土一括	13.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ→波状文	密	-	内 ; 灰黒 外 ; 暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
348	5	005	土師器	く字甕	AT12	SH0533/34	15.8			磨滅のため不明	密	1-3	淡赤褐	良	口縁にて 1/3	
349	5	009	弥生土器	受口甕	AV11	SH0433/34 SH0435/36 間	17.8			内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ	密	1-3	内 ; 灰褐 外 ; 赤褐	良	口縁にて 1/8	
350	5	006	土師器	宇田型甕	AU11	SH0533/34	22.2			磨滅のため不明	密	4	黄褐	良	口縁にて 1/12	
351	5	007	土師器	台付甕	AV12	SH0533/34 埋土一括		8.0		磨滅のため不明	密	1-5	褐	良	底部にて 2/3	
352	5	332	須恵器	杯蓋	AV12	SH0533/34 内 P05131	13.3			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	2	暗青灰	良好	口縁にて 1/8	
353	5	333	弥生土器	壷	AV12	SH0533/34 内 P05128	16.2			磨滅のため不明	密	1-4	褐灰	良	口縁にて 1/6	
354	5	348	須恵器	杯身	AV11	SH0538	11.3			内外 ; ロクロナデ	密	1-2	内 ; 青灰 外 ; 灰黒	良好	口縁にて 1/8	
355	5	346	須恵器	杯身	AV11	SH0538	12.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-2	青灰	良好	口縁にて 1/6	焼け歪む
356	5	347	須恵器	杯身	AV11	SH0538	12.8			内外 ; ロクロナデ	密	-	暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
357	5	345	須恵器	杯蓋	AV11	SH0538	15.3			内外 ; ロクロナデ	密	1-4	灰	良好	口縁にて 1/8	
358	5	366	須恵器	杯身	AY15	SH0516/17/27/30 東西ベルト	13.3		3.7	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-3	灰	良好	1/3	
359	5	035	須恵器	杯蓋	AX16	SH0516　個別③	13.3		3.7	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-3	青灰	良好	1/4	
360	5	038	須恵器	杯蓋	AX16	SH0516/27	11.3			内外 ; ロクロナデ	密	-	青灰	良好	口縁にて 1/8	
361	5	217	須恵器	杯蓋	AW/AX16	SH0527	15.6			内外 ; ロクロナデ	密	-	暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
362	5	245	須恵器	杯蓋	AV18	SH0517/22/27				内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	やや密	1-3	灰	良好	天井部にて 1/6	
363	5	039	土師器	く字甕	AW/AX16	SH0527 南東周壁溝	17.6			磨滅のため不明	密	1-3	淡褐	良	口縁にて 1/6	
364	5	365	土師器	く字甕	AX16	SH0516　個別⑤	20.0			磨滅のため不明	密	1-4	黄褐	良	口縁にて 1/4	
365	5	036	土師器	く字甕	AW16	SH0516/27	15.6			磨滅のため不明	密	-	黄褐	良	口縁にて 1/6	
366	5	040	土師器	壷	AW/AX16	SH0527 南東周壁溝	11.6			磨滅のため不明	密	1-3	暗褐	良	口縁にて 1/4	受口状
367	5	216	土師器	壷	AW/AX16	SH0527 南東周壁溝	13.6			磨滅のため不明	やや密	2-3	淡褐	良	口縁にて 1/8	
368	5	417	土師器	鍋	AW/AX 間	SH0516/17/27/30 南北ベルト				外 ; ナデ , オサエ	密	1-4	黄褐 - 黄灰	良	把手部分のみ	
369	5	363	土師器	鍋	AV18	SH0517/22/27 個別①	24.6			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ　外 ; ナデか	密	2-6	内 ; 黒褐 外 ; 褐灰	やや軟	口縁にて 1/4	
370	5	364	土師器	高杯	AW17	SH0516　個別②				磨滅のため不明	密	-	黄褐	良	脚部にて端部 を欠く	
371	5	020	土師器	台付甕	AX16	SH0527 南辺周壁溝		7.0		内外 ; ハケ	やや密	1-5	暗褐	良	底部にて完形	
372	5	041	土師器	台付甕	AW/AX16	SH0527 南東周壁溝				磨滅のため不明	やや密	1-3	淡赤褐	良	底部にて 1/4	
373	5	326	弥生土器	く字甕	AX16	SH0516/27 内 P0585	12.2			磨滅のため不明	やや密	1-3	黄白	やや軟	口縁にて 1/4	
374	5	327	弥生土器	高杯	AX16	SH0527 貯蔵穴 P0586		14.8		内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	密	-	灰褐	良好	底部にて 1/6	
375	5	244	須恵器	杯蓋	AV16	SH0510 西辺周壁溝 個別①	11.9		4.5	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-3	灰	良好	1/3	
376	5	424	鉄器	刀子？	AV15	SH0510　焼土上面				長×幅×厚さ×重さ :9.3cm × 2.4cm × 0.9cm × 34.1g					先端部のみ	
377	5	118	須恵器	杯蓋	AV16	SH0513　南西隅 個別①	11.8		4.4	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	やや密	1-3	灰白	良好	1/3	
378	5	408	須恵器	杯身	AT16	SH0511-14	12.6			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-2	内 ; 青灰 外 ; 灰黒	良好	口縁にて 1/6	
379	5	089	土師器	高杯	AT14	SH0511-14 内 P05419				内 ; 絞り　外 ; タテミガキ	密	1-2	橙	良	脚部にて端部 を欠く	
380	5	242	須恵器	杯身	AU17	SH0507/15	11.6			内外 ; ロクロナデ	密	-	暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
381	5	409	須恵器	杯身	AT17	SH0507/15	13.2			内外 ; ロクロナデ	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/12	
382	5	374	須恵器	壷	AU17	SH0507/15 個別① - ⑨	20.0			内 ; ロクロナデ , オサエ 外 ; ロクロナデ→波状文 , 沈線 , タタキ , カキ目	密	1-3	暗青灰	良好	1/2	
383	5	243	土師器	台付甕	AU17	SH0507/15		6.0		磨滅のため不明	やや粗	2-7	淡褐灰	良	底部にて完形	
384	5	325	土師器	宇田型甕	AU17	SH0507/15 内 P0553	18.5			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
385	5	241	須恵器	杯蓋	AS13/ AT14	SH0504	12.8		3.2	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周りか)	密	1-2	青灰	良好	1/6	扁平
386	5	117	土師器	く字甕	AT/AU13	SH0504　南辺周壁溝	20.8			磨滅のため不明	やや密	1-2	黄褐	やや軟	口縁にて 1/16	
387	5	323	土師器	く字甕	AS13	SH0504/05 内 P0509	27.8			内 ; ヨコハケ　外 ; ヨコナデ	密	1-3	褐	良	口縁にて 1/8	
388	5	328	須恵器	杯身	AU14	SH0504/05 内 P0596	11.1			内外 ; ロクロナデ	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/6	
389	5	329	土師器	く字甕	AU13	SH0504 内　P05102	24.0			磨滅のため不明	密	1-3	黄褐	良	口縁にて 1/12	
390	5	350	須恵器	杯蓋	AS15/16	SH0502				内外 ; ロクロナデ	密	3	灰青	良好	口縁部破片	
391	5	240	土師器	壷	AS16	SH0502　カマド 個別①		7.4		磨滅のため不明	やや粗	1-4	淡黄褐	良	底部にて 2/3	
392	5	239	土師器	壷	AS16	SH0502　カマド 個別②	17.0			磨滅のため不明	やや粗	1-4	淡赤褐 - 淡 褐	良	口縁にて 1/8	
393	5	407	須恵器	杯身	AX15	SH0542　埋土一括	11.4		4.5	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , ヘラ切り	密	1-2	灰青	良好	口縁にて 1/4	
394	5	071	土師器	皿	AY15	SH0542/44 内 P05163	11.4		1.8	磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
395	5	342	須恵器	杯蓋	AY10	SH0548	12.7		3.5 く らい	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/8	
396	5	344	須恵器	杯身	AX10	SH0548　排水溝				内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-2	灰	良好	口縁にて 1/4	
397	5	339	土師器	椀	AY10	SH0548	12.0			磨滅のため不明	密	-	明褐	良好	口縁にて 1/8	
398	5	351	土師器	高杯	AX10	SH0548　排水溝				円孔 3 ヶ所	密	-	明褐	良好	脚部にて端部 を欠く	
399	5	340	土師器	宇田型甕	AY10	SH0548	15.2			口縁 ; ヨコナデ 内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	-	灰褐	良	口縁にて 1/8	
400	5	341	土師器	台付甕	AY10	SH0548		8.9		磨滅のため不明	密	-	褐	良	底部にて 1/6	
401	5	343	土師器	鍋	AY10	SH0548	35.8			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて 1/12	
402	5	337	土師器	く字甕	BB13	SH0562 東側炭集中付近	17.0			口縁 ; ヨコナデ 内 ; ヨコハケ　外 ; タテハケ	密	-	明褐	良好	口縁にて 1/12	

Tab.5-9　遺物観察表

403	5	402	須恵器	杯身	AV13	SH0537　埋土一括	14.6			内外 ; ロクロナデ	密	-	内 ; 暗青灰 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/8	
404	5	069	須恵器	杯蓋	AW14	SH0537	12.3			内外 ; ロクロナデ	密	2	灰青	良好	口縁にて 1/8	
405	5	105	須恵器	有蓋高杯	AV14	SH0537　埋土一括				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	やや粗	3	灰	良好	つまみ部のみ	
406	5	224	須恵器	ハソウ？	AU13	SH0537　埋土一括				内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	内 ; 灰 外 ; 灰黒	良好	体部にて 1/4	
407	5	070	土師器	く字甕	AW14	SH0537	18.0			磨滅のため不明	密	2	褐	良	口縁にて 1/4	
408	5	066	土師器	く字甕	AV13	SH0537				磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁部破片	
409	5	403	土師器	鍋	AW14	SH0537　埋土一括				内 ; ナデ , オサエ　外 ; ナデ	密	1-4	淡黄褐	良	把手部分のみ	
410	5	225	弥生土器	高杯	AW14	SH0537　埋土一括		15.6		内 ; ヨコナデ　外 ; タテミガキ	密	3	褐	良好	底部にて 1/4	
411	5	068	ミニチュア土器	甕形	AV/AW13	SH0537　南北ベルト	6.9			磨滅のため不明	密	-	黄褐	良	口縁にて 1/8	
412	5	335	土師器	甕	AW14	SH0537 内　P05143	14.6			磨滅のため不明	密	-	内 ; 暗褐 外 ; 淡赤褐 - 暗褐	良	口縁にて 1/12	
413	5	413	土師器	鍋	AV13	SH0537 内　P05440				外 ; ナデ , オサエ	密	1-6	黄褐	良	把手部分のみ	
414	4	271	須恵器	杯身	BH/BJ14	SD0453　20-40cm	11.4		3.6	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	2-3	内 ; 青灰 外 ; 黒灰	良好	口縁にて 1/4	
415	4	275	須恵器	杯蓋	BI11	SD0453　上層	11.9		4.0	内 ; ロクロナデ , 不整方向ナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	灰	良好	1/3	
416	4	277	須恵器	杯蓋	BI12	SD0453 - 最下層まで	12.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-3	内 ; 灰青 外 ; 黒灰	良好	口縁にて 1/12	
417	4	276	須恵器	短頸壺	BI12	SD0453　下層	11.0			内外 ; ロクロナデ	やや粗	1-4	暗青灰	良好	口縁にて 1/8	
418	4	270	須恵器	杯 B 蓋	BI13	SD0453　0-10cm	18.8			内外 ; ロクロナデ	密	-	内 ; 灰 外 ; 灰黒	良好	口縁にて 1/4	
419	4	289	須恵器	長頸壺	BI12	SD0453/SH0454	6.9			内外 ; ロクロナデ	密	-	内 ; 青灰 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/4	外面に自然釉付着する
420	4	278	須恵器	壺	BI13	SD0453 東西ベルト撤去				内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 沈線	密	1-5	灰黒	良好	頸部にて 2/3	
421	4	281	弥生土器	壺	BI13	SD0453 東西ベルト撤去				磨滅のため不明	やや密	1-3	赤褐~黄褐	良	頸部にて完形	
422	4	274	土師器	杯	BI13	SD0453　0-10cm	23.4	15.8	3.6	磨滅のため不明	密	-	橙	やや軟	1/4	
423	4	417	土師器	鍋	BH15	SD0453				磨滅のため不明	密	-	明褐	良	口縁部破片	
424	4	273	土師器	く字甕	BI13	SD0453　0-10cm	16.6			口縁 ; ヨコナデ	密	1-4	内 ; 黄褐 外 ; 明褐	良	口縁にて 1/6	
425	4	272	土師器	く字甕	BI13	SD0453　0-10cm	17.8			口縁 ; ヨコナデ　内外 ; ハケ	密	1	褐灰	良	口縁にて 1/6	
426	4	040	弥生土器	壺	BG08	SD0427 SD0442 以西	29.8			磨滅のため不明	密	2-4	内 ; 赤褐 外 ; 灰褐	良	口縁にて 1/12	綾杉文あり
427	4	308	弥生土器	壺	BH08	SD0427	14.6			内 ; 磨滅のため不明　外 ; ミガキ	密	1-4	淡褐灰	良	口縁にて 1/3	
428	4	408	弥生土器	長頸壺	BH08	SD0427　個別③				内 ; 磨滅のため不明 外 ; 貼付突帯	やや密	1-4	暗黒褐	良	頸部にて 1/3	
429	4	220	弥生土器	壺	BG08	SD0427		4.2		磨滅のため不明	密	2-7	灰褐	良	底部にて完形	
430	4	224	弥生土器	壺	BH08	SD0427	13.4			磨滅のため不明	密	1-10	明褐	良	口縁にて 1/6	
431	4	518-3	弥生土器	甕	BH08	SD0427　個別④	10.4			磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/4	
432	4	406	弥生土器	壺	BG08	SD0427		3.4		磨滅のため不明	密	1-3	内 ; 黒灰 外 ; 灰白	良	底部にて 1/3	
433	4	222	弥生土器	甕	BH08	SD0427		3.2		磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁を欠く	
434	4	035	弥生土器	受口甕	BH08	SD0427　個別⑤	18.5			磨滅のため不明	密	3-5	灰白	良	口縁にて 1/8	薄い
435	4	208	弥生土器	く字甕	BH08	SD0427　個別④	15.2			内外 ; ハケ	密	2-4	褐	良	口縁にて 1/2	
436	4	302	弥生土器	受口甕	BH08	SD0427　個別④	14.4		23 くらい	口縁 ; ヨコナデ 内 ; ハケ→ナデ　外 ; ハケ	密	1-4	内 ; 黒灰 外 ; 暗褐色	良	1/2	
437	4	225	弥生土器	受口甕	BG08	SD0427　個別②				磨滅のため不明	密	2-5	褐灰	良	口縁部破片	
438	4	034	弥生土器	台付甕	BG09	SD0427　ベルト撤去		6.9		磨滅のため不明	密	2-4	淡褐	良	底部にて完形	
439	4	210	弥生土器	台付甕	BH08	SD0427　個別④		7.6		内 ; ハケ　外 ; ナデ	密	1-4	褐	良	底部にて完形	
440	4	226	弥生土器	台付甕	BH08	SD0427　個別③		7.3		磨滅のため不明	密	1-8	淡黄褐	良	底部にて完形	
441	4	221	弥生土器	台付甕	BG08	SD0427		7.1		磨滅のため不明	密	3-5	淡灰褐	良	底部にて完形	
442	4	306	弥生土器	甕	BG08	SD0427		4.4		磨滅のため不明	やや粗	1-5	褐	良	底部にて完形	底部焼成後穿孔
443	4	309	弥生土器	タタキ甕	BH08	SD0427　個別③				内 ; 磨滅のため不明 外 ; タタキ	密	1-2	内 ; 黒灰 外 ; 褐	やや軟	体部にて 1/3	脚台がつく
444	4	207, 209	弥生土器	高杯	BH08	SD0427　個別①, ④	23.9	14.0		脚部直線文 他は磨滅のため不明	密	2-6	淡褐	良	口縁にて 1/2, 底部にて 2/3	円孔 3 ヶ所にあり
445	4	223	弥生土器	高杯	BG08	SD0427	20.8			磨滅のため不明	密	1-5	淡黄灰	良	口縁にて 1/3	446 と接合
446	4	036	弥生土器	高杯	BG08	SD0427 SD0442 以西				磨滅のため不明	やや粗	3-5	浅黄橙	良	杯部にて 1/2	445 と接合
447	4	033	弥生土器	椀形高杯	BH08	SD0427　個別⑤	12.7			磨滅のため不明	やや密	3-5	灰黄	良	口縁にて完形	接合痕残る
448	4	407	弥生土器	高杯	BH08	SD0427	15.6			磨滅のため不明	密	2-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/6	
449	4	307	弥生土器	高杯	BH08	SD0427				内外 ; ミガキ , 円孔	密	2-4	淡黄褐	良好	脚部にて端部を欠く	
450	4	044	弥生土器	高杯	BG09	SD0427/31/0329/46 交点検出		16.0		内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	密	2	にぶい黄橙	良	底部にて 1/4	
451	4	041	弥生土器	高杯	BG08	SD0427 SD0442 以西		15.4		磨滅のため不明	密	2-3	淡赤褐	良	底部にて 1/4	
452	4	043	弥生土器	高杯	BG08	SD0427/31, SD0329/45 交点		13.4		2cm の間隔で穿孔あり→ 18 個程度の穿孔か	密	2-3	白黄	良	底部にて 1/8	
453	4	039	弥生土器	器台	BH08	SD0427　個別⑤				円孔 , 磨滅のため不明	やや粗	2-4	灰黄	良	体部にて 1/3	
454	4	405	弥生土器	甕	BF08	SD0425		4.9		磨滅のため不明	密	2-5	灰白	良	底部にて完形	底部焼成後穿孔
455	4	418	弥生土器	壺	BE09	SD0432	16.8			内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ	密	1-3	内 ; 灰褐 外 ; 明褐	良	口縁にて 1/4	
456	4	233	弥生土器	壺	BG08	SD0442　個別①	15.2			磨滅のため不明	密	1-4	淡黄褐	良	口縁にてほぼ完形	
457	4	285	弥生土器	壺	BF09	SD0432　個別③				磨滅のため不明	密	-	明褐	良	口縁にて完形	
458	4	421	弥生土器	壺	BF09	SD0432　個別③		5.2		磨滅のため不明	密	2-7	灰褐	良	底部にて 1/2	
459	4	420	弥生土器	壺	BF09	SD0432　個別①		6.0		内 ; ハケ 外 ; 磨滅のため不明	やや密	1-4	内 ; 褐灰 外 ; 褐	良	底部にて 1/2	底部穿孔
460	4	279	弥生土器	壺	BF09	SD0432		4.0		磨滅のため不明	密	1-2	褐灰	良	底部にて完形	
461	4	284	弥生土器	甕	BF09	SD0432　個別③				内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ→直線文	密	1-3	褐灰	良	口縁にて 1/8	
462	4	051	弥生土器	台付甕	BG09	SD0442　ベルト撤去		7.4		磨滅のため不明	やや密	2-4	内 ; 灰褐 外 ; 淡赤褐	良	下半部にて 1/2	
463	4	046	弥生土器	受口甕	BG09	SD0442　上層				磨滅のため不明	密	2-3	淡黄褐	良	口縁部破片	
464	4	280	弥生土器	台付甕	BF09	SD0432		8.2		内 ; ハケか　外 ; ナデ	密	1-3	褐	良好	底部にて 1/3	

Tab.5-10　遺物観察表

465	4	422	弥生土器	台付甕	BF09	SD0432　個別③		5.9		磨滅のため不明	密	1-4	内 ; 黒 外 ; 淡黄褐	良	底部にて 1/2	
466	4	243	弥生土器	高杯	BG08	SD0442　個別②		15.2		円孔上段に 1 ヶ所 , 下段に 3 ヶ所	密	-	淡黄褐	良	底部にてほぼ完形	
467	4	419	弥生土器	高杯	BE09	SD0432		14.6		磨滅のため不明	密	-	褐灰	良	杯部下半にて 1/3	
468	4	266	弥生土器	高杯	BG08	SD0442　個別①	24.2	14.2	17.1	円孔 3 ヶ所	密	1-2	淡赤褐	良	1/2	
469	4	283	弥生土器	高杯	BF09	SD0432　個別②				円孔上段に 1 ヶ所 , 下段は 3 ヶ所か	密	-	淡黄褐	良	脚部にて端部を欠く	
470	4	047	弥生土器	高杯	BG09	SD0442　上層				磨滅のため不明	やや密	2-5	浅黄	良	脚部にて端部を欠く	
471	4	332	弥生土器	高杯	BF09	SD0432				外 ; 直線文 , 他は磨滅のため不明	やや密	5-7	淡褐灰	良	脚部にて端部を欠く	
472	4	282	弥生土器	高杯	BF09	SD0432		14.5		円孔 , 磨滅のため不明	密	3	淡黄褐	良	底部にて完形	
473	4	050	弥生土器	器台	BG08	SD0442				内 ; ナデ　外 ; タテミガキ	密	2-3	淡黄褐	良	体部にて 1/4	
474	4	038	弥生土器	壷	BG10	SD0430　下層	17.4			口縁 ; 凹線 内外 ; 磨滅のため不明	密	2	黄白	良	口縁にて 1/8	
475	4	042	弥生土器	壷	BE09	SD0430	19.3			磨滅のため不明	密	2-4	黄灰	良	口縁にて 1/4	
476	4	030	弥生土器	壷	BF10	SD0430		7.3		磨滅のため不明	密	2-3	淡褐	良	底部にて完形	
477	4	032	弥生土器	高杯	BF09	SD0430	14.0			磨滅のため不明	密	3-6	白黄	良	口縁にて 1/4	
478	4	029	弥生土器	高杯	BF10	SD0430	25.2			磨滅のため不明	密	2	褐灰	良	口縁にて 1/8	
479	4	074	弥生土器	甕	BG10 /BH10	SD0482 東西ベルト撤去		3.8		内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ	密	2-3	黒褐	良	底部にて 1/3	底部を焼成後穿孔する
480	4	031	須恵器	杯 B 身	BE09	SD0430	15.4	10.7	3.9	内外 ; ロクロナデ	密	2,5	灰青	良好	口縁に 1/8	
481	4	227	弥生土器	長頸壷	BF10	SD0438	12.6			磨滅のため不明	密	-	淡黄褐	良	口縁にて完形	外面に黒斑あり
482	4	231	弥生土器	鉢	BF09	SD0438 東西ベルト撤去	9.8	5.0	4.5	磨滅のため不明	密	-	淡黄灰	良	1/4	
483	4	310	弥生土器	受口甕	BF09	SD0438　個別③	13.2			口縁 ; 刺突 内 ; ハケ　外 ; 磨滅のため不明	密	1-4	淡赤褐	良	口縁にて 1/8	
484	4	423	弥生土器	甕	BF10	SD0438		5.0		磨滅のため不明	密	1-5	内 ; 灰褐 外 ; 黄褐	良	底部にて完形	
485	4	409	弥生土器	台付甕	BF09	SD0438　個別①		7.8		磨滅のため不明	密	1-3	淡赤褐	良	底部にて 1/2	
486	4	229	弥生土器	台付甕	BF09	SD0438　個別②		9.2		内外 ; ハケ	やや密	2-6	内 ; 灰黒 外 ; 淡褐	やや軟	底部にて 1/2	
487	4	228	弥生土器	椀形高杯	BF09	SD0438　個別①	17.2			磨滅のため不明	やや密	1-3,6-8	淡褐灰	良	口縁にて 1/3	
488	4	230	弥生土器	高杯	BF09	SD0438 東西ベルト撤去				円孔 , 磨滅のため不明	密	2-7	淡黄褐	良	脚部にて端部を欠く	
489	4	217	弥生土器	高杯	BF09	SH0421/SD0441 重複部分	20.0			磨滅のため不明	密	1-3	淡褐	良	口縁にて 1/8	
490	4	215	弥生土器	高杯	BF09	SH0421/SD0441 重複部分		10.8		円孔 3 ヶ所	密	-	黄灰	良	底部にて 1/6	
491	4	404	弥生土器	台付甕	BF09	SD0421/41 重複部分		7.5		内 ; ナデ　外 ; 磨滅のため不明	密	1-3	淡赤褐	良	底部にて完形	
492	4	214	弥生土器	台付甕	BF09	SH0421/SD0441 重複部分		8.8		磨滅のため不明	密	2-4	灰褐	良	底部にて 1/3	
493	4	519	縄文土器	深鉢	BF09	SD0421/41 重複部分				内 ; 磨滅のため不明　外 ; 沈線	密	1-2	暗褐	やや軟	体部破片	
494	4	049	弥生土器	壷	BG08	SD0447	19.8			磨滅のため不明	やや密	2-4	灰褐	良	口縁にて 1/8	
495	4	048	弥生土器	壷	BG08	SD0447		6.2		磨滅のため不明	やや密	2-5	内 ; 褐灰 外 ; 黄褐	良	底部にて完形	
496	4	045	弥生土器	台付甕	BG08	SD0447		6.8		磨滅のため不明	やや密	2-4	褐灰	良	底部にて 1/2	
497	4	232	弥生土器	壷	BG09	SD0440　個別②	15.6			内 ; 磨滅のため不明 外 ; 貼付突帯	やや粗	1-7	灰黄	良	口縁にて 1/3	
498	4	410	弥生土器	甕	BG09	SD0440　個別①		3.5		磨滅のため不明	やや粗	1-2	淡黄灰	良	底部にて完形	内面にコゲ付着
499	4	028	弥生土器	く字甕	BG08	SD0431	19.8			口縁 ; ヨコナデ 内 ; オサエ　外 ; 磨滅のため不明	やや密	2-4	淡褐	良	口縁にて 1/6	
500	4	218	弥生土器	高杯	BE08	SD0424	28.8			磨滅のため不明	密	1-3	明褐	良	口縁にて 1/12	
501	4	142	弥生土器	壷	BF10	SH0405 等 東西ベルト撤去	31.6			内 ; 刺突 外 ; 凹線	密	1-2	淡黄褐	良	口縁にて 1/12	
502	4	401	弥生土器	壷	BG12	SD0411 個別①＋②＋③	32.2			磨滅のため不明	密	1-6	褐	良	口縁にて 1/4	綾杉文ありそう
503	4	058	弥生土器	壷	BH12	SD0461 南北ベルト西側				内 ; 磨滅のため不明 外 ; ミガキか ?	密	2	明褐	良	胴部破片	502・504 と同一個体
504	4	057	弥生土器	壷	BH ライン	SD0461 南北ベルト撤去		7.3		内 ; 磨滅のため不明 外 ; ミガキ	密	2-5	明褐	良	底部にて完形	502・503 と同一個体
505	4	067	弥生土器	壷	BI13	SD0468　個別①		6.8		内 ; 磨滅のため不明 外 ; タテミガキ	やや密	2-4	灰黄	良	底部にてほぼ完形	外面に黒斑残る
506	4	312	弥生土器	壷	BE09	SD0405	17.0			磨滅のため不明	密	3	黄灰	良	口縁にて 1/8	天地逆かも
507	4	056	弥生土器	壷	BH12	SD0461　個別②	19.1			内 ; ヨコナデ→綾杉文 外 ; ハケ	密	3	黄灰	良	口縁にてほぼ完形	
508	4	053	弥生土器	壷	BH12	SD0461 南北ベルト西側		6.8		内 ; ハケ　外 ; タテミガキ	密	2-4	内 ; 黒灰 外 ; 暗褐灰	良	底部にて完形	
509	4	054	弥生土器	壷 ?	BH ライン	SD0461 南北ベルト撤去	9.6			内 ; オサエ 外 ; 磨滅のため不明	やや密	2-3	内 ; 灰黒 外 ; 褐灰	良	1/2	
510	4	313	弥生土器	く字甕	BF11	SD0405 東西ベルト撤去	13.4			磨滅のため不明	密	2-4	褐	良	口縁にて 1/8	
511	4	411	弥生土器	高杯	BF11	SD0405　個別①	23.0			内 ; 磨滅のため不明　外 ; ミガキ	密	-	灰白	良	口縁にて 1/2	
512	4	235	弥生土器	高杯	BE10	SD0405	13.4			磨滅のため不明	密	-	灰白	良	口縁にて 1/8	
513	4	052	弥生土器	高杯	BG12	SD0461　個別①		18.4		内 ; オサエ　外 ; 円孔	密	2-4	灰黄	良	底部にて 1/6	接合痕残る
514	4	238	弥生土器	高杯	BF11	SD0405　個別②		6.8		内 ; ナデ , オサエ 外 ; タテミガキ	密	-	黒褐	良	底部にて完形	透かし孔なし
515	4	234	弥生土器	高杯	BF11	SD0405		10.0		内 ; 磨滅のため不明 外 ; 円孔 , タテミガキ→直線文 , 刺突	密	-	明褐	良好	底部にてほぼ完形	
516	4	236	弥生土器	高杯	BG12	SD0405　個別①				円孔 , 磨滅のため不明	密	1-3	黄褐	良	杯部にて 1/4	
517	4	069	弥生土器	高杯	BI13	SD0468		12.0		磨滅のため不明	密	2	褐灰	良	底部にて 1/8	
518	4	403	弥生土器	把手付片口鉢	BG12	SD0511	27.6			磨滅のため不明	密	1-3	灰褐	良	口縁にてほぼ完形	内外面ともナデか
519	4	268	土師器	皿	BH14	SD0409　ベルト撤去	11.8		2.4	口縁 ; ヨコナデ	密	-	淡黄灰	良	口縁にて 1/6	
520	4	267	緑釉陶器	椀	BH14	SD0409				内外 ; 施釉	密	-	断 ; 灰 釉 ; 薄緑灰	良	底部破片	
521	4	331	須恵器	壷	BG13/14	SD0409	29.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 沈線 , 波状文	密	-	内 ; 灰 外 ; 暗青灰	良好	口縁にて 1/12	
522	4	204	弥生土器	壷	-	SD0396	15.6			磨滅のため不明	密	1-3	灰白	良	口縁にて 1/6	
523	4	402	須恵器	壷	-	SD0396	15.0			内外 ; ロクロナデ	密	-	暗青灰	良好	口縁にて 1/6	
524	4	269	弥生土器	壷	-	SD03121		5.7		磨滅のため不明	密	1-3	淡褐	良	底部にて完形	底部焼成後穿孔

Tab.5-11　遺物観察表

525	4	139	弥生土器	高杯	-	SD03110	20.2			内外 ; ミガキ	密	1-2	にぶい黄褐	良	口縁にて 1/8	
526	4	205	弥生土器	高杯	BD11	SD03110				内 ; ナデ　外 ; タテミガキ→直線文 (3 条 1 単位)	密	-	褐	良好	脚部にて端部を欠く	
527	4	206	弥生土器	高杯	BD11	SD03110		12.0		内 ; ヨコナデ　外 ; タテミガキ	密	6	褐	良好	底部にて 1/4	
528	4	203	弥生土器	台付甕	BD11	SD03110		7.2		磨滅のため不明	密	1-3	内 ; 褐灰 外 ; 淡赤褐	良	底部にて 1/4	
529	4	303	弥生土器	壷	中央南北セクション	SD0417	15.4			磨滅のため不明	密	1	内 ; 灰褐 外 ; 明褐	良	口縁にて 1/8	
530	4	304	弥生土器	受口甕	中央南北セクション	SD0417	14.9			磨滅のため不明	やや密	1-3	褐	良	口縁にて 1/8	
531	4	128	弥生土器	台付甕	BF12	SD0414		7.6		磨滅のため不明	やや密	2-5	淡黄褐	良	底部にて完形	
532	4	055	弥生土器	甕	BH12/13	SD0460	25.0			内 ; ハケ　外 ; 磨滅のため不明	やや粗	2-3	浅黄橙	良	口縁にて 1/8	
533	4	065	弥生土器	壷	BG13	SD0466	12.0			磨滅のため不明	密	2	黄褐	良	口縁にて 1/8	
534	4	064	弥生土器	壷	BG13	SD0466		7.0		磨滅のため不明	密	2-3	灰黄	良	底部にて 2/3	
535	4	066	弥生土器	椀形高杯	BH13	SD0466	13.6			磨滅のため不明	やや密	3-4	淡黄褐	良	杯部にて 1/2	
536	4	323-2	弥生土器	高杯	BH14	SD0467				内 ; 磨滅のため不明 外 ; ミガキか	密	1-3	黄褐	良	脚部にて端部を欠く	
537	4	071	弥生土器	壷	BJ11	SD0478	13.4			磨滅のため不明	密	1-2	黄灰	良	口縁にて 1/8	
538	4	068	弥生土器	壷	BJ11	SD0478	16.7			磨滅のため不明	やや密	2-4	淡黄褐	良	口縁部 1/4	
539	4	073	弥生土器	台付甕	BJ ライン	SD0478 東西ベルト撤去		6.9		磨滅のため不明	密	2	にぶい黄橙	良	底部にて完形	
540	4	070	弥生土器	器台	BJ11	SD0478		15.2		外 ; 直線文 (6 条 1 単位) を 3 段 , 円孔透かし 3 ヶ所	密	2	黄褐	良	底部にて 1/4	
541	4	078	弥生土器	脚付壷	BI09	SD0485				磨滅のため不明	密	3	淡黄褐	良	体部にて 1/4	
542	4	075	弥生土器	台付甕	BI10	SD0485		7.0		内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ	密	-	淡黄褐 - 淡黄灰	良	底部にて完形	
543	4	077	弥生土器	台付甕	BI09	SD0485				内 ; 磨滅のため不明 外 ; ハケ	やや密	2-4	内 ; 黒灰 外 ; 淡黄灰	良	底部にてほぼ完形	
544	4	076	弥生土器	台付甕	BI09	SD0485		7.0		磨滅のため不明	密	2	淡黄褐	良	底部にてほぼ完形	
545	5	047	須恵器	甕	AV11	SD0501	17.8			口縁 ; ロクロナデ 内 ; ロクロナデ　外 ; ハケ	密	-	内 ; 暗灰色 外 ; 灰黄色	良好	口縁にて 1/8	土師器の製作技法を模倣
546	5	375	土師器	羽釜	AU13	SD0501	26.8		14.0	口縁 ; ヨコナデ 内 ; ナデ　外 ; ナデ + ケズリ	密	-	淡黄褐	良	1/6	鍔部以下に煤付着 , 内面に水垢痕が残る
547	5	092	須恵器	蓋	BC14	SD0568	13.8			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	内 ; 黄灰 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/12	
548	5	109	土師器	皿	BC14	SD0568	12.8		1.9	磨滅のため不明	密	-	黄白	良	口縁にて 1/4	
549	5	219	土師器	羽釜	BC14	SD0568	22.0		15 くらい	口縁 ; ヨコナデ 内外 ; ナデ , オサエ , 板ナデ	やや粗	2-4	内 ; 淡褐 外 ; 褐灰	良	1/3	鍔部以下に煤が付着する
550	4	019	須恵器	杯身	BH12	P04291	10.6			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	2	灰	良好	口縁にて 1/8	
551	4	018	土師器	台付甕	BH12	P04220		8.8		磨滅のため不明	密	1-3	淡赤褐	良	底部にて完形	
552	4	244	須恵器	杯蓋	BF13	P04435	11.8		4.6	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	1-2	青灰	良好	1/3	
553	4	015	土師器	椀	BF13	P04435	10.8			磨滅のため不明	密	2-5	明褐	良好	1/4	
554	4	016	須恵器	甕	BI11	P04304	18.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ→タタキ	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/4	
555	4	017	土師器	く字甕	BH11	P04298	19.0			口縁 ; ヨコナデ　外 ; ハケ	密	2-3	黄褐	良	口縁にて 1/8	
556	4	027	土製品	鞴の羽口	BG10	P04421					やや粗	2-4	橙 - 浅黄橙 - 灰黄	良	先端部付近の破片	
557	4	024	鉄器	ヤリガンナ？	BI09	P04284				厚さ 5mm 程度					先端 , 基部を欠く	刀子か？
558	5	321	須恵器	杯蓋	AR13	P0501	10.8			内外 ; ロクロナデ	密	-	内 ; 青灰 外 ; 灰黒	良好	口縁にて 1/6	
559	5	322	土師器	高杯	AS16	SH0502 内　P0502		10.7		磨滅のため不明	密	1	明褐	良	底部にて 1/8	
560	5	084	弥生土器	く字甕	BB11	P05313				磨滅のため不明	密	2-4	淡褐	良	口縁部破片	
561	5	410	須恵器	杯蓋	AY13	SH0545 内　P05180	12.4			内 ; ロクロナデ	密	1-3	内 ; 灰白 外 ; 暗青	良好	口縁にて 1/12	
562	5	334	須恵器	ハソウ	AW11	P05140	14.0			内外 ; ロクロナデ　外 ; 刺突？	密	-	内 ; 灰白 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/12	
563	5	331	土師器	宇田型甕	AT12	P05109	15.2			磨滅のため不明	やや密	1-5	淡黄褐	良	口縁にて 1/8	
564	5	076	弥生土器	く字甕	BD14	P05224				磨滅のため不明	密	1-3	灰褐	良	口縁部破片	
565	5	411	土師器	壷	BD14	P05224	10.8			磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/4	
566	5	077	弥生土器	高杯	BD13	P05231				磨滅のため不明	密	1-4	灰褐	良	脚部にて端部を欠く	
567	5	336	土師器	宇田型甕	AW15	P05153	14.4			口縁 ; ヨコナデ 内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	密	1-3	淡褐	良	口縁にて 1/12	
568	5	107	弥生土器	高杯	BD13	P05233	27.7			磨滅のため不明	密	1-3	淡黄褐	良	口縁にて 1/12	
569	5	078	弥生土器	高杯	BE13	P05240		13.6		磨滅のため不明	密	-	淡褐灰	良	底部にて 1/12	
570	5	081	弥生土器	高杯	BE13	P05240	21.7			磨滅のため不明	密	1-4	淡褐灰	良	口縁にて 1/8	
571	5	406	土師器	甑	BD13	P05235	33.0			磨滅のため不明	密	1-3	内 ; 淡黄灰 外 ; 淡灰褐	良	口縁にて 1/12	
572	4	252	弥生土器	壷	BI09	包含層				頸部に円孔を巡らす , 磨滅のため不明	密	1-3	白黄	やや軟	頸部にて 1/8	
573	4	248	弥生土器	壷	BE13	包含層　下層	24.0			内 ; 綾杉文 , 円形刺突 外 ; 凹線 , ミガキ	密	1-3	暗褐	良	口縁にて 1/12	
574	4	060	弥生土器	壷	BI09	包含層	16.0			磨滅のため不明	密	1-3	淡灰褐	良	口縁にて 1/4	
575	4	240	弥生土器	壷	BE10	包含層		5.1		磨滅のため不明	密	-	黄灰	良	底部にて完形	
576	4	239	弥生土器	壷	BE10	包含層		4.1		磨滅のため不明	密	1-2	内 ; 灰褐 外 ; 明褐	良	底部にて完形	
577	5	001	土師器	宇田型甕	-	全体検出	17.0			口縁 ; ヨコナデ　外 ; ハケ	やや密	1-3	淡褐灰	やや軟	口縁にて 1/8	
578	5	202	土師器	台付甕	西区	全体検出		8.0		内 ; オサエ　外 ; ナデ	やや密	1-3	褐灰	良	底部にて 1/2	
579	4	318	土師器	台付甕	BD12	包含層　上層		9.8		内 ; オサエ　外 ; ナデ	密	-	淡黄褐	良	底部にて 1/3	
580	4	250	弥生土器	甕	BF13	包含層　0-10cm		5.3		磨滅のため不明	やや密	2-3	灰褐	良	底部にて完形	
581	4	176	弥生土器	台付甕	BG11	検出		7.4		内 ; 磨滅のため不明　外 ; ハケ	やや密	2-6	黄白	やや軟	底部にて完形	
582	4	246	須恵器	甑 / 鍋	BF14	包含層　上層				内 ; ロクロナデ 外 ; ナデ , 切り込みあり	密	3	灰 - 黒灰	良好	把手部分のみ	
583	5	415	土師器	鍋	AW16/ AU15 以北	検出				内 ; ナデ　外 ; ナデ , オサエ	密	1-6	黄褐	良	把手部分のみ	
584	5	220	弥生土器	高杯	中区	包含層	18.0			磨滅のため不明	やや密	1-3	内 ; 黄灰 外 ; 灰黒	良	口縁にて 1/8	
585	4	249	弥生土器	高杯	BE08	検出		11.0		内 ; ナデ　外 ; タテミガキ , 円孔	密	2-3	明褐	良好	底部にて 1/8	

Tab.5-12　遺物観察表

586	4	177	土師器	高杯	BH13	包含層 10cm- 地山直上		10.8		磨滅のため不明	密	2-3	明褐	良	底部にて 1/2	
587	4	062	土師器	高杯	BH13	包含層 10cm- 地山直上		11.2		磨滅のため不明	密	3	明褐 - 黄褐	良	底部にて 1/3	
588	5	002	土師器	高杯	-	全体検出				内 ; 絞り 外 ; ケズリか	密	2	淡褐	良	脚部にて端部を欠く	
589	4	315	須恵器	杯身	BE13	包含層　上層	10.6			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-3	灰	良	口縁にて 1/8	
590	4	061	須恵器	杯身	BH13	包含層 10cm- 地山直上	10.8		4.9	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	-	灰青	良好	口縁にて 1/6	口縁部にて自然釉付着
591	5	221	須恵器	杯身	南区	検出	11.1			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	灰白	良好	口縁にて 1/4	尾張系か
592	5	053	須恵器	杯身	南区	検出	10.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	やや密	1-2	黄灰	やや軟	口縁にて 1/4	
593	4	314	須恵器	杯身	BE12	包含層　上層	13.0		5.5 くらい	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	やや粗	5	灰青	良好	1/6	
594	4	242	須恵器	杯身	BE12	包含層　下層	11.6		4.5 くらい	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	やや密	1	黄灰 - 灰	やや軟	1/3	
595	4	253	須恵器	杯身	BD12	包含層　上層	14.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	灰青	良好	1/6	
596	4	320	須恵器	杯身	BF12	包含層　上層	12 くらい		3 くらい	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 不調整	密	1-3	青灰	良好	1/6	
597	4	317	須恵器	無蓋高杯	BE08	検出	15.0			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 波状文	密	-	青灰	良好	口縁にて 1/12	
598	5	201	須恵器	高杯	西区	全体検出		9.4		内外 ; ロクロナデ	密	1-2	暗灰	良好	底部にて 1/6	方形透かし 3 ヶ所
599	5	102	須恵器	杯蓋	南区	検出	12.2		4.6	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	-	灰	良好	1/3	
600	5	003	須恵器	杯蓋	-	検出	13.0			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	-	内 ; 灰白 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/12	
601	5	004	須恵器	杯蓋	-	検出	14.0		4.4	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	2	灰	良好	1/4	
602	4	319	須恵器	杯 B 身	BF08	包含層	11.4	8.0	4.5	内外 ; ロクロナデ	密	-	内 ; 灰 外 ; 灰黒	良好	口縁にて 1/8	
603	4	059	須恵器	壷	BH14	包含層	12.4			内外 ; ロクロナデ	密	1-2	灰	良好	口縁にて 1/8	
604	5	203	須恵器	甕	AW16/ AU15 以北	検出	21.2			内外 ; ロクロナデ	密	-	灰	良好	口縁にて 1/12	内面に自然釉かかる
605	4	178	須恵器	甕	BF12	上層	21.4			内外 ; ロクロナデ	密	2	灰白	良	口縁にて 1/8	
606	4	251	須恵器	甕	BC11	包含層　上層	21.6			内外 ; ロクロナデ	密	1,10	灰青	良好	口縁にて 1/8	
607	4	241	灰釉陶器	椀	BF08	包含層		7.0		内外 ; ロクロナデ→施釉 (ツケガケ)	密	-	灰白	良好	底部にて完形	
608	5	050	須恵器	杯身	-	表採	12.6			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	1-2	暗青灰	良好	口縁にて 1/8	
609	5	048	須恵器	杯身	-	表採	12.3		4.0	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	-	内 ; 青灰 外 ; 灰	良好	1/4	
610	4	081	須恵器	杯蓋	-	表面採取	11.9		4.4	内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (時計周り)	密	-	灰	良好	口縁にて 1/4	
611	4	085	弥生土器	甕	4 次調査区	表採		4.6		磨滅のため不明	やや密	3-4	明褐	良	底部にて完形	底部を焼成後穿孔する
612	5	051	弥生土器	甕	-	表土除去				磨滅のため不明	やや密	1-5	赤褐	軟	口縁部破片	壷かも
613	5	049	弥生土器	高杯	-	表採				磨滅のため不明	やや密	1	赤褐	軟	口縁部破片	
614	4	080	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	サブトレンチ		16.0		磨滅のため不明	密	2	淡赤褐	良	底部にて 1/4	
615	4	084	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	サブトレンチ		11.0		円孔 3 ヶ所	やや粗	1-3	淡黄褐	良	底部にてほぼ完形	
616	4	083	弥生土器	高杯	中央南北 セクション	サブトレンチ				磨滅のため不明	密	2-4	白黄	良	脚部にて端部を欠く	
617	4	082	弥生土器	台付甕	BJ ライン	南北ベルトサブトレンチ　SH0455 以北	13.4		14.5 くらい	磨滅のため不明	密	2-4	淡灰褐	良	口縁にて 1/12, 底部にて 1/8	
618	4	322	弥生土器	受口甕	14 ライン	東西ベルトサブトレンチ　SH0455 か	14.2			内 ; ハケ　外 ; 磨滅のため不明	密	1-3	褐灰	良	口縁にて 1/4	
619	5	046	須恵器	杯蓋	BD13/14	現代地割溝⑥	14.0			内 ; ロクロナデ　外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り (反時計周り)	密	1-2	黒灰	良好	1/6	
620	4	079	須恵器	有蓋高杯	南東区	南端　現代地割溝	9.6			内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	-	内 ; 灰青 外 ; 灰	良好	口縁にて 1/4	外面に自然釉付着する
621	5	052	土師器	羽釜	-	表土除去	30.0			口縁 ; ヨコナデ 内 ; オサエ　外 ; ハケ	密	-	黄褐	良	口縁にて 1/8	
622	5	246	須恵器	杯身	中区	表土除去	14.2		5.1	内 ; ロクロナデ 外 ; ロクロナデ , 回転ヘラ削り	密	1-2	灰	良好	1/3	
623	4	--	石製品	原石	BI10	P04307				長×幅×厚さ×重さ ;1.4cm × 1.1cm × 0.9cm × 1.8g					完形？	水晶
624	4	-	石器	石匙	BF12	下層　北側の SH				長×幅×厚さ×重さ ;4.5cm × 4.4cm × 0.8cm × 12.3g					完形	サヌカイト (二上山)
625	4	-	石器	磨製石鏃	BJ13	SH0455				長×幅×厚さ×重さ ;1.4cm × 2.5cm × 0.3cm × 1.3g					基部のみ	片岩系 , 穿孔する
626	4	-	石器	扁平片刃石斧	BE08	地山直上				長×幅×厚さ×重さ ;11.6cm × 3.0cm × 3.4cm × 187.1g					基部を僅かに欠く	片岩系
627	4	-	石器	石錘	BF09	SD0421/41 重複部分				長×幅×厚さ×重さ ;7.2cm × 5.5cm × 2.3cm × 130.5g					完形	石材不明
628	4	-	石器	金床石？	BJ11	SK0474				長×幅×厚さ×重さ ;3.1cm × 8.4cm × 6.1cm ×約 250g					1/2	砂岩 , 被熱する
629	5	-	石器	磨石	AS15/16	SH0502				長×幅×厚さ×重さ ;8.4cm × 7.0cm × 2.5cm × 193.4g					完形	砂岩
630	5	-	石器	磨石	AV12	SH0533-36 埋土一括				長×幅×厚さ×重さ ;8.5cm × 8.3cm × 4.0cm ×約 350g					完形	砂岩
631	5	-	石器	磨石	BA12/13	SH0559 北半				長×幅×厚さ×重さ ;6.5cm × 5.8cm × 4.1cm × 199.1g					完形	石材不明
632	4	-	石製品	原石	BG12/13	SH0465				長×幅×厚さ×重さ ;17.8cm × 14.3cm × 10.2cm ×約 350g					完形	軽石
633	4	-	石製品	筋砥石	BE10	SD0430				長×幅×厚さ×重さ ;14.3cm × 8.9cm × 4.6cm ×約 600g					1/3	石材不明 , 浅く筋状に凹む
634	4	-	石製品	砥石	BG13	SD0466				長×幅×厚さ×重さ ;11.3cm × 5.0cm × 3.7cm ×約 200g					1/2	凝灰岩 , 断面五角形 , よく使用される
635	4	-	石製品	砥石	BG13	SD0446				長×幅×厚さ×重さ ;5.9cm × 3.2cm × 2.1cm × 22.4g					完形	凝灰岩 , 断面四角形 , 極めてよく使用される
636	4	-	石製品	砥石	BI/BJ14	東西ベルトサブトレンチ　SH0456				長×幅×厚さ×重さ ;3.2cm × 3.2cm × 1.2cm × 13.9g					完形	凝灰岩 , 断面四角形 , よく使用される
637	5	-	石製品	台石	AX12	SH0535 (SH0536 西側)				長×幅×厚さ×重さ ;7.6cm × 15.5cm × 4.3cm ×約 500g					破片のため不明	砂岩 , 表裏両面が利用される
638	5	-	石製品	台石	AZ10	SH0554				長×幅×厚さ×重さ ;21.3m × 11.8cm × 3.4cm ×約 1,000g					完形	砂岩 , 表面のみ利用される
639	5	-	石製品	台石	AX10	SH0516/30 内 P0589				長×幅×厚さ×重さ ;20.4cm × 16.6m × 4.3cm ×約 1,400g					2/3	石材不明 , 表面のみ利用される

Tab.5-13　遺物観察表　　※　廻間式は弥生土器に分類した

640	5	-	石製品	台石	BA12	SH0559　個別 - ⑥				長×幅×厚さ×重さ ;23.9cm × 17.8m × 7.9cm ×約 3,850g					完形	砂岩 , 表面のみ利用される
641	4	-	石製品	台石	BF11	SH0405　個別 - ②（上層の SH か）				長×幅×厚さ×重さ ;26.5cm × 17.0cm × 7.3cm ×約 4,850g					ほぼ完形	砂岩 , 表裏両面が利用される
642	4	-	石製品	台石	BI13	SD0453 上面礫①				長×幅×厚さ×重さ ;21.8cm × 12.3cm × 10.6cm ×約 2,850g					完形	砂岩 , 表面のみ利用される
643	4	-	石製品	台石	BJ11	SK0474-　個別 - ⑤				長×幅×厚さ×重さ ;34.0cm × 13.4cm × 6.9cm ×約 4,050g					完形	砂岩 , 表面のみ利用される

第Ⅵ章　調査の成果

磐城山遺跡は，第1・2次の発掘調査の成果から，大溝（SD0104とする）を持つ弥生時代後期の山中式期の集落址と，5世紀末から6世紀頃の古墳時代の集落址，古代の掘立柱建物群，木田城に係る中世の城館跡が中心となっている複合遺跡として周知されてきた。

この状況下で行われた平成22年度からの発掘調査は，遺跡の北東側に当たることから，環濠とされている大溝と内部の集落とがどのような関係を有しているのかを確認することを主な目的として調査を実施した。

なお，届出された対象地は膨大な面積があるため，現在も調査進行中である。そのため，遺跡の全体像が判明したわけではないが，これまでに得られた知見を中心にまとめておきたい。

1　環濠について

今回の第5次調査区は，磐城山遺跡がのる丘陵平坦面の北端まで及んでいる。そのため，第1次調査区で確認したSD0104が弧状にのびて集落を囲繞すると仮定すると，地形的に考えて第5次調査区の北端を東西方向に検出されることとなる。このように，SD0104の西側に展開する山中式の集落が，環濠で囲まれているか否かが一つの大きな検討課題であった。

しかしながら，調査の結果，第5次調査区では環濠らしき大溝を確認することはなかった（Fig. 65）。このことから，SD0104は集落を囲い込むものではなく，南東方向に伸びる丘陵の先端を遮断するように掘られたものだと理解することが可能となった。これを査証するように，SD0104は検出された約20 mの間，南西から北東方向へ直線的にのびている。

従来，弥生時代後期の集落は，大溝で囲い込む構造が環濠集落の典型的とされてきたが，丘陵を遮断するような事例も存在する。周辺地域でも津市大城遺跡等が該当する。大城遺跡では幾筋かの大溝によって集落が区割りされており，磐城山遺跡も今後の調査が進展すると同様の構造をとるかもしれない。

2　集落の継続時期

さて，磐城山遺跡の中心が山中式にあることは既に述べたが，今回の調査区ではそれを遡る可能性のあるSH0455やSH0404，SH0559等が確認された。これらはいずれもにぶい黄褐色を呈した埋土であり，山中式以降の埋土とは一見して異なっていた。ここから出土した土器群は，他の遺構のものと混在するものの，盤状高杯や壷，受口甕を主要な器種とするようで，山中式以前の八王子古宮式や松阪市川原表B遺跡等に併行する資料になろう。今のところ，この時期に該当しそうな竪穴住居は3棟のみであるが，類例の少ない時期であり，磐城山遺跡が後期初頭まで遡ることが明らかとなった点は重要な成果であった。

また，今のところ磐城山遺跡では集落しか確認されていないが，眼下に約1 kmしか離れていない八重垣神社遺跡（第6次）において，ほぼ同時期の方形周溝墓SX078やSX080が確認されている。集落と墓域との関係も窺え，今後総合的に考究していかなくてはならない。

このように八王子古宮式併行から始まった磐城山遺跡の集落は，山中式期に盛行し，廻間式の古い段階まで継続することも明らかとなった。終焉がいつか判然としないが，他の集落でもこの時期に終焉を迎える遺跡が多く，磐城山遺跡も同じ動向をもつ点を評価しておきたい。なお，環濠SD0104の内容が明らかではないので，ここでは詳らかにできないが，集落と環濠との併存時期がいつなのかを詳細に検討する必要が生じてきた。この点は，今後の課題としておきたい。

この後，いくらかの空白期があった後，再び5世紀末頃から集落址として機能するようになる。この時期以降の中心がより西側にある可能性が高いので概観となるが，概ね6世紀にかけて盛行して7世紀代に衰退していく様が認められる。ただし，7世紀代に集落が衰退していく様は，SD0453やSD0308で画される大きな区画に起因する可能性がある。この点については，より西側の調査を待って言及したい。

3　古代について

今回の第4・5次調査区では，目立った古代の遺構はSD0453，SK0474を除き確認されていない。古代の遺構の中心はより西側にあるようである。

幾度か述べたように，SD0453はSD0308やSD0164と同一の溝であり，何らかの重要な施設を区画する重要な溝である可能性が高い。この溝は幅が約1.2 mで，深いところの深さは0.6 mを測る。約4～5°程度西へ振りながら，30 m以上直線的にのびて調査区外へと続いている。

また，この溝は第1次調査区にて直角に西へ折れて，約60 m以上のびた後，再び調査区外へと続いていく。

Fig.65　山中式から廻間式期の集落の変遷（S=1/400）

南東隅を基点に南辺の 32-38 mの間（中世から近代の溝が重複しており，6 mという意味ではない）が開口しており，出入口のための施設があったものと推測される。今の所，この区画溝の北辺と西辺は未確認である。

これらの溝の帰属時期は，混在遺物が多いことから特定することは難しいが，概ね 7 世紀後半から 8 世紀頃である可能性が高い。この時期は律令制を整備し，各地に官営の施設が築造される時期にあたる。これらの施設が直線的な溝や柵列で囲繞されることが多いのは周知の事実であり，磐城山遺跡も何らかの官営施設が包蔵されている可能性が指摘できる。

4　中世城館にかかわる遺構

磐城山遺跡の西側には，隣接して中世城館である木田城跡が登録されている。調査地内には，SD0354 や SD0501，SD0563，SD0524 等，比較的規模の大きい溝が幾筋も確認されている。これらは羽釜や土師器皿を出土することから，15 ～ 16 世紀代の遺構で , 木田城に係る区画溝だと考えられる。ただし，SD354 の南側には溝の芯々で約 3 mの間隔を保って併行してのびる溝 SD0141，SD0189 があり，道路が通っていた可能性もある。

また，この他にも現代の筆境とほぼ同じ位置に溝が確認されるものがある。現代の地割溝の埋土は一見してしまりがなく峻別されるが，これらの溝の基底部にややしまりがあり，中世まで遡り得るものがある。SD0409 等が該当するが，このような溝も城館にかかわるものであり，その溝が現代まで地割りとして踏襲された可能性がある。

さて，これらの区画に囲まれた内部に屋敷等が展開することが容易に想像される。しかしながら，実際の調査では十分に把握することができなかった。中世のピットが古代に比して小規模である点に加え，無数の遺構が濃密に分布していることが，それらを見つけることを困難にしている。拳大程度の礫を多く含むピットが礎石建建物の根石になるのではないかと推測しているものの，規則的な配置をとるに至らず十分に建物として認識できていないのが現状である。

なお，建物以外の遺構は希薄であり，井戸はもちろん土坑も少ない。僅かに SK0139 や SX0328 等が確認されている程度であるが，これらはいずれも土坑墓である可能性が高い。

このように中世のあり方は，比較的単純な様相を呈す。木田城の本体はよりに西方にあるのであろうが，中世の遺構が丘陵の東端まで広がっていることが確認できた。

参考文献

赤塚次郎　1990 『廻間遺跡』 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎　1992 『山中遺跡』 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎　1997 『西上免遺跡』 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎　2001 『八王子遺跡』 財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎　2003 「八王子古宮式と近江湖南型甕」『研究紀要』第 4 号　財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター

浅野隆司ほか　2007 『境谷遺跡第 1 次発掘調査概要報告』 鈴鹿市考古博物館

浅野隆司ほか　2008 『境谷遺跡第 2 次発掘調査概要報告』 鈴鹿市考古博物館

伊藤　洋　2010 『十宮古里遺跡発掘調査報告』 鈴鹿市考古博物館

伊藤裕偉　2004 『河曲の遺跡』 三重県埋蔵文化財センター

上村安生　2002 「伊勢・伊賀地域」『弥生土器の編年と様式』木耳社

大場範久・仲見秀雄　1972 「鈴鹿市高岡青谷遺跡調査報告」『神戸史談』第 8 号　三重県立神戸高等学校

岡田雅幸　2000 「磐城山遺跡（2 次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第 1 号　鈴鹿市考古博物館

岡田雅幸・林和範　2003 「一反通遺跡（4 次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第 4 号　鈴鹿市考古博物館

小倉　整　2005 『国分北遺跡（3 次）発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター

角正淳子　2000 「国分北遺跡発掘調査報告」 三重県埋蔵文化財センター

清水政宏　2003 『山奥遺跡』Ⅰ　四日市市教育委員会

清水政宏　2004 『山奥遺跡』Ⅱ　四日市市教育委員会

杉立正徳　1998 「磐城山遺跡発掘調査概要」『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報』Ⅴ　鈴鹿市教育委員会

鈴鹿市教育委員会編　1980 『鈴鹿市史』第一巻　鈴鹿市

田部剛士　2011 「磐城山遺跡（3 次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第 13 号　鈴鹿市考古博物館

田部剛士　2013 「磐城山遺跡（4 次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第 14 号　鈴鹿市考古博物館

田部剛士　2014 予定 「磐城山遺跡（5 次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第 15 号　鈴鹿市考古博物館

新田　剛　1998 「一反通遺跡（3 次）」『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報』Ⅴ　鈴鹿市教育委員会

新田　剛　2010 『八重垣神社遺跡（第 6 次）』 鈴鹿市考古博物館

藤原秀樹　1996 「木田坂上遺跡（2 次）発掘調査報告」『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報』Ⅳ　鈴鹿市教育委員会

藤原秀樹　2007 「南山遺跡（第 4 次）」『鈴鹿市考古博物館年報』第 9 号　鈴鹿市考古博物館

穂積裕昌　2005 『菟上遺跡発掘調査報告書』 三重県埋蔵文化財センター

松阪市教育委員会　1991 『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』

三重県史編さん事務局　2005 『三重県史』資料編考古 1　三重県

森川常厚　1994 『磐城山遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター

吉田隆史　2011 『岸岡山Ⅲ遺跡』 鈴鹿市考古博物館

吉田隆史　2013 『平田遺跡（第 19・22 次）- 平田送水場改築に伴う発掘調査報告書』 鈴鹿市考古博物館

写　真　図　版

PL.1

1　第 5 次調査区航空写真
（西上空から）

2　第 5 次調査区航空写真
（南上空から）

1　第４次調査区全景（南西から）

2　第４次調査区全景（北西から）

1　第 5 次調査北区全景（西から）

2　第 5 次調査中区全景（西から）

1　第 5 次調査区全景（南西から）

2　第 5 次調査南区全景（西から）

PL.5

1　第 5 次調査西区全景（東から）

2　SK0474・SH0484 完掘（西から）

1　SH0404 完掘（南から）

2　SH0455 完掘（北から）

1　SH0428/29 完掘（南から）

2　SH0462-65 完掘（東から）

1　SH03138/139 完掘（北西から）

2　SH0561 完掘（北西から）

1　SH0560/66 完掘（北から）

2　SH0565 完掘（北西から）

1　SH0559 完掘（北西から）

2　SH0551/53 完掘（南東から）

1　SH0547/57 完掘（西から）

2　SH0545 完掘（西から）

1　SH0535/36 完掘（南から）

2　SH0542/44 完掘（南から）

1　SH0533/34 完掘（南西から）

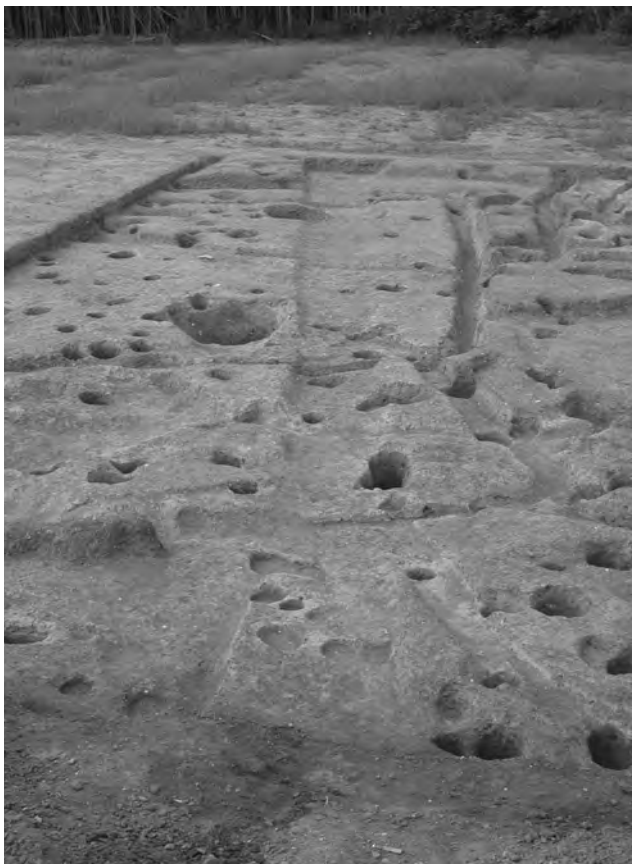
2　SH0517/27・SH0516/30 完掘（南から）

1　SH0508-14 完掘（南から）

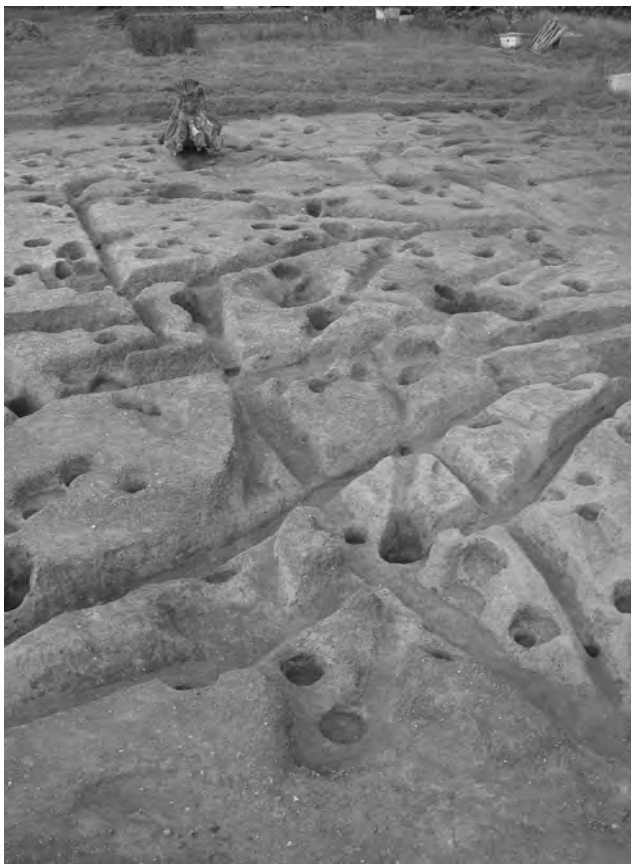
2　SH0507/15 完掘（南から）

1　SH0504/05 完掘（南から）

2　SD0425/27 ほか完掘（西から）



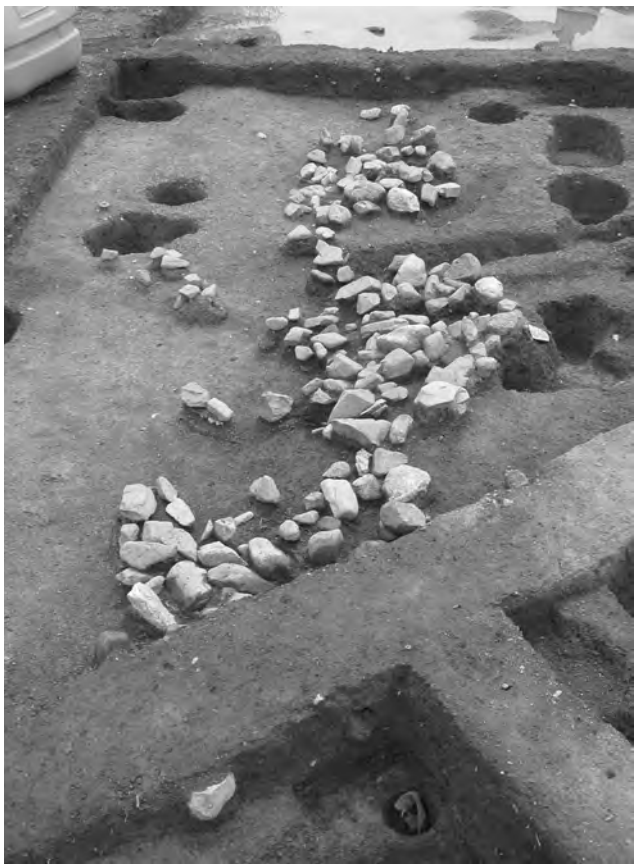
1　SD0453 完掘（南から）



2　SD0442/32 ほか完掘（南から）

3　SD0405 掘削状況（西から）

4　SD0441/44 暗渠完掘（西から）



1　SD0409 礫出土状況（西から）

2　SH0428 南辺周壁溝完掘（東から）

3　SH0560/66/65 完掘（西から）

4　SH0559 遺物出土状況（南から）

1　SH0428/29 遺物出土状況（Fig.32-33　東から）

2　SH0428/29 遺物出土状況（Fig.32-41　北から）

3　SH0428/29 遺物出土状況（Fig.32-31　西から）

4　SH0428/29 遺物出土状況（Fig.33-63　南から）

5　SH0404 遺物出土状況（Fig.35-91　西から）

6　SH0404 遺物出土状況（Fig.35-99　東から）

7　SH03138/139 遺物出土状況（Fig.40-206　北東から）

8　SH03136 遺物出土状況（Fig.40-183　東から）

1　SH0421/22/23 遺物出土状況（Fig.35-88　東から）

2　SH0559 遺物出土状況（Fig.43-250　東から）

3　SH0560 遺物出土状況（Fig.41-217・222　北から）

4　SH0566 遺物出土状況（Fig40-176・181・191　東から）

5　SH0547/57 遺物出土状況（Fig.45-283　西から）

6　SH0507/15 遺物出土状況（Fig.51-382　北から）

7　SD0405 遺物出土状況（Fig.59-511　東から）

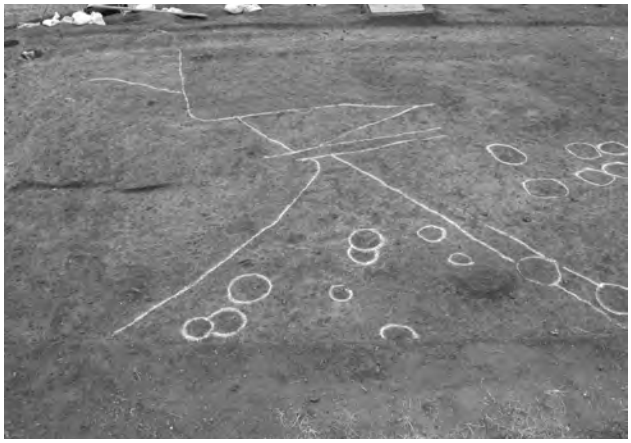
8　SD0405 遺物出土状況（Fig.59-514　西から）

1　SD0405/11 遺物出土状況（Fig.59-502・516　南から）

2　SD0442 遺物出土状況（Fig.57-468　南から）

3　SH0535/36 排水溝遺物出土状況（Fig.47-317　東から）

4　SD0501 遺物出土状況（Fig.61-546　北西から）



5　第 5 次南西区遺構検出状況（北から）

6　SH0547/57 検出状況（北から）

7　SH0404 遺物取上風景（西から）

8　SD0441/44 暗渠掘削風景（西から）

PL.21

46

53

55

59

57

62

63

58

64

67

76

77

85 口縁部

88

85 脚台部

90

96

91
99
92
100
106
102
105
107
114
109
110
113
116
121
124
125
128
129
132
139
147
150
154
156

146
149
155
161
162
169
171
172
173
174
186
192
193
194
181
183
197
204
205
206

PL.25

213
217
222
229
230
241
246
252
237
244
250
256
259
268
282
283
289
292
307
313
317
334
337
339
348
351
341
358
363
364

369
371
375
376
377
382
407
419
429
433
382 底部
420
421
435
436 口縁部
438
439
440
441
436 底部

444
445+446
444 底部
447
442
454
456
458
462
457
468
466
469

472
477
481
482
484
485
486
487
491
497
498
502
505
508
507
511
509
510
513
518 把手部分
518

514
515
521
524
526
531
532
535
534
538
539
542
540
544
546 口縁部
545
546 底部
549
551
552

553
554
572
574
575
581
582
601
585
586
587
603
606
607
611
615
623
625
624
626
627
629
631
628
630
632
633

PL.31

634

635

636

637

638

639

642

643

640

641

報　告　書　抄　録

ふりがな	ばんじょうざんいせき（だいよじ・ごじ）はっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	磐城山遺跡（第４・５次）発掘調査報告書
副 書 名	農地改良工事に伴う緊急発掘調査
編著者名	田部　剛士
編集機関	鈴鹿市 文化振興部　考古博物館
所 在 地	〒 513-0013　　三重県鈴鹿市国分町２２４番地　　TEL ０５９（３７４）１９９４
発行年月日	２０１４年 3月 ３１日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
磐城山遺跡（第４次）	鈴鹿市木田町字上條 2265,2266-1,2272	24207	16	34° 90′ 15″	136° 57′ 18″	2011 年 4 月 4 日 ～ 2011 年 10 月 2 日	315 ㎡	緊急発掘調査
磐城山遺跡（第５次）	鈴鹿市木田町字上條 2261,2262-1,2263					2012 年 6 月 25 日 ～ 2013 年 1 月 11 日	620 ㎡	緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
磐城山遺跡（第４次）	集落跡	弥生・古墳・中世	竪穴住居･溝・土坑・ピット	弥生土器･土師器･須恵器・山茶椀･石器･鉄器･土製品	主に弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居を多数検出した。
磐城山遺跡（第５次）					

要　　約	弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が多数検出された。正確な棟数は不詳だが，少なくとも 50 棟以上が著しく重複している。この他，竪穴住居から続く排水用の溝や，中世の区画溝等も確認されている。特筆されるのは，弥生時代後期初頭（八王子古宮式併行）の竪穴住居が確認されたことで，磐城山遺跡の集落の開始が弥生時代後期後半（山中式）よりも遡ることが明らかとなった。

磐城山遺跡（第 4・5 次）発掘調査報告書

発　行　日　　平成 26（2014）年 3 月 31 日
編集・発行　　鈴鹿市
鈴鹿市考古博物館
〒 513-0013
三重県鈴鹿市国分町 224 番地
TEL　059（374）1994
FAX　059（374）0986
E-mail: kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp
URL: http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/
印　　刷　　株式会社　三ツ星

Excavation Report

Suzuka City, Mie Pref., Japan

Banjyozan Site (4th・5th)

March, 2014

Suzuka Municipal Museum of Archaeology